

道東自動車道  
占冠地区下部工工事

本流鵲川第二橋（下り線）  
下部工設計図

令和 7 年 3 月

東日本高速道路株式会社  
北海道支社 帯広工事事務所

## 目 次

1. 数量総括表	1
2. 全体一般図（その１～２）	2 ～ 3
3. 下部工座標図	4
4. A 1 橋台構造一般図（その１～２）	5 ～ 6
5. A 1 橋台配筋図（その１～２ 〇）	7 ～ 26
6. P 1 橋脚構造一般図	27
7. P 1 橋脚配筋図（その１～１ 1）	28 ～ 38
8. A 2 橋台構造図（その１～２）	39 ～ 40
9. A 2 橋台配筋図（その１～２ 1）	41 ～ 61
10. A 1 橋台裏込め工図	62
11. A 2 橋台裏込め工図	63
12. A 1 橋台土留め工計画図（その１～７）	64 ～ 70
13. A 2 橋台土留め工計画図（その１～７）	71 ～ 77
14. はく落防止対策工詳細図（その１～２）	78 ～ 79

本流鵡川第二橋（下り線）数量総括表

下部工施工

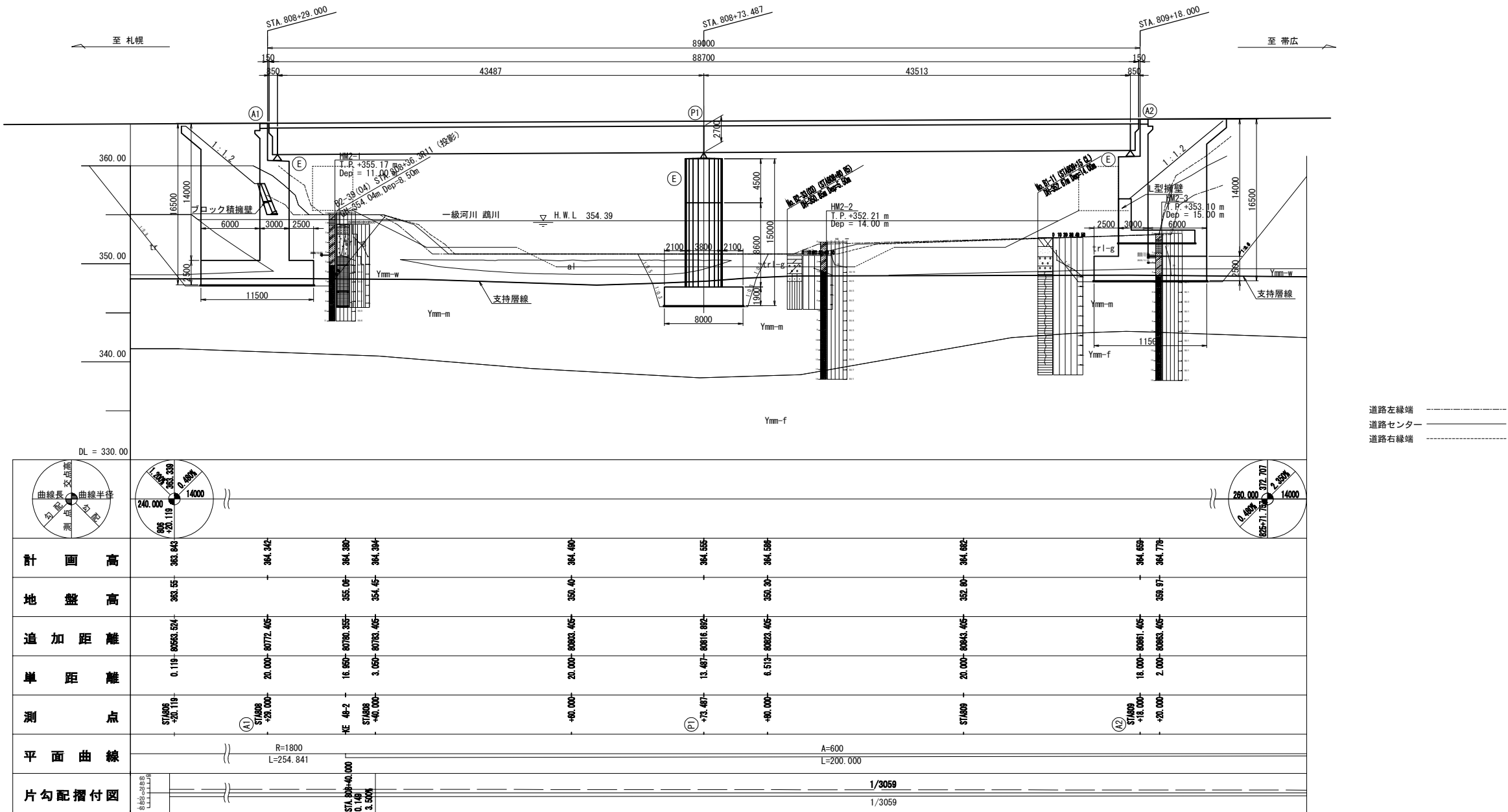
項 目	種 別		単位	第二橋				摘 要
				A 1 橋台	P 1 橋脚	A 2 橋台	合 計	
客土掘削	土砂 A 1		m3	597. 1	441. 3	802. 0	1, 840. 4	
構造物掘削	普通部	土砂	m3	-	370. 7	-	370. 7	
		軟岩	m3	-	247. 6	-	247. 6	
	特殊部	土砂	m3	2, 355. 3	-	2, 424. 5	4, 779. 8	
		軟岩	m3	277. 4	-	377. 9	655. 3	
構造物裏込め工	裏込め工 B 1		m3	600. 5	-	258. 2	858. 7	
地下排水工	Du-P φ0. 15-0. 50-0. 50		m	9. 0	-	8. 8	17. 8	※率計上
コンクリート	A 1－3		m3	525. 6	197. 7	543. 6	1, 266. 9	σ ck=30N/mm2
	B 2－1		m3	309. 1	121. 6	309. 1	739. 8	σ ck=24N/mm2
	D 1－1		m3	12. 8	6. 7	12. 8	32. 3	σ ck=18N/mm2
型わく	C		m2	850. 0	252. 2	849. 3	1951. 5	
	D		m2	4. 5	3. 3	4. 5	12. 3	
鉄 筋	A	D13	t	0. 019	-	0. 017	0. 036	SD345（重ね継手）
		D16～D25	t	7. 689	8. 188	7. 860	23. 737	
		D29～D32	t	7. 622	3. 142	7. 438	18. 202	
		D35	t	7. 365	-	7. 365	14. 730	
		D38	t	1. 792	11. 817	1. 792	15. 401	
		小計	t	24. 487	23. 147	24. 472	72. 106	
	A（E）	D13	t	0. 572	-	0. 638	1. 210	SD345（重ね継手）（エポキシ樹脂塗装鉄筋）
		D16～D25	t	8. 044	-	7. 880	15. 924	
		D29～D32	t	11. 131	-	18. 331	29. 462	
		D35	t	8. 398	-	-	8. 398	
		小計	t	28. 145	-	26. 849	54. 994	
	B	D29～D32	t	4. 022 [40]	-	4. 093 [40]	8. 115 [80]	SD345（機械継手）
		D38	t	5. 779 [40]	-	5. 882 [40]	11. 661 [80]	
		D41	t	12. 979 [100]	-	12. 849 [99]	25. 828 [199]	
		小計	t	22. 780 [180]	-	22. 824 [179]	45. 604 [359]	
	B（H）	D51	t	-	17. 370 [72]	-	17. 370 [72]	SD490（機械継手）
		計	t	-	17. 370 [72]	-	17. 370 [72]	
	C	D16～D25	t	1. 321 (184)	1. 521 (244)	1. 321 (184)	4. 163 (612)	SD345（機械式鉄筋定着工法）
		小計	t	1. 321 (184)	1. 521 (244)	1. 321 (184)	4. 163 (612)	
	C（E）	D16～D25	t	3. 233 (547)	-	2. 962 (446)	6. 195 (993)	SD345（機械式鉄筋定着工法）（エポキシ樹脂塗装鉄筋）
		計	t	3. 233 (547)	-	2. 962 (446)	6. 195 (993)	
	合計		t	79. 966	42. 038	78. 428	200. 432	
はく落防止対策工	A		m2	6. 9	-	13. 1	20. 0	

注1)[]内は鉄筋の機械継手箇所数を示す。  
注2)()内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。

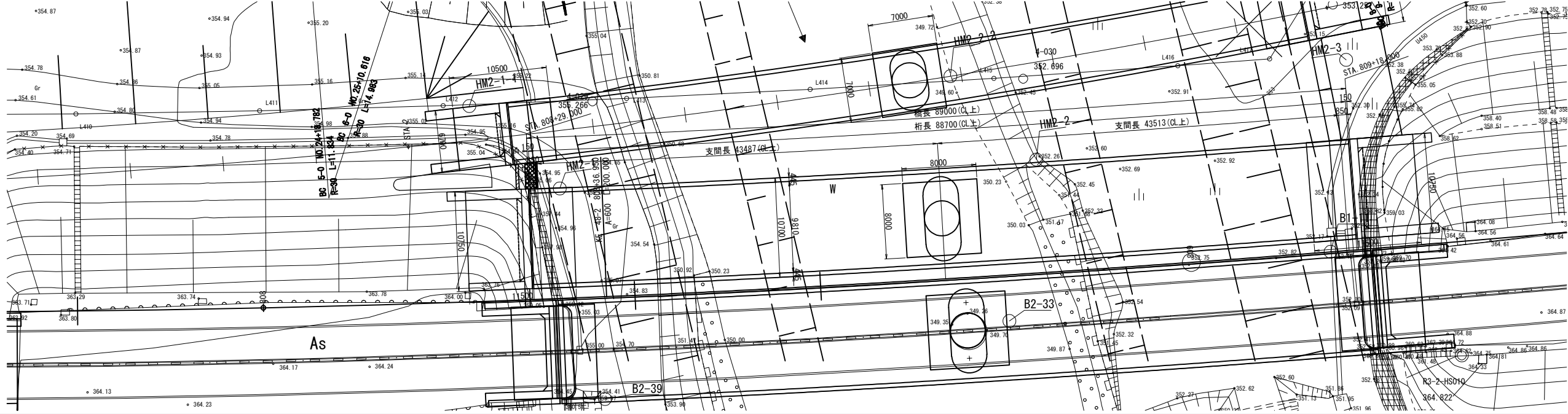
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵡川第二橋（下り線） 数量総括表		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

本流鵡川第二橋（下り線） 全体一般図（その1）

側面図 S=1:500

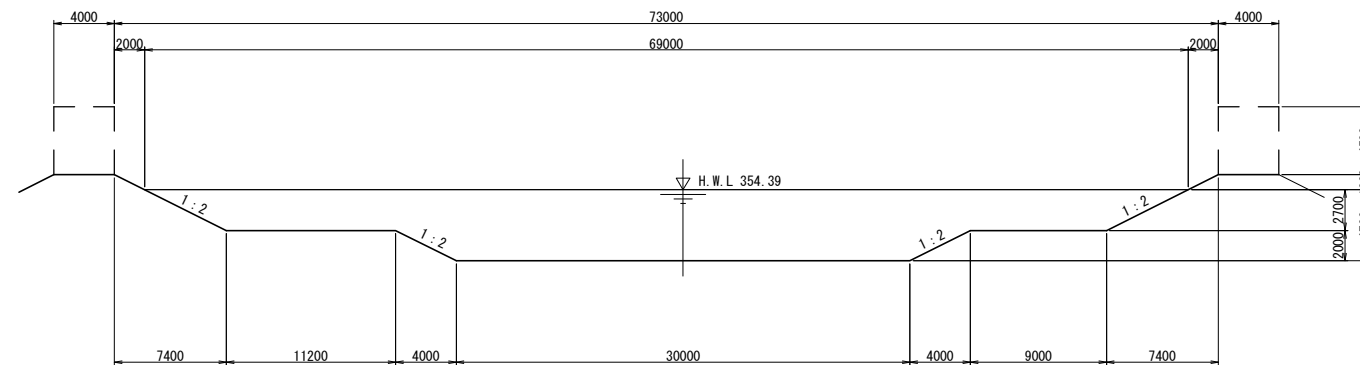


平面図 S=1:500

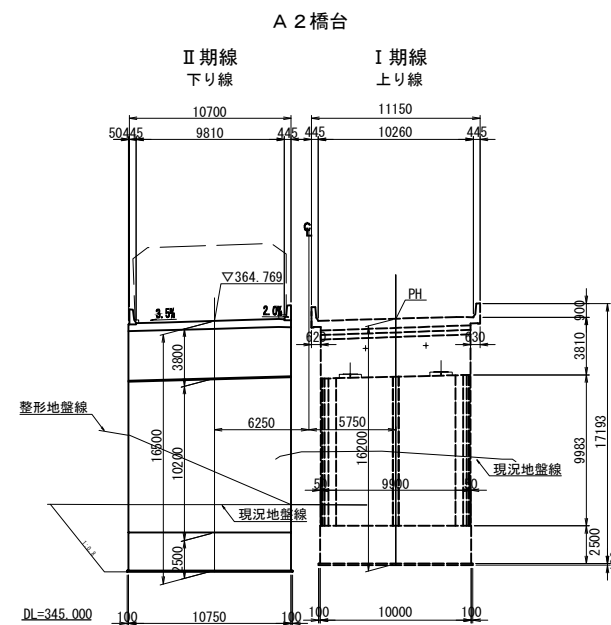


道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵡川第二橋（下り線） 全体一般図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

交 差 条 件  $S=1:500$



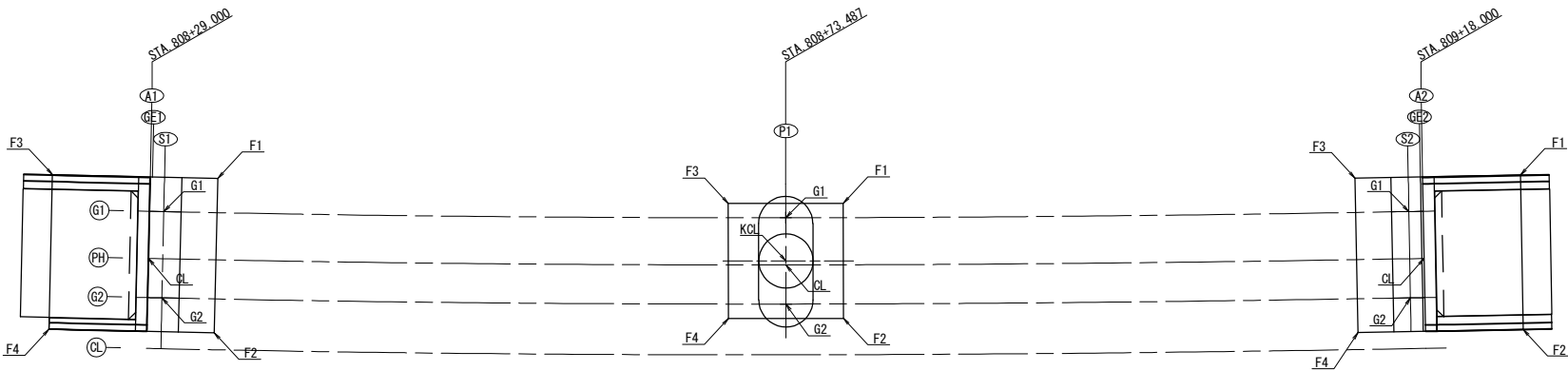
断面図 S=1:500



設 計 条 件				
基本条件	路線名	道東自動車道		
	橋名	本流鶴川第二橋 下り線		
	道路規格	第1種第2級B規格		
	設計速度	100km/h		
	計画交通量	8400台/日	大型車交通量：	2024台/日
	橋長	A1-A2： 89. 00m(CL上)		
	桁長	A1-A2： 88. 70m(CL上)		
	支間長	A1-A2： 43. 487+43. 513m(CL上)		
	全幅員	10. 700m	非常駐車帯部：	—
	有効幅員	9. 810m	非常駐車帯部：	—
	平面線形	R= 1800m ～ A=600 m		
	縦断線形	i=0. 480% 〰		
	横断線形	i=3. 500% 〰 ～ i=2. 900% 〰		
斜角	90° 00′ 00″			
耐荷性能条件	橋の耐荷性能	橋の耐荷性能 2		
	設計供用期間	100年		
	舗装荷重	アスファルト舗装 t=80mm		
	遮音壁荷重	設置しない（設計荷重は両側w=1. 45kN/mとして考慮）		
	雪荷重	考慮しない		
	設計活荷重	B活荷重		
	温度変化条件	-10～ +50℃（基準温度20℃） 支承・伸縮装置 -40～+40℃（基準温度0℃）		
	橋の重要度区分	B種の橋		
	地域補正係数	B2地域：Cz=0. 85, CⅡz=1. 0, CⅡz=0. 85		
	地盤種別	Ⅰ種地盤 kh = Cz・kho = 0. 85 × 0. 20 = 0. 17		
	地盤の液状化	なし		
	設計水平変度	レベル1	橋軸方向：0. 17	直角方向：0. 17
		レベル2(Ⅰ)	橋軸方向：0. 91	直角方向：0. 91
		レベル2(Ⅱ)	橋軸方向：0. 87	直角方向：0. 87
		レベル1	橋軸方向：0. 72	直角方向：0. 45
レベル2(Ⅰ)		橋軸方向：1. 14	直角方向：1. 14	
レベル2(Ⅱ)		橋軸方向：1. 15	直角方向：1. 16	
耐久性性能条件	架橋環境条件	地域区分C 200m以上		
	塩害対策区分	該当なし		
	維持管理の制約	なし		
	部材の設計耐久期間	100年		
	鋼桁塗装仕様	C塗装系		
上部構造条件	鉄筋被り	床版：40mm、下部工：80mm（土中、水中）		
	橋梁形式	鋼2径間連続成少人数桁橋		
	防護欄形式	フロリダ型 S B種		
	使用材料	主要鋼材	SS400、SM400、SM490Y、SM520、SM570、S10T	
		コンクリート	σck=40N/mm2(床版) σck=30N/mm2(地覆、壁高欄)	
鉄筋		SD345		
架設方法	P C鋼材 1S28. 6(SWPR19L)			
下部構造条件	構造形式	逆T式橋台(A1, A2橋台)、柱式橋脚(P1橋脚)		
	基礎形式	直接基礎(A1, A2橋台, P1橋脚)		
	使用材料	コンクリート	σck=30N/mm2(躯体) σck=24N/mm2(フォーテング) σck=18N/mm2(均しコンクリート)	
		鉄筋	SD345、SD490	
		支持層	中部蝦夷層群(Ymm-m) N値267	
	支承形式	橋軸方向：免震支承 橋軸直角方向：免震支承		
落橋防止システム	落橋防止構造	PCケーブル連結 段差防止構造		
維持管理条件	点検方法	上部工検査路、下部工検査路 本線から：法面階段(A2)、桁下から：A1橋台昇降梯子		
その他検討事項	地震時の点検補修部位	支承部他		
	第三者被害対策	はく落防止、落下物防止柵（交差道路に対して） 中央分離帯転落防止柵		
	振動・騒音条件	なし		
適用基準等	道路橋示方書・同解説 I～V編（平成29年11月）日本道路協会 設計要領第二集（平成28年8月）東日本高速道路株式会社			

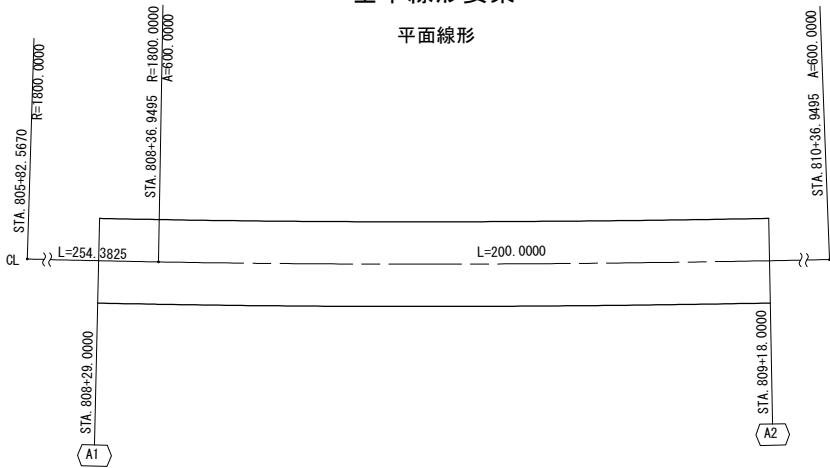
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類		本流鶴川第二橋（下り線） 全体一般図（その２）	
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

平面図



基本線形要素

平面線形



主要点座標値

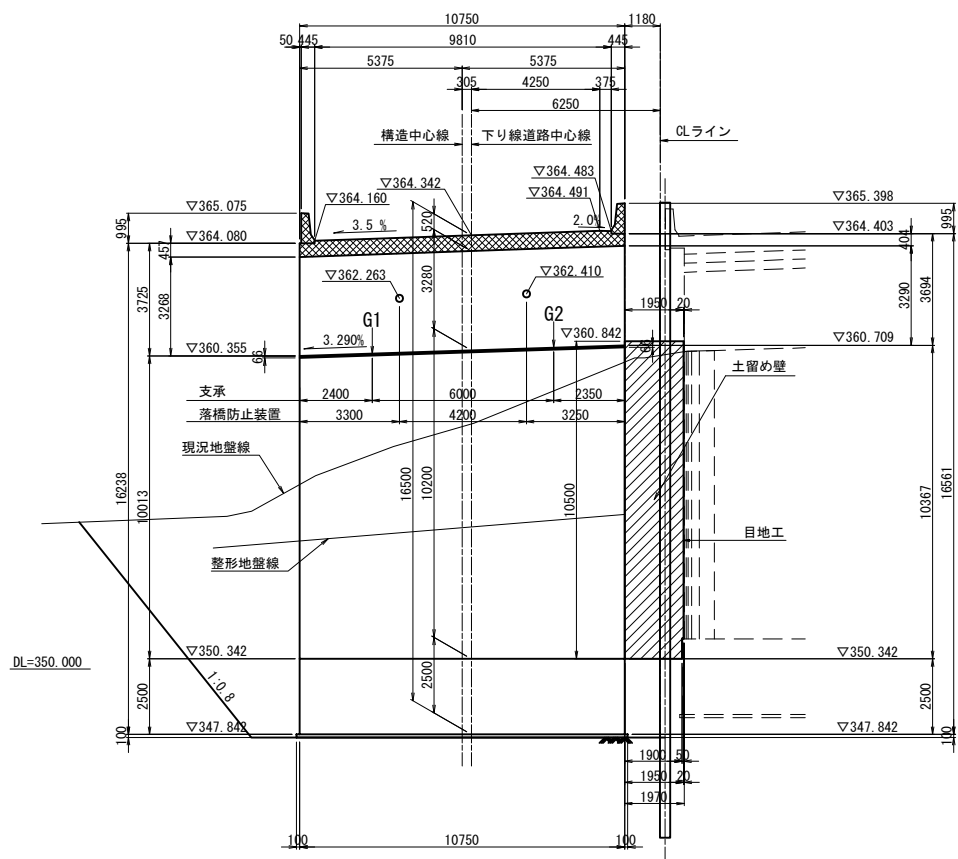
主要点名	測点	X座標	Y座標	線形要素
KE 48-1	805+82.5670	-109744.292130	14487.240454	R=1800.0000
KE 48-2	808+36.9495	-109569.622451	14671.884226	
KA 48-2	810+36.9495	-109417.379425	14801.541807	A=600.0000

下部工座標値

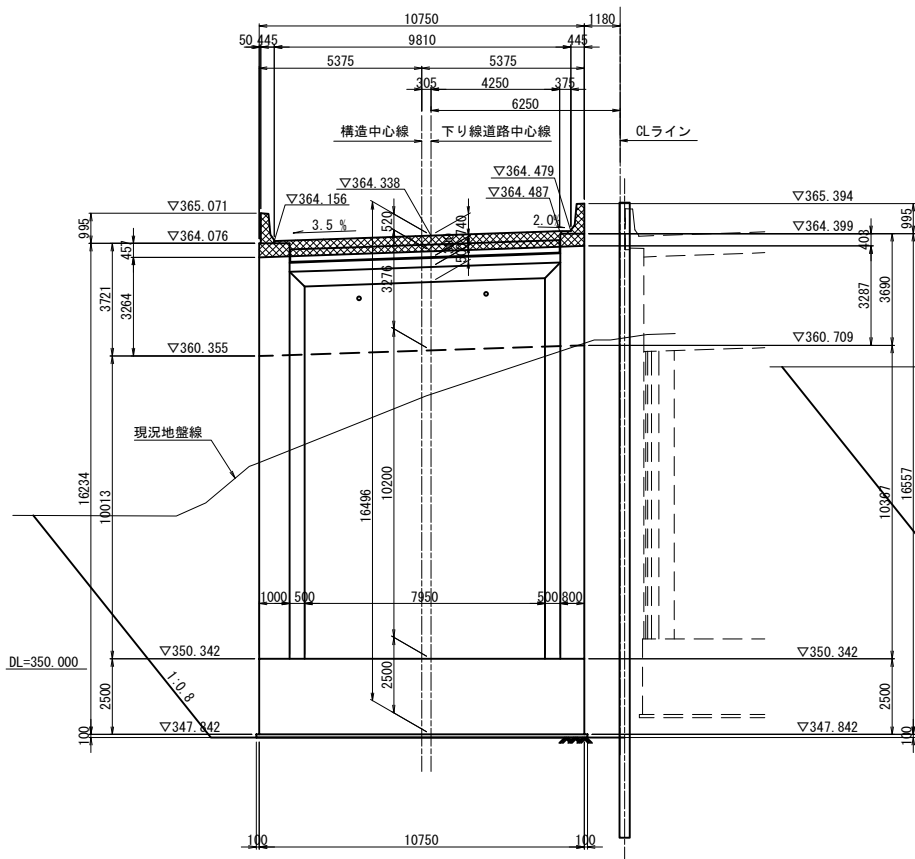
	A1橋台		P1橋脚		A2橋台	
	X	Y	X	Y	X	Y
F1	-109563.9139	14660.9353	-109532.4964	14691.0913	-109495.9355	14720.8493
F2	-109571.2172	14668.8236	-109537.7957	14697.0844	-109502.9148	14729.0256
F3	-109572.3526	14653.1226	-109538.4894	14685.7920	-109504.6822	14713.3831
F4	-109579.6558	14661.0109	-109543.7888	14691.7850	-109511.6616	14721.5594
G1	-109568.2593	14660.1826	-109536.1553	14689.1908	-109503.4261	14717.6105
G2	-109572.3355	14664.5853	-109540.1298	14693.6856	-109507.3216	14722.1741
CL	-109571.2216	14661.9103	-109538.3281	14691.6479	-109504.7952	14720.7546
KCL	-	-	-109538.1426	14691.4382	-	-

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） 下部工座標図		
	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

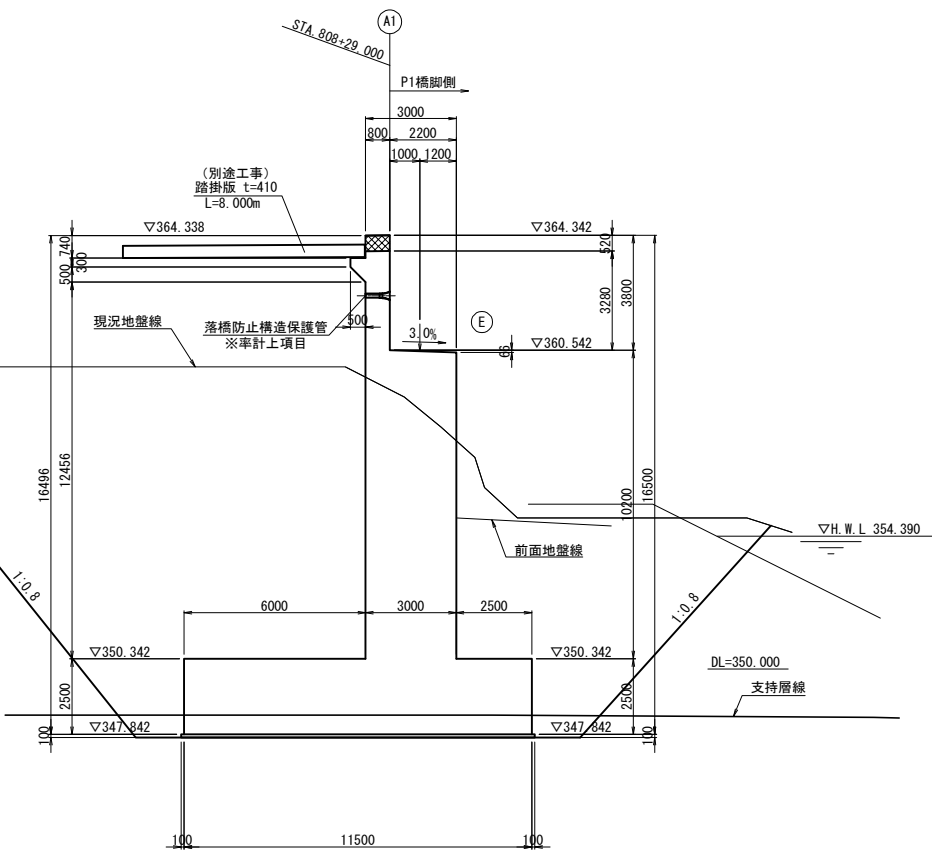
正面図（1-1）



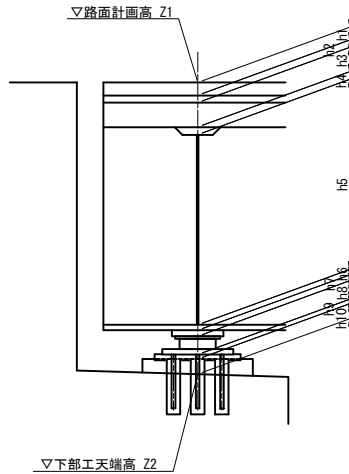
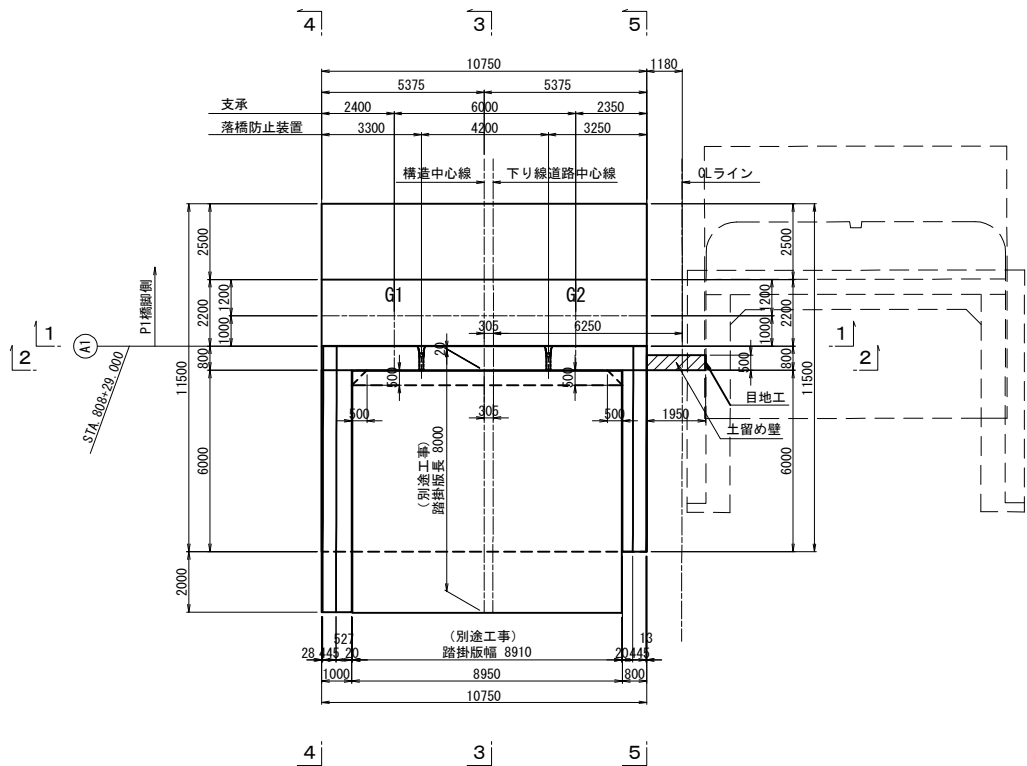
背面図（2-2）



断面図（3-3）



平面図



構造高表

		A1橋台	
		G1	G2
路面計画高	Z1	364.232	364.442
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.004	0.017
床版厚	h3	0.320	0.320
ハンチ高	h4	0.100	0.100
主桁高	h5	2.700	2.700
下フランジ厚	h6	0.025	0.025
ソールプレート厚	h7	0.040	0.040
支承高	h8	0.308	0.308
寄座モルタル厚	h9	0.031	0.031
台座	h10	0.220	0.220
構造高合計	Σh	3.828	3.841
下部工天端高	Z2	360.404	360.601

使用材料表

コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	フーチング	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
鉄 筋	躯体	SD345
	フーチング	SD345

注) : は上部工施工範囲を表す。  
 は土留め壁施工範囲を表す。

数量表

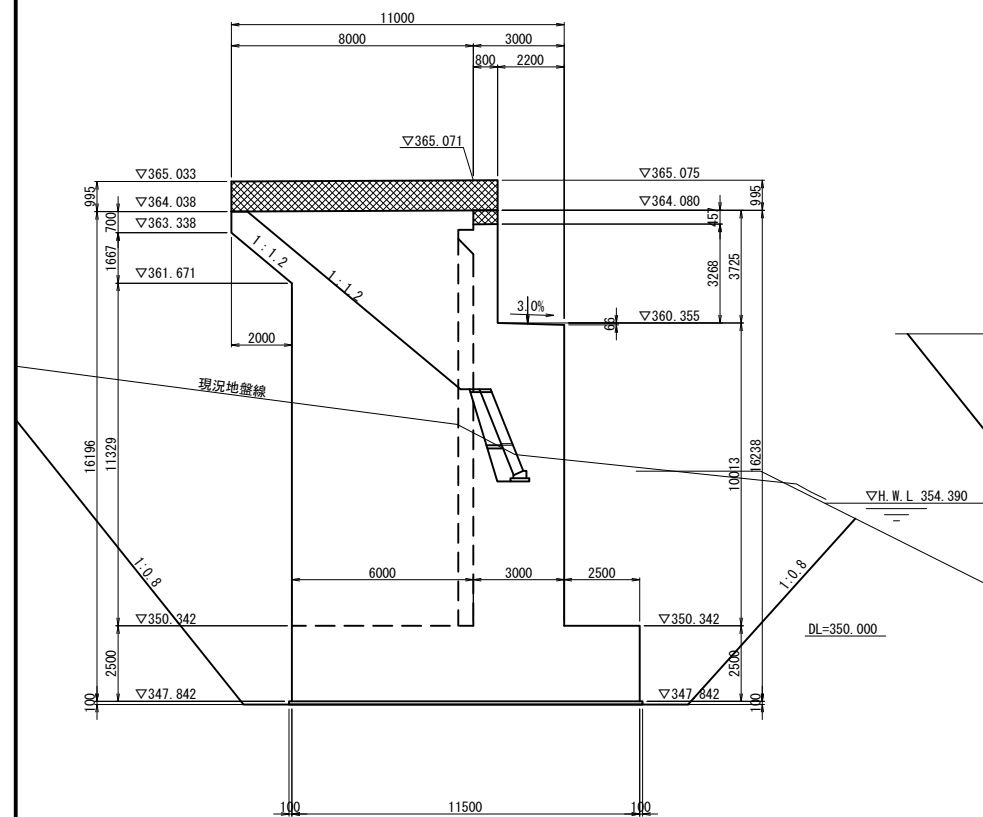
項 目	規格・寸法	単位	数 量	摘 要
目地工		m2	3.1	土留め壁

数量表

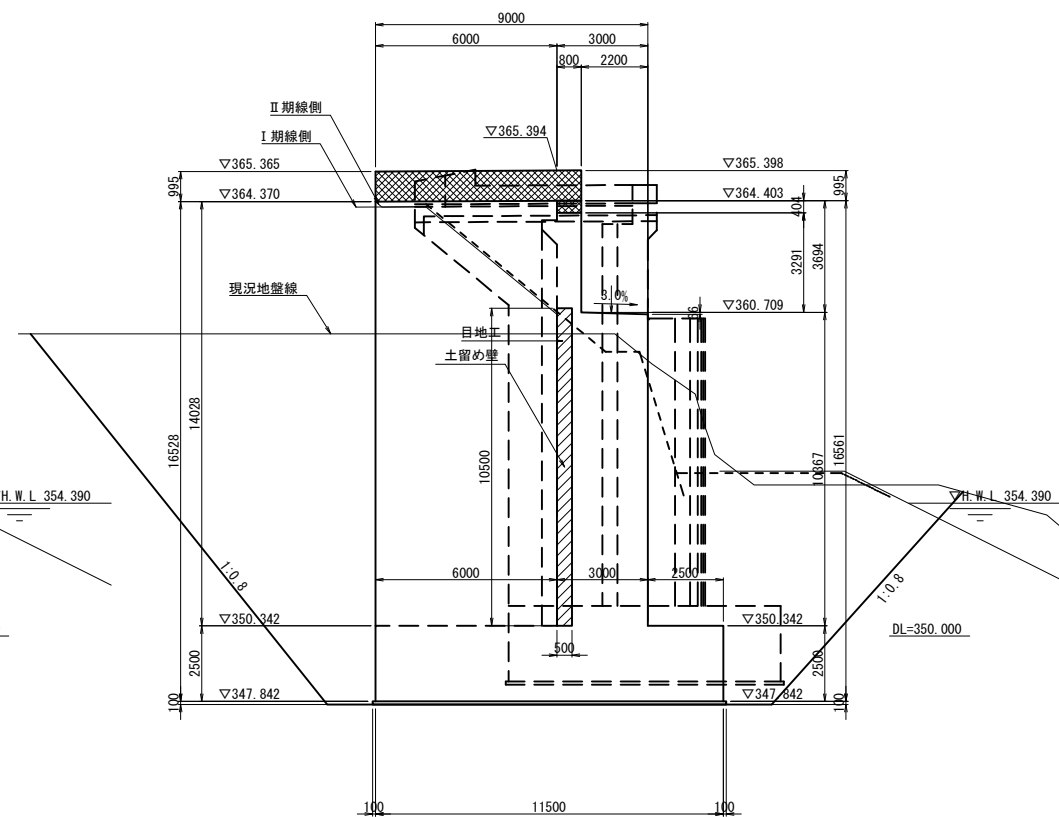
項 目	規格・寸法	単位	数 量	摘 要
構造物掘削	特殊部 C 1	m3	2,355.3	土砂
		m3	277.4	軟岩

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） A 1 橋台構造一般図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

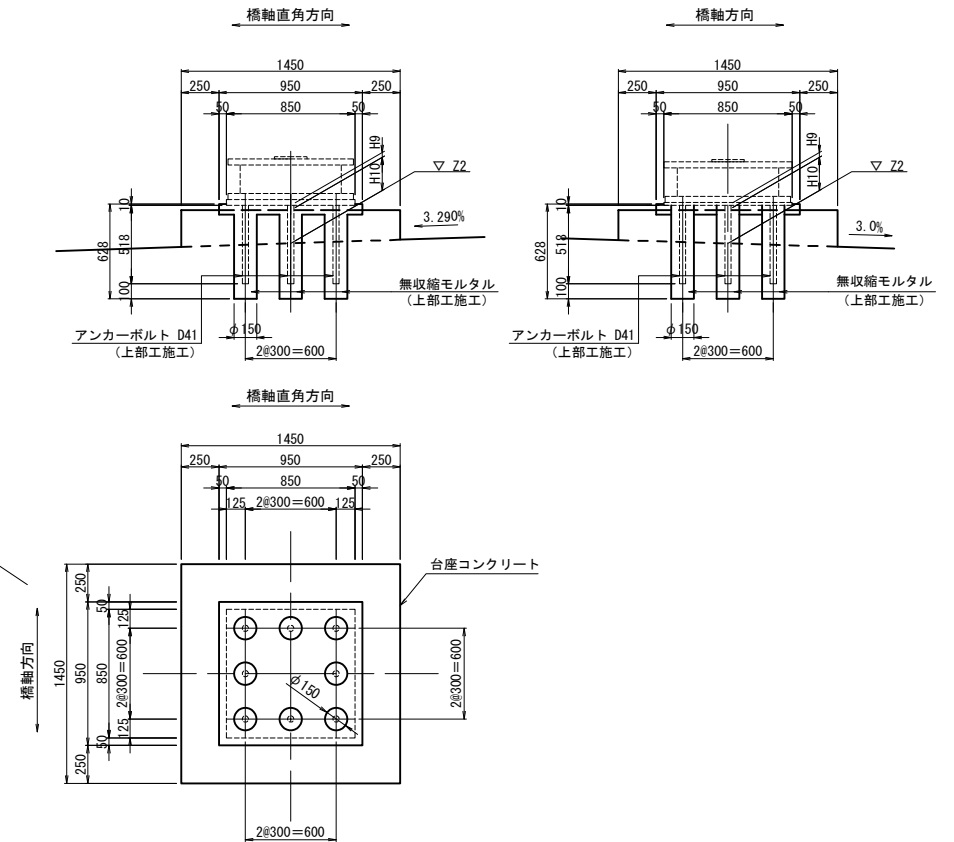
断面図(4-4)



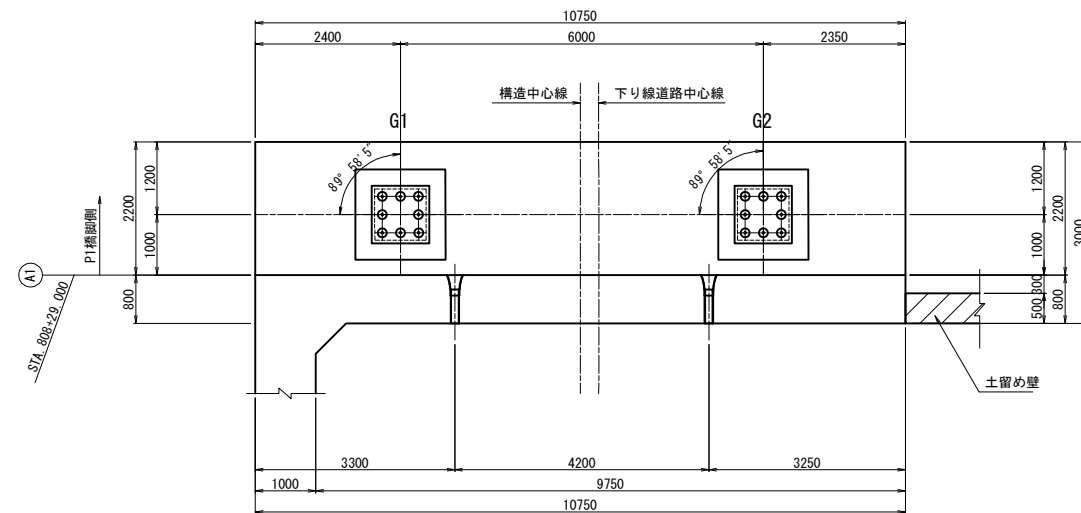
断面図(5-5)



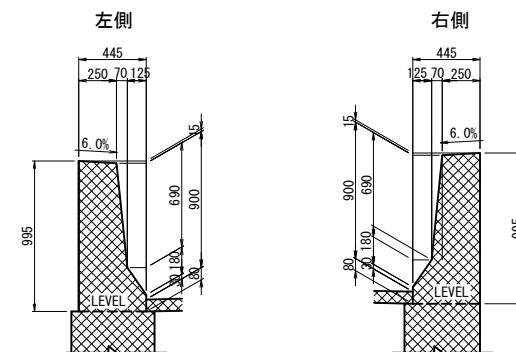
支承部詳細図 S=1:75





支承配置図 S=1:125



壁高欄詳細 S=1:50

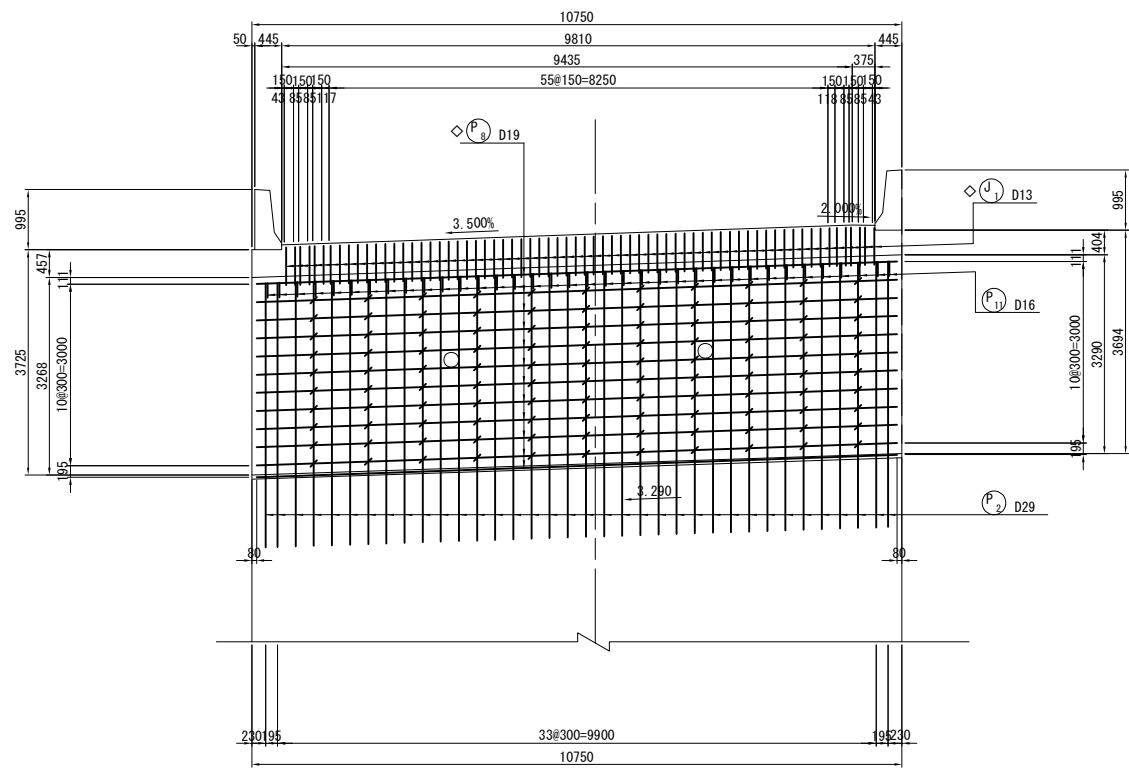


注):  は上部工施工範囲を表す。  
 は土留め壁施工範囲を表す。

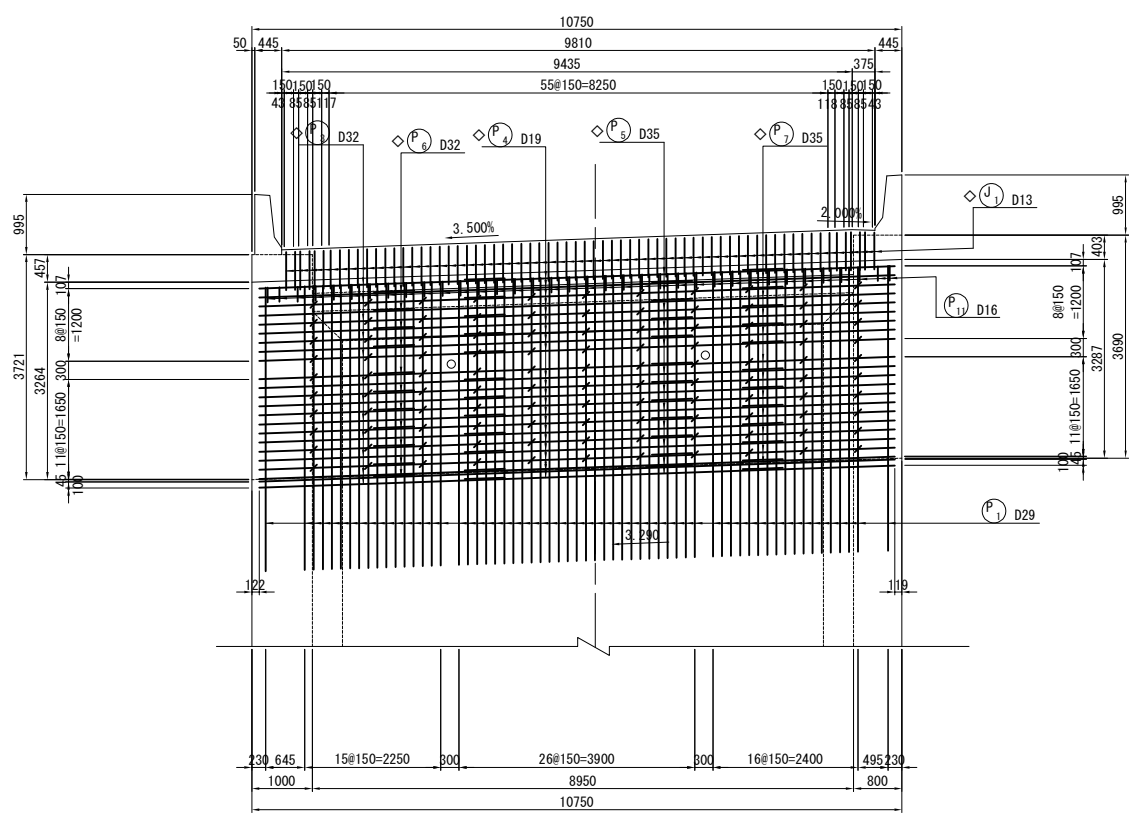
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流森川第二橋（下り線） A1橋台構造一般図（その2）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



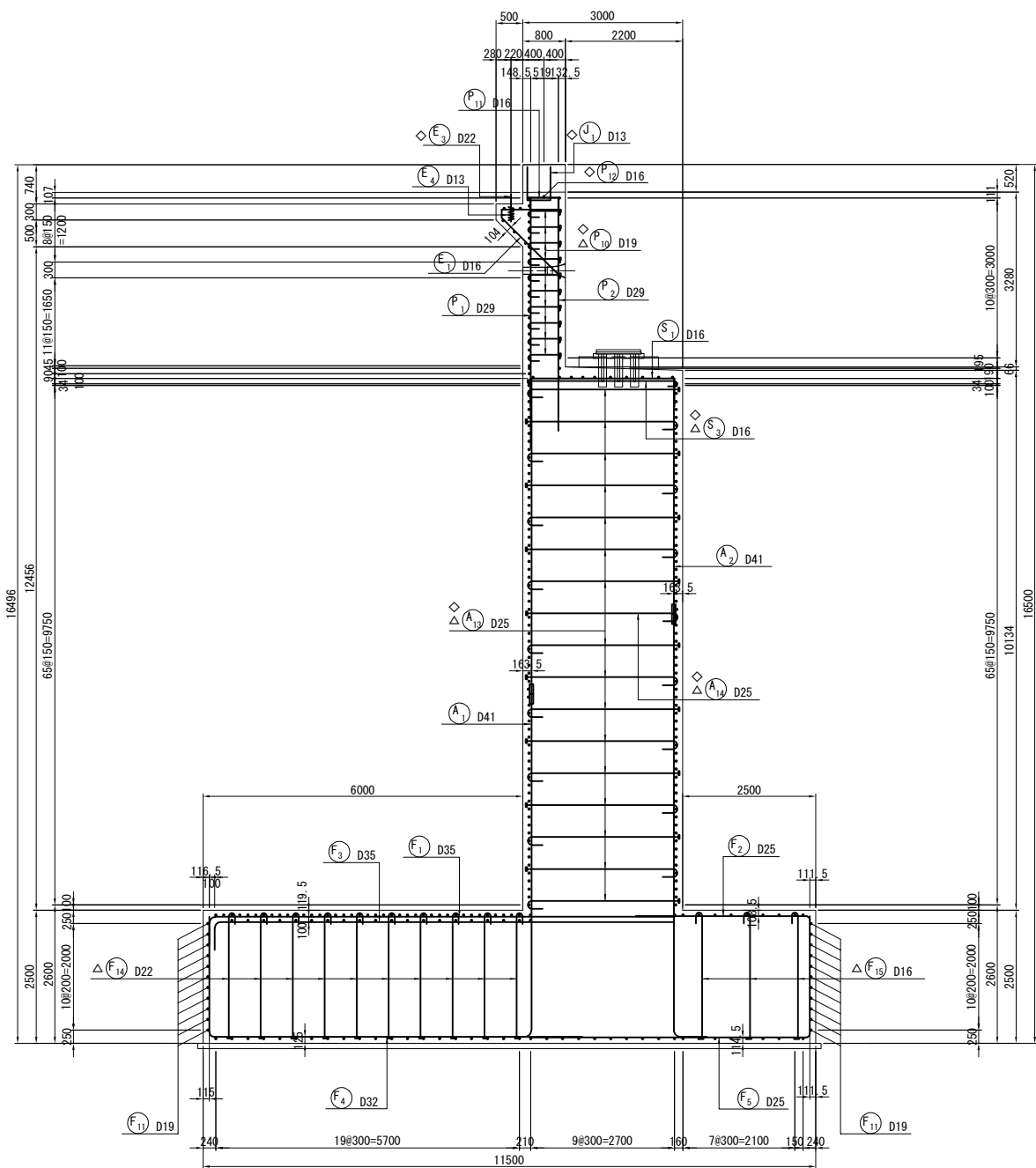
パラペット正面図  
2 - 2



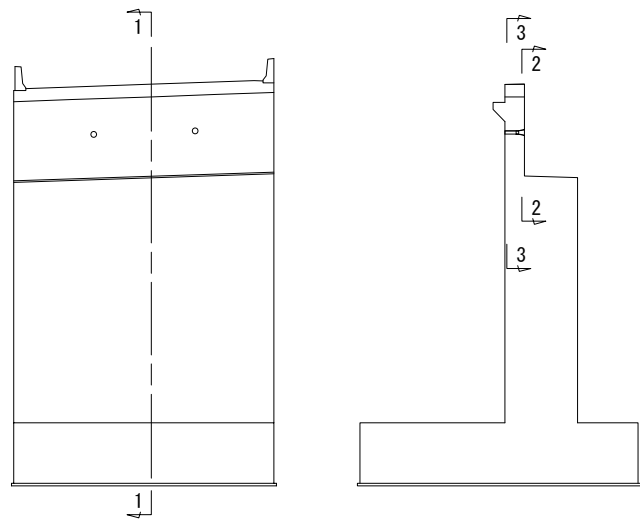
パラペット背面図  
3 - 3



側面図  
1 - 1

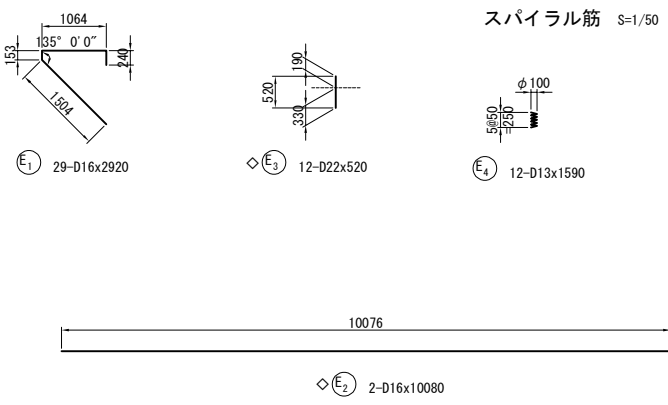
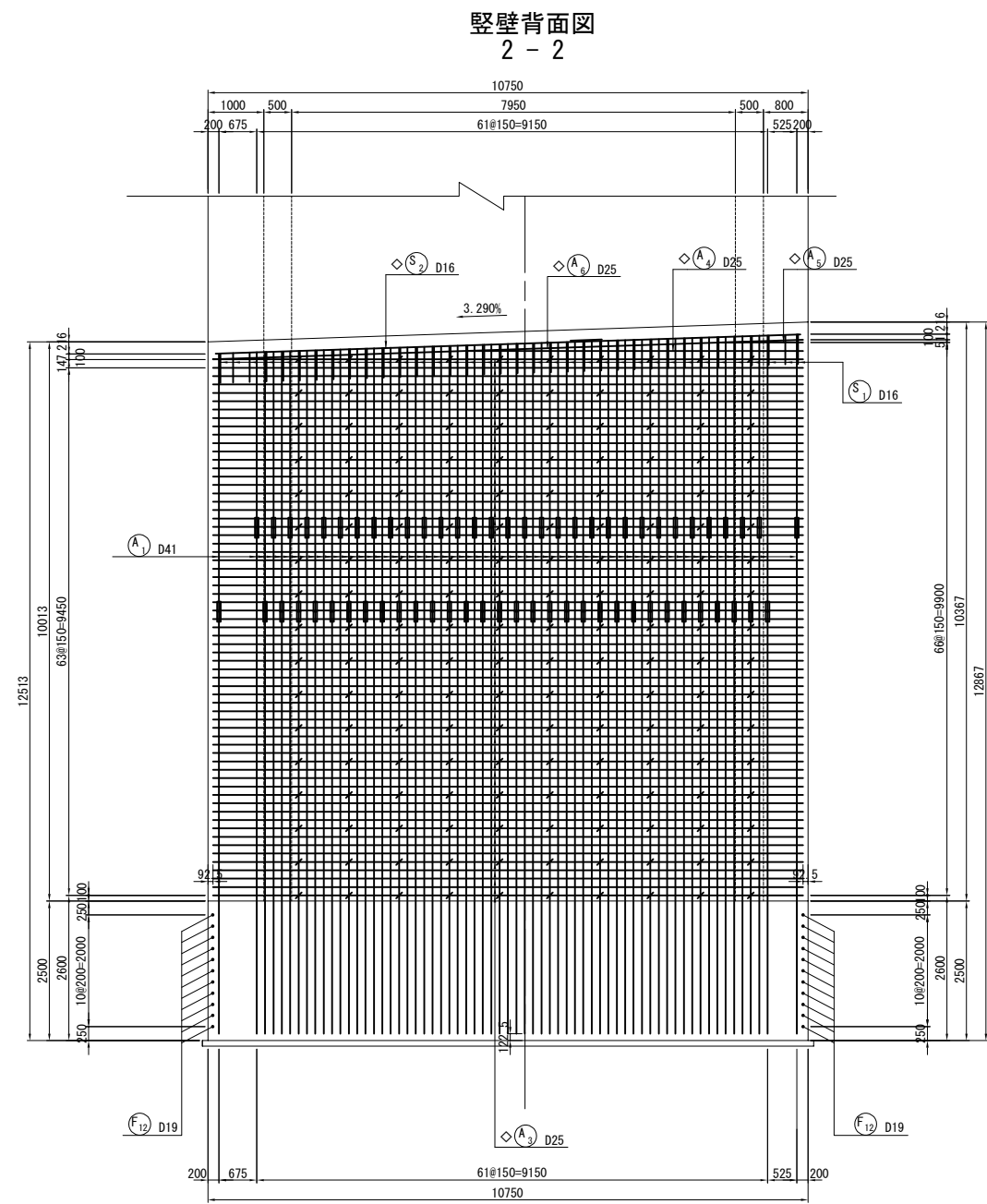
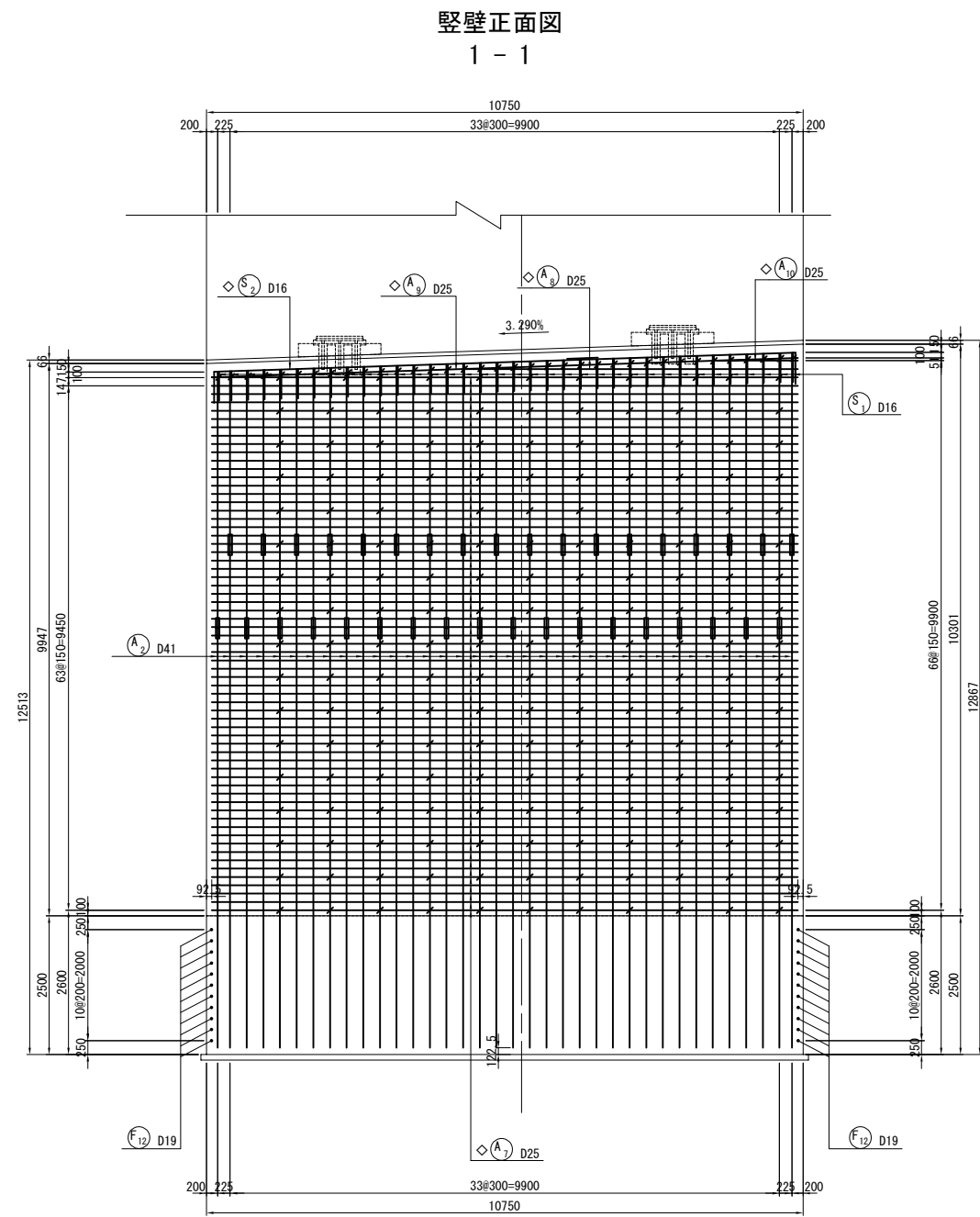


位置図

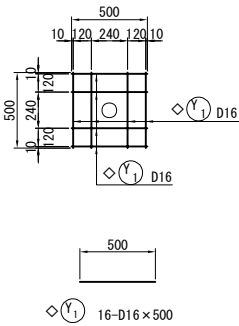
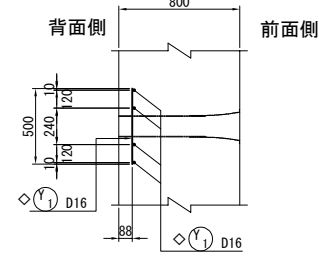


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

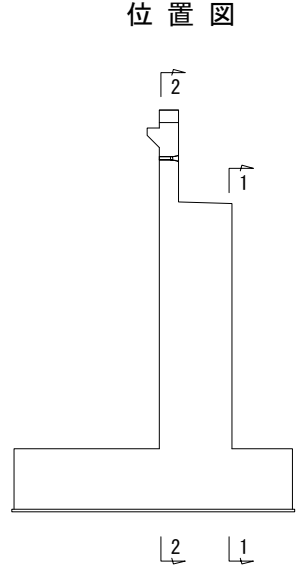
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



落橋防止構造用心鉄筋 S=1 : 50 (n=2箇所)



注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。

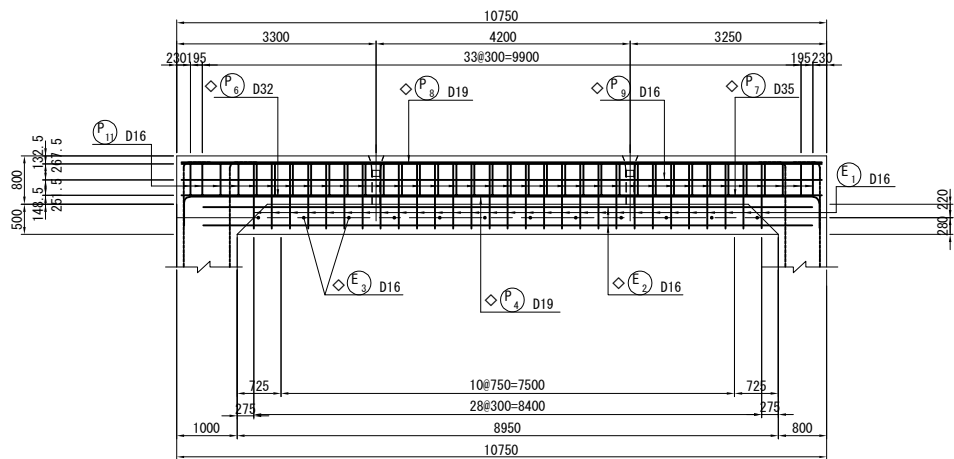


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

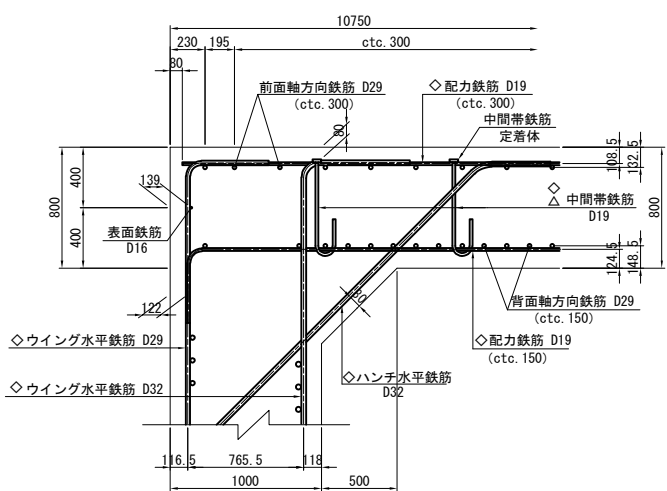
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

踏掛版受台平面図

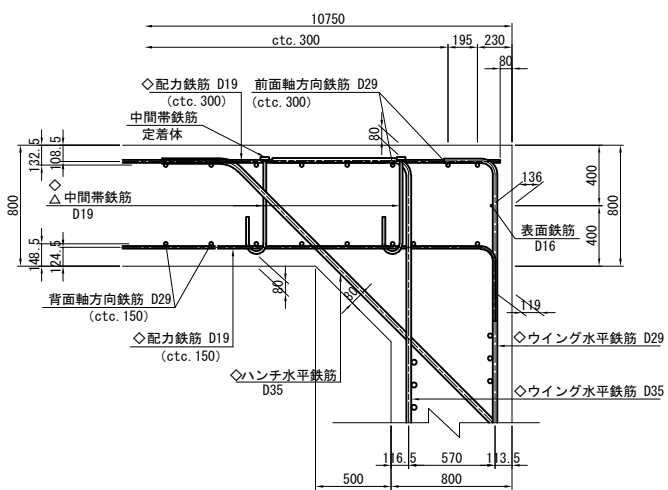
1 - 1



パラペット端部かぶり詳細図 S=1 : 50

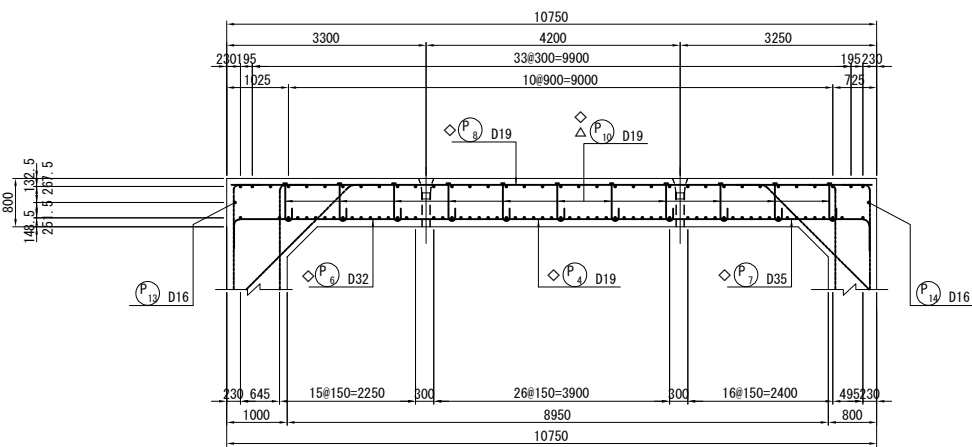


パラペット端部かぶり詳細図 S=1 : 50

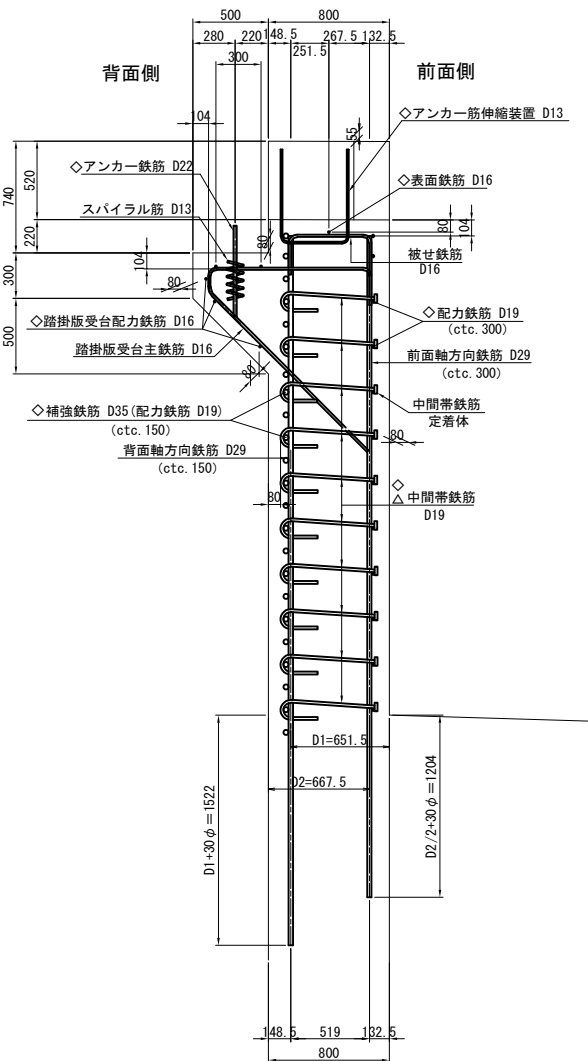


パラペット平面図

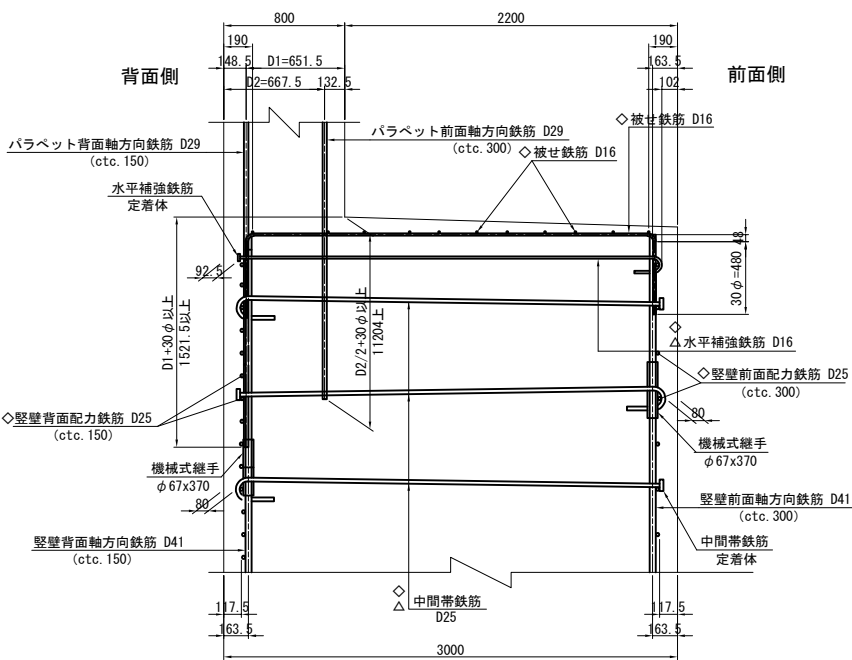
2 - 2



パラペットかぶり詳細図 S=1 : 50

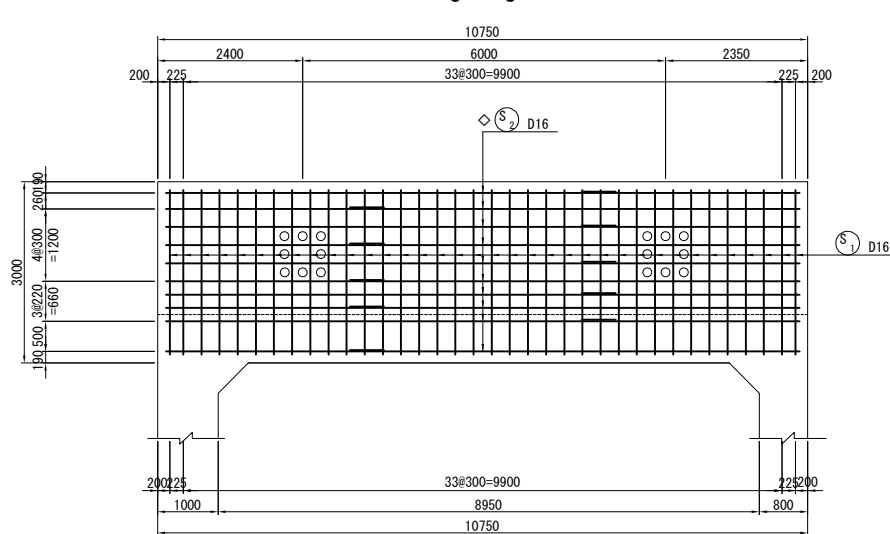


橋座かぶり詳細図 S=1 : 50

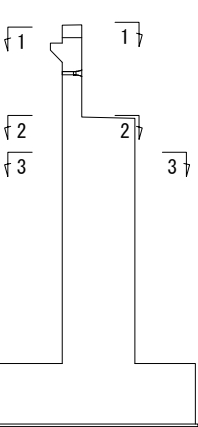


橋座平面図

3 - 3



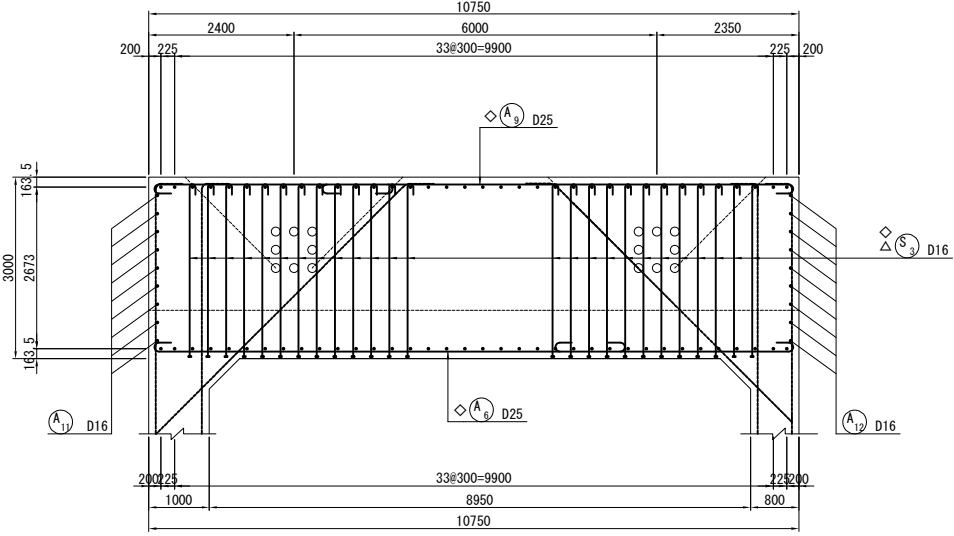
位置図



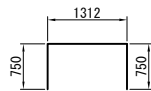
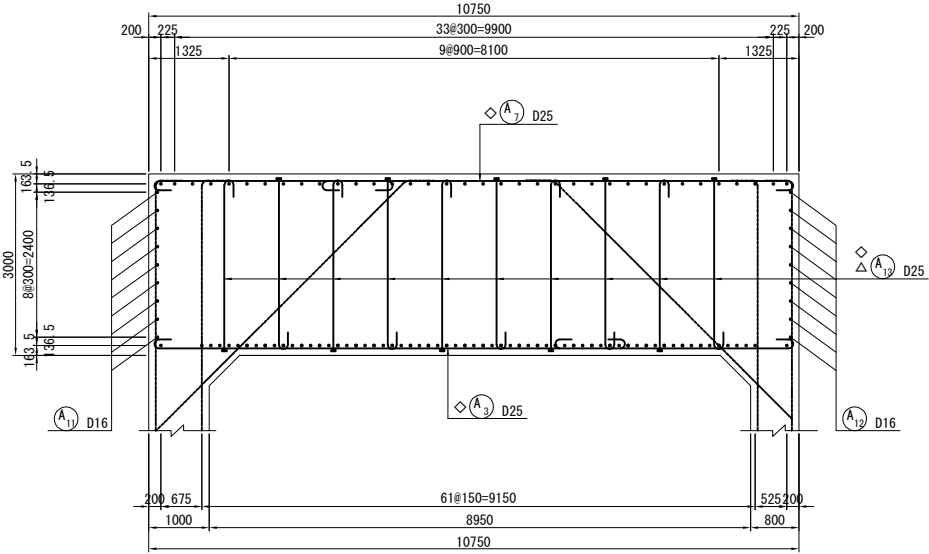
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

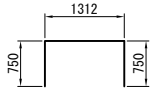
水平補強筋平面図  
4 - 4



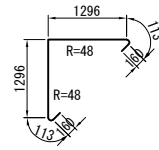
縦壁平面図（標準部）  
5 - 5



◇(H<sub>1</sub>) 20-D16x2770



◇(H<sub>2</sub>) 20-D16x2770

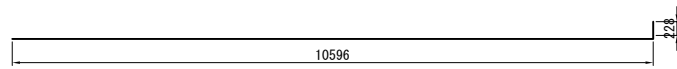
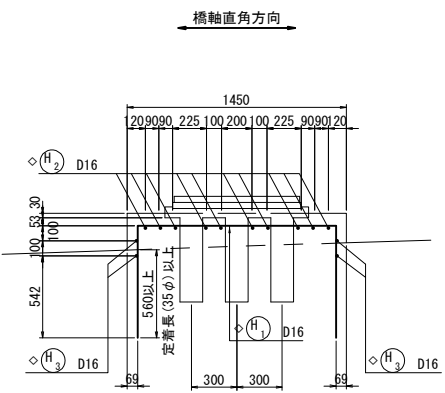
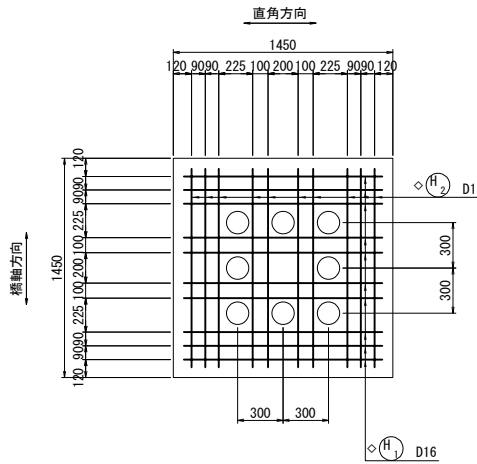
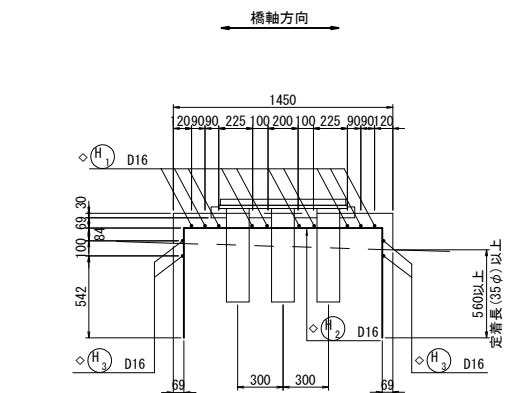


◇(H<sub>3</sub>) 8-D16x3120

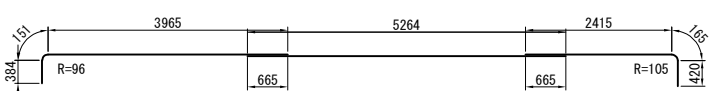


◇(V<sub>1</sub>) 68-D13x1650

支承箱抜き補強配筋図 S=1:50  
(n=2箇所)



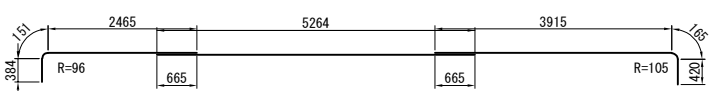
◇(P<sub>8</sub>) 12-D19x10800



◇(P<sub>3</sub>) 12-D32x4500

◇(P<sub>4</sub>) 23-D19x5270

◇(P<sub>5</sub>) 12-D35x3000

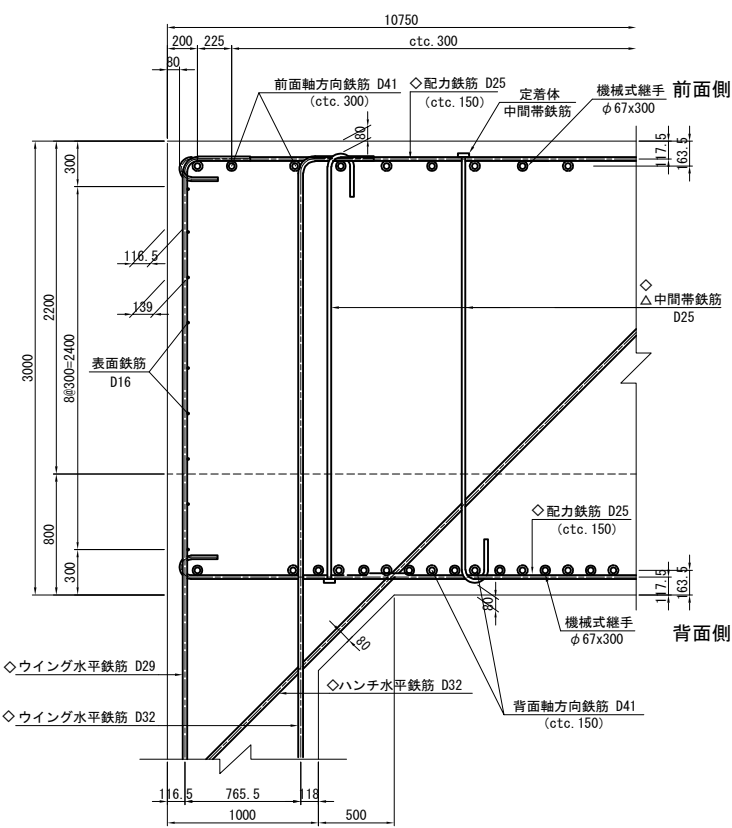


◇(P<sub>6</sub>) 11-D32x3000

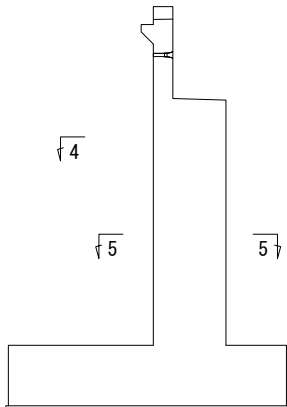
◇(P<sub>4</sub>) D19x5270

◇(P<sub>7</sub>) 11-D35x4500

縦壁端部かぶり詳細図 S=1 : 50

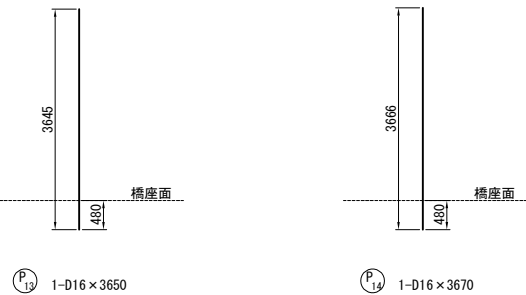
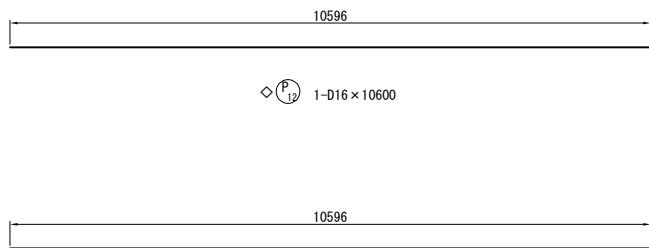
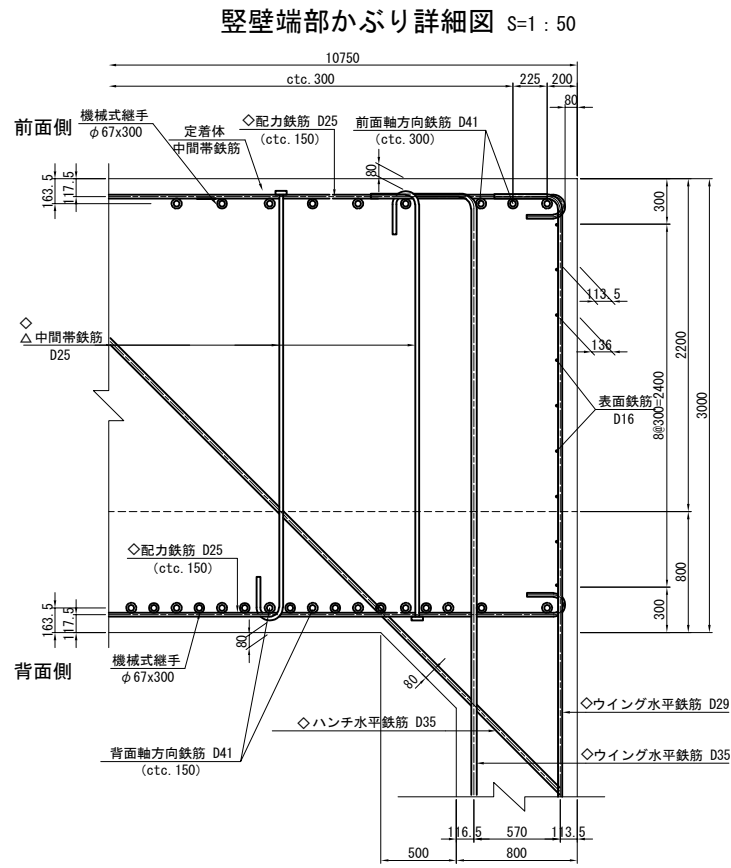


位置図



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
  - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



橋座面

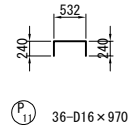
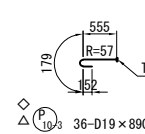
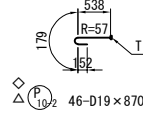
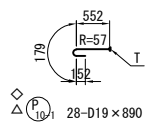
62-D29 × 4700 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D29	1	4687	4690
2	D29	1	4689	4690
3	D29	1	4689	4690
4	D29	1	4689	4690
5	D29	1	4690	4690
6	D29	1	4690	4690
7	D29	1	4690	4690
8	D29	1	4691	4690
9	D29	1	4691	4690
10	D29	1	4691	4690
11	D29	1	4692	4690
12	D29	1	4692	4690
13	D29	1	4692	4690
14	D29	1	4693	4690
15	D29	1	4693	4690
16	D29	1	4694	4690
17	D29	1	4694	4690
18	D29	1	4694	4690
19	D29	1	4695	4690
20	D29	1	4695	4700
21	D29	1	4695	4700
22	D29	1	4696	4700
23	D29	1	4696	4700
24	D29	1	4696	4700
25	D29	1	4697	4700
26	D29	1	4697	4700
27	D29	1	4697	4700
28	D29	1	4698	4700
29	D29	1	4698	4700
30	D29	1	4698	4700
31	D29	1	4698	4700
32	D29	1	4699	4700
33	D29	1	4699	4700
34	D29	1	4699	4700
35	D29	1	4700	4700
36	D29	1	4700	4700
37	D29	1	4700	4700
38	D29	1	4701	4700
39	D29	1	4701	4700
40	D29	1	4701	4700
41	D29	1	4702	4700
42	D29	1	4702	4700
43	D29	1	4702	4700
44	D29	1	4702	4700
45	D29	1	4703	4700
46	D29	1	4703	4700
47	D29	1	4704	4700
48	D29	1	4704	4700
49	D29	1	4704	4700
50	D29	1	4705	4700
51	D29	1	4705	4700
52	D29	1	4705	4710
53	D29	1	4705	4710
54	D29	1	4706	4710
55	D29	1	4706	4710
56	D29	1	4706	4710
57	D29	1	4707	4710
58	D29	1	4707	4710
59	D29	1	4707	4710
60	D29	1	4708	4710
61	D29	1	4708	4710
62	D29	1	4709	4710
平均長		62		4699

橋座面

36-D29 × 4380 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D29	1	4368	4370
2	D29	1	4369	4370
3	D29	1	4370	4370
4	D29	1	4370	4370
5	D29	1	4371	4370
6	D29	1	4371	4370
7	D29	1	4372	4370
8	D29	1	4373	4370
9	D29	1	4373	4370
10	D29	1	4374	4370
11	D29	1	4375	4370
12	D29	1	4375	4380
13	D29	1	4376	4380
14	D29	1	4377	4380
15	D29	1	4377	4380
16	D29	1	4378	4380
17	D29	1	4378	4380
18	D29	1	4379	4380
19	D29	1	4380	4380
20	D29	1	4380	4380
21	D29	1	4381	4380
22	D29	1	4382	4380
23	D29	1	4382	4380
24	D29	1	4383	4380
25	D29	1	4384	4380
26	D29	1	4384	4380
27	D29	1	4385	4380
28	D29	1	4386	4390
29	D29	1	4386	4390
30	D29	1	4387	4390
31	D29	1	4387	4390
32	D29	1	4388	4390
33	D29	1	4389	4390
34	D29	1	4389	4390
35	D29	1	4390	4390
36	D29	1	4390	4390
平均長		36		4379

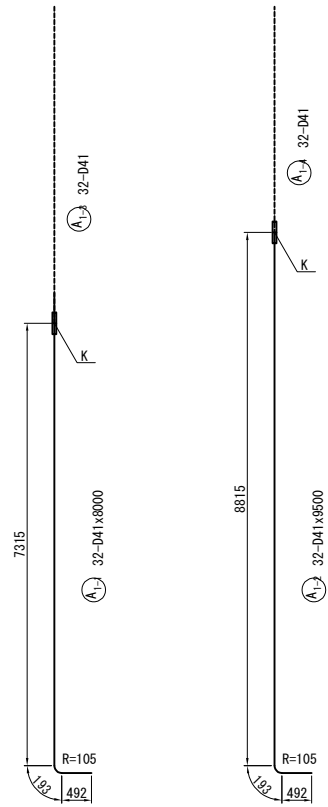


32-D41 × 4360 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D41	1	4181	4180
2	D41	1	4208	4210
3	D41	1	4218	4220
4	D41	1	4228	4230
5	D41	1	4238	4240
6	D41	1	4248	4250
7	D41	1	4258	4260
8	D41	1	4268	4270
9	D41	1	4277	4280
10	D41	1	4287	4290
11	D41	1	4297	4300
12	D41	1	4307	4310
13	D41	1	4317	4320
14	D41	1	4327	4330
15	D41	1	4337	4340
16	D41	1	4347	4350
17	D41	1	4356	4360
18	D41	1	4366	4370
19	D41	1	4376	4380
20	D41	1	4386	4390
21	D41	1	4396	4400
22	D41	1	4406	4410
23	D41	1	4416	4420
24	D41	1	4426	4430
25	D41	1	4435	4440
26	D41	1	4445	4450
27	D41	1	4455	4460
28	D41	1	4465	4470
29	D41	1	4475	4480
30	D41	1	4485	4480
31	D41	1	4495	4490
32	D41	1	4505	4500
平均長		32		4353

32-D41 × 2860 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D41	1	2703	2700
2	D41	1	2713	2710
3	D41	1	2723	2720
4	D41	1	2733	2730
5	D41	1	2743	2740
6	D41	1	2753	2750
7	D41	1	2763	2760
8	D41	1	2772	2770
9	D41	1	2782	2780
10	D41	1	2792	2790
11	D41	1	2802	2800
12	D41	1	2812	2810
13	D41	1	2822	2820
14	D41	1	2832	2830
15	D41	1	2842	2840
16	D41	1	2852	2850
17	D41	1	2861	2860
18	D41	1	2871	2870
19	D41	1	2881	2880
20	D41	1	2891	2890
21	D41	1	2901	2900
22	D41	1	2911	2910
23	D41	1	2921	2920
24	D41	1	2931	2930
25	D41	1	2940	2940
26	D41	1	2950	2950
27	D41	1	2960	2960
28	D41	1	2970	2970
29	D41	1	2980	2980
30	D41	1	2990	2990
31	D41	1	3000	3000
32	D41	1	3022	3020
平均長		32		2855

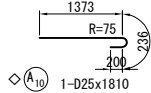
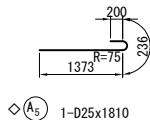
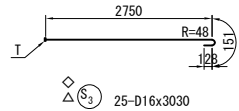
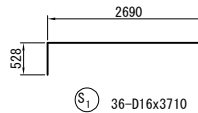
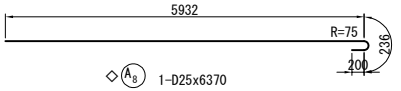
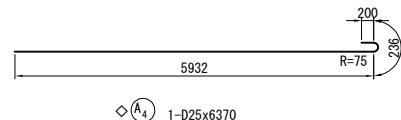
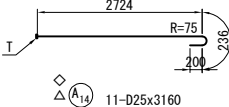
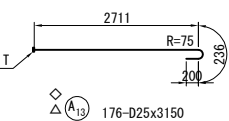
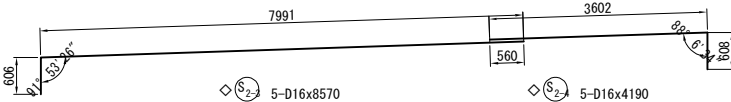
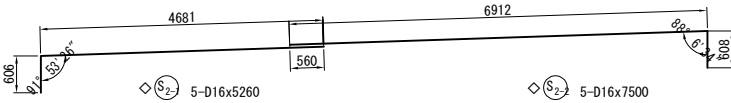
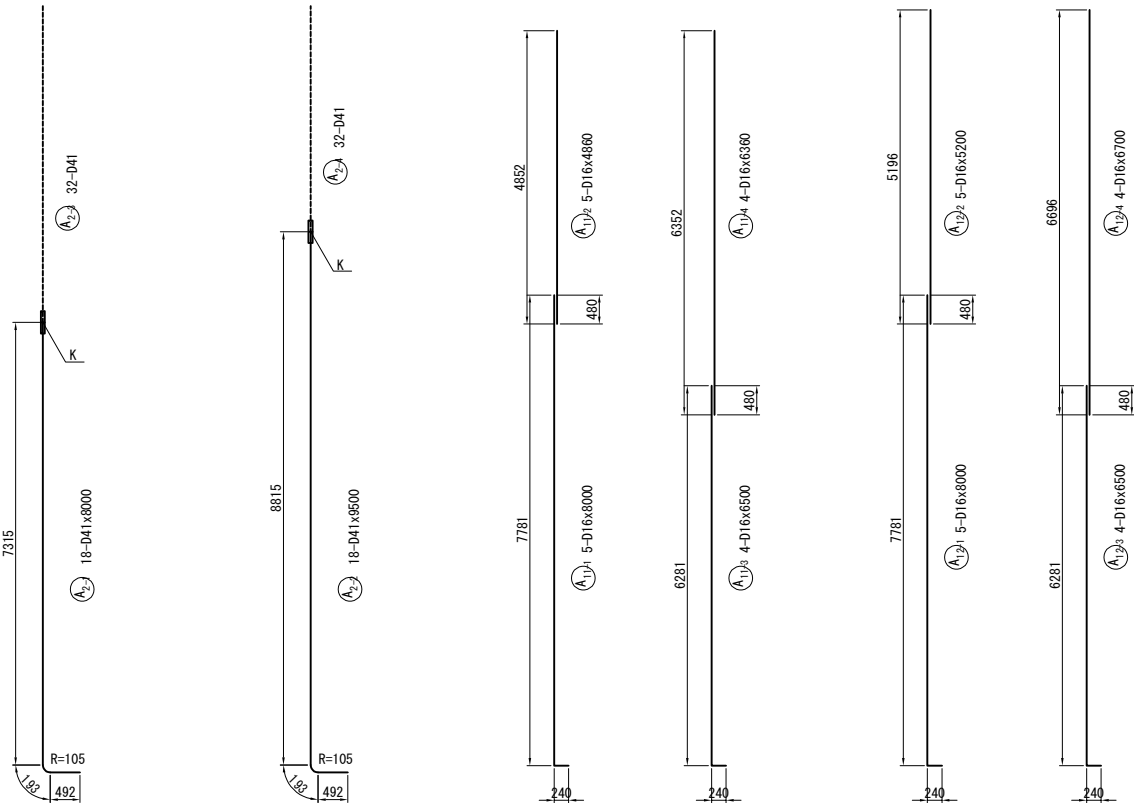
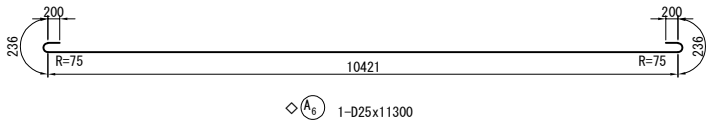
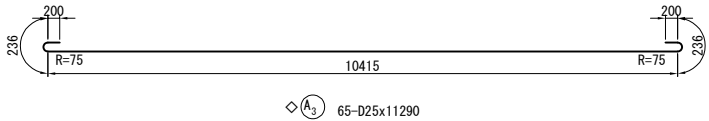
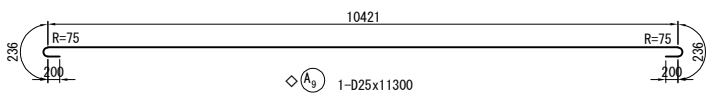
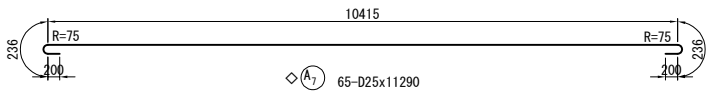


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
  2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
- 注6) Kは機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵠川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

① 18-D41×4350（平均長）				
記号	径	本数	a	L
1	D41	1	4181	4180
2	D41	1	4198	4200
3	D41	1	4218	4220
4	D41	1	4238	4240
5	D41	1	4258	4260
6	D41	1	4277	4280
7	D41	1	4297	4300
8	D41	1	4317	4320
9	D41	1	4337	4340
10	D41	1	4356	4360
11	D41	1	4376	4380
12	D41	1	4396	4400
13	D41	1	4416	4420
14	D41	1	4435	4440
15	D41	1	4455	4460
16	D41	1	4475	4470
17	D41	1	4495	4490
18	D41	1	4514	4510
平均長		18		4348

② 18-D41×2860（平均長）				
記号	径	本数	a	L
1	D41	1	2689	2690
2	D41	1	2708	2710
3	D41	1	2728	2730
4	D41	1	2748	2750
5	D41	1	2767	2770
6	D41	1	2787	2790
7	D41	1	2807	2810
8	D41	1	2827	2830
9	D41	1	2846	2850
10	D41	1	2866	2870
11	D41	1	2886	2890
12	D41	1	2906	2910
13	D41	1	2925	2930
14	D41	1	2945	2950
15	D41	1	2965	2960
16	D41	1	2985	2980
17	D41	1	3004	3000
18	D41	1	3022	3020
平均長		18		2858

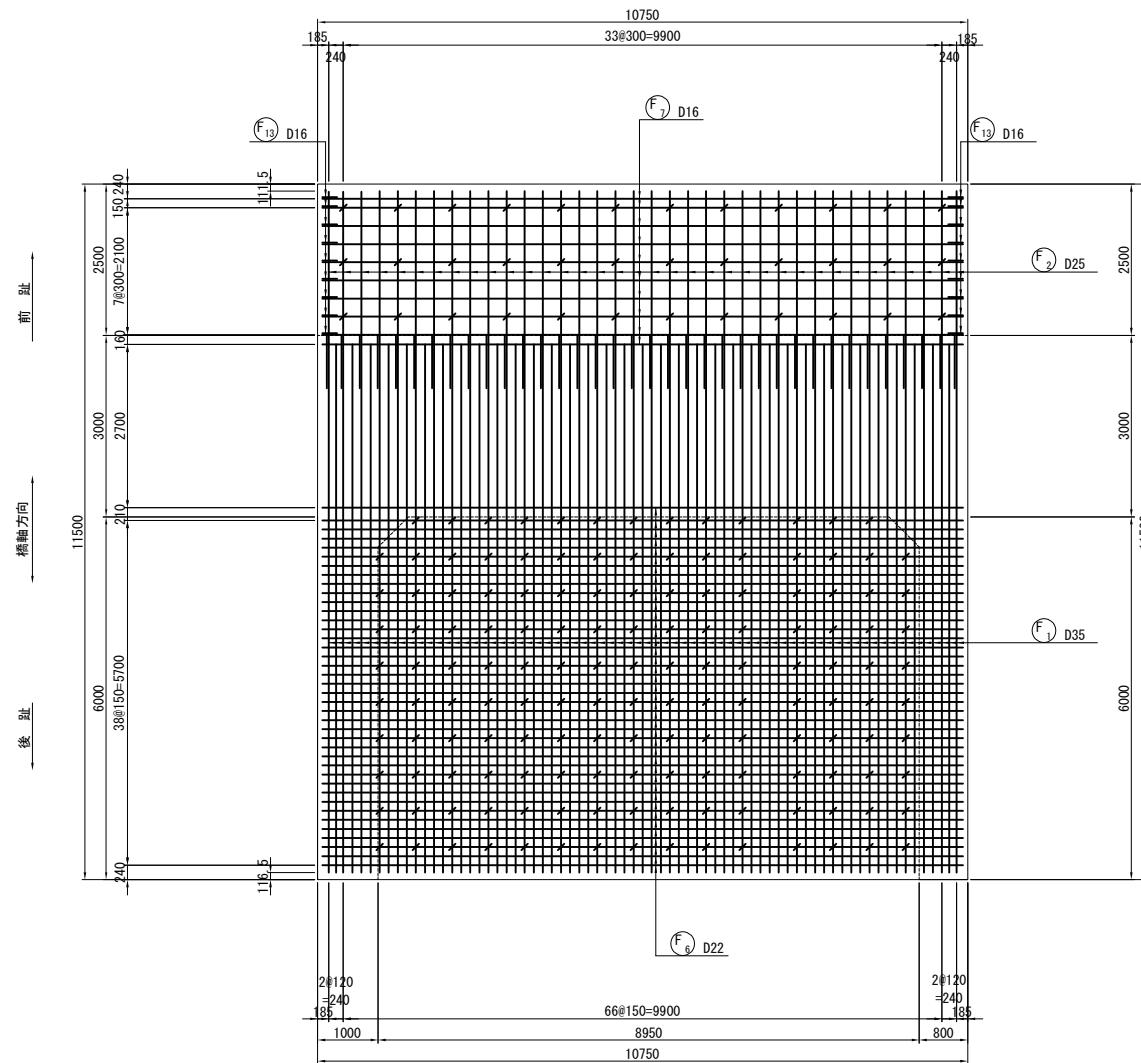


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
  2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) △印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
- 注6) — Kは機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その6）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

1 - 1

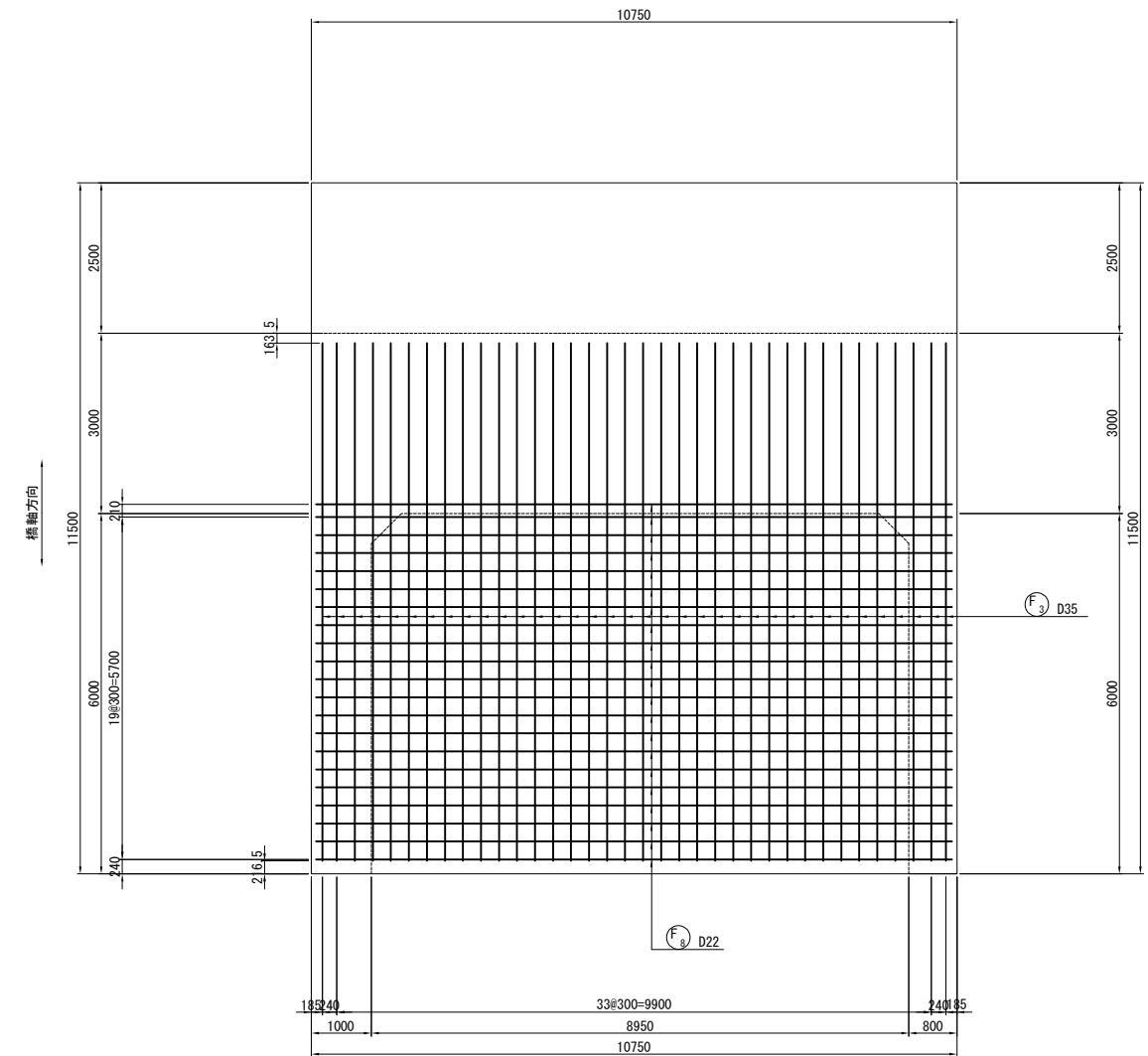
橋軸直角方向



フーチャングかぶり詳細図 S=1:50

2 - 2

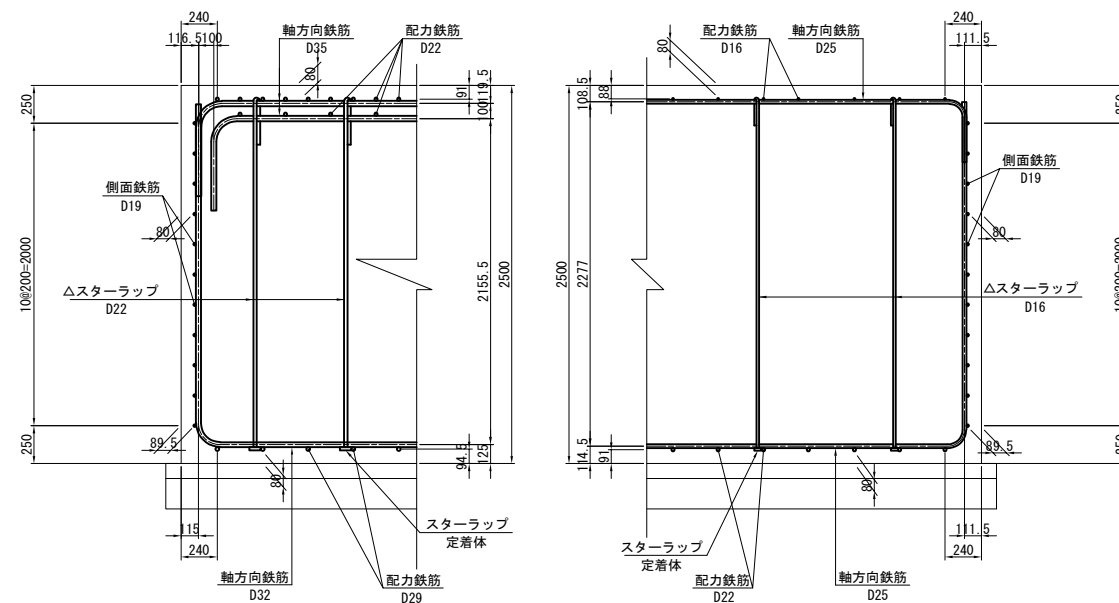
橋軸直角方向



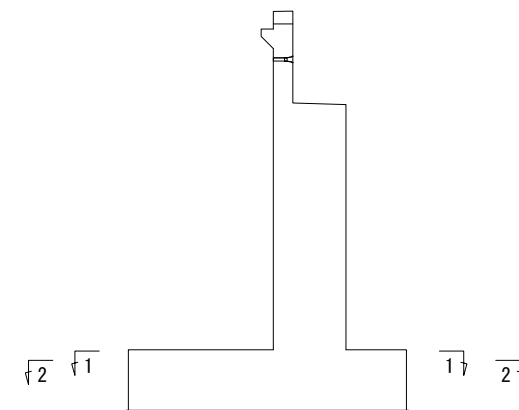
橋軸方向

後 趾

前 趾



位置図

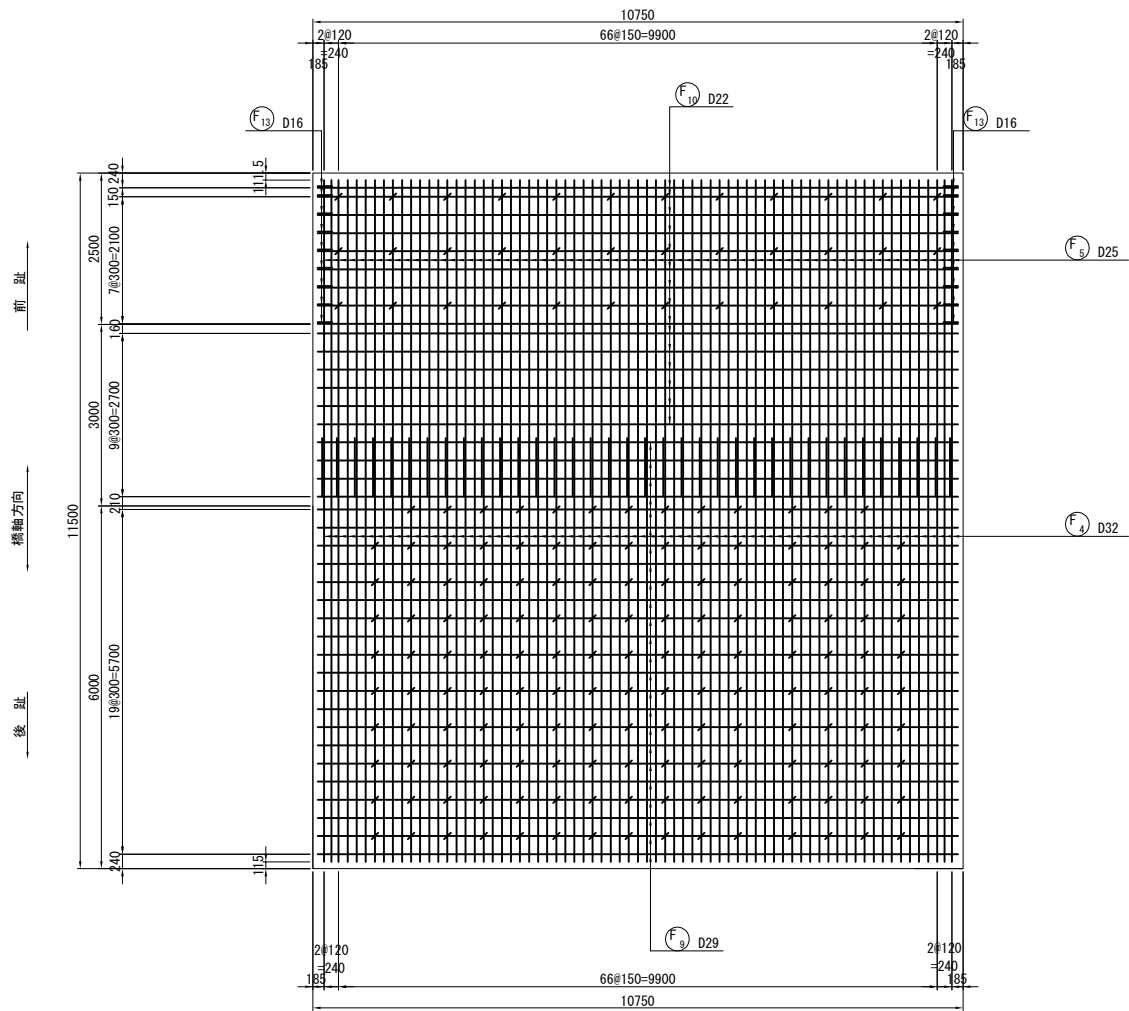


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説(H29, 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主筋部に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事				
図面の種類	本流森川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 7）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

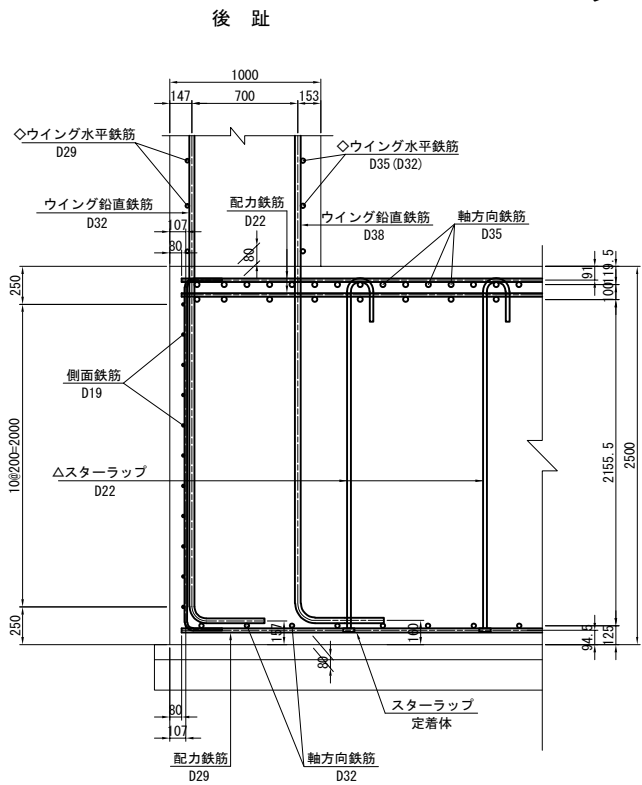
3 - 3

橋軸直角方向

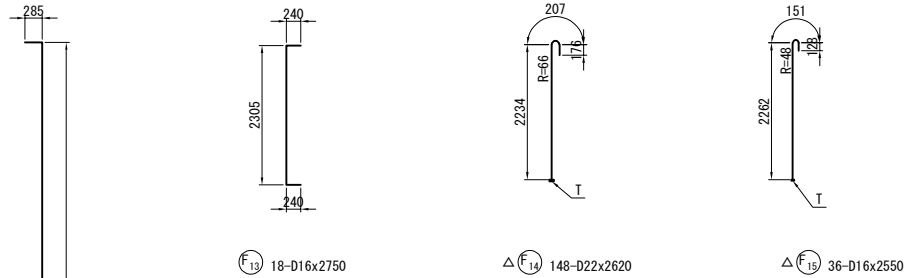
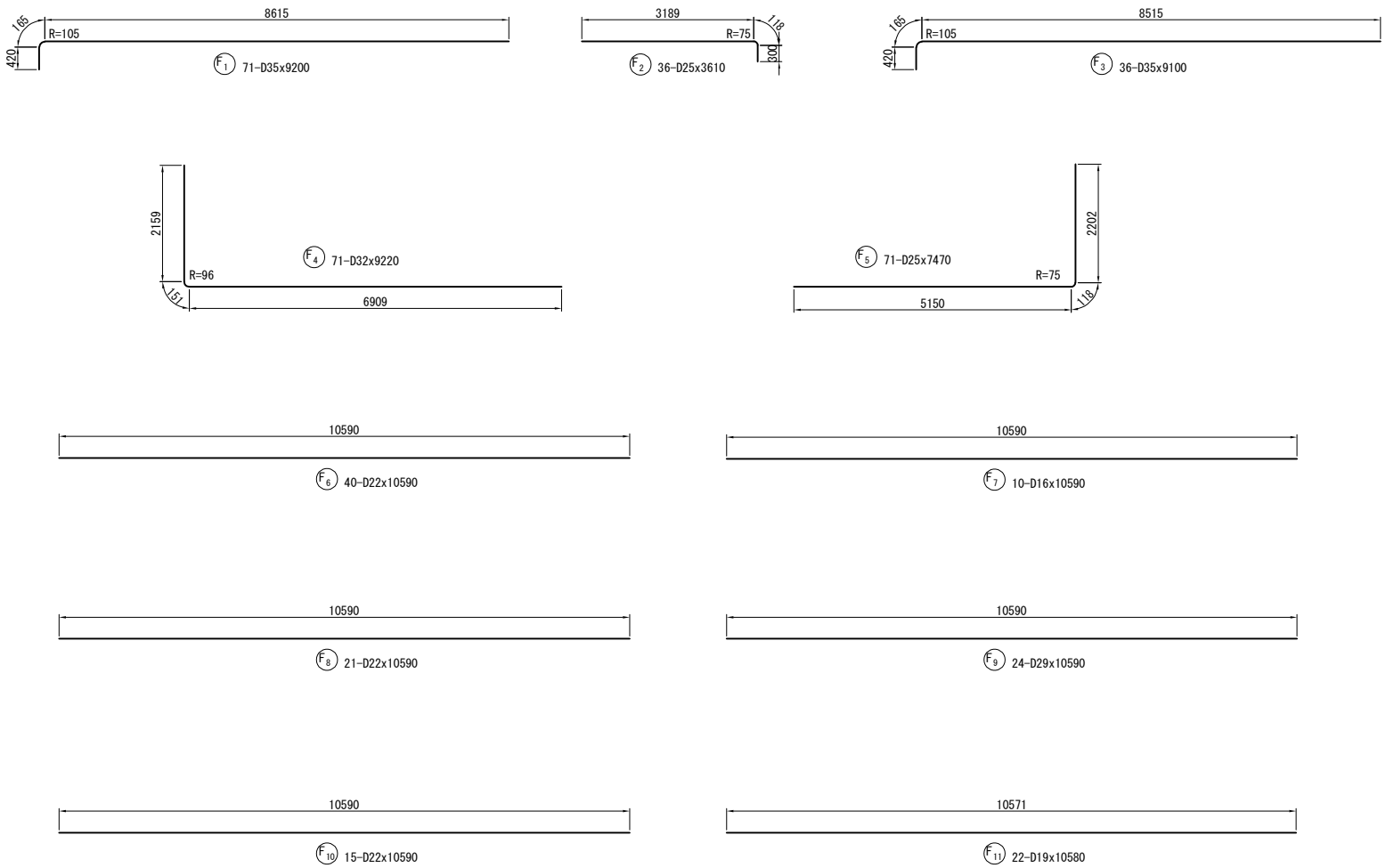
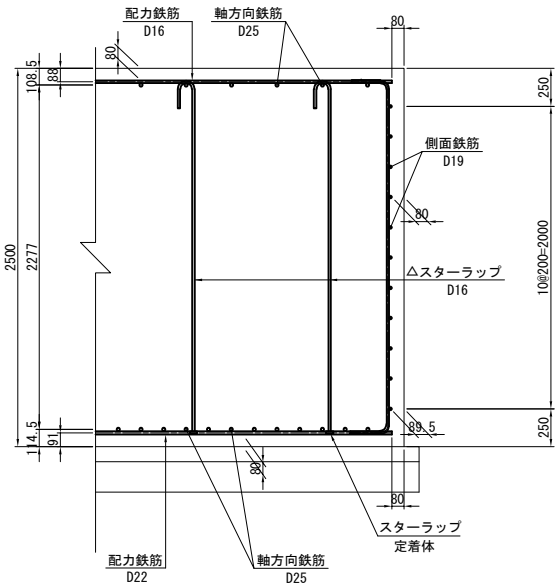


フーチングかぶり詳細図 S=1:50

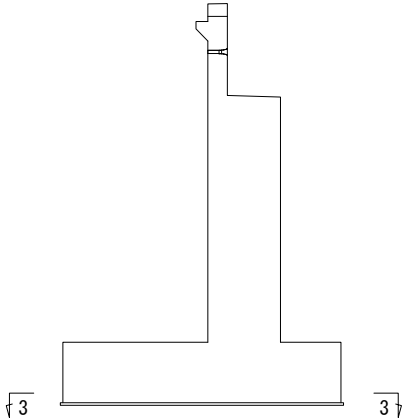
橋軸直角方向



前趾



位置図

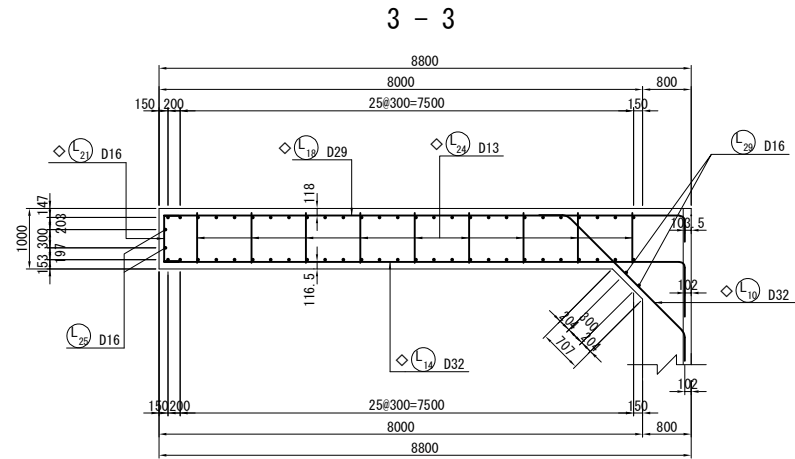
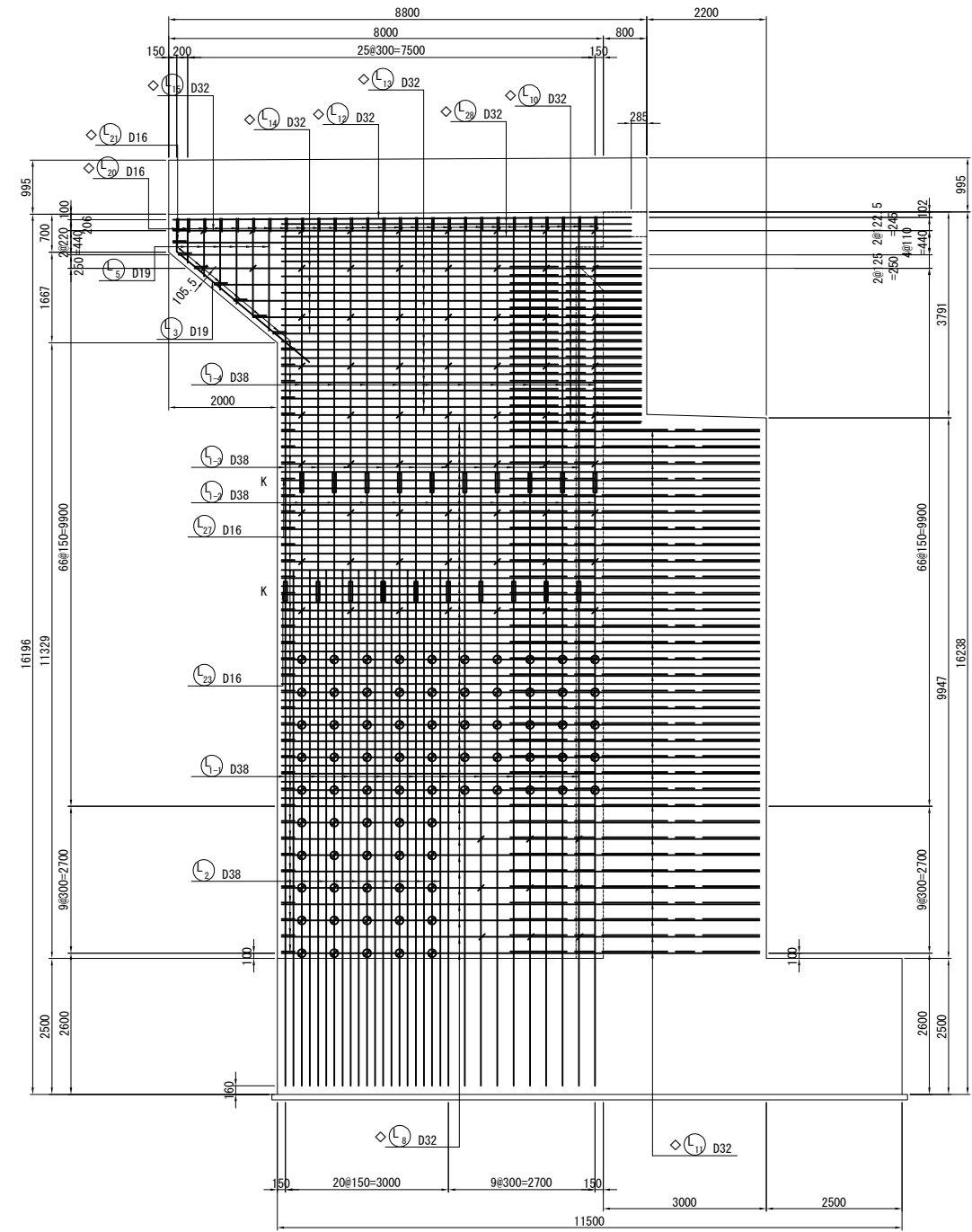
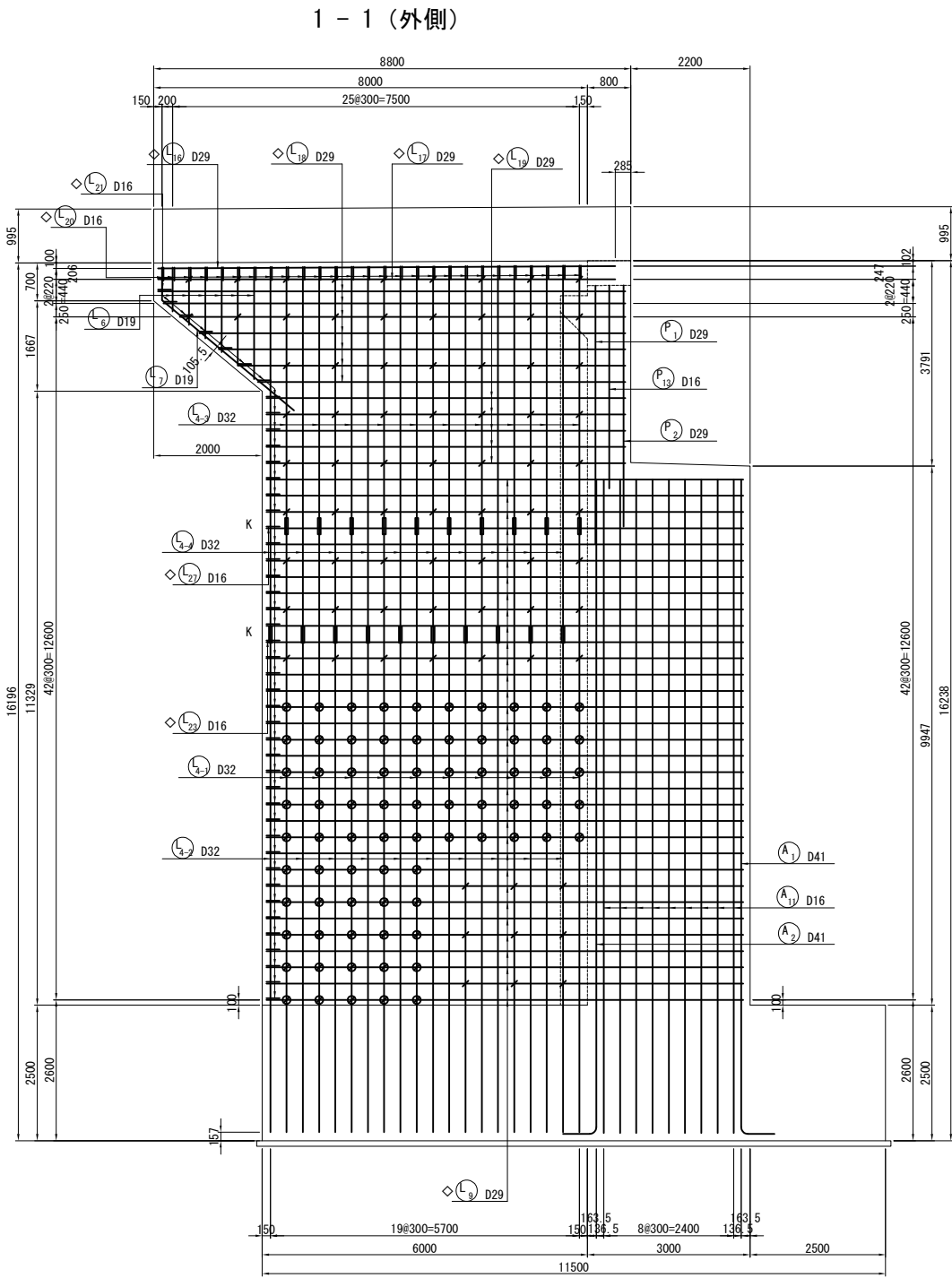


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
  2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

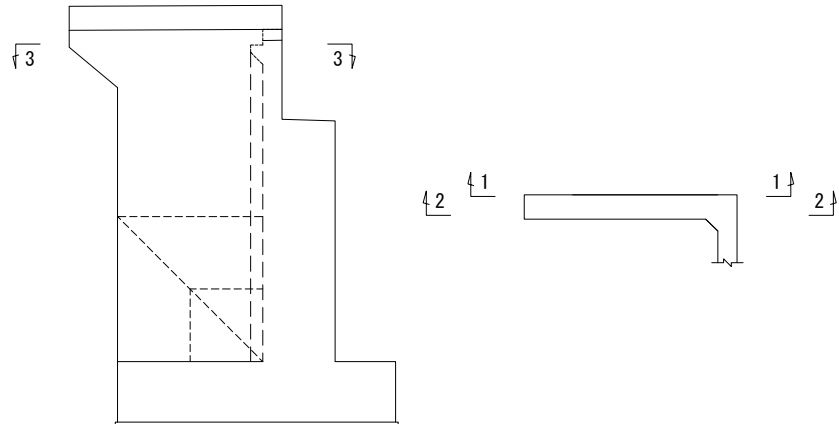
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		



左側ウイング 2 - 2（内側）

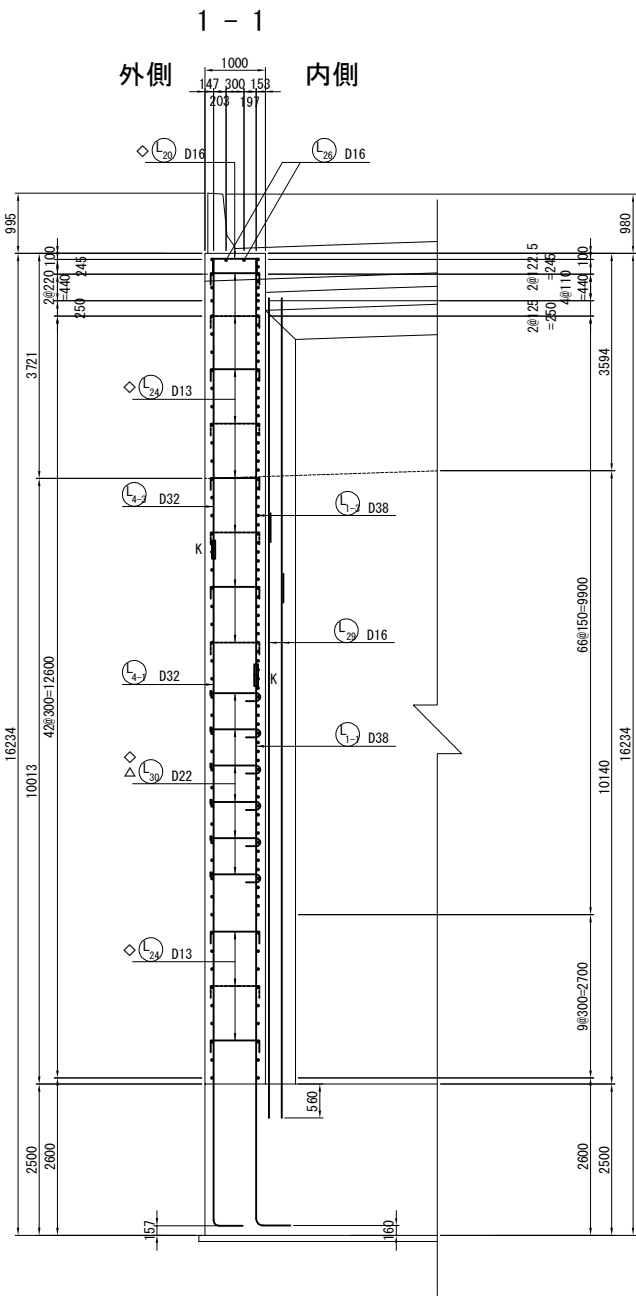


位置図

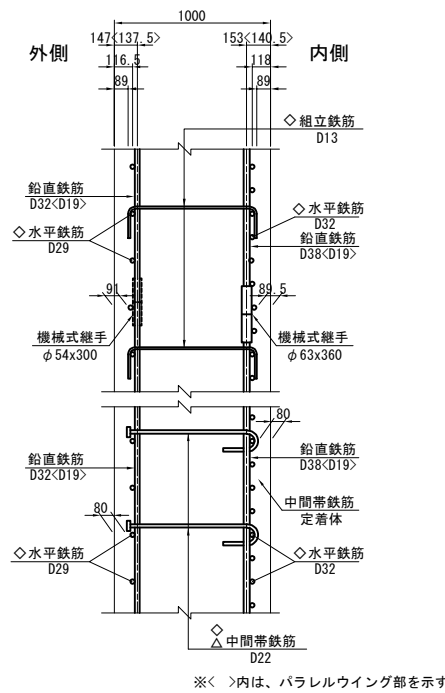


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注6) 注) の印はせん断補強鉄筋 ◇△( ) を示す。

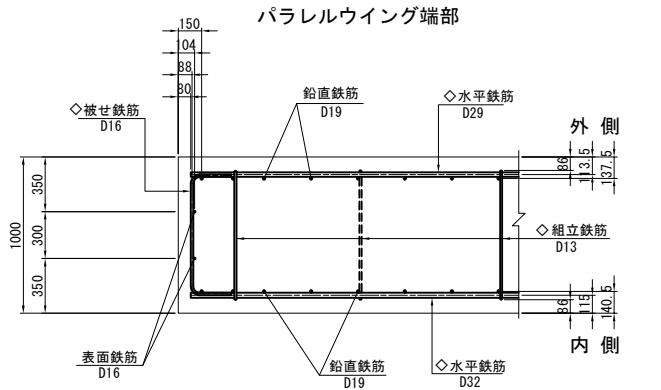
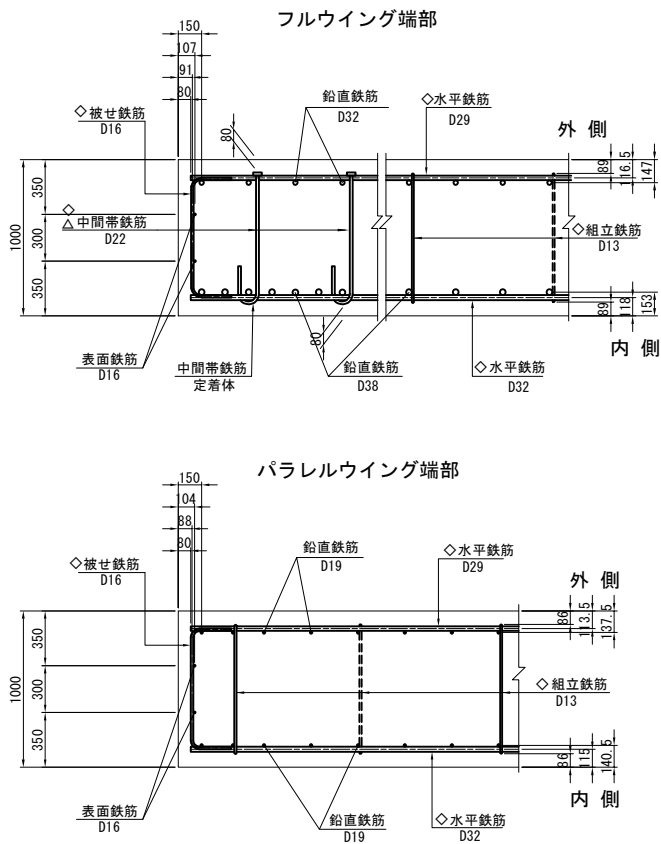
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



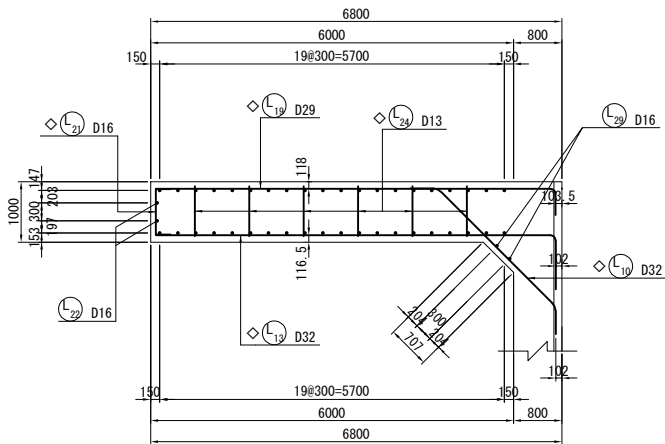
左側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



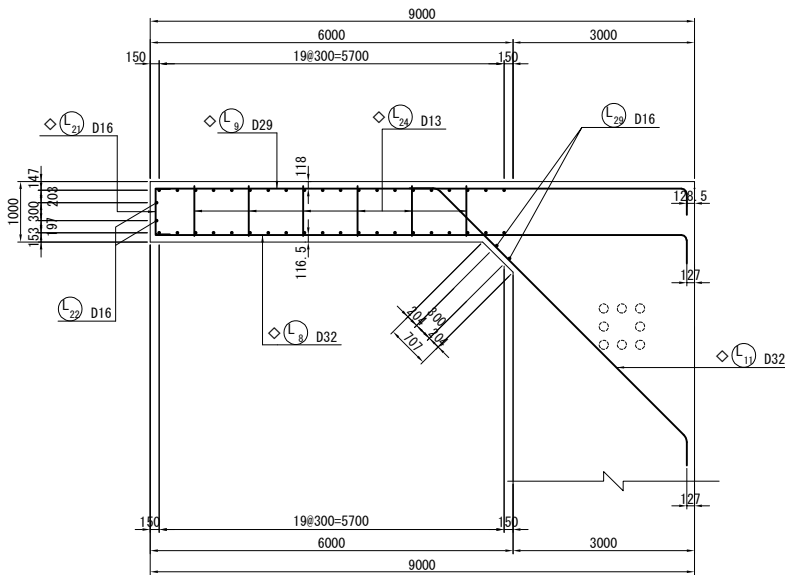
左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



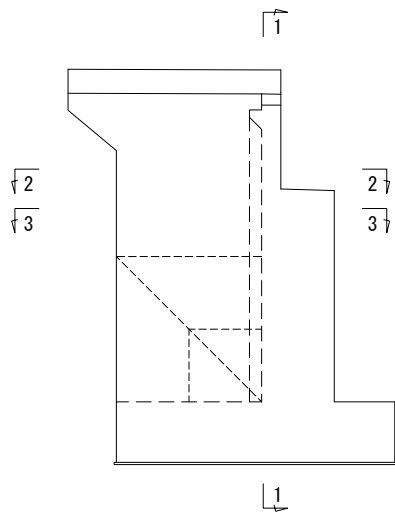
2 - 2



3 - 3

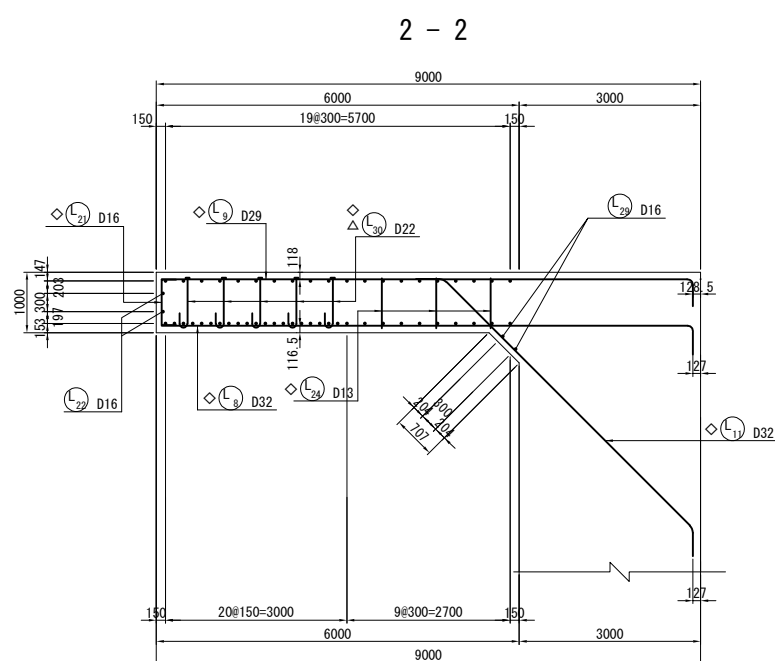
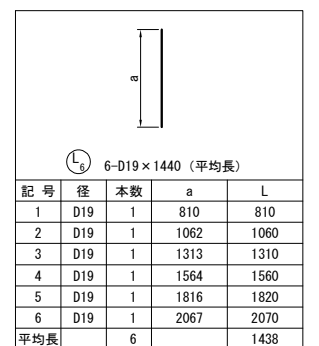
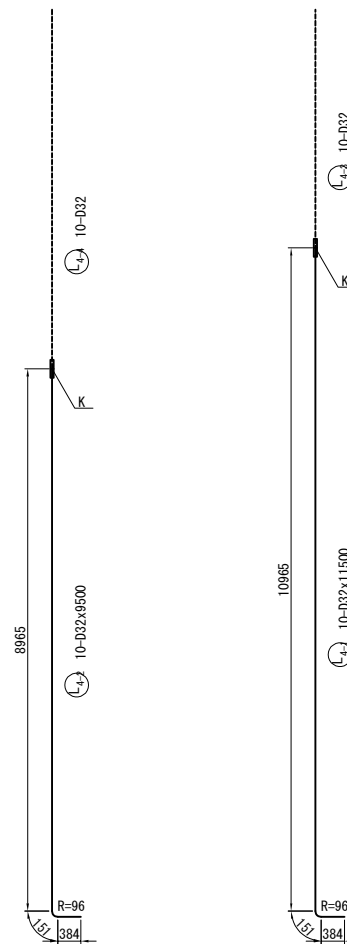
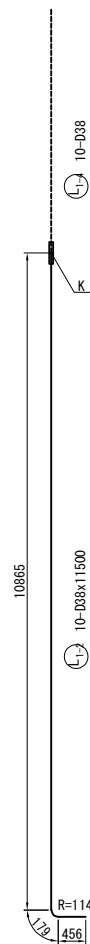



位置図



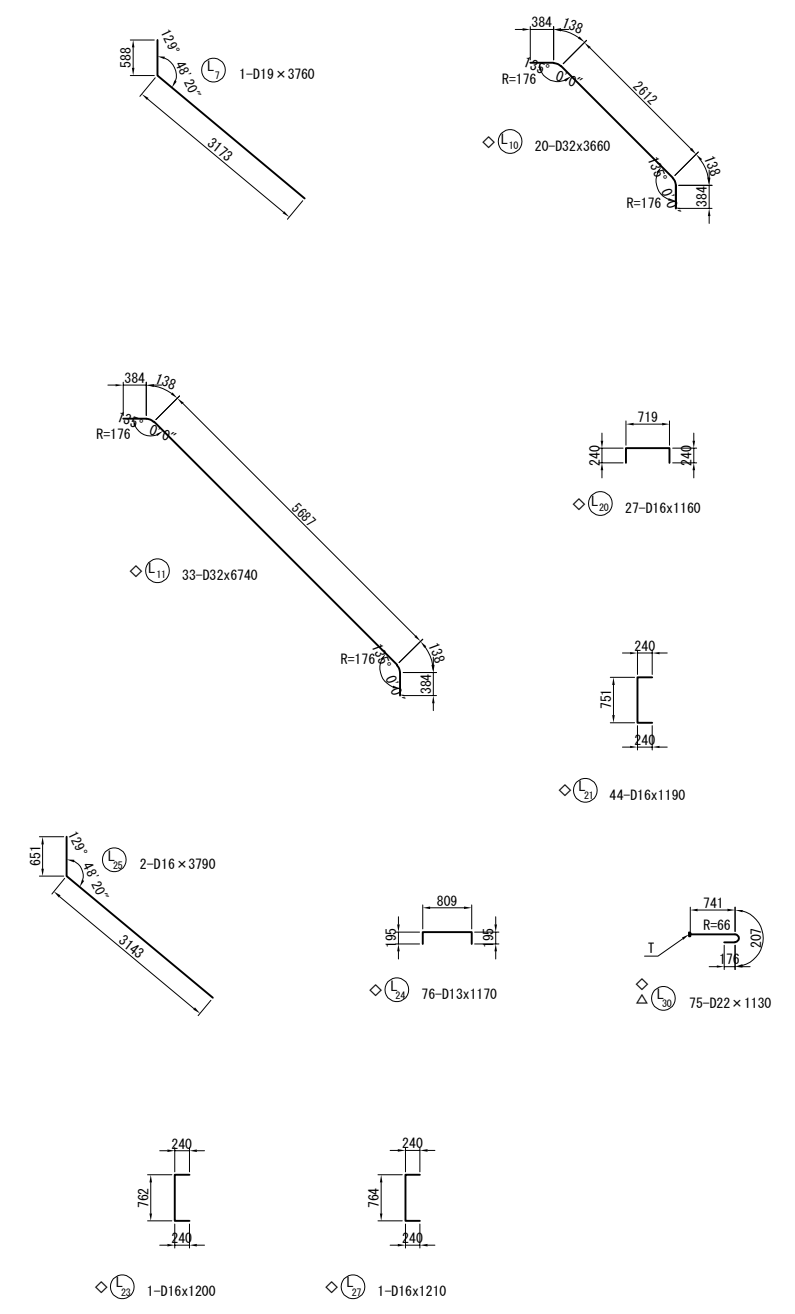
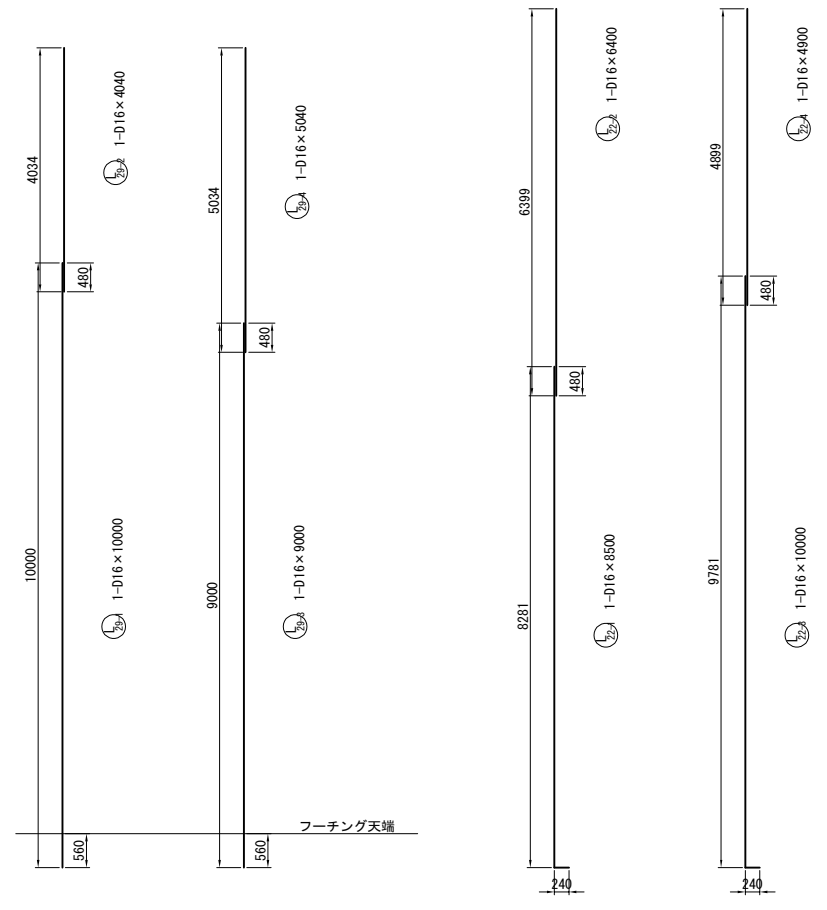
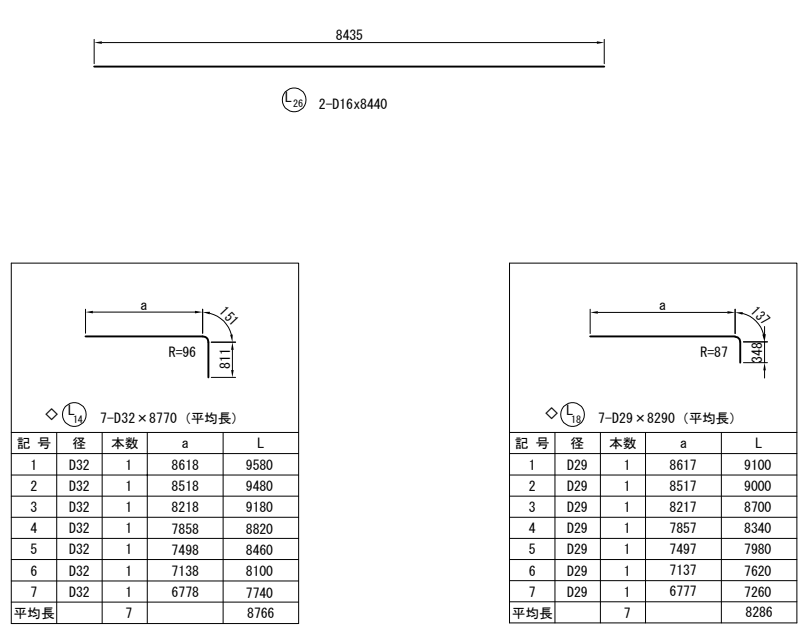
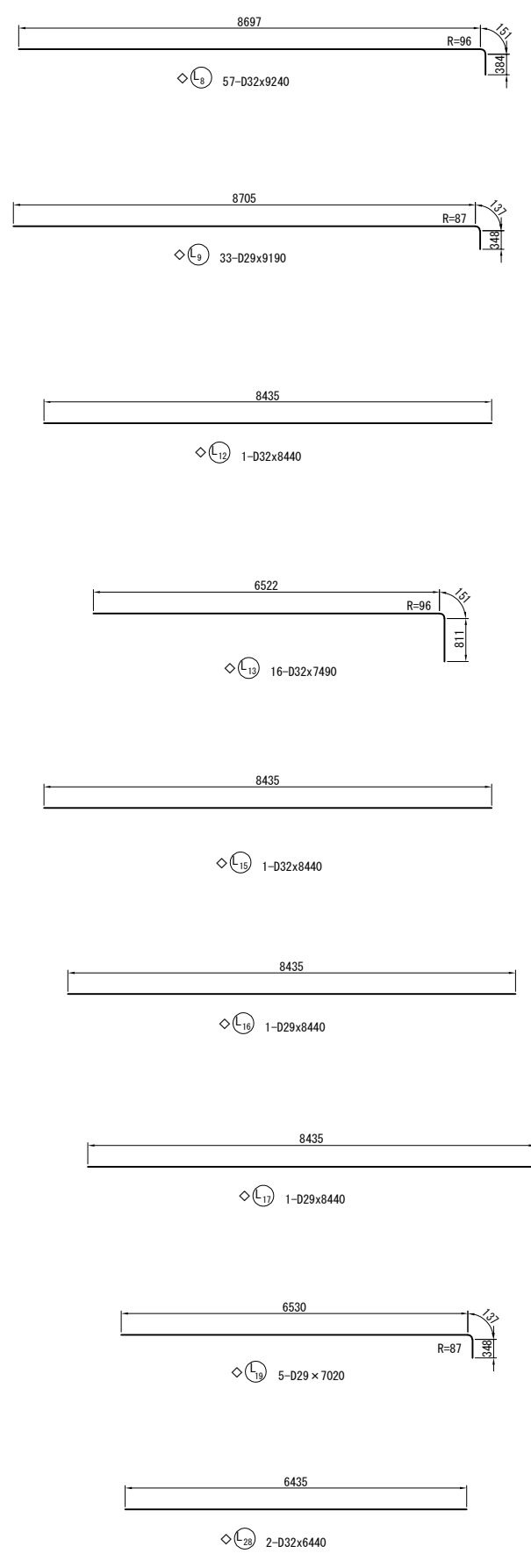
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
  2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵠川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
下道橋標示方書-同解説(H29.11 日本道路協会)
- 注2) 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋丸は切り上げの10mm丸めとする。
- 注6)  Kは機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第二橋（下り線） A 1橋台設防図（その１１）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

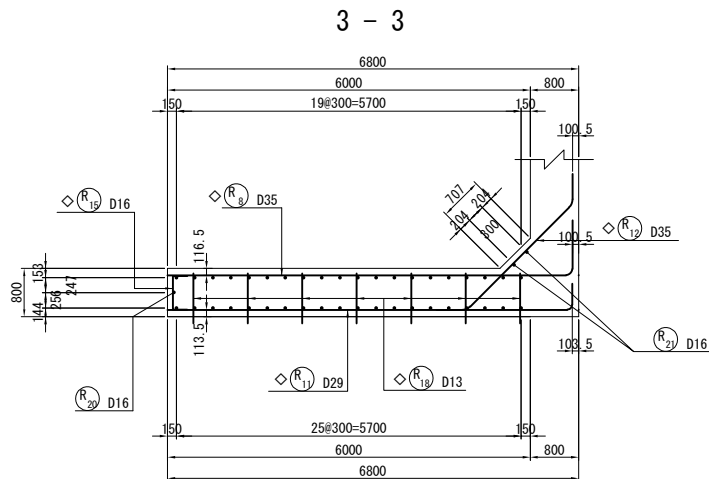
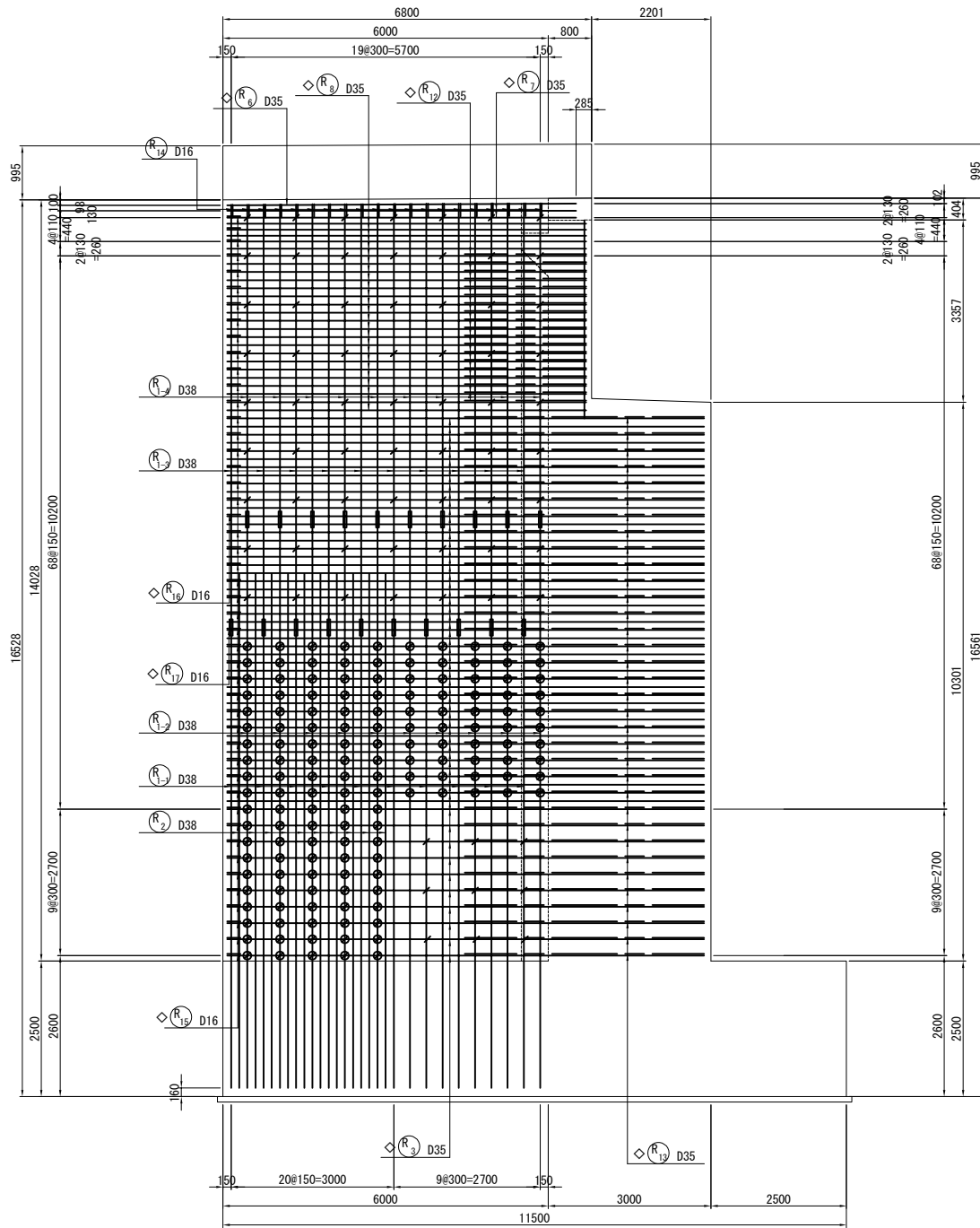
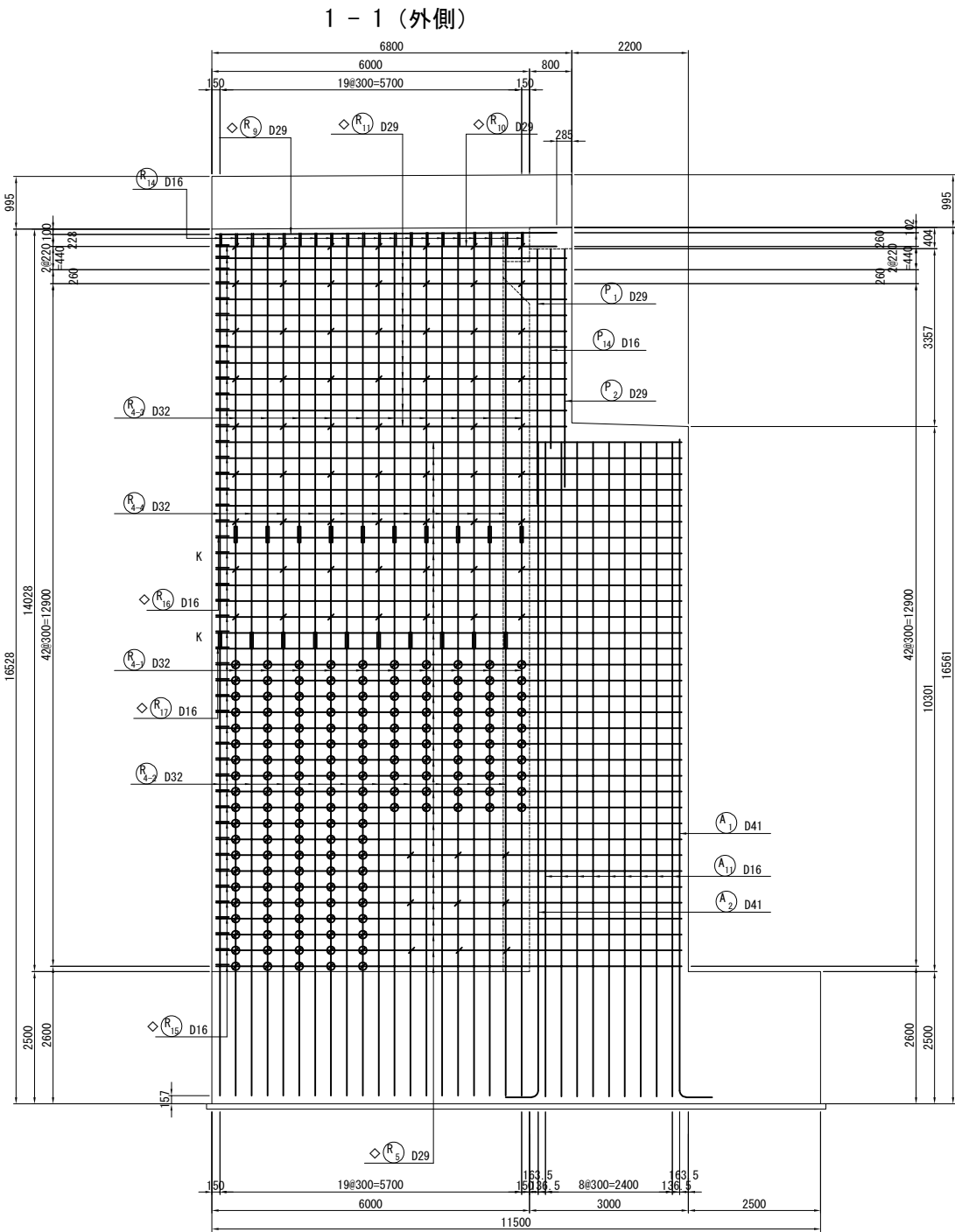


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

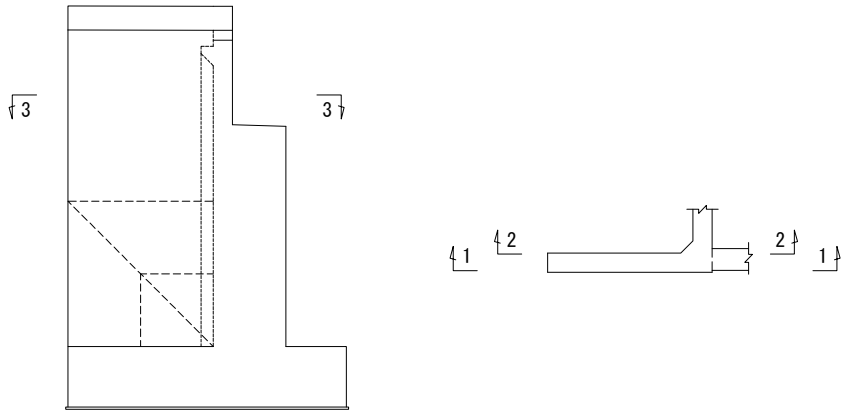
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

右側ウイング

2 - 2（内側）

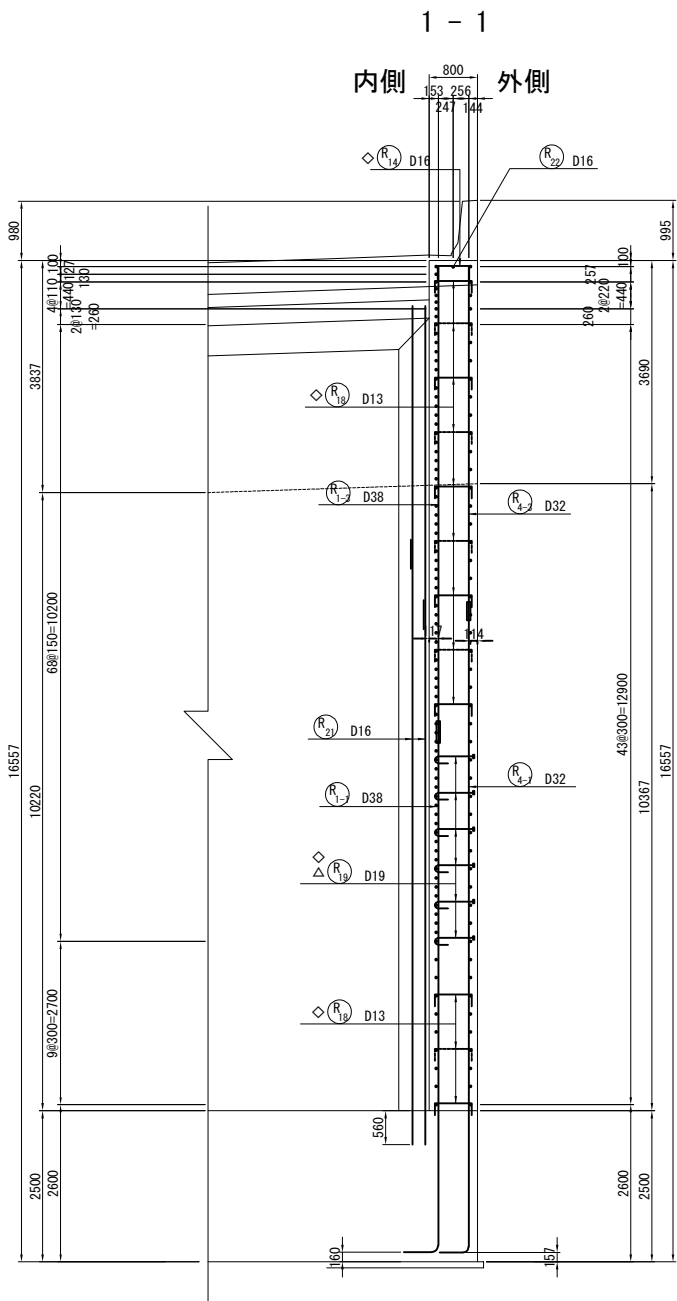


位置図

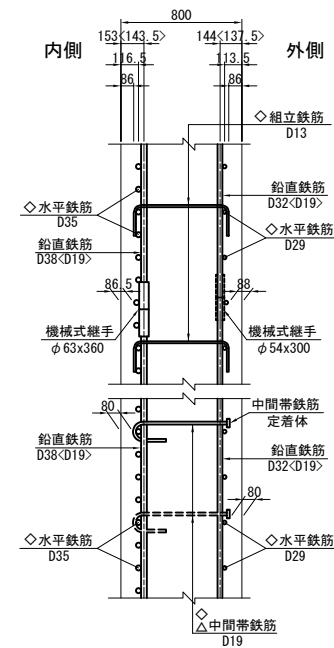


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注6) 注) の印はせん断補強鉄筋 ◇△(R<sub>9</sub>) を示す。

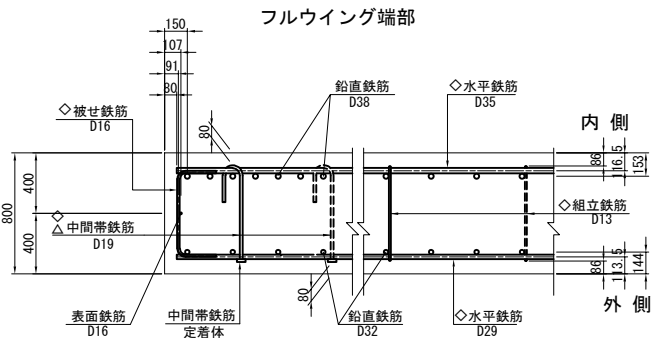
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵠川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



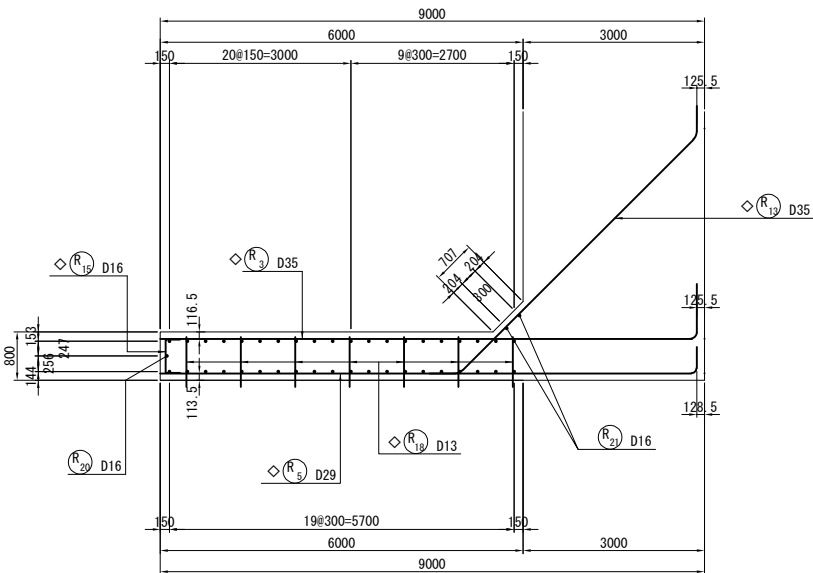
右側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



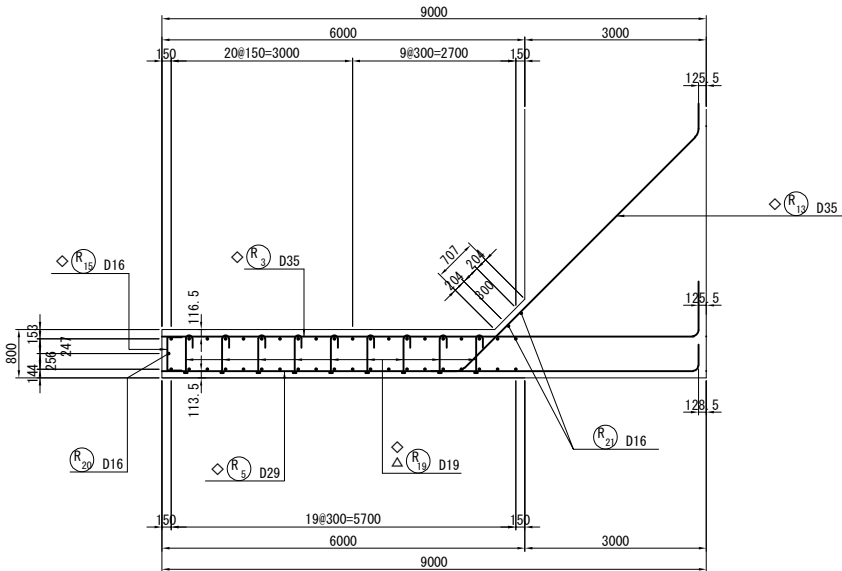
右側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



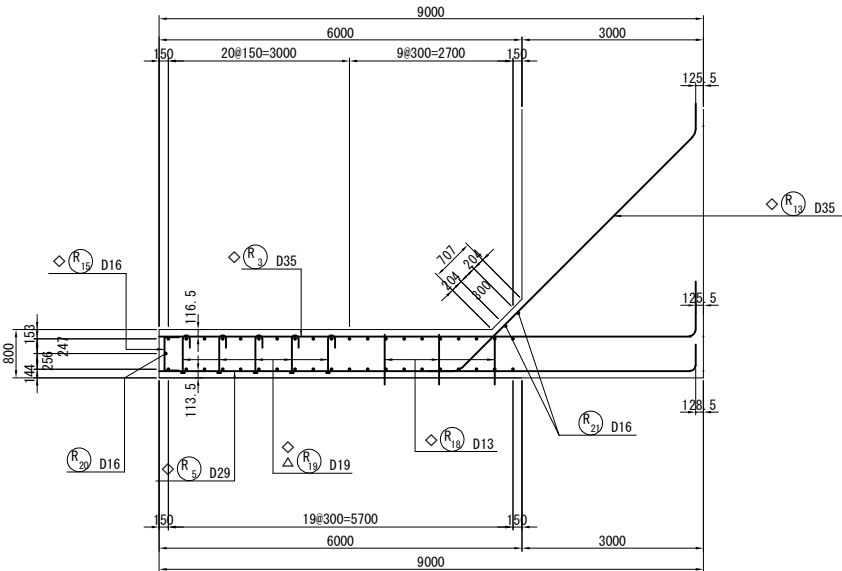
2 - 2



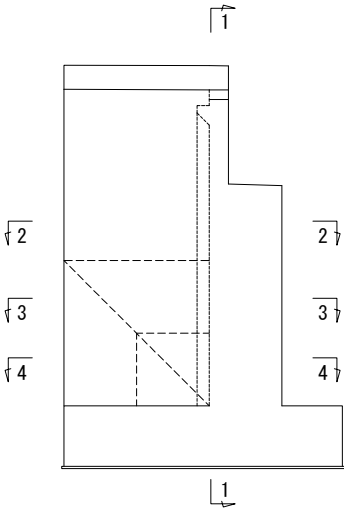
3 - 3



4 - 4

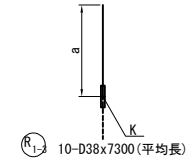


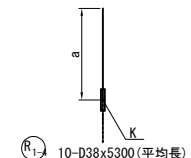
位置図

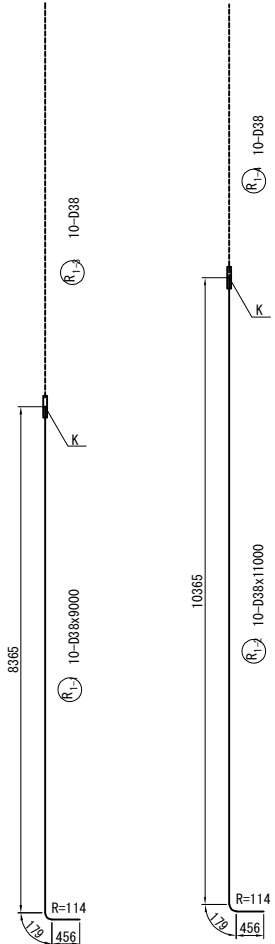


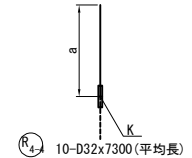
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
  2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 注3) 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注4) △印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

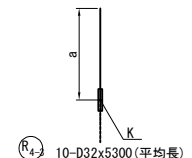
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

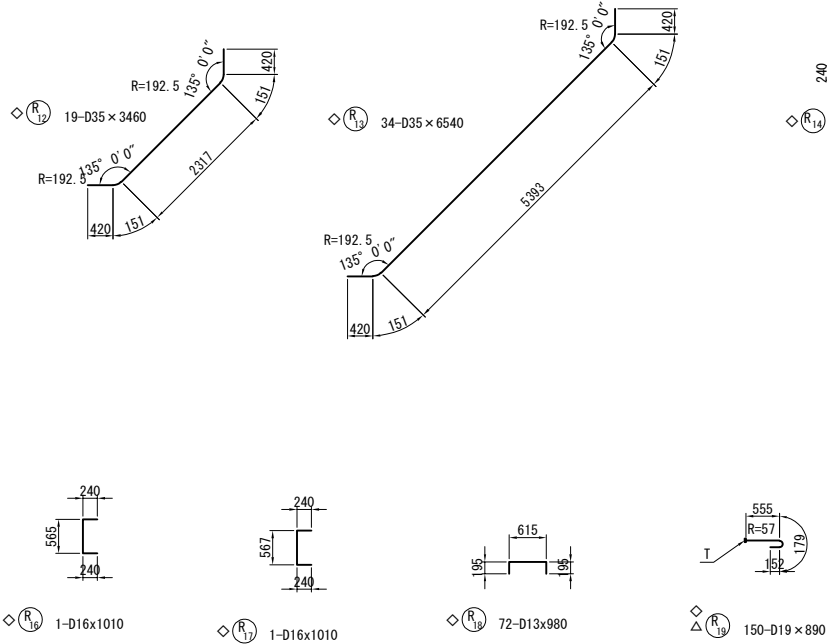
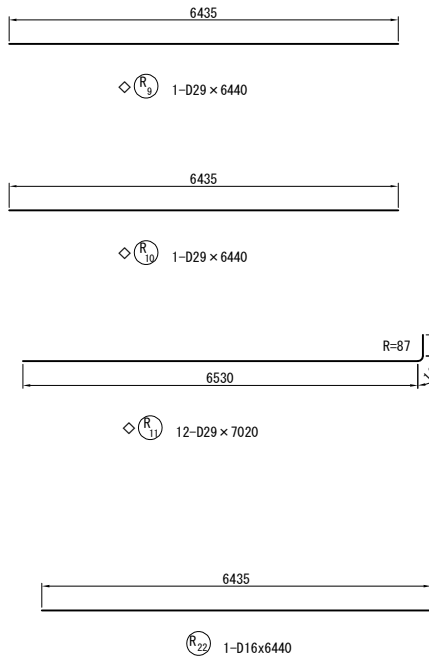
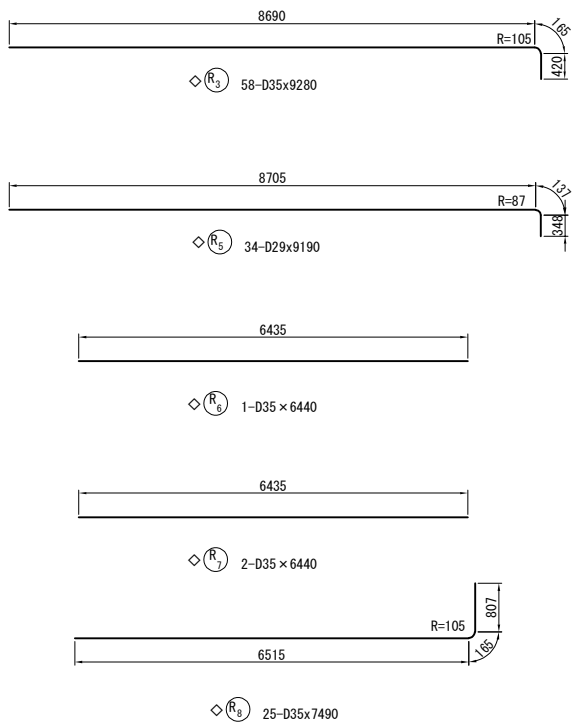
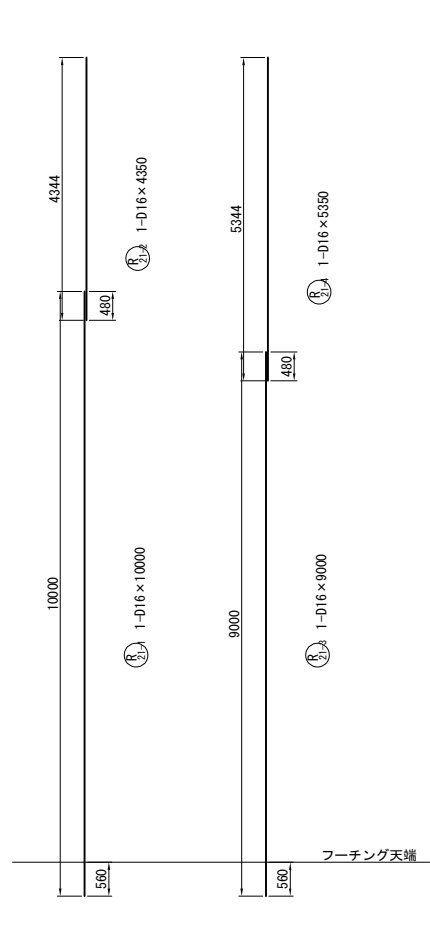
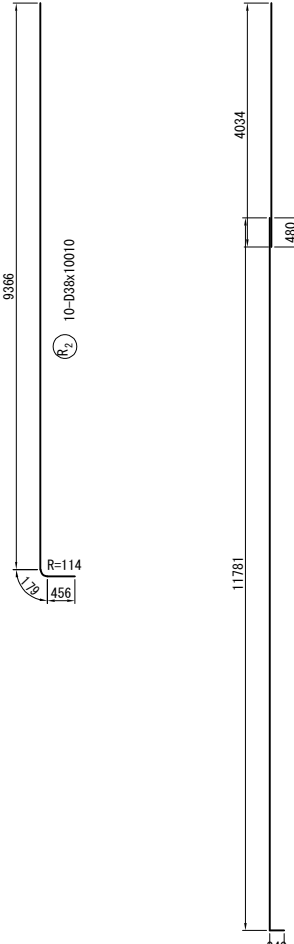
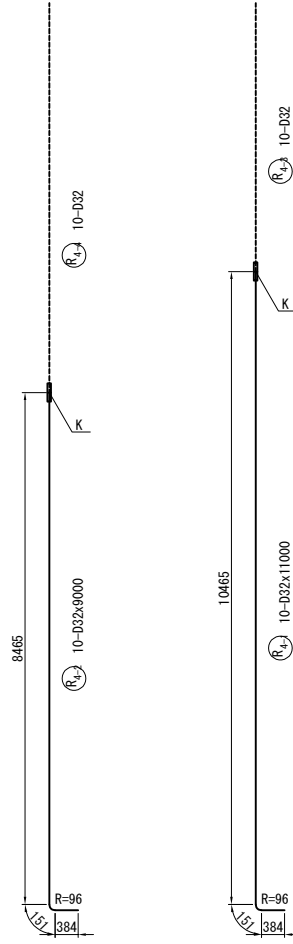
				
記号	径	本数	a	L
1	D38	1	7281	7280
2	D38	1	7284	7280
3	D38	1	7287	7290
4	D38	1	7290	7290
5	D38	1	7293	7290
6	D38	1	7296	7300
7	D38	1	7298	7300
8	D38	1	7301	7300
9	D38	1	7304	7300
10	D38	1	7307	7310
平均長		10		7294

				
記号	径	本数	a	L
1	D38	1	5282	5280
2	D38	1	5285	5290
3	D38	1	5288	5290
4	D38	1	5291	5290
5	D38	1	5294	5290
6	D38	1	5297	5300
7	D38	1	5300	5300
8	D38	1	5303	5300
9	D38	1	5306	5310
10	D38	1	5309	5310
平均長		10		5296



				
記号	径	本数	a	L
1	D32	1	7284	7280
2	D32	1	7287	7290
3	D32	1	7290	7290
4	D32	1	7293	7290
5	D32	1	7296	7300
6	D32	1	7299	7300
7	D32	1	7301	7300
8	D32	1	7304	7300
9	D32	1	7307	7310
10	D32	1	7310	7310
平均長		10		7297

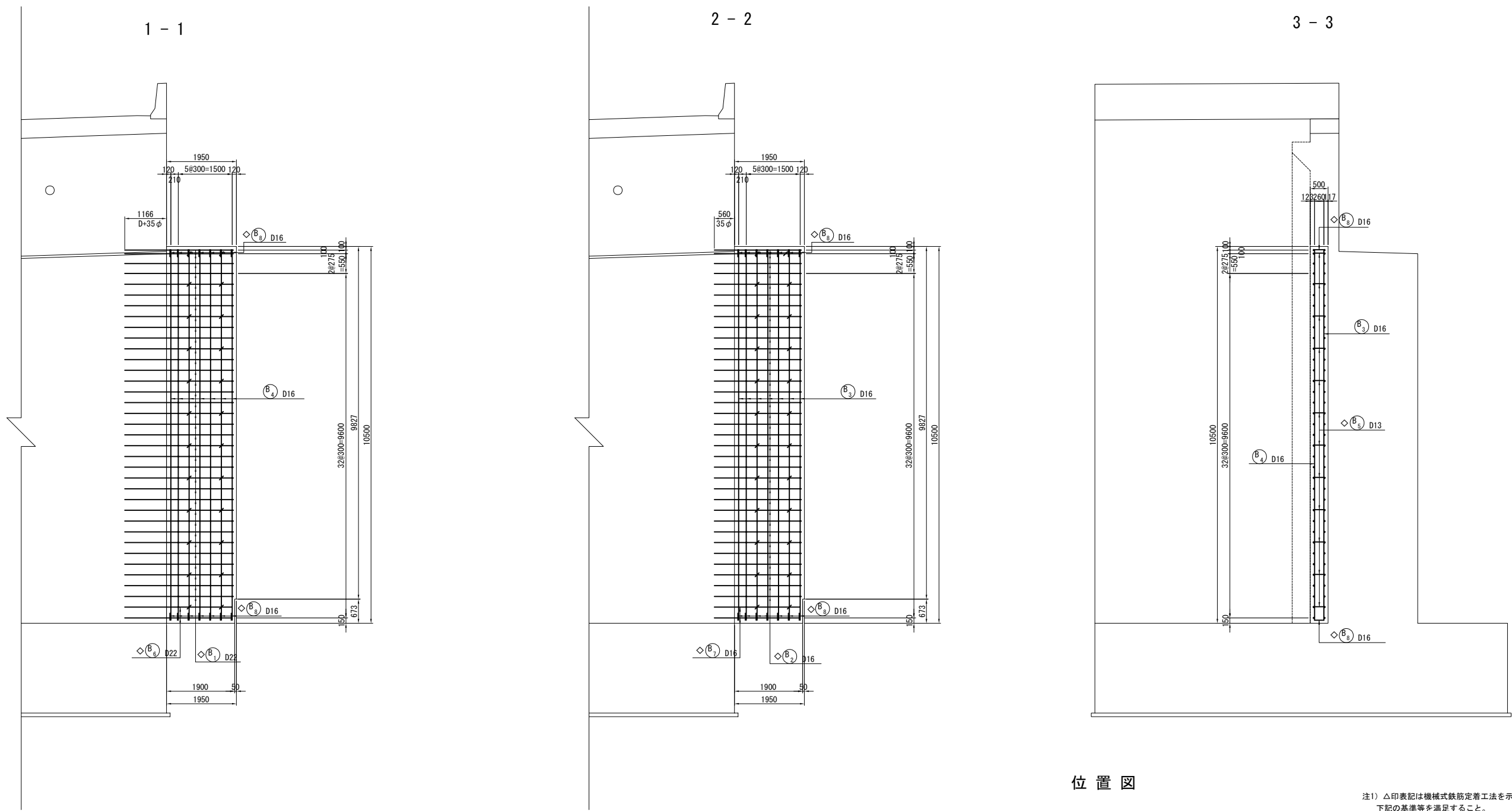
				
記号	径	本数	a	L
1	D32	1	5285	5290
2	D32	1	5288	5290
3	D32	1	5291	5290
4	D32	1	5294	5290
5	D32	1	5297	5300
6	D32	1	5300	5300
7	D32	1	5303	5300
8	D32	1	5306	5310
9	D32	1	5309	5310
10	D32	1	5312	5310
平均長		10		5299



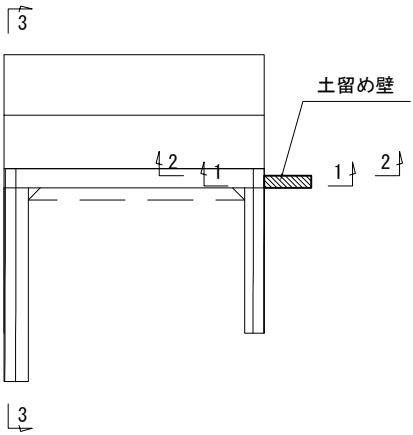
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) △印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注6) Kは機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵡川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 5）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

土留め壁



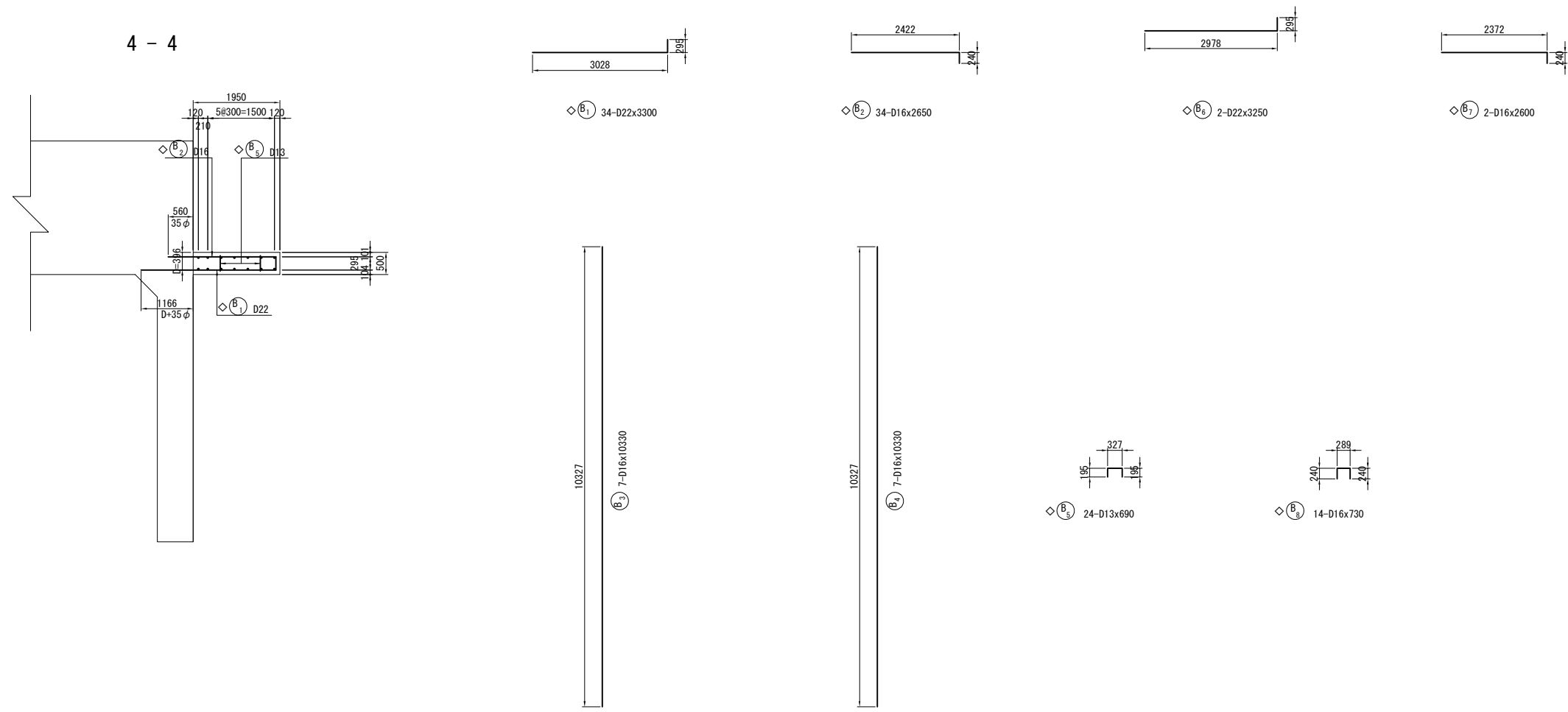
位置図



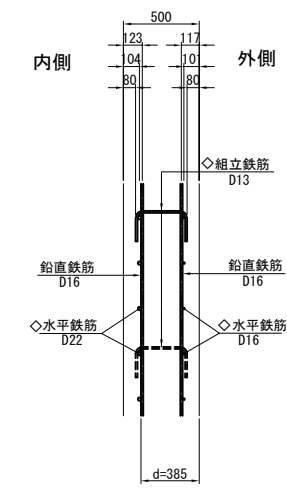
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

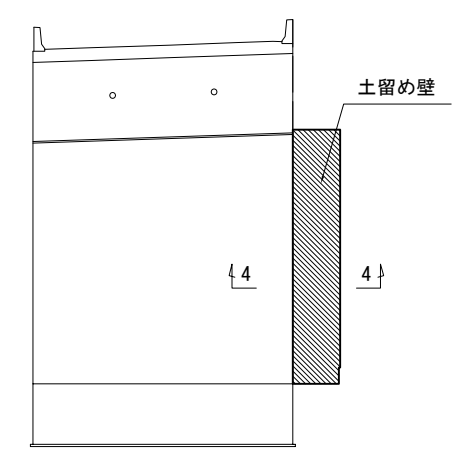




土留め壁かぶり詳細図 S=1 : 50



位置図



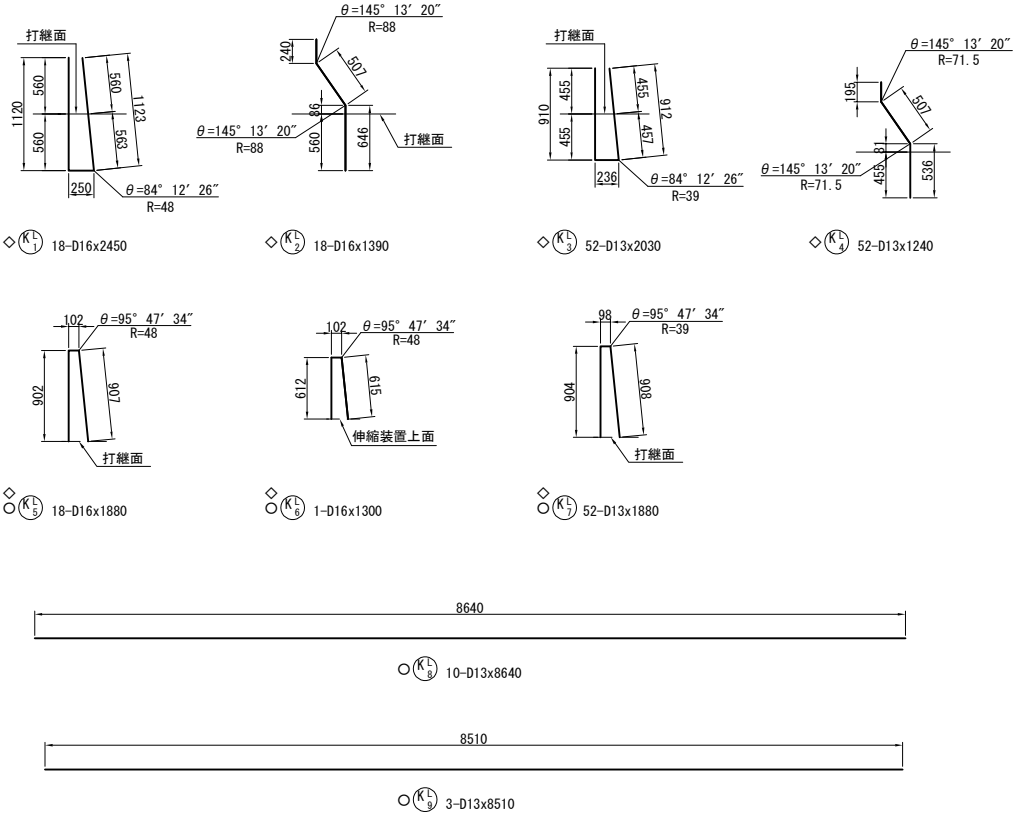
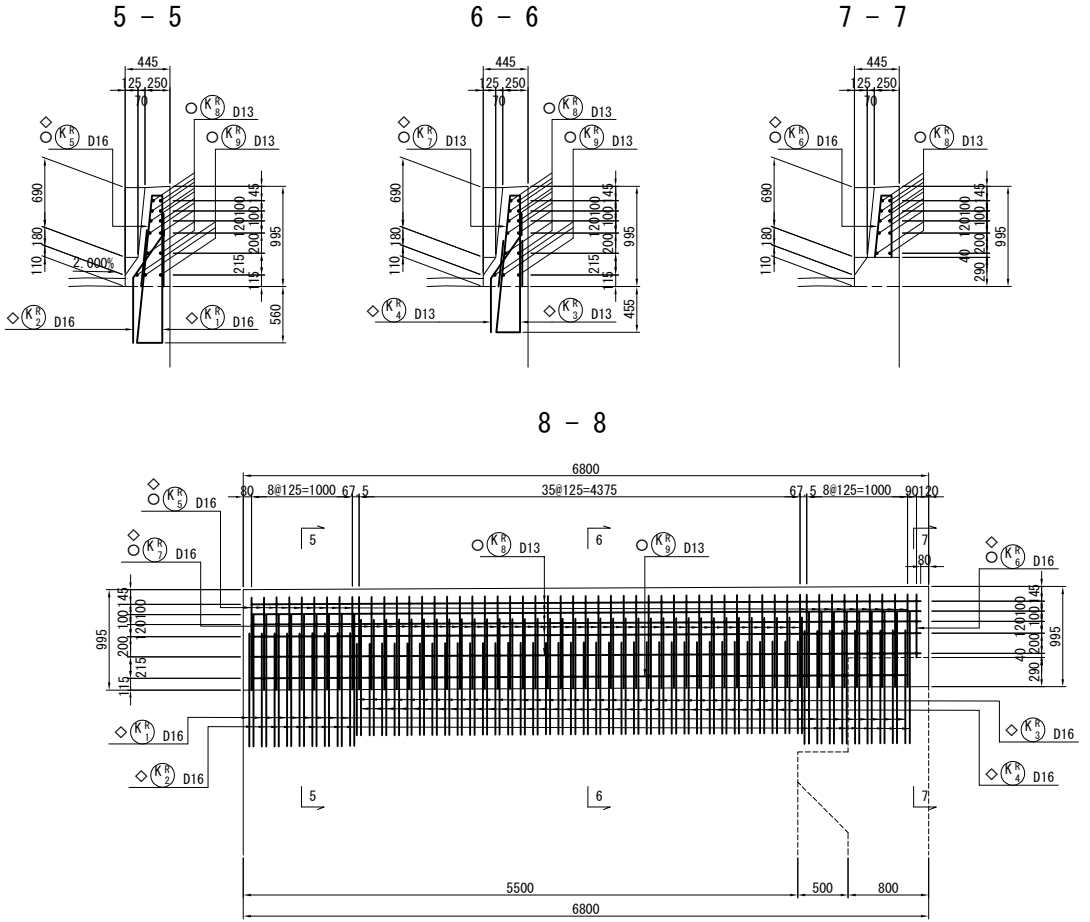
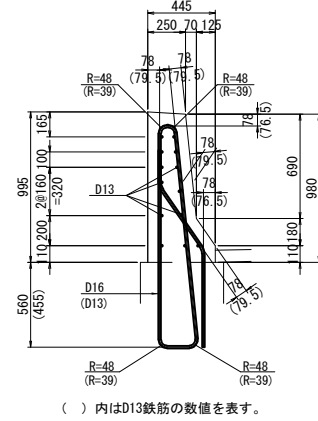
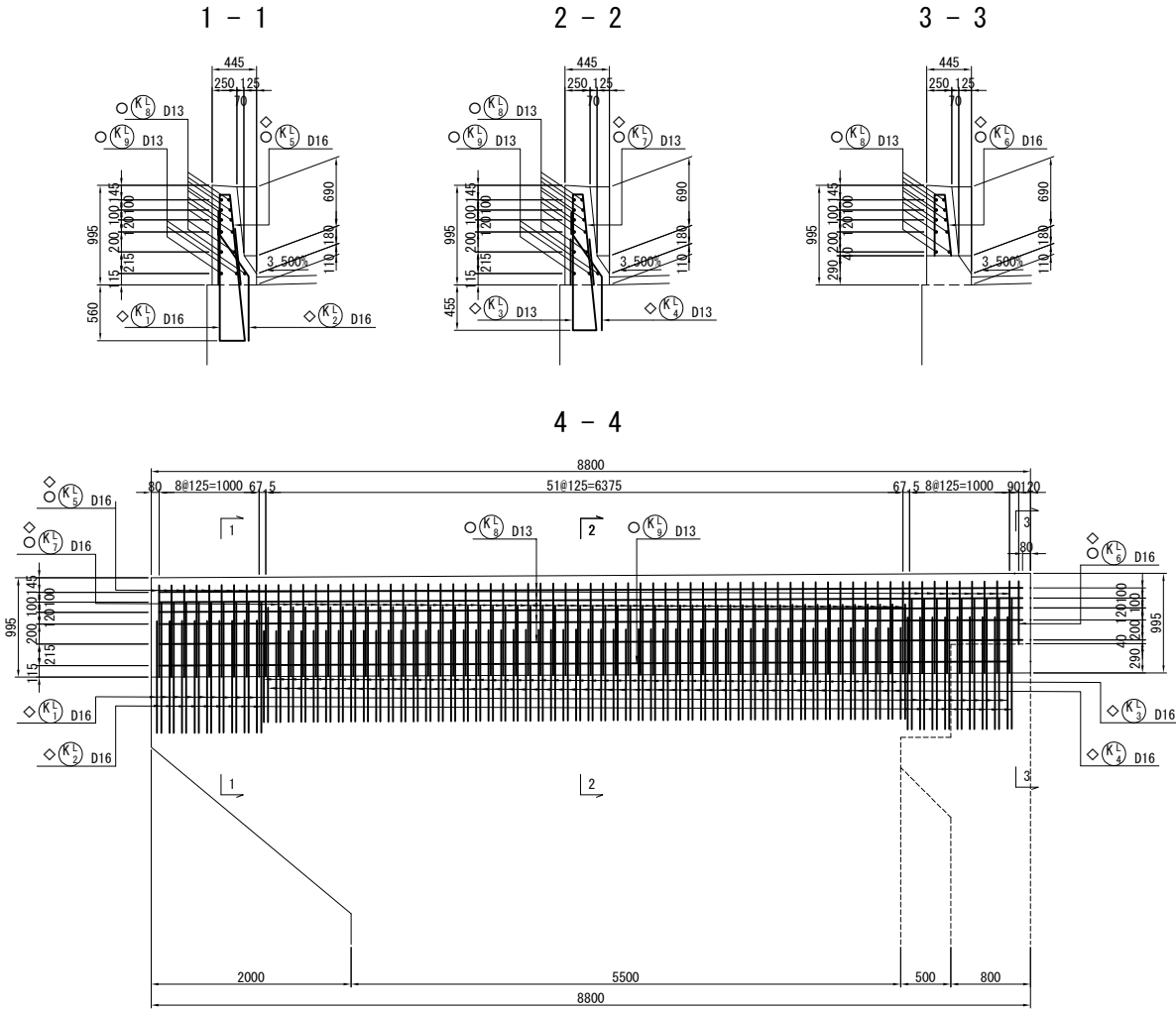
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

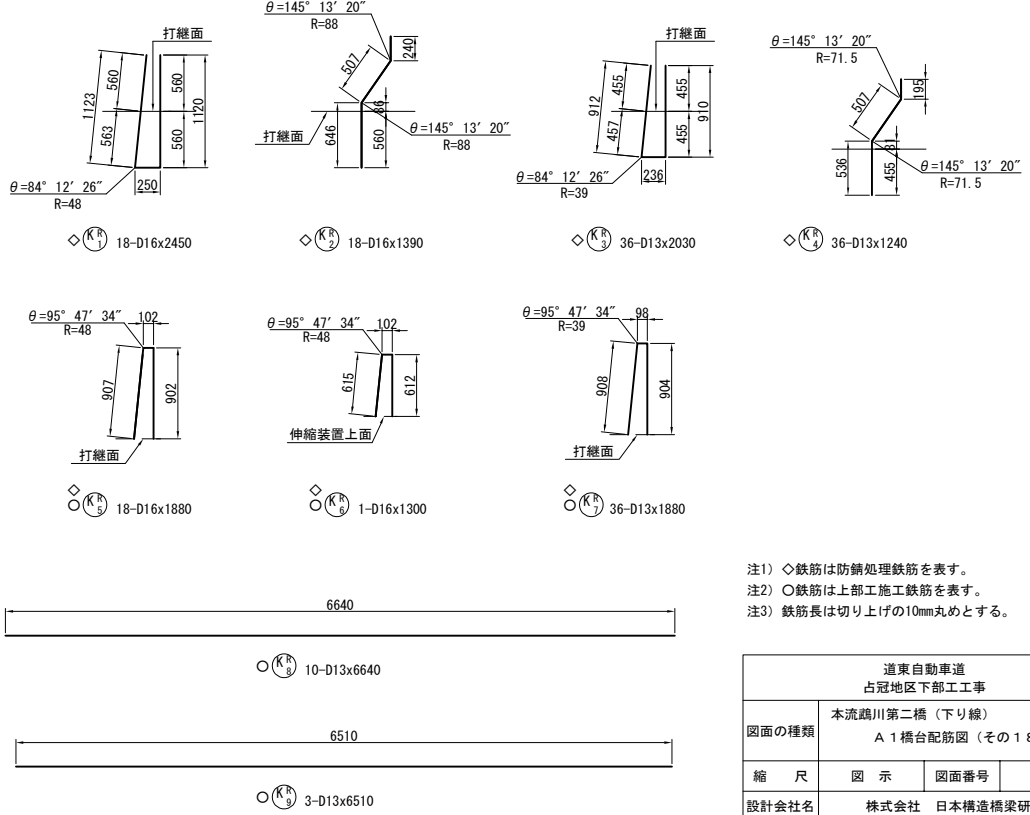
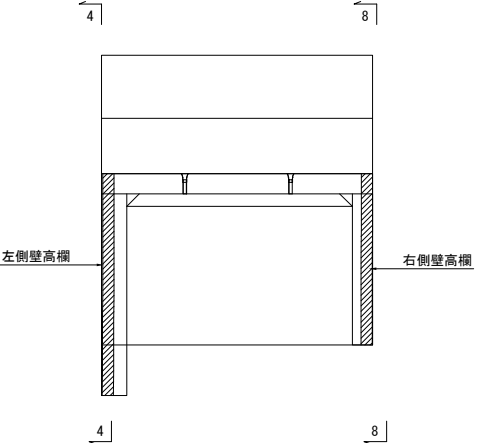
左側壁高欄断面図

右側壁高欄断面図

かぶり詳細図 S=1:50



位置図



注1) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注2) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。  
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表（下部工施工）

	種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
◇	P 1	D29	4700	62	5.04	23.7	1469	└─ 平均長
	2	D29	4380	36	5.04	22.1	796	└─ 平均長
	3	D32	4500	12	6.23	28.0	336	└─
	4	D19	5270	23	2.25	11.9	274	└─
	5	D35	3000	12	7.51	22.5	270	└─
	6	D32	3000	11	6.23	18.7	206	└─
	7	D35	4500	11	7.51	33.8	372	└─
	8	D19	10800	12	2.25	24.3	292	└─
	9	D16	10600	1	1.56	16.5	17	└─
	10-1	D19	890	28	2.25	2.00	56	C└─ (28)
	10-2	D19	870	46	2.25	1.96	90	C└─ (46)
	10-3	D19	890	36	2.25	2.00	72	C└─ (36)
	11	D16	970	36	1.56	1.51	54	└─
	12	D16	10600	1	1.56	16.5	17	└─
◇	13	D16	3650	1	1.56	5.69	6	└─
	14	D16	3670	1	1.56	5.73	6	└─
	4333 kg							
	A 1-1	D41	8000	32	10.5	84.0	2688	K└─ [32]
	1-2	D41	9500	32	10.5	99.8	3194	K└─ [32]
	1-3	D41	4360	32	10.5	45.8	1466	K└─ 平均長
	1-4	D41	2860	32	10.5	30.0	960	K└─ 平均長
	2-1	D41	8000	18	10.5	84.0	1512	K└─ [18]
	2-2	D41	9500	18	10.5	99.8	1796	K└─ [18]
	2-3	D41	4350	18	10.5	45.7	823	K└─ 平均長
	2-4	D41	2860	18	10.5	30.0	540	K└─ 平均長
	3	D25	11290	65	3.98	44.9	2919	└─
	4	D25	6370	1	3.98	25.4	25	└─
	5	D25	1810	1	3.98	7.20	7	└─
◇	6	D25	11300	1	3.98	45.0	45	└─
	7	D25	11290	65	3.98	44.9	2919	└─
	8	D25	6370	1	3.98	25.4	25	└─
	9	D25	11300	1	3.98	45.0	45	└─
	10	D25	1810	1	3.98	7.20	7	└─
	11-1	D16	8000	5	1.56	12.5	63	└─
	11-2	D16	4860	5	1.56	7.58	38	└─
	11-3	D16	6500	4	1.56	10.1	40	└─
	11-4	D16	6360	4	1.56	9.92	40	└─
	12-1	D16	8000	5	1.56	12.5	63	└─
	12-2	D16	5200	5	1.56	8.11	41	└─
	12-3	D16	6500	4	1.56	10.1	40	└─
	12-4	D16	6700	4	1.56	10.5	42	└─
	13	D25	3150	176	3.98	12.5	2200	C└─ (176)
◇	14	D25	3160	11	3.98	12.6	139	C└─ (11)
	21677 kg							
	H 1	D16	2770	20	1.56	4.32	86	└─
	2	D16	2770	20	1.56	4.32	86	└─
	3	D16	3120	8	1.56	4.87	39	└─
	211 kg							
	F 1	D35	9200	71	7.51	69.1	4906	└─
	2	D25	3610	36	3.98	14.4	518	└─
	3	D35	9100	36	7.51	68.3	2459	└─
	4	D32	9220	71	6.23	57.4	4075	└─
	5	D25	7470	71	3.98	29.7	2109	└─
	6	D22	10590	40	3.04	32.2	1288	└─
	7	D16	10590	10	1.56	16.5	165	└─
	8	D22	10590	21	3.04	32.2	676	└─
◇	9	D29	10590	24	5.04	53.4	1282	└─
	10	D22	10590	15	3.04	32.2	483	└─
	11	D19	10580	22	2.25	23.8	524	└─
	12	D19	11850	22	2.25	26.7	587	└─
	13	D16	2750	18	1.56	4.29	77	└─
	14	D22	2620	148	3.04	7.96	1178	C└─ (148)
	15	D16	2550	36	1.56	3.98	143	C└─ (36)
	20470 kg							
	E 1	D16	2920	29	1.56	4.56	132	└─
	2	D16	10080	2	1.56	15.7	31	└─
	3	D22	520	12	3.04	1.58	19	└─
	4	D13	1590	12	0.995	1.58	19	└─
	201 kg							
	S 1	D16	3710	36	1.56	5.79	208	└─
◇	2-1	D16	5260	5	1.56	8.21	41	└─
	2-2	D16	7500	5	1.56	11.7	59	└─
	2-3	D16	8570	5	1.56	13.4	67	└─
	2-4	D16	4190	5	1.56	6.54	33	└─
	3	D16	3030	25	1.56	4.73	118	C└─ (25)
	526 kg							
	Y 1	D16	500	16	1.56	0.780	12	└─
	12 kg							

	種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
◇	J 1	D13	1650	68	0.995	1.64	112	└─
	112 kg							
	L 1-1	D38	9500	10	8.95	85.0	850	K└─ [10]
	1-2	D38	11500	10	8.95	103	1030	K└─ [10]
	1-3	D38	6480	10	8.95	58.0	580	K└─ 平均長
	1-4	D38	4480	10	8.95	40.1	401	K└─ 平均長
	2	D38	10010	10	8.95	89.6	896	└─
	3	D19	3760	1	2.25	8.46	8	└─
	4-1	D32	11500	10	6.23	71.6	716	K└─ [10]
	4-2	D32	9500	10	6.23	59.2	592	K└─ [10]
	4-3	D32	4480	10	6.23	27.9	279	K└─ 平均長
	4-4	D32	6480	10	6.23	40.4	404	K└─ 平均長
	5	D19	1440	6	2.25	3.24	19	└─ 平均長
	6	D19	1440	6	2.25	3.24	19	└─ 平均長
◇	7	D19	3760	1	2.25	8.46	8	└─
	8	D32	9240	57	6.23	57.6	3283	└─
	9	D29	9190	33	5.04	46.3	1528	└─
	10	D32	3660	20	6.23	22.8	456	└─
	11	D32	6740	33	6.23	42.0	1386	└─
	12	D32	8440	1	6.23	52.6	53	└─
	13	D32	7490	16	6.23	46.7	747	└─
	14	D32	8770	7	6.23	54.6	382	└─ 平均長
	15	D32	8440	1	6.23	52.6	53	└─
	16	D29	8440	1	5.04	42.5	43	└─
	17	D29	8440	1	5.04	42.5	43	└─
	18	D29	8290	7	5.04	41.8	293	└─ 平均長
	19	D29	7020	5	5.04	35.4	177	└─
	20	D16	1160	27	1.56	1.81	49	└─
◇	21	D16	1190	44	1.56	1.86	82	└─
	22-1	D16	8500	1	1.56	13.3	13	└─
	22-2	D16	6400	1	1.56	9.98	10	└─
	22-3	D16	10000	1	1.56	15.6	16	└─
	22-4	D16	4900	1	1.56	7.64	8	└─
	23	D16	1200	1	1.56	1.87	2	└─
	24	D13	1170	76	0.995	1.16	88	└─
	25	D16	3790	2	1.56	5.91	12	└─
	26	D16	8440	2	1.56	13.2	26	└─
	27	D16	1210	1	1.56	1.89	2	└─
	28	D32	6440	2	6.23	40.1	80	└─
	29-1	D16	10000	1	1.56	15.6	16	└─
	29-2	D16	4040	1	1.56	6.30	6	└─
	29-3	D16	9000	1	1.56	14.0	14	└─
◇	29-4	D16	5040	1	1.56	7.86	8	└─
	30	D22	1130	75	3.04	3.44	258	C└─ (75)
	14936							
	R 1-1	D38	9000	10	8.95	80.6	806	K└─ [10]
	1-2	D38	11000	10	8.95	98.5	985	K└─ [10]
	1-3	D38	7300	10	8.95	65.3	653	K└─ 平均長
	1-4	D38	5300	10	8.95	47.4	474	K└─ 平均長
	2	D38	10010	10	8.95	89.6	896	└─
	3	D35	9280	58	7.51	69.7	4043	└─
	4-1	D32	11000	10	6.23	68.5	685	K└─ [10]
	4-2	D32	9000	10	6.23	56.1	561	K└─ [10]
	4-3	D32	5300	10	6.23	33.0	330	K└─ 平均長
	4-4	D32	7300	10	6.23	45.5	455	K└─ 平均長
	5	D29	9190	34	5.04	46.3	1574	└─
◇	6	D35	6440	1	7.51	48.4	48	└─
	7	D35	6440	2	7.51	48.4	97	└─
	8	D35	7490	25	7.51	56.2	1405	└─
	9	D29	6440	1	5.04	32.5	33	└─
	10	D29	6440	1	5.04	32.5	33	└─
	11	D29	7020	12	5.04	35.4	425	└─
	12	D35	3460	19	7.51	26.0	494	└─
	13	D35	6540	34	7.51	49.1	1669	└─
	14	D16	960	20	1.56	1.50	30	└─
	15	D16	1000	45	1.56	1.56	70	└─
	16	D16	1010	1	1.56	1.58	2	└─
	17	D16	1010	1	1.56	1.58	2	└─
	18	D13	980	72	0.995	0.975	70	└─
	19	D19	890	150	2.25	2.00	300	C└─ (150)
◇	20-1	D16	12000	1	1.56	18.7	19	└─
	20-2	D16	4040	1	1.56	6.30	6	└─
	21-1	D16	10000	1	1.56	15.6	16	└─
	21-2	D16	4350	1	1.56	6.79	7	└─
	21-3	D16	9000	1	1.56	14.0	14	└─
	21-4	D16	5350	1	1.56	8.35	8	└─
	22	D16	6440	1	1.56	10.0	10	└─
	16220							

鉄筋表（下部工施工）

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
下部工施工鉄筋質量							
エポキシ樹脂塗装鉄筋							
SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	(機械継手)〔機械式定着〕		
D41					kg		
D38					kg		
D35	8398				8398 kg		
D32	6982				6982 kg		
D29	4149				4149 kg		
D25	5992		2339		8331 kg		(187)
D22	379		258		637 kg		(75)
D19	566		518		1084 kg		(260)
D16	1107		118		1225 kg		(25)
D13	572				572 kg		
合 計	28145		3233		31378 kg		(547)
下部工施工鉄筋総質量							
総合計							
SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	(機械継手)〔機械式定着〕		
D41		12979		12979 kg	〔100〕		
D38	1792	5779		7571 kg	〔40〕		
D35	15763			15763 kg			
D32	11057	4022		15079 kg	〔40〕		
D29	7696			7696 kg			
D25	8619		2339	10958 kg	(187)		
D22	2826		1436	4262 kg	(223)		
D19	1731		518	2249 kg	(260)		
D16	2557		261	2818 kg	(61)		
D13	591			591 kg			
合 計	52632	22780	4554	79966 kg	〔180〕 (731)		

機械式鉄筋定着工法数量表（箇所数）-下部工施工（普通鉄筋）

鉄筋径	0<L≦1m	1m<L≦2m	2m<L≦3m	3m<L≦4m	4m<L≦5m	5m<L≦6m	6m<L≦7m	7m<L≦8m	8m<L≦9m	9m<L≦10m
D13										
D16			36							
D19										
D22			148							
D25										
小計			184							
合計										184

機械式鉄筋定着工法数量表（箇所数）-下部工施工（エポキシ樹脂塗装鉄筋）

鉄筋径	0<L≦1m	1m<L≦2m	2m<L≦3m	3m<L≦4m	4m<L≦5m	5m<L≦6m	6m<L≦7m	7m<L≦8m	8m<L≦9m	9m<L≦10m
D13										
D16				25						
D19	260									
D22		75								
D25				187						
小計	260	75		212						
合計										547

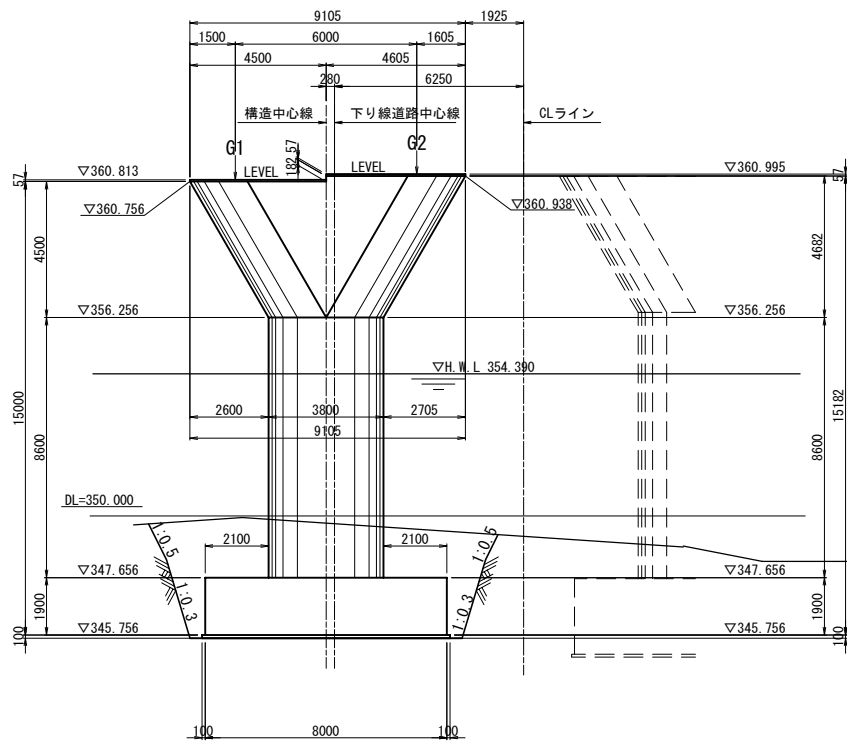
鉄筋加工寸法表 (SD345)

<div><div><div>主 筋 せん断補強筋</div></div><div><div>鋭角フック</div></div><div><div>半円形フック</div></div><div><div>直角フック</div></div></div> <div>△L=2L-a</div>											
主 筋	径	θ≦90° R=3.0φ	θ>90° R=5.5φ	θ=45°		θ=60°		θ=90°		θ=135°	
				a	△L	a	△L	a	△L	a	△L
	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
せん 断 補 強 筋 及 び 帯 鉄 筋	径	R=2.5φ		θ=45°		θ=60°		θ=90°			
				a	△L	a	△L	a	△L		
	D13	32.5		77	80	68	45	51	14		
	D16	40		94	99	84	55	63	17		
	D19	47.5		112	117	99	66	75	20		
	D22	55		130	136	115	76	86	24		
	D25	62.5		147	155	131	86	98	27		
フ ッ ク	D29	72.5		171	179	152	99	114	31		
	径	R=3.0φ		鋭角フック		半円形フック		直角フック			
				a		a		a		△L	
	D13	39		92		123		61		17	
	D16	48		113		151		75		21	
	D19	57		134		179		89		25	
	D22	66		156		207		104		28	
フ ッ ク	D25	75		177		236		118		32	
	D29	87		205		273		137		37	

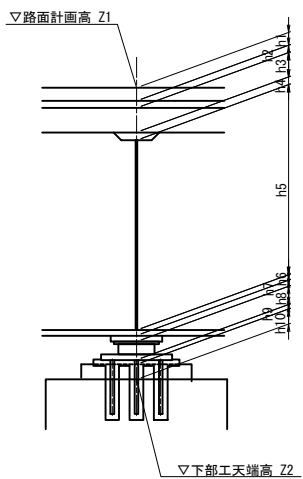
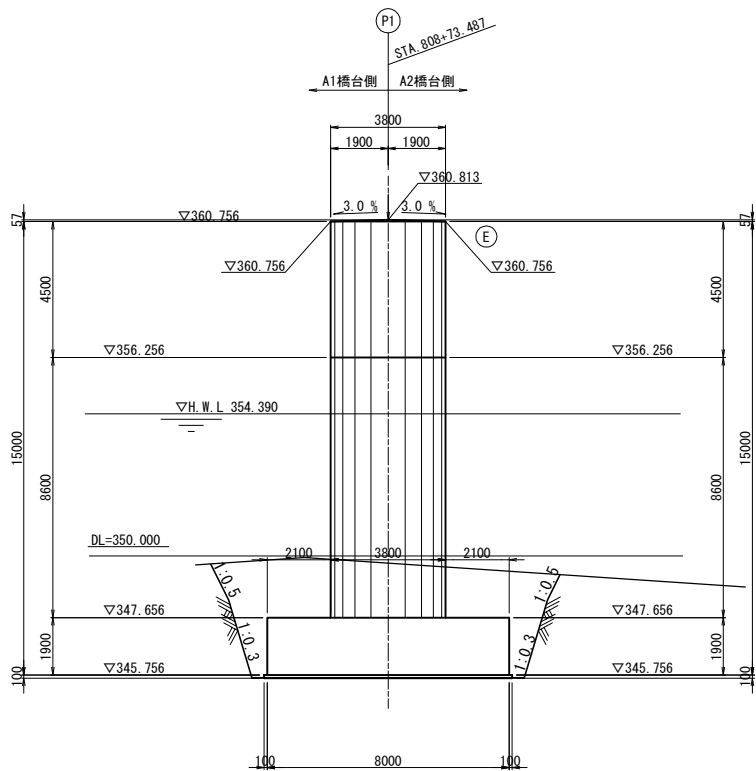
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
- 注7) ( )内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。
- 注8) [ ]内は機械継手箇所数を示す。
- 注9) —Kは機械継手を表わす。
- 注10) Cは機械式鉄筋定着工法を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第二橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 2 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

正面図 (1-1)



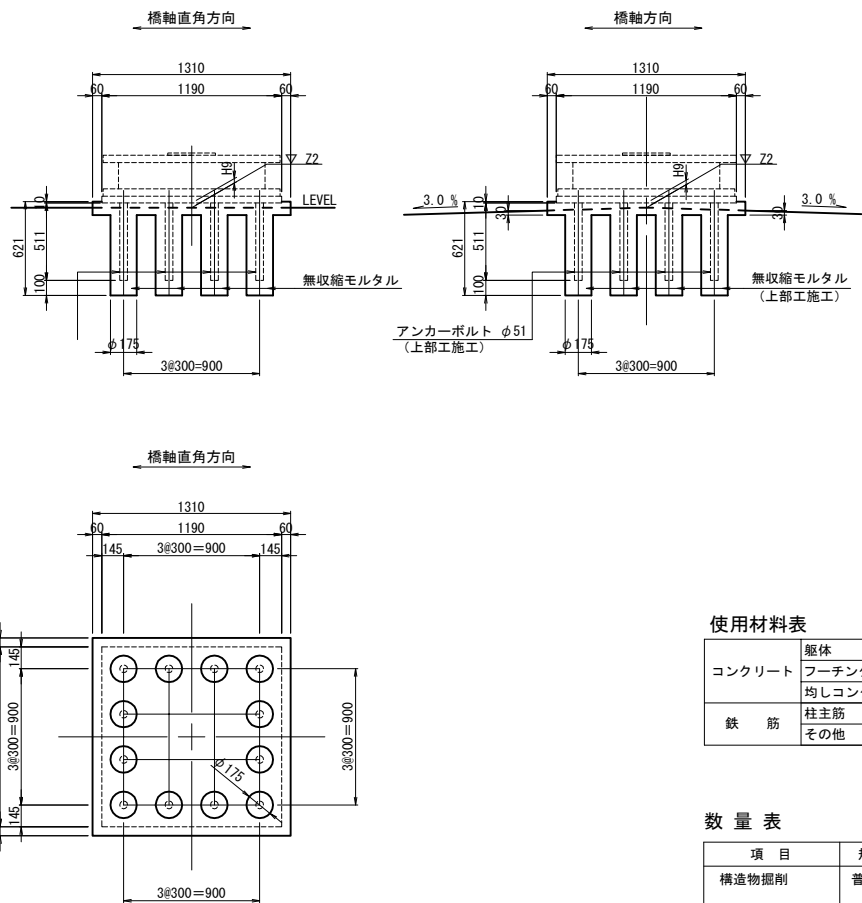
断面図 (2-2)



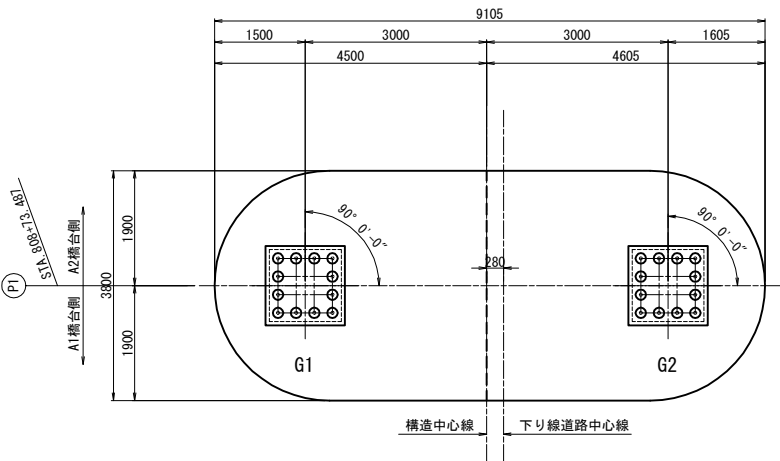
構造高表

		P1橋脚	
		G1	G2
路面計画高	Z1	364.449	364.644
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.004	0.016
床版厚	h3	0.320	0.320
ハンチ高	h4	0.100	0.100
主桁高	h5	2.700	2.700
下フランジ厚	h6	0.042	0.043
ソールプレート厚	h7	0.043	0.043
支承高	h8	0.317	0.317
管座モルタル厚	h9	0.030	0.030
台座	h10	—	—
構造高合計	Σh	3.636	3.649
下部工天端高	Z2	360.813	360.995

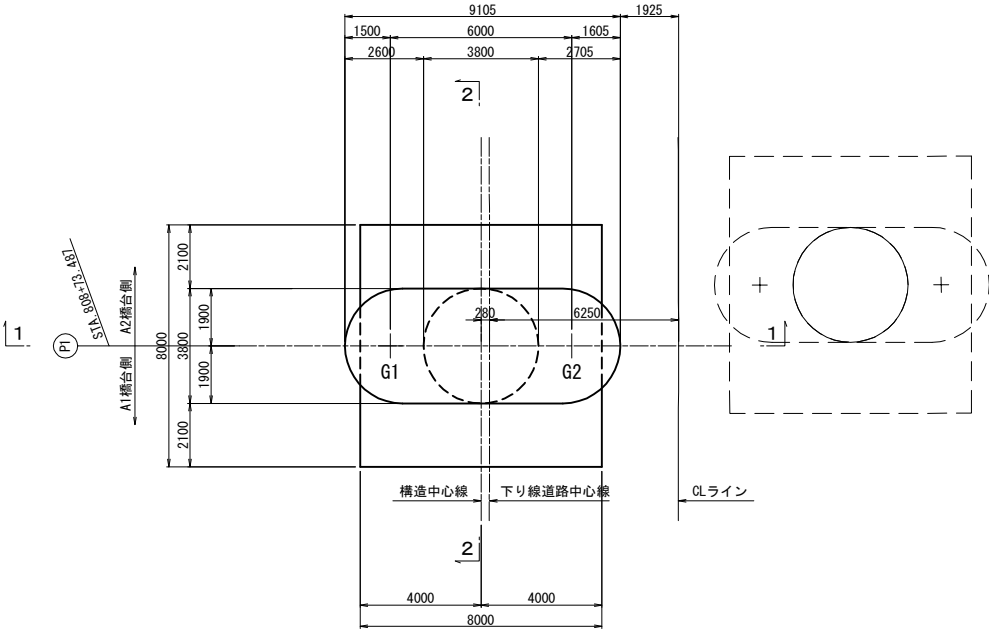
支承部詳細図 S=1:75



支承配置図 S=1:125



平面図



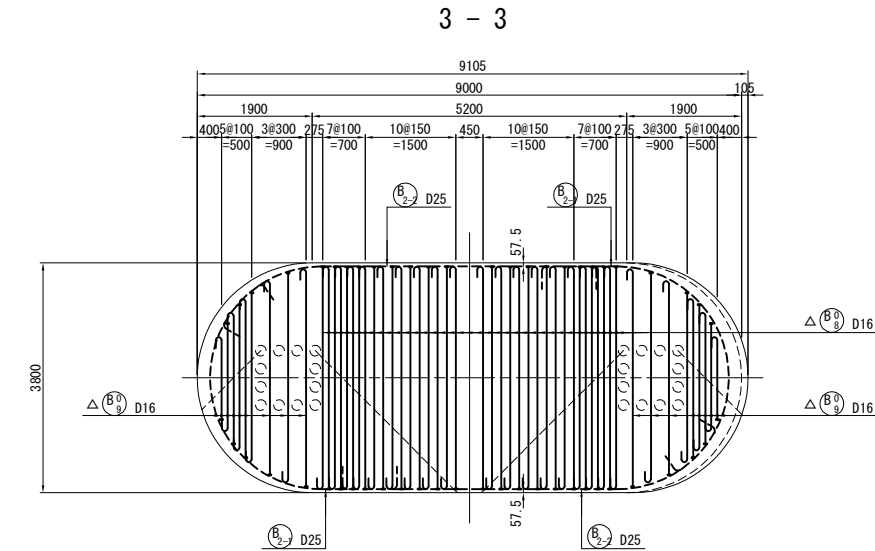
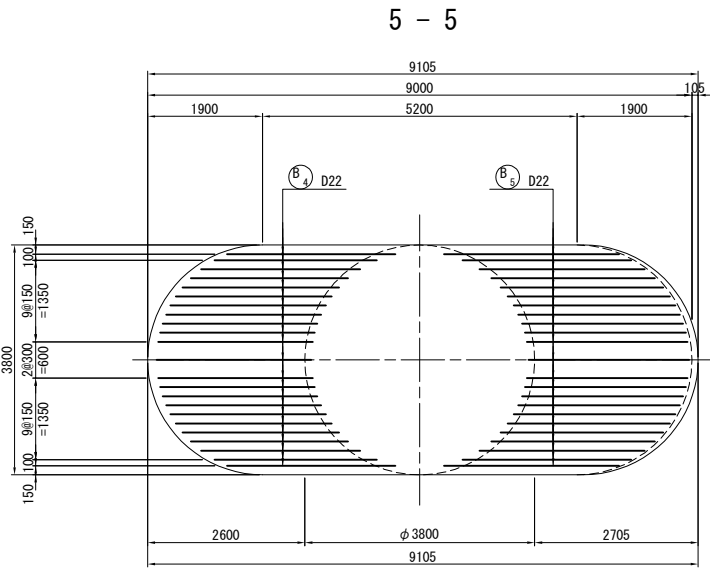
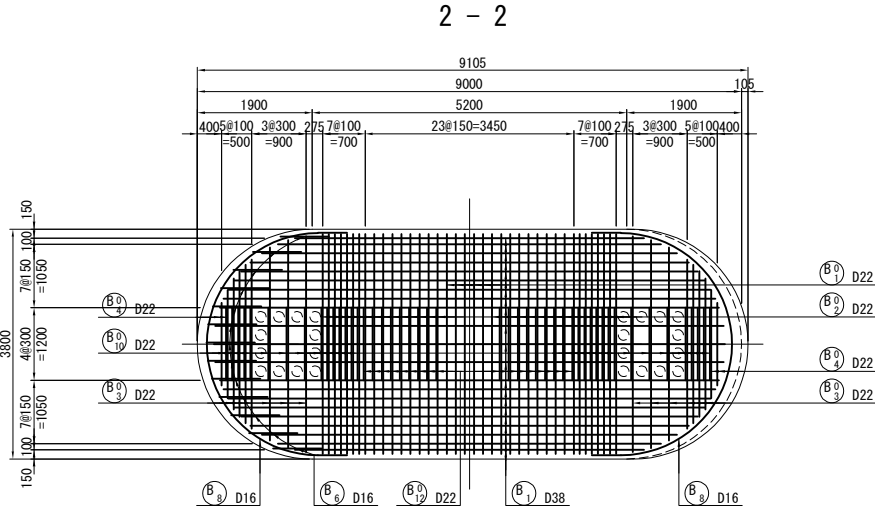
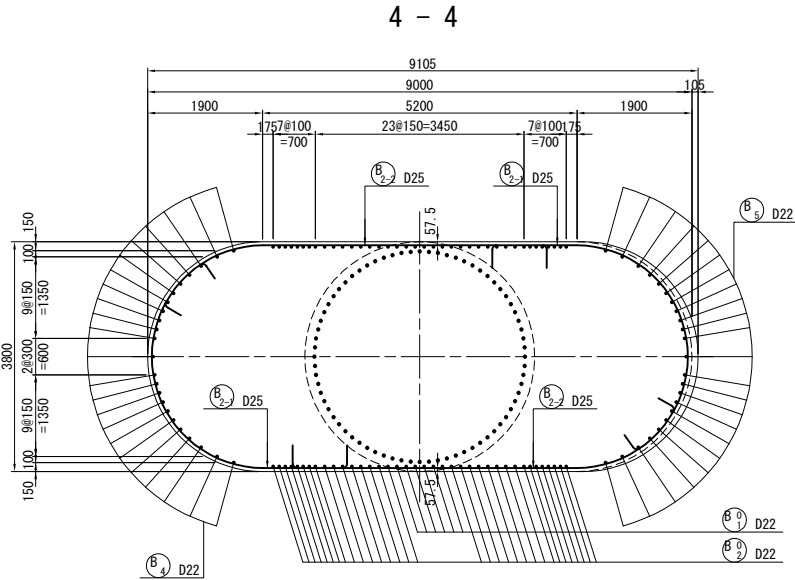
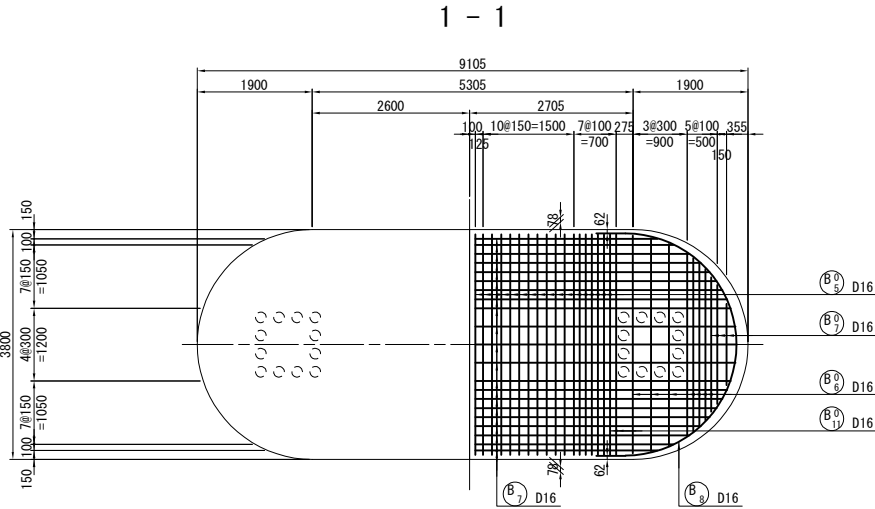
使用材料表

コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N}/\text{mm}^2$
	フーチング	$\sigma_{ck}=24\text{N}/\text{mm}^2$
	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N}/\text{mm}^2$
鉄筋	柱主筋	SD490
	その他	SD345

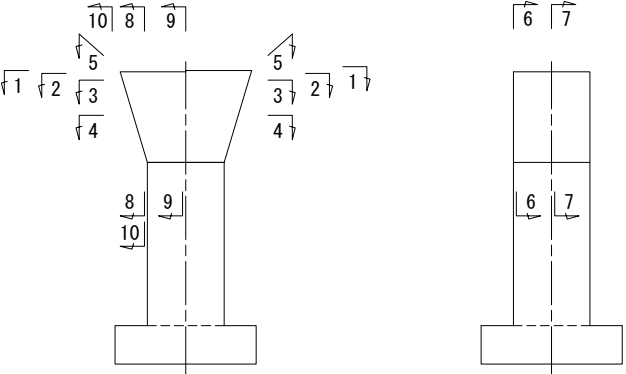
数量表


項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
構造物掘削	普通部	m3	370.7	土砂
		m3	247.6	軟岩

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） P 1 橋脚構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

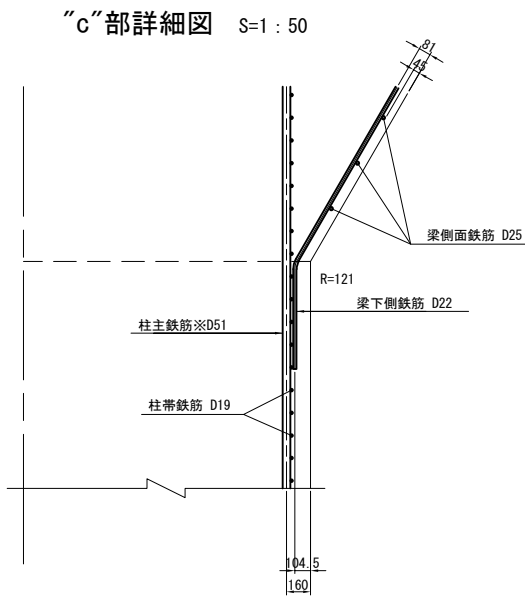
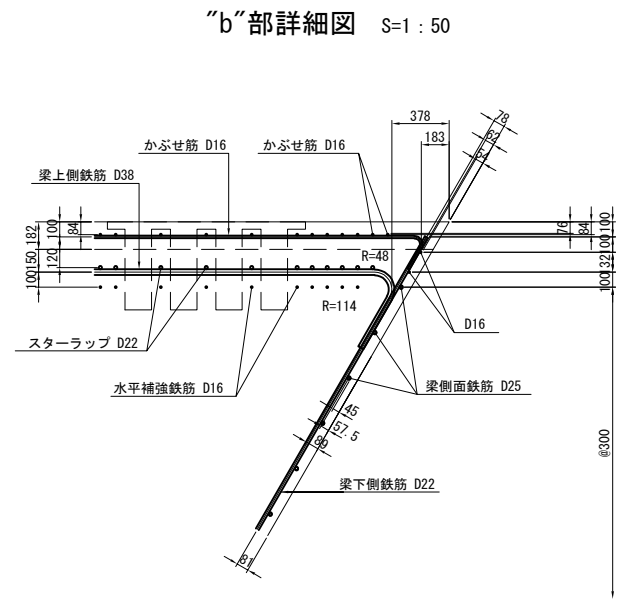
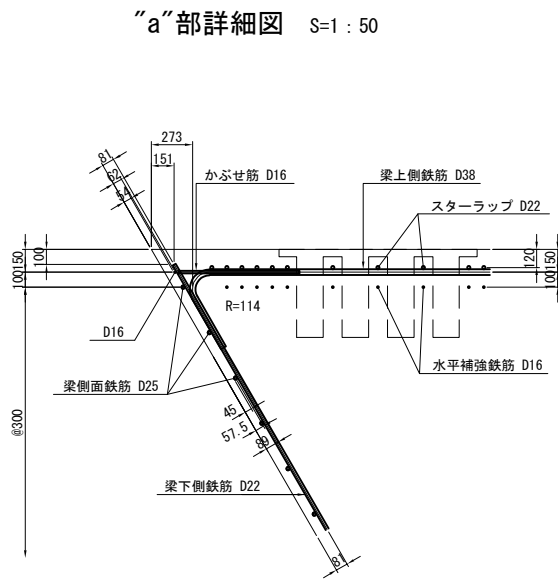
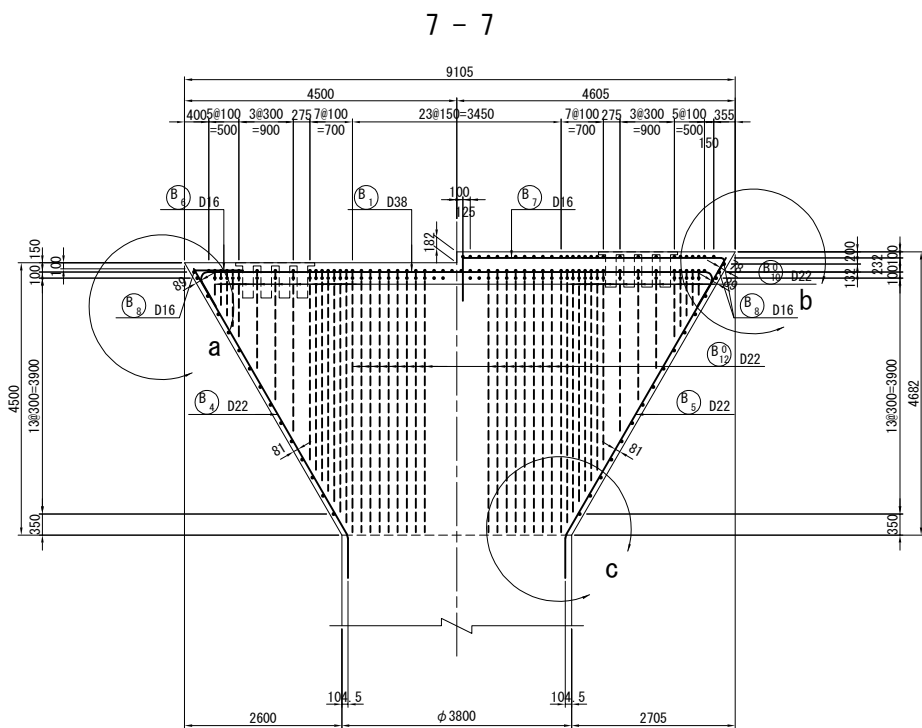
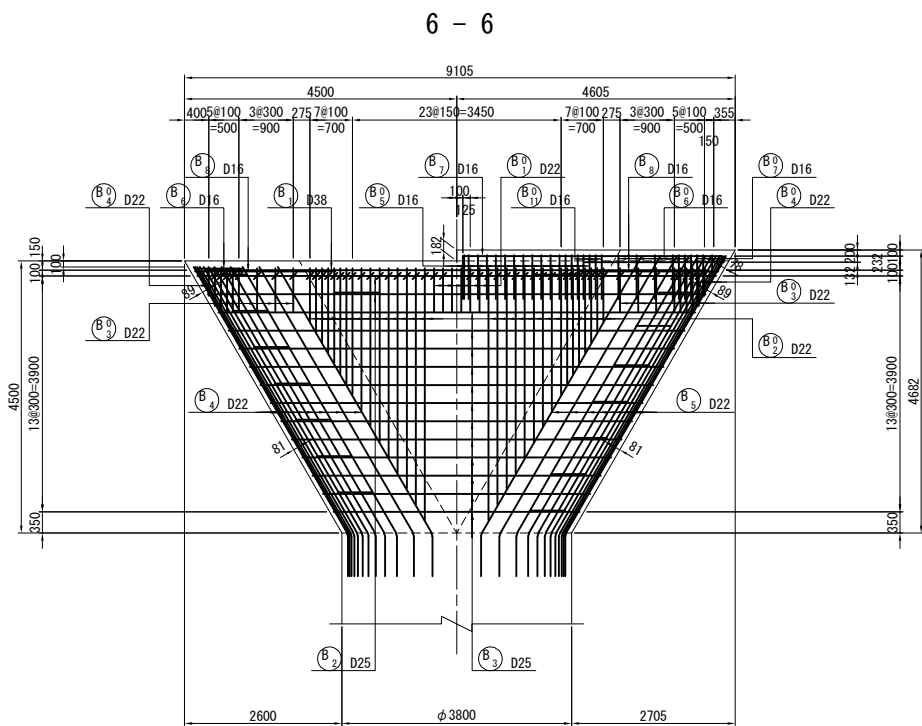


位置図

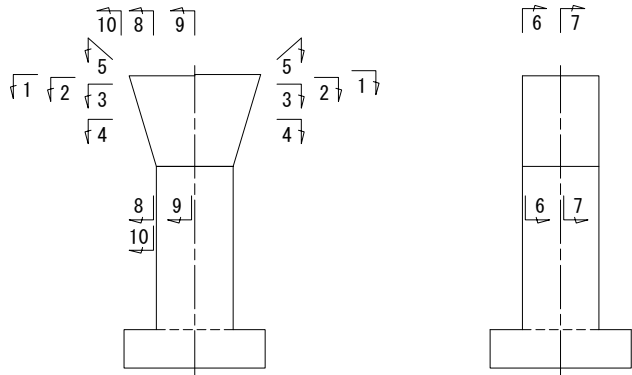


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。  
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注5)  は、機械継手位置を示す。  
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。  
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

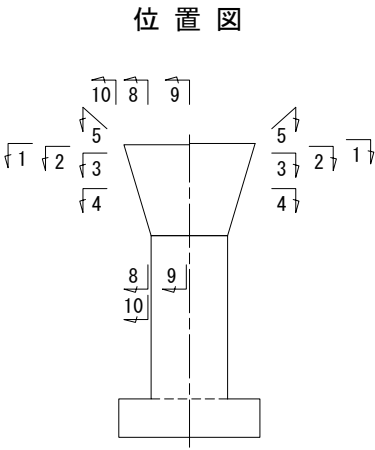
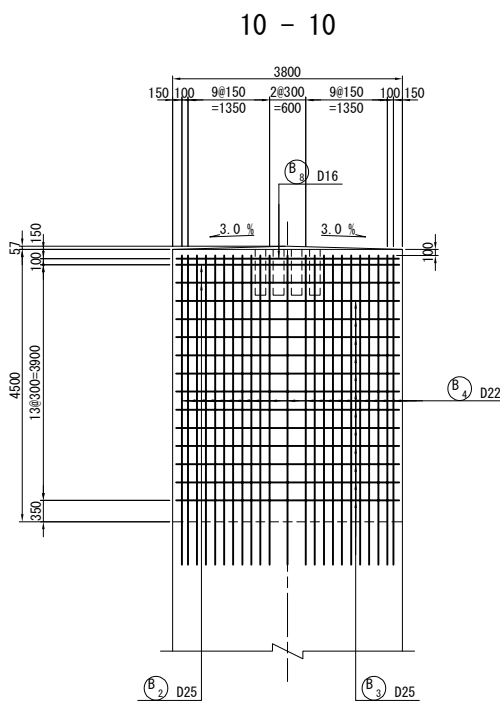
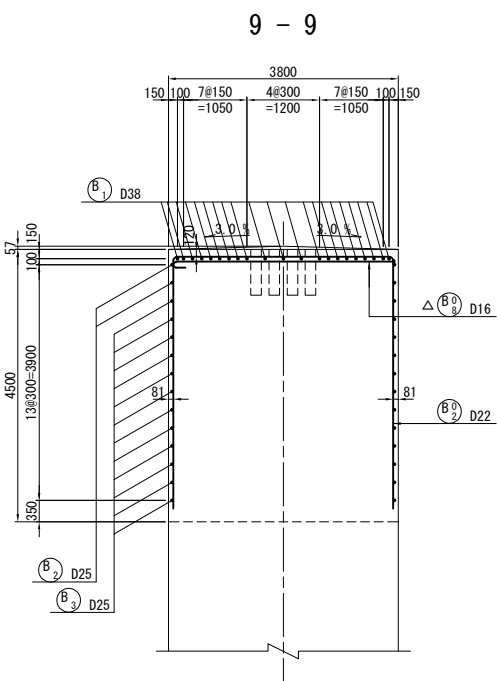
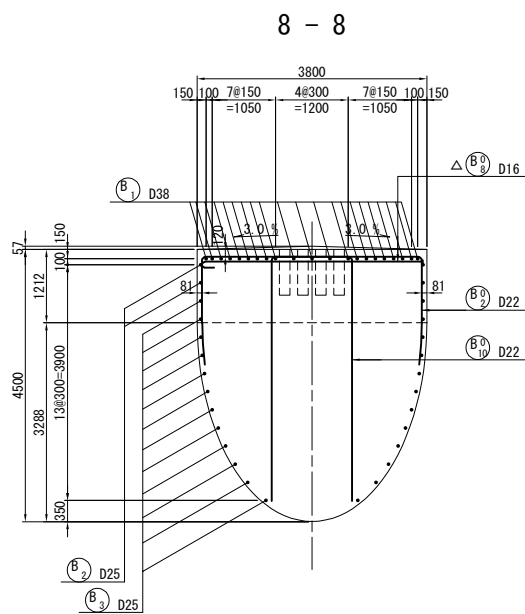


位置図

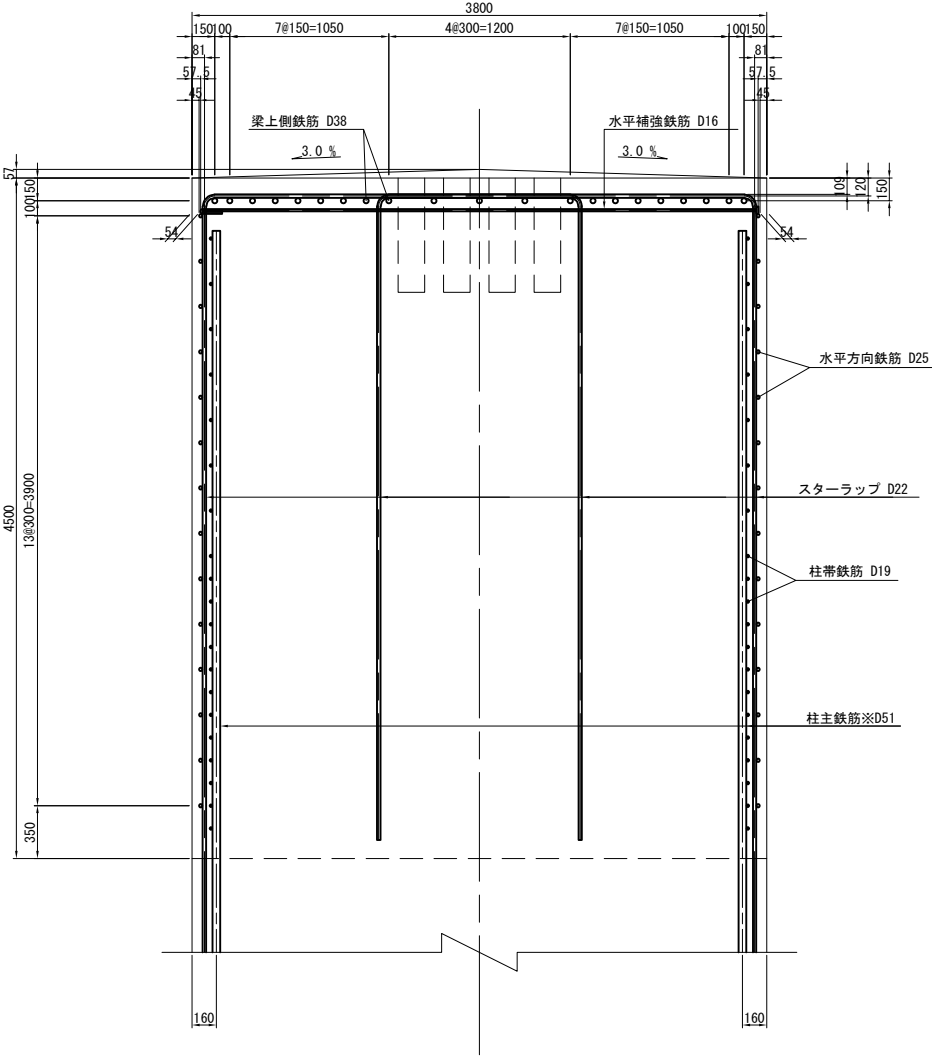


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
- 注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
- 注5)  $\frac{K}{\text{---}}$  は、機械継手位置を示す。
- 注6) ※印はSD490鉄筋を示す。
- 注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

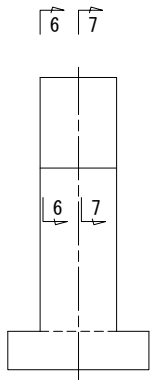
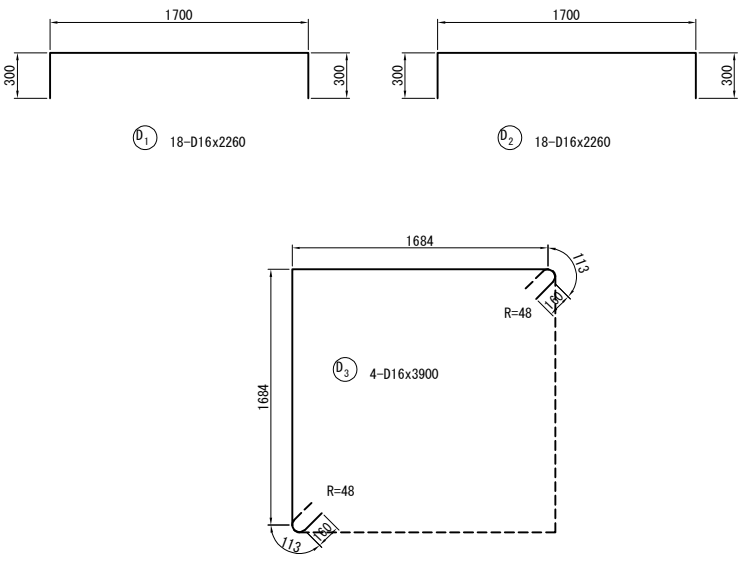
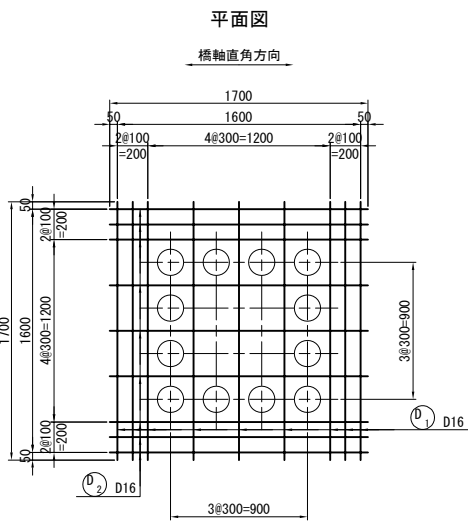
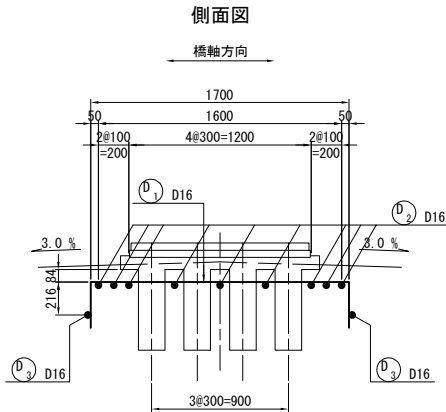
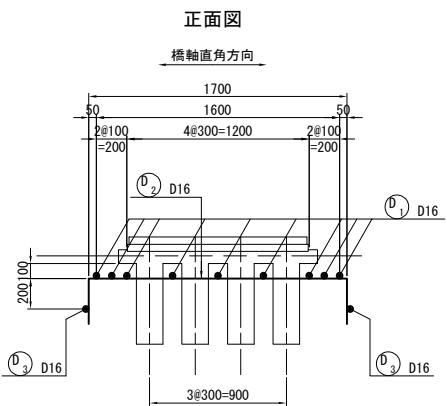
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



かぶり詳細図 S=1 : 50



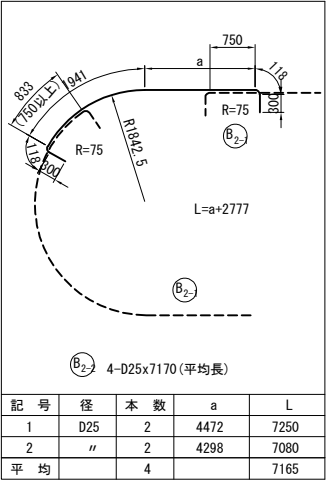
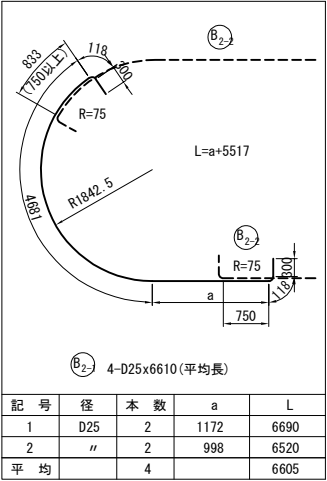
支承部補強鉄筋 S=1 : 50  
2箇所



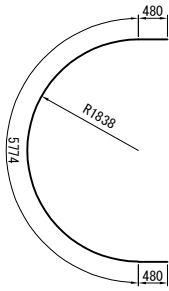
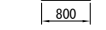
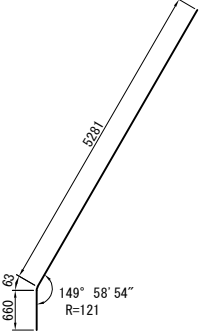
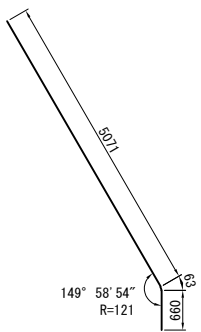
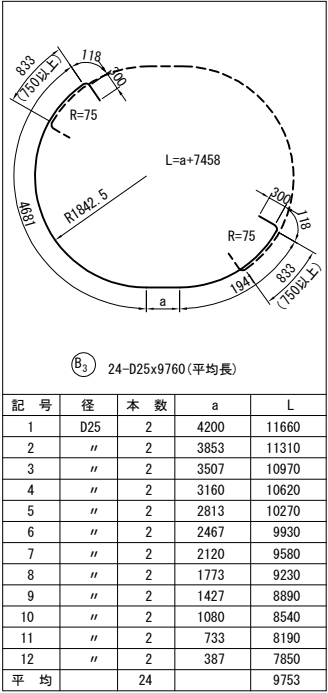
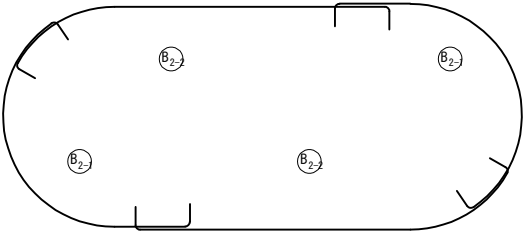
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。  
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注5) は、機械継手位置を示す。  
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。  
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



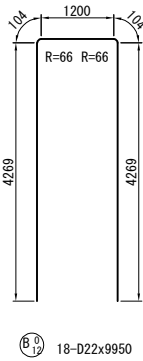
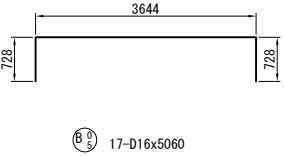
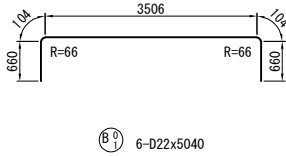
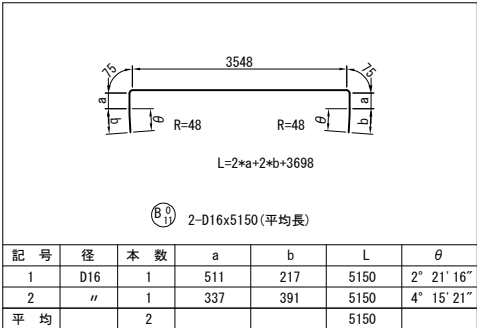
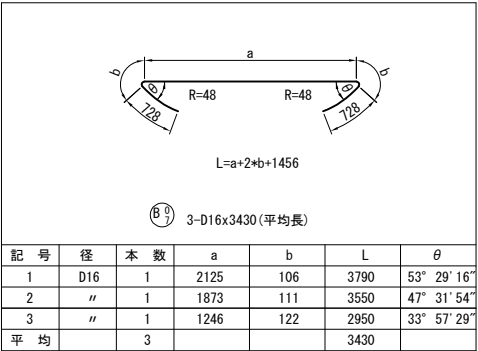
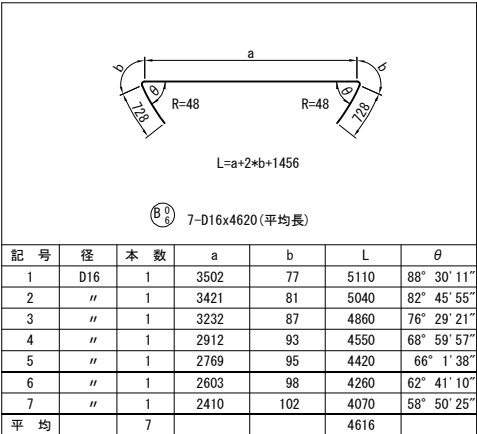
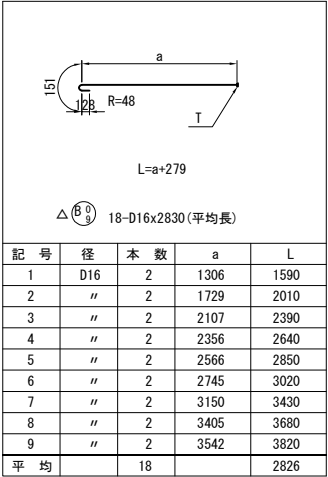
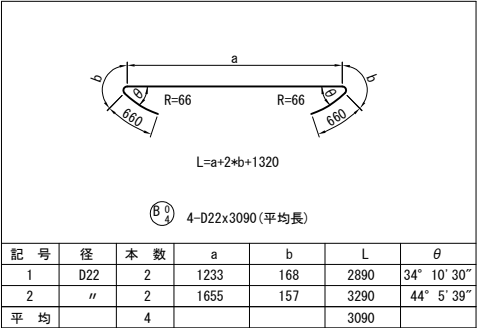
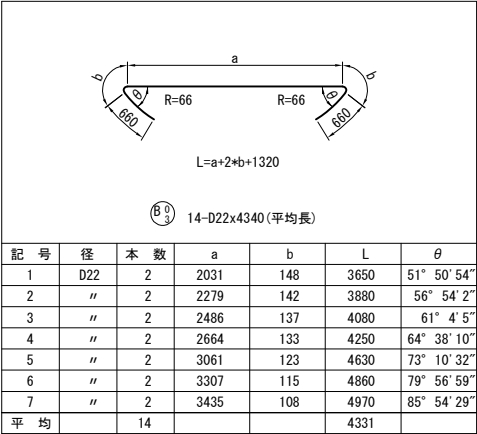


組合わせ図



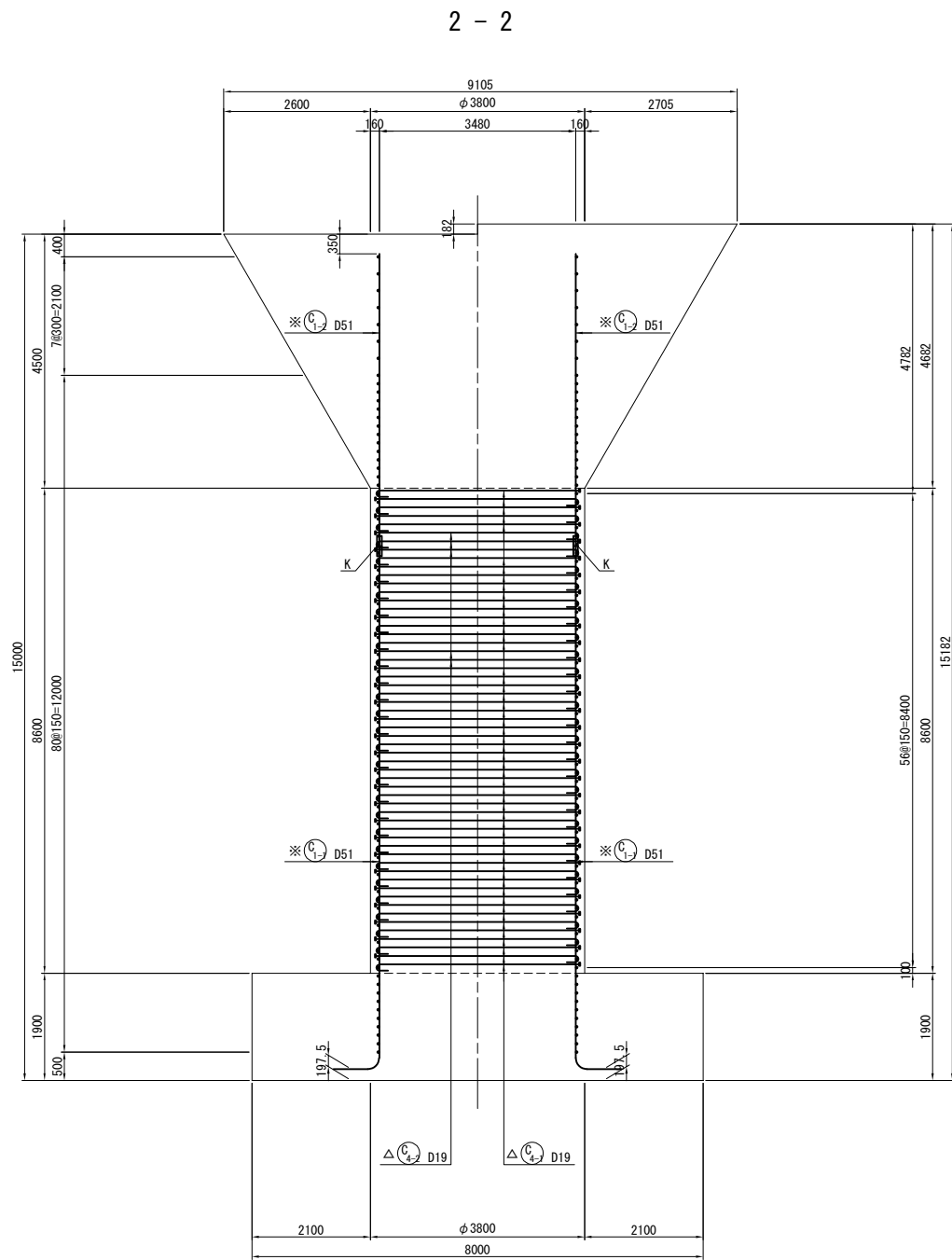
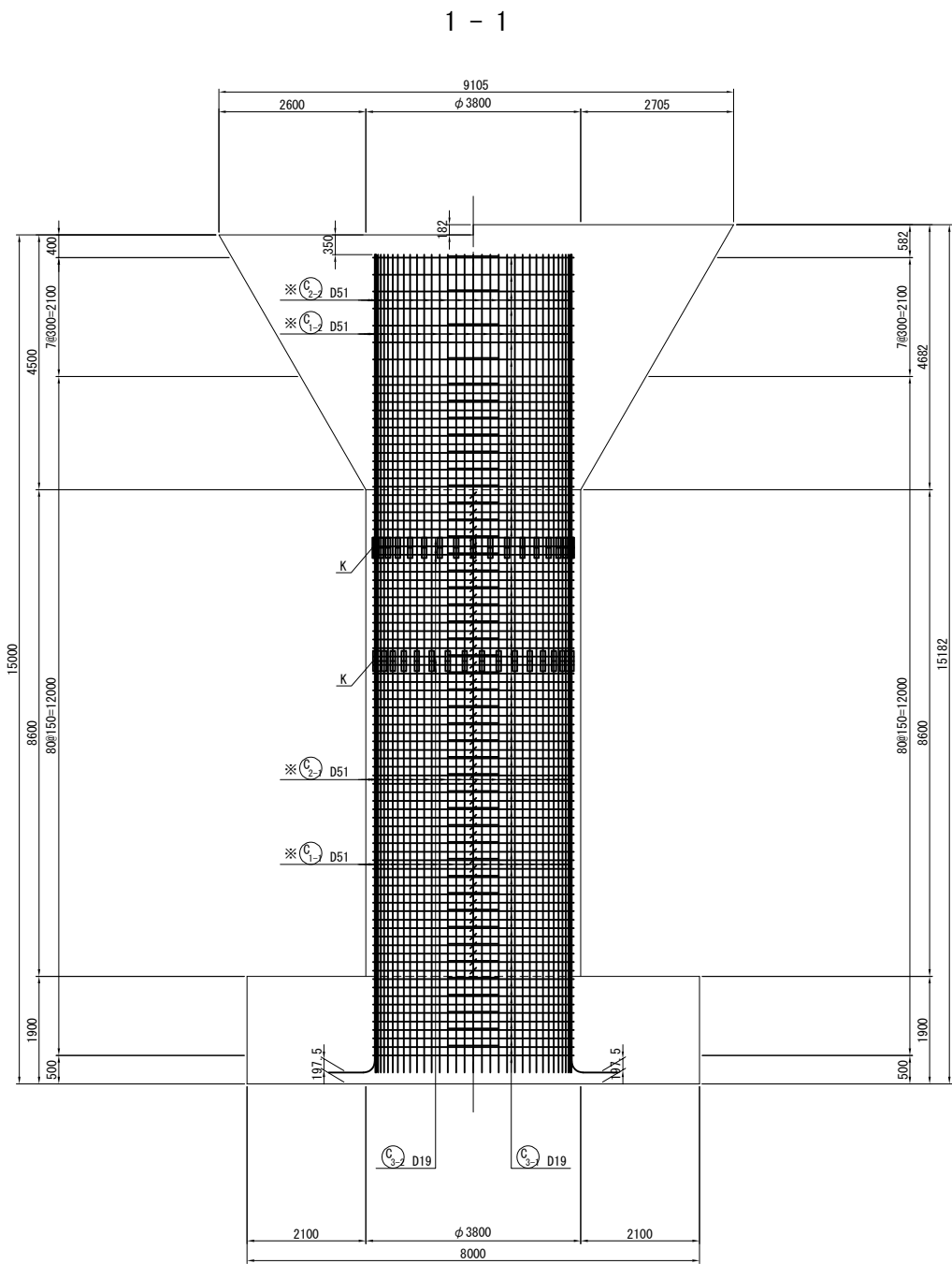
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。  
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注5)  は、機械継手位置を示す。  
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。  
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

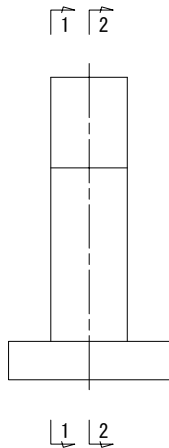



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。  
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注5) は、機械継手位置を示す。  
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。  
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

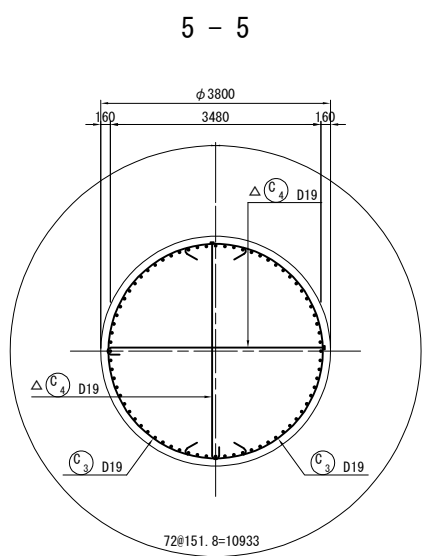
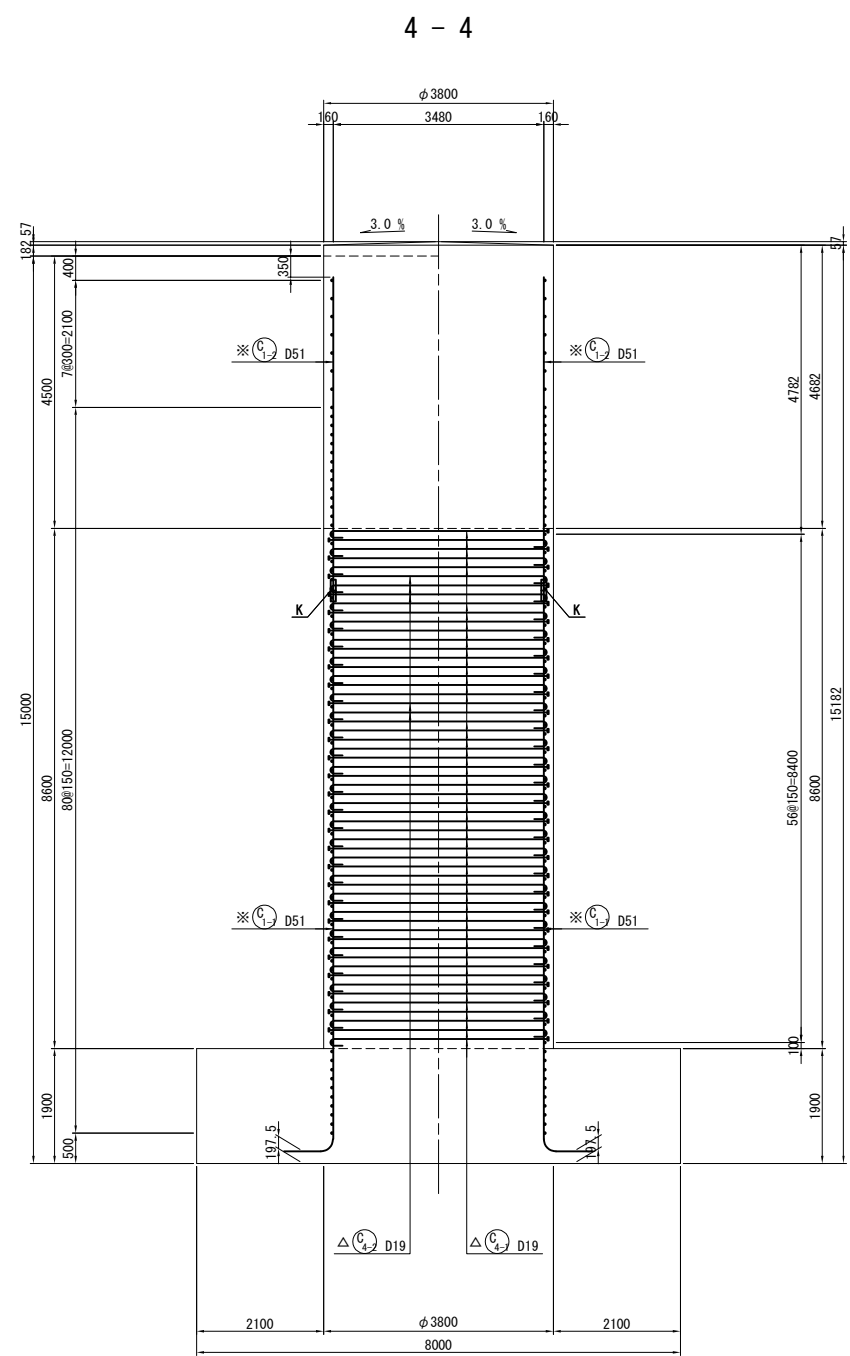
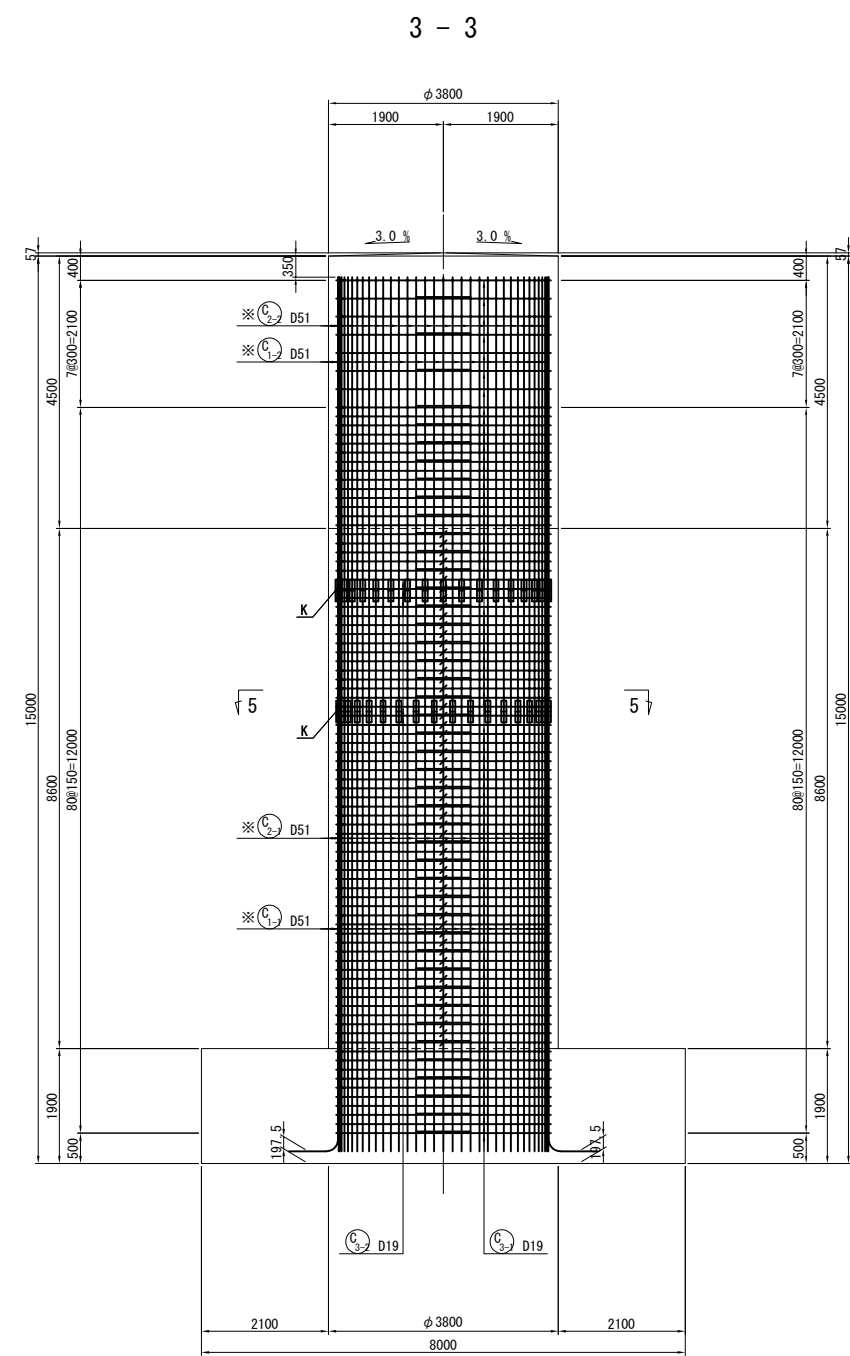


位置図

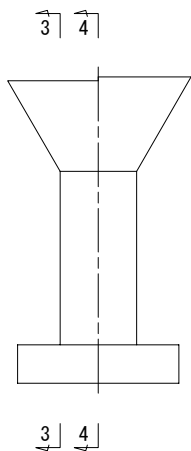



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。  
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注5)  は、機械継手位置を示す。  
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。  
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

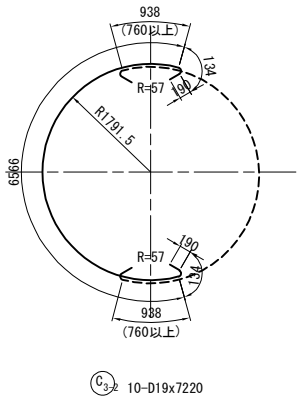
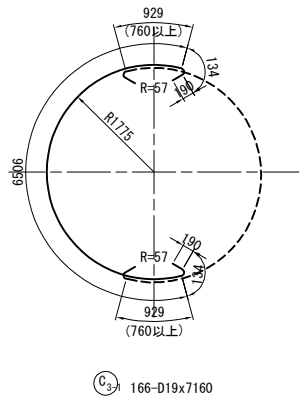
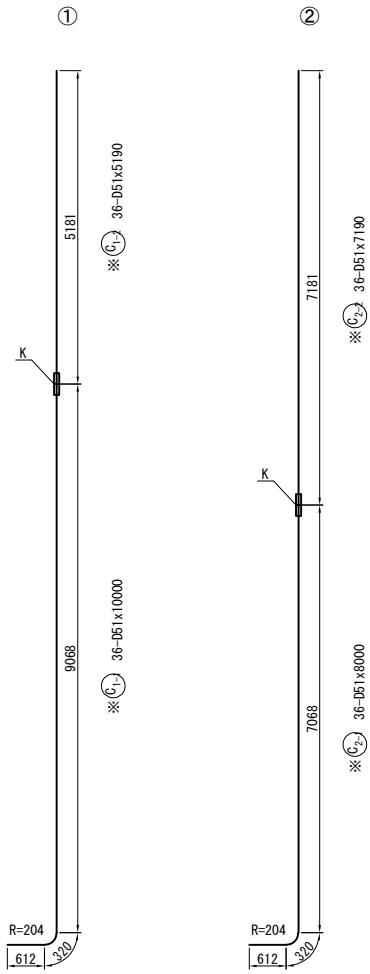


位置図

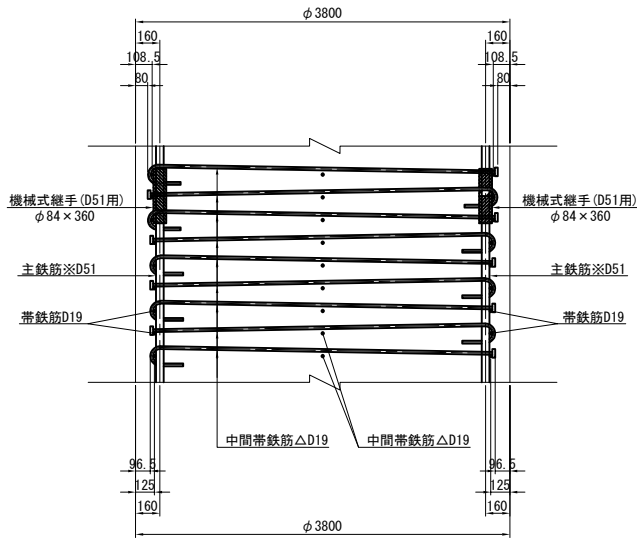


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。  
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注5)  は、機械継手位置を示す。  
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。  
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

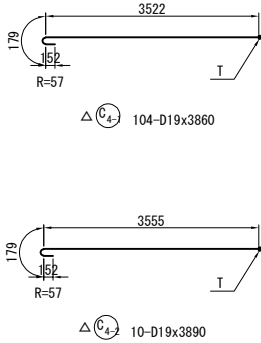
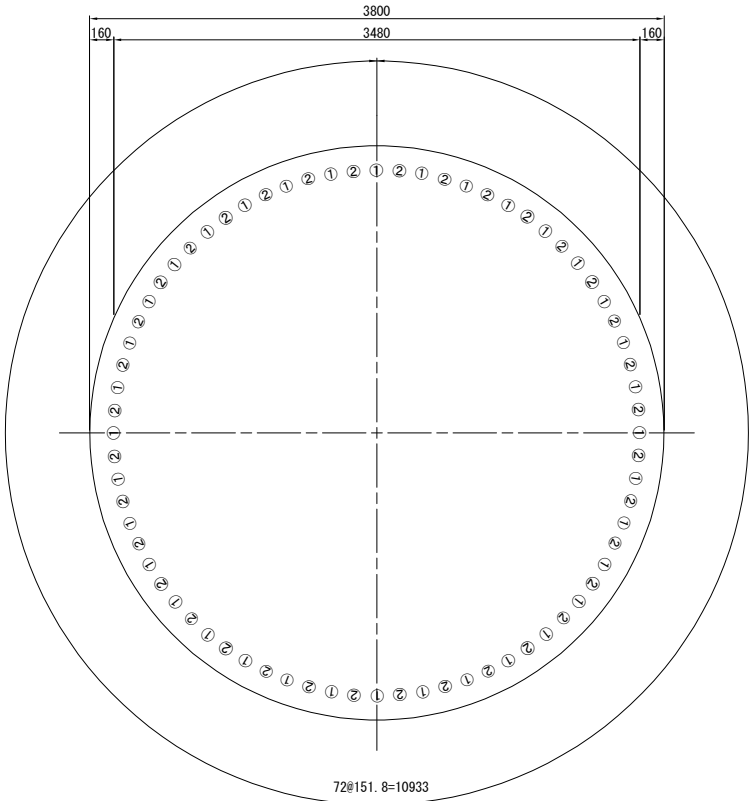
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



かぶり詳細図 S=1：50

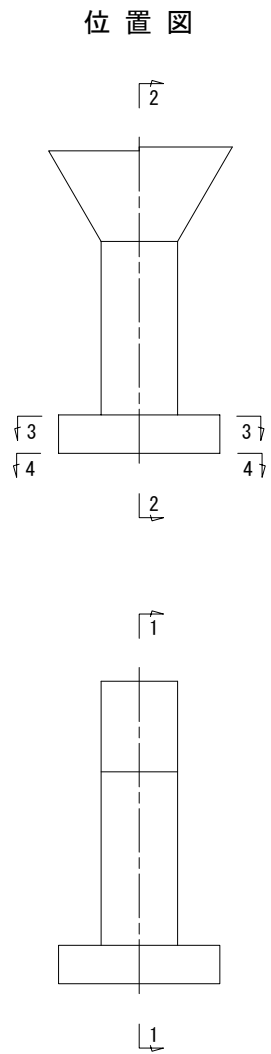
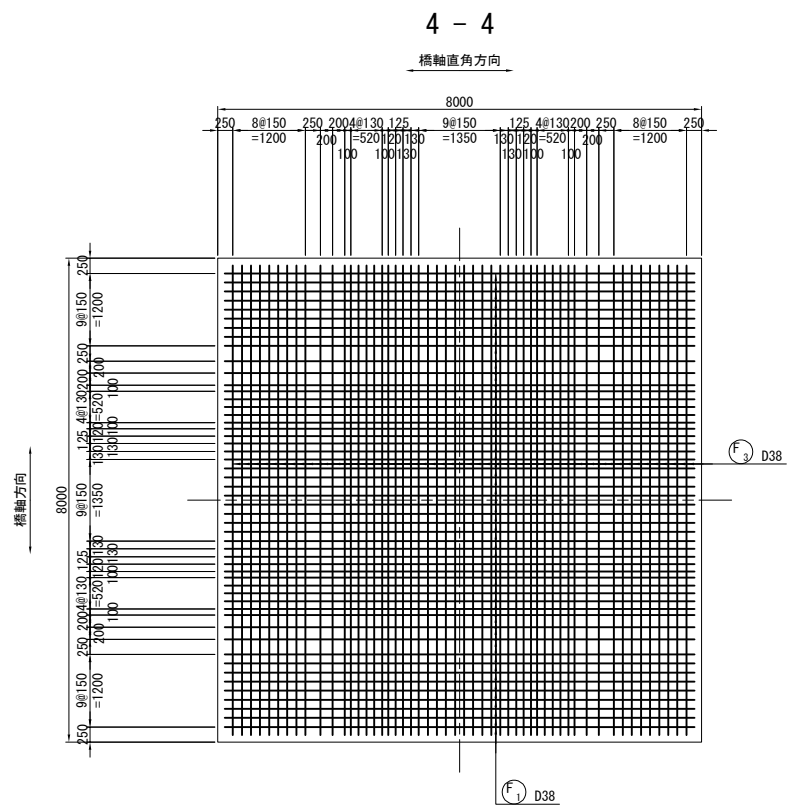
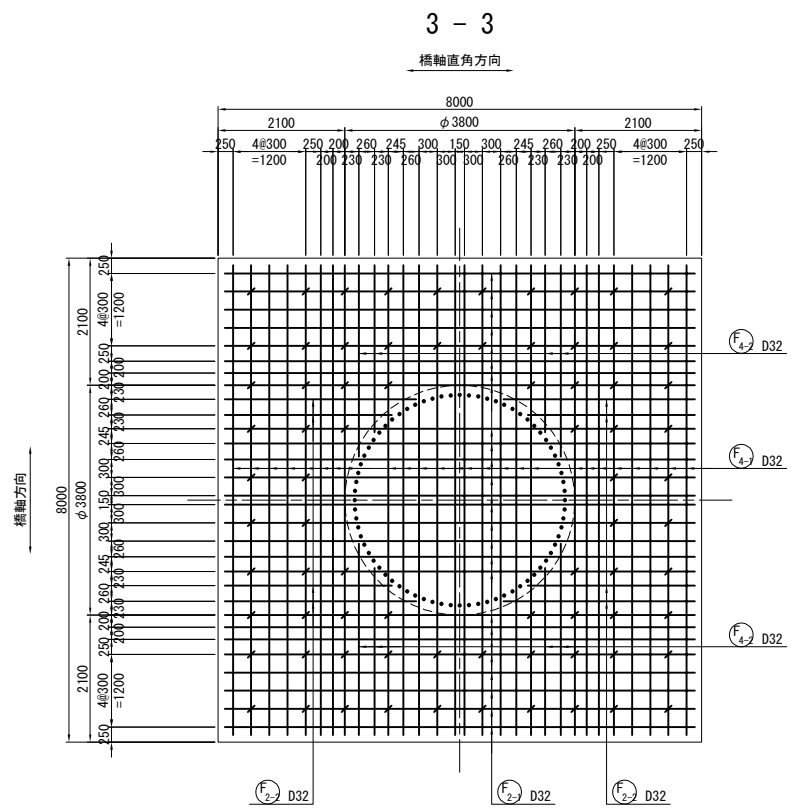
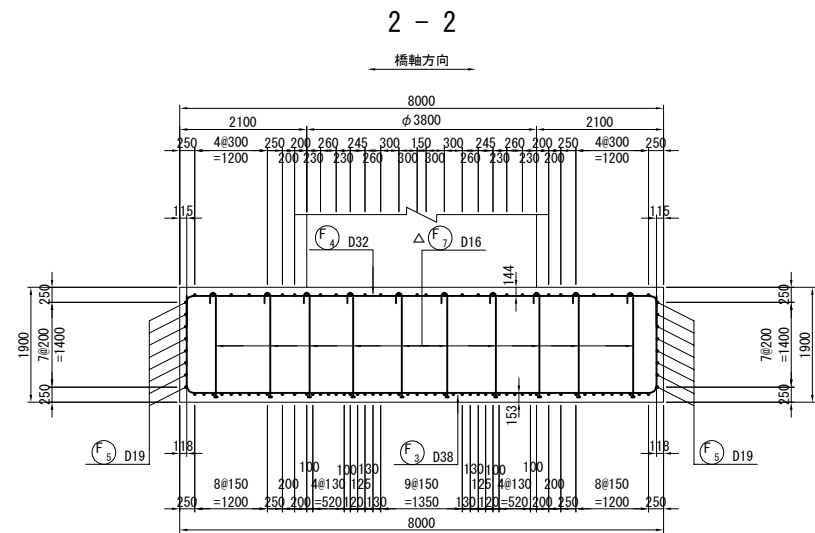
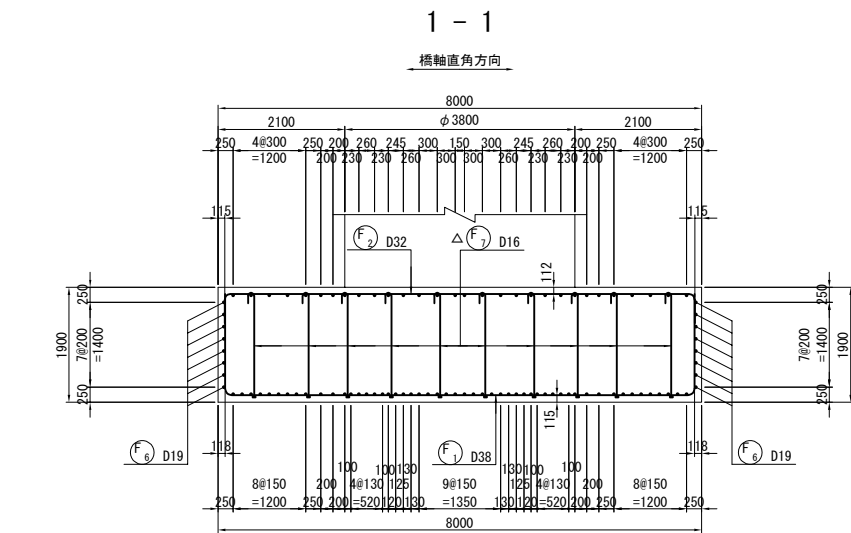



主鉄筋配置詳細図 S=1：50



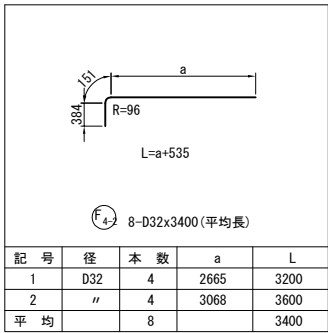
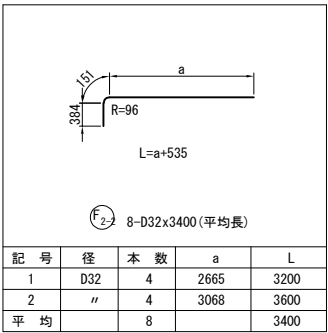
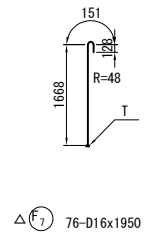
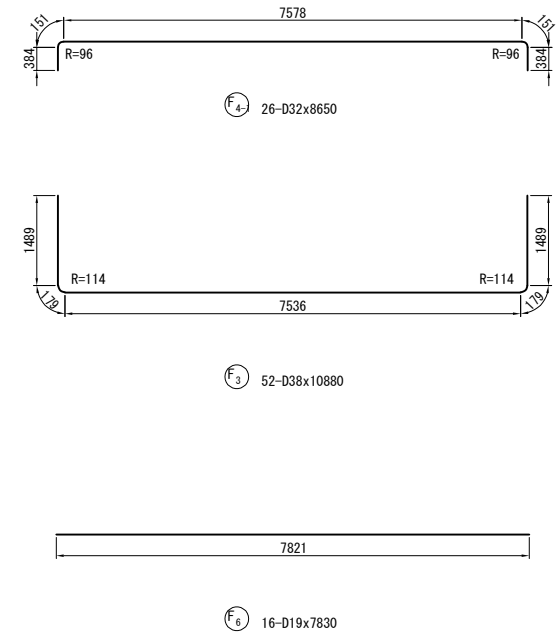
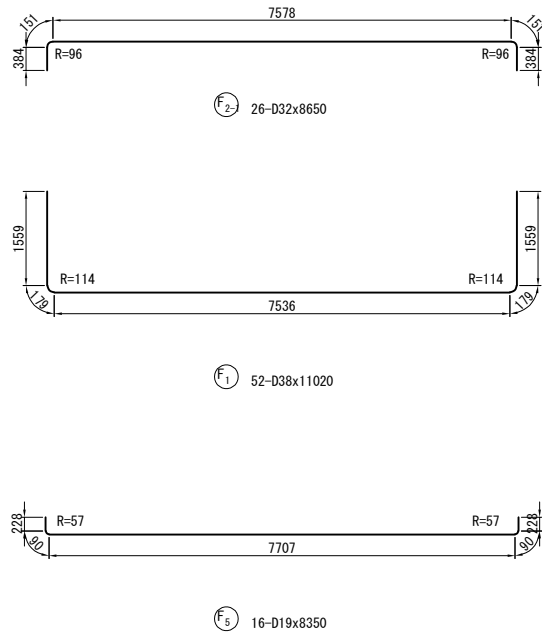
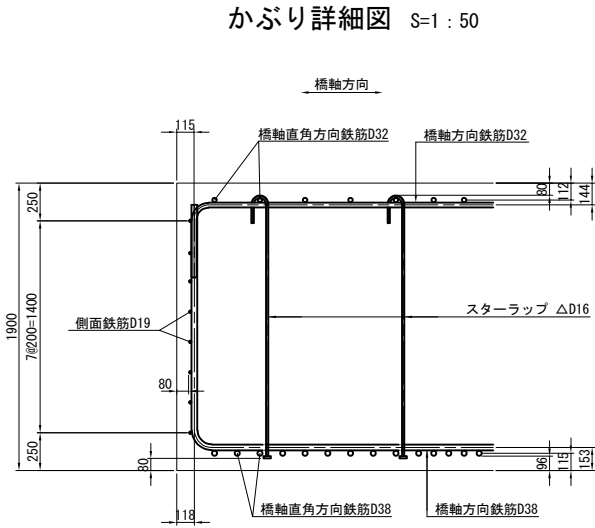
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。  
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注5) △印は、機械継手位置を示す。  
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。  
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路標示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。  
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注5)  は、機械継手位置を示す。  
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。  
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。  
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注5)  は、機械継手位置を示す。  
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。  
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第二橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 1 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
下部工施工鉄筋							
B 1	D38	8650	21	8.95	77.4	1625	平均長
B2-1	D25	6610	4	3.98	26.3	105	平均長
B2-2	D25	7170	4	3.98	28.5	114	平均長
B 3	D25	9760	24	3.98	38.8	931	平均長
B 4	D22	5800	23	3.04	17.6	405	
B 5	D22	6010	23	3.04	18.3	421	
B 6	D16	800	13	1.56	1.25	16	
B 7	D16	4780	21	1.56	7.46	157	平均長
B 8	D16	6740	3	1.56	10.5	32	
B * 1	D22	5040	6	3.04	15.3	92	
B * 2	D22	8330	32	3.04	25.3	810	平均長
B * 3	D22	4340	14	3.04	13.2	185	平均長
B * 4	D22	3090	4	3.04	9.39	38	平均長
B * 5	D16	5060	17	1.56	7.89	134	
B * 6	D16	4620	7	1.56	7.21	50	平均長
B * 7	D16	3430	3	1.56	5.35	16	平均長
B * 8	D16	3900	36	1.56	6.08	219	C (36)
B * 9	D16	2830	18	1.56	4.41	79	C (18) 平均長
B * 10	D22	6040	30	3.04	18.4	552	平均長
B * 11	D16	5150	2	1.56	8.03	16	平均長
B * 12	D22	9950	18	3.04	30.2	544	
						6541	kg
D 1	D16	2260	18	1.56	3.53	64	
D 2	D16	2260	18	1.56	3.53	64	
D 3	D16	3900	4	1.56	6.08	24	
						152	kg
※	C1-1	D51	10000	36	15.9	159	5724 K [36]
※	C1-2	D51	5190	36	15.9	82.5	2970 K
※	C2-1	D51	8000	36	15.9	127	4572 K [36]
※	C2-2	D51	7190	36	15.9	114	4104 K
	C3-1	D19	7160	166	2.25	16.1	2673
	C3-2	D19	7220	10	2.25	16.2	
△	C4-1	D19	3860	104	2.25	8.69	904 C (104)
△	C4-2	D19	3890	10	2.25	8.75	88 C (10)
						21197	kg [72]

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
F 1	D38	11020	52	8.95	98.6	5127	
F2-1	D32	8650	26	6.23	53.9	1401	
F2-2	D32	3400	8	6.23	21.2	170	平均長
F 3	D38	10880	52	8.95	97.4	5065	
F4-1	D32	8650	26	6.23	53.9	1401	
F4-2	D32	3400	8	6.23	21.2	170	平均長
F 5	D19	8350	16	2.25	18.8	301	
F 6	D19	7830	16	2.25	17.6	282	
F 7	D16	1950	76	1.56	3.04	231	C (76)
						14148	kg
下部工施工鉄筋							
鉄筋質量集計 (SD345)							
鉄筋A		鉄筋B	鉄筋C	合計	機械継手	機械式定着	
D38	11817	kg	-	-	11817	kg	
D32	3142	kg	-	-	3142	kg	
D25	1150	kg	-	-	1150	kg	
D22	3047	kg	-	-	3047	kg	
D19	3418	kg	-	992	kg	4410	(114)
D16	573	kg	-	529	kg	1102	kg (130)
合 計	23147	kg	-	1521	kg	24668	kg (244)
鉄筋質量集計 (SD490)							
鉄筋B		合計	機械継手	機械式定着			
D51	17370	kg	17370	kg	[72]		

機械式鉄筋定着工法数量表（下部工施工）

鉄筋径	箇 所 数					
	0<≒L≦1m	1m<≒L≦2m	2m<≒L≦3m	3m<≒L≦4m	4m<≒L≦5m	5m<≒L≦6m
D13						
D16		78	8	44		
D19				114		
D22						
D25						
小計		78	8	158		
合計						244

鉄筋加工寸法表 (SD345)

主筋  
せん断補強筋

鋭角フック

半円形フック

直角フック

$$\Delta L=2L-a$$

	径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
				a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
主筋	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
	D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12
せん断補強筋及び帯鉄筋	径	R=2.5φ		$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		—	
				a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	—	
	D13	32.5		77	80	68	45	51	14	—	
	D16	40		94	99	84	55	63	17	—	
	D19	47.5		112	117	99	66	75	20	—	
	D22	55		130	136	115	76	86	24	—	
	D25	62.5		147	155	131	86	98	27	—	
	D29	72.5		171	179	152	99	114	31	—	
フック	径	R=3.0φ		鋭角フック		半円形フック		直角フック			
				a		a		a		ΔL	
	D13	39		92		123		61		17	
	D16	48		113		151		75		21	
	D19	57		134		179		89		25	
	D22	66		156		207		104		28	
	D25	75		177		236		118		32	
	D29	87		205		273		137		37	

鉄筋加工寸法表 (SD490)

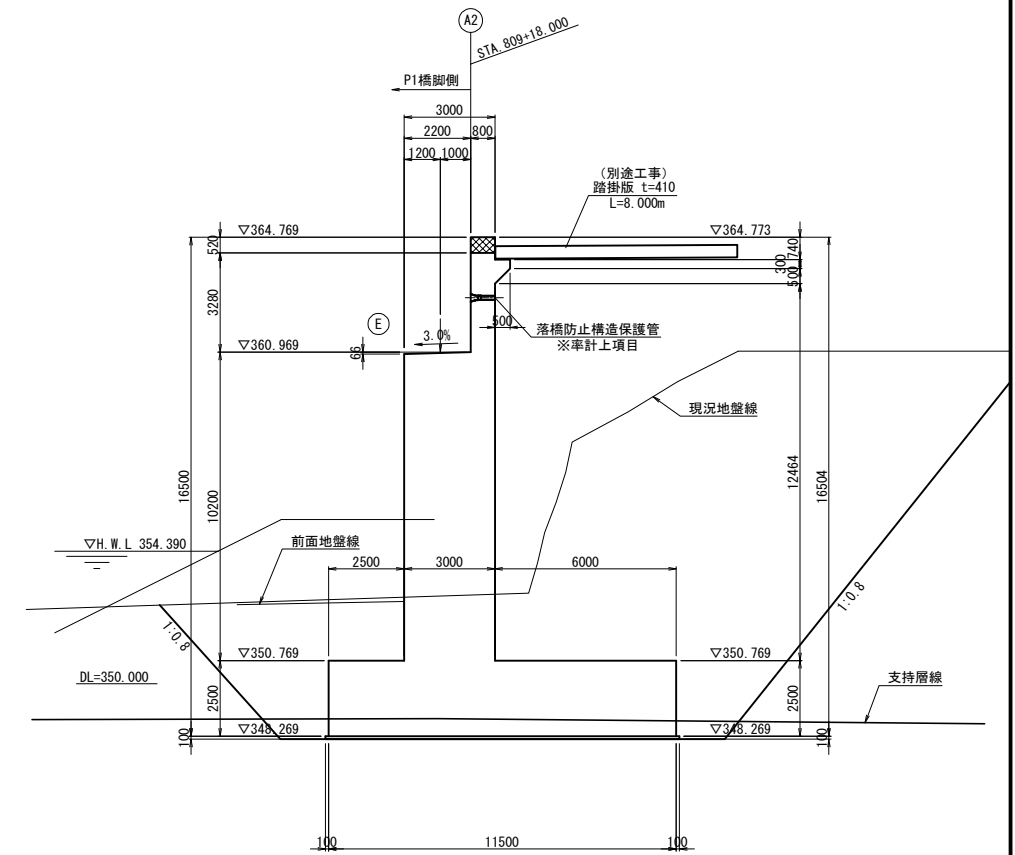
<div><div>主 筋 せん断補強筋</div><div>直角フック</div><div>△L=2L-a</div></div>					
主 筋	径	θ ≦ 90° R=4.0φ	θ =90°		
			a	△L	
	D13	52	82	22	
	D16	64	101	28	
	D19	76	119	33	
	D22	88	138	28	
	D25	100	157	43	
	D29	116	182	50	
	D32	128	201	55	
	D35	140	220	60	
筋	D38	152	239	65	
	D41	164	258	70	
	D51	204	321	88	

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。  
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
K  
注5) —は、機械継手位置を示す。  
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。  
注7) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注8) [ ]内は機械継手箇所数を示す。  
注9) ( )内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 1 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



断面図(3-3)



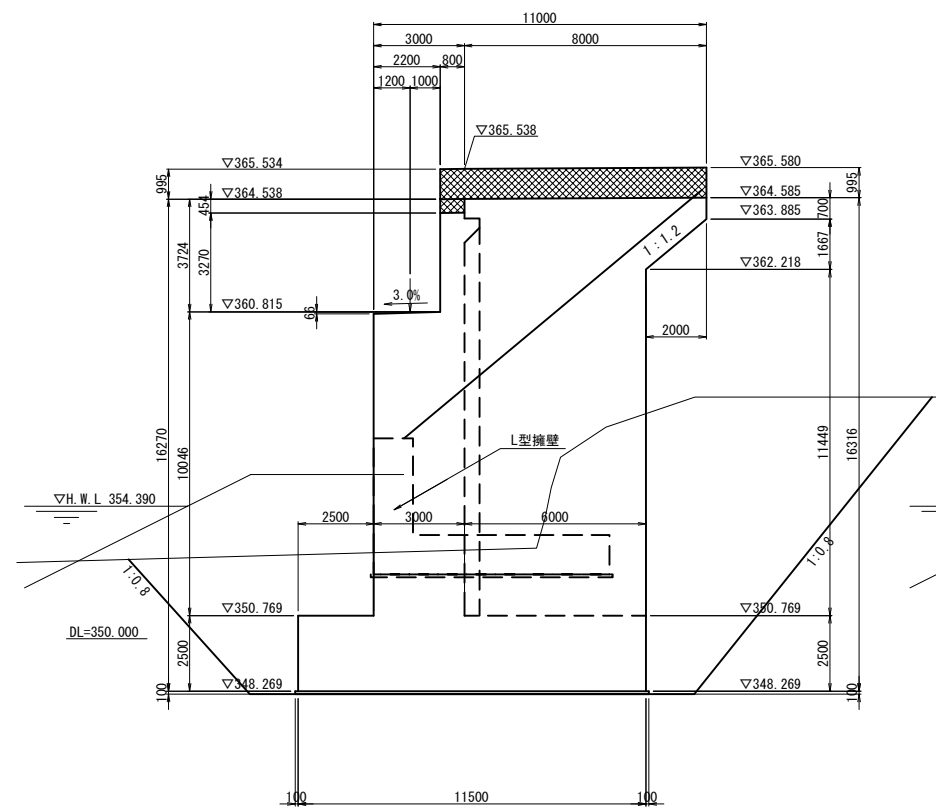
使用材料表		
コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30N/mm^2$
	フーチング	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$
	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18N/mm^2$
鉄 筋	躯体	SD345
	フーチング	SD345

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流羅川第二橋（下り工） A 2 橋台構造一般図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社	日本構造橋梁研究所	
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

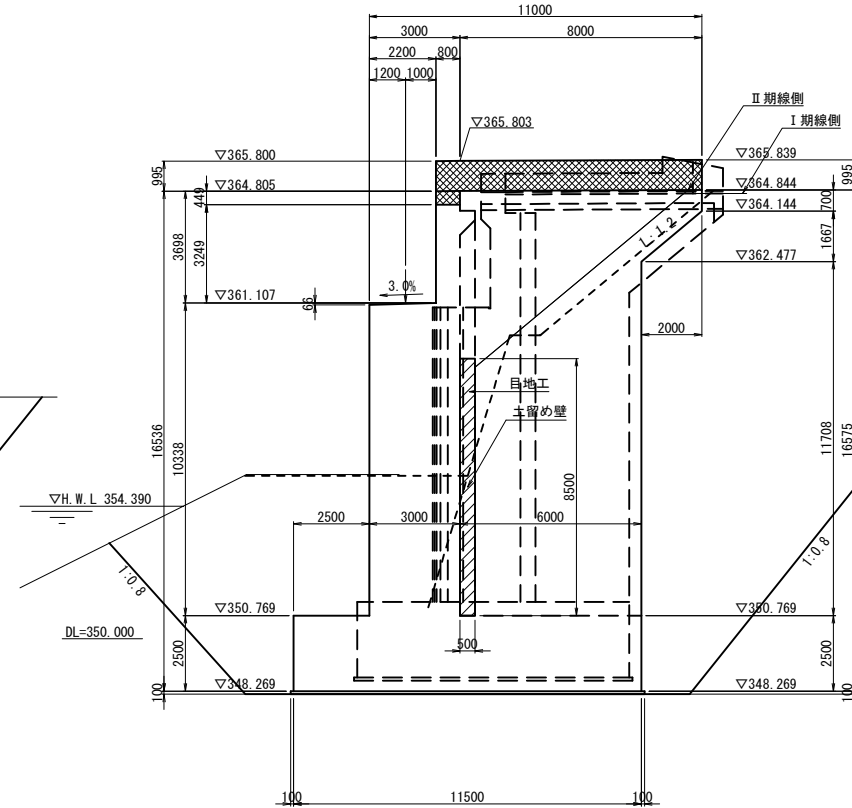
項 目	規格・寸法	單位	數 量	摘 要
構造物掘削	特殊部 C 2	m <sup>3</sup>	2,424.5	土砂
		m <sup>3</sup>	377.9	軟岩

項 目	規格・寸法	単位	数 量	摘 要
目地工		m <sup>2</sup>	4.3	土留め壁

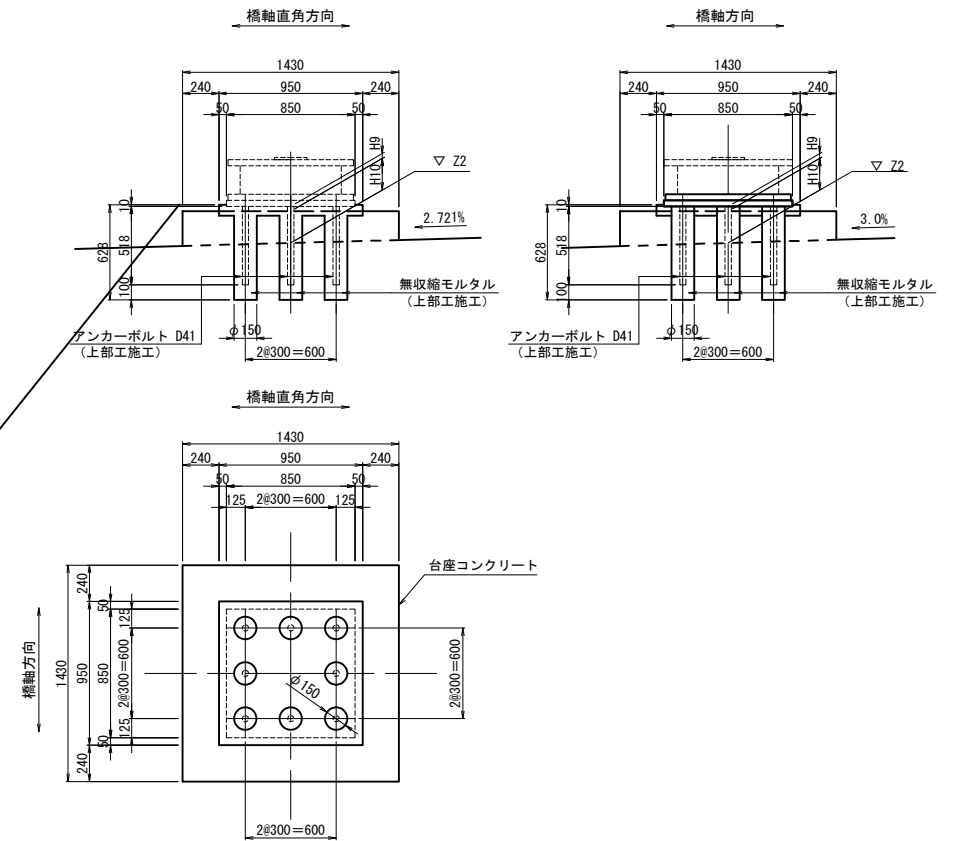
断面図(4-4)



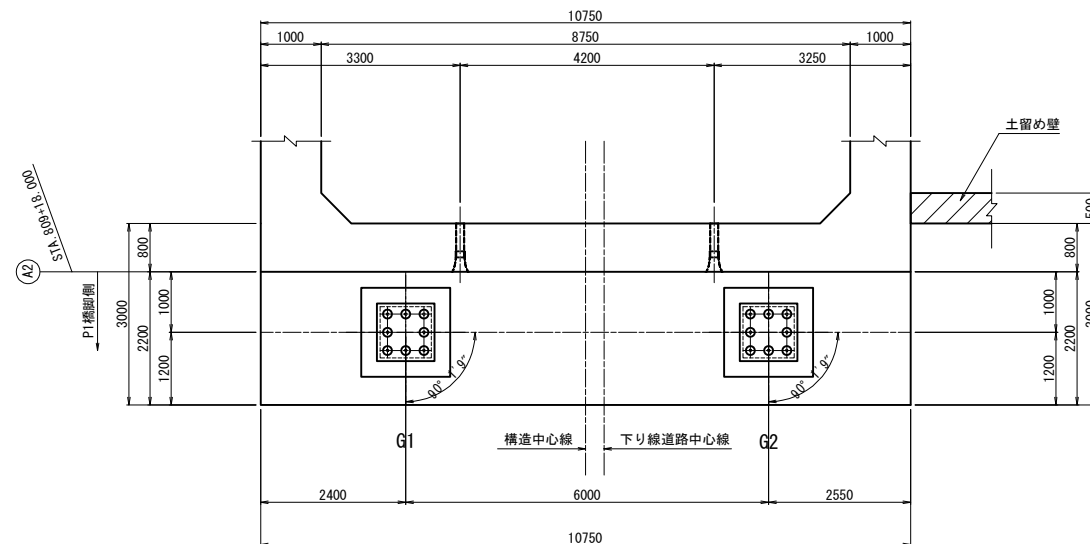
断面図(5-5)



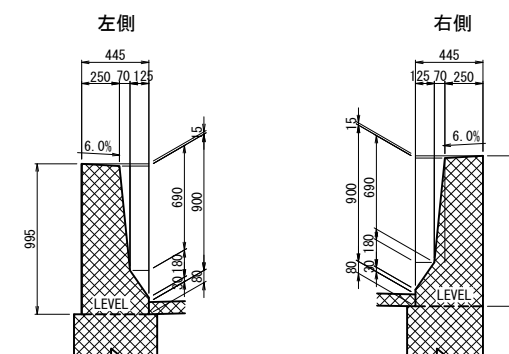
支 承 部 詳 細 図 S=1:75





支承配置図 S=1:125



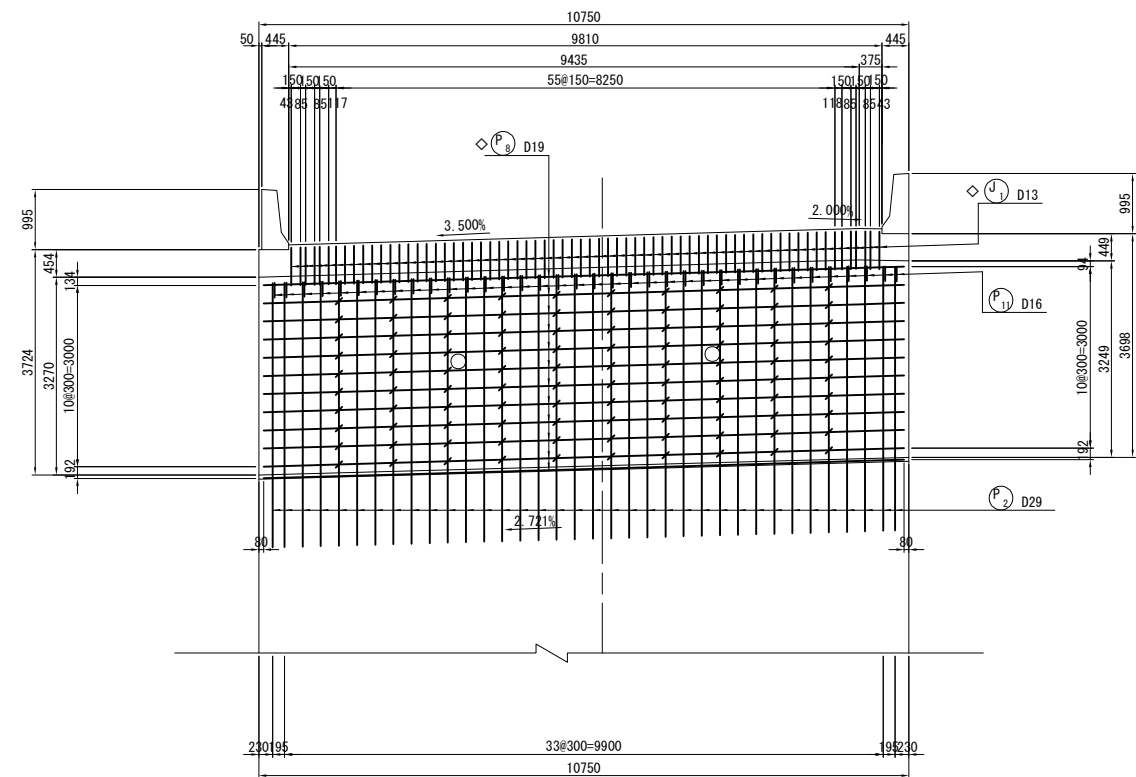
壁高欄詳細 S=1:50



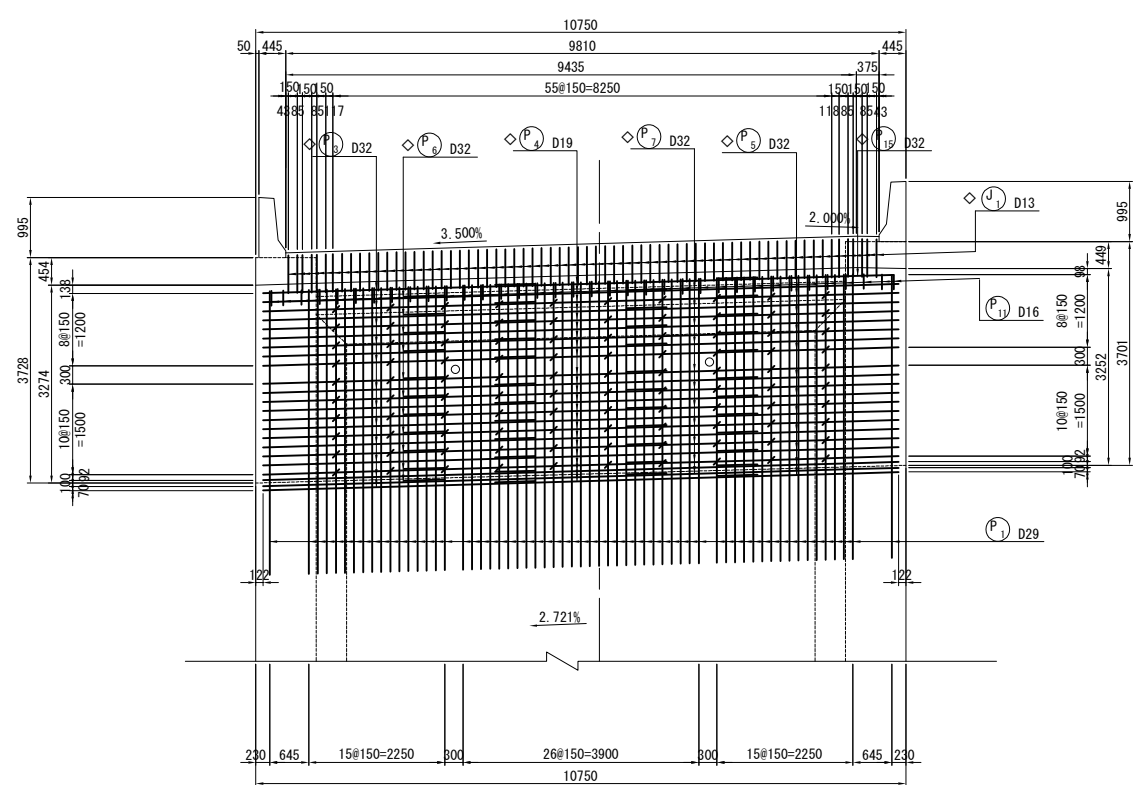
注):  は上部工施工範囲を表す。  
 は土留め壁施工範囲を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流羅川第二橋（下り線） A 2 橋台構造一般図（その 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

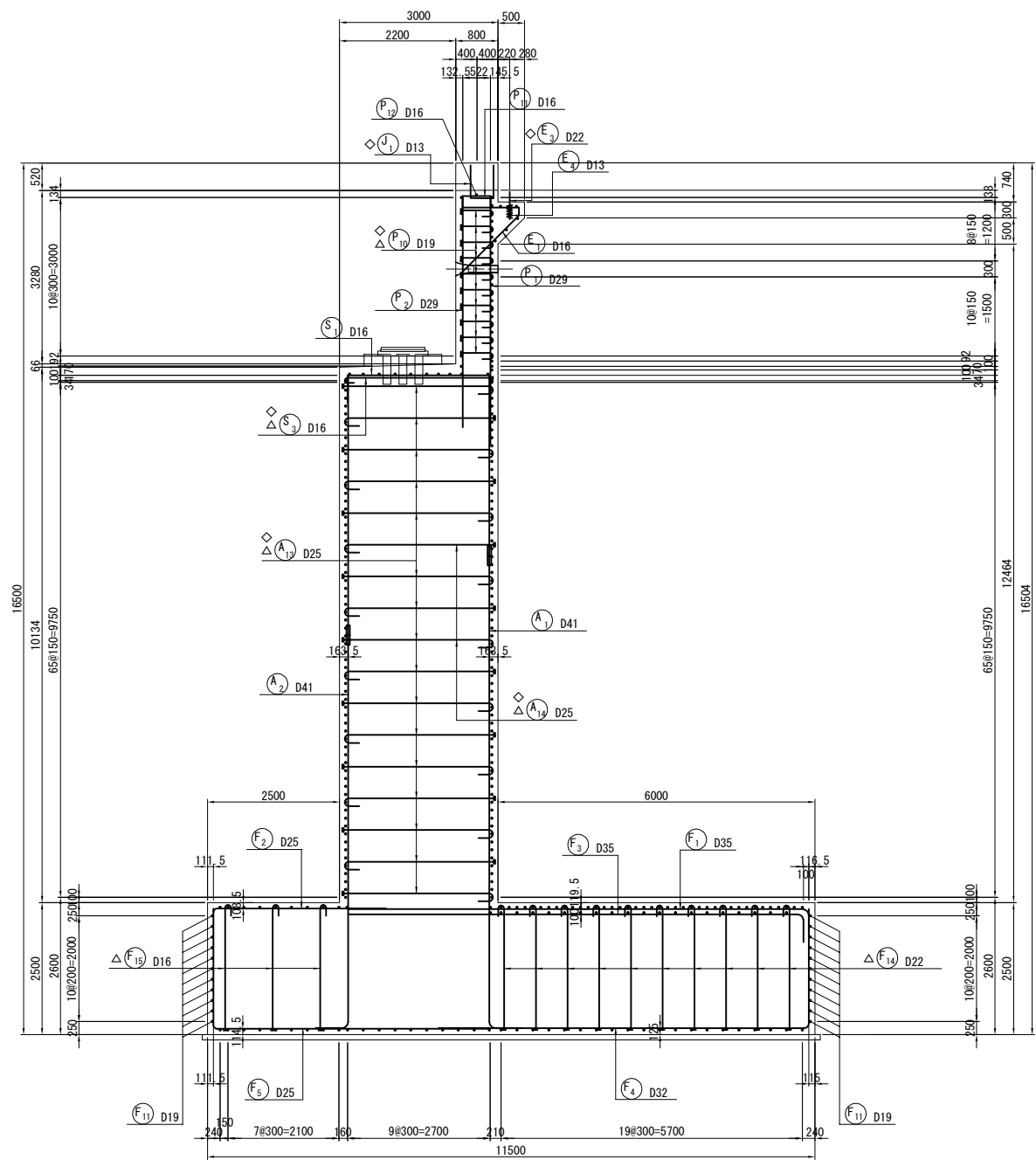
パラペット正面図  
2 - 2



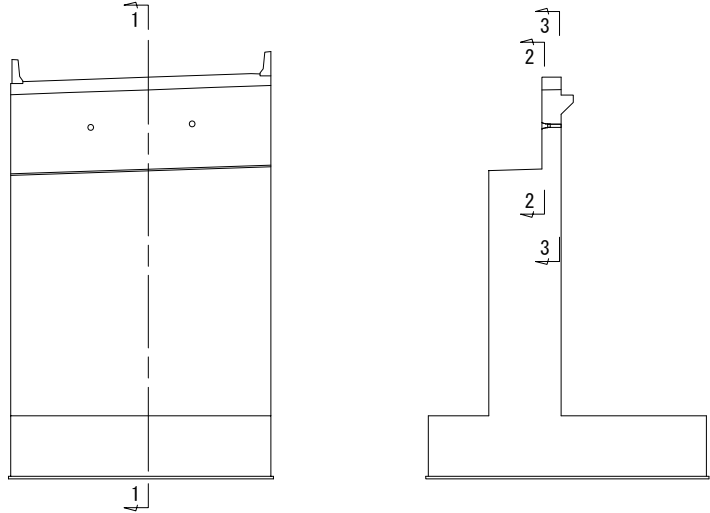
パラペット背面図  
3 - 3



側面図  
1 - 1



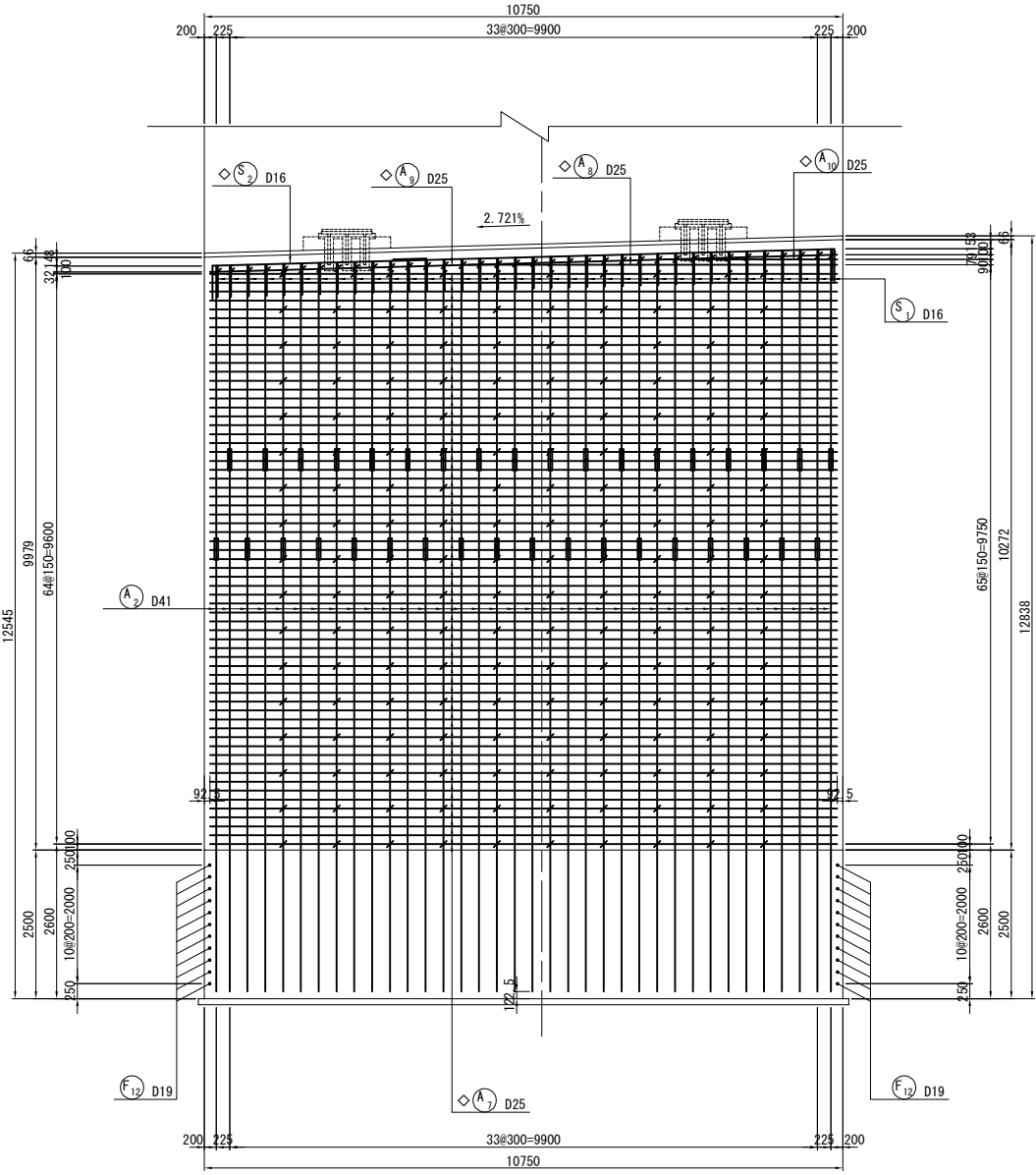
位置図



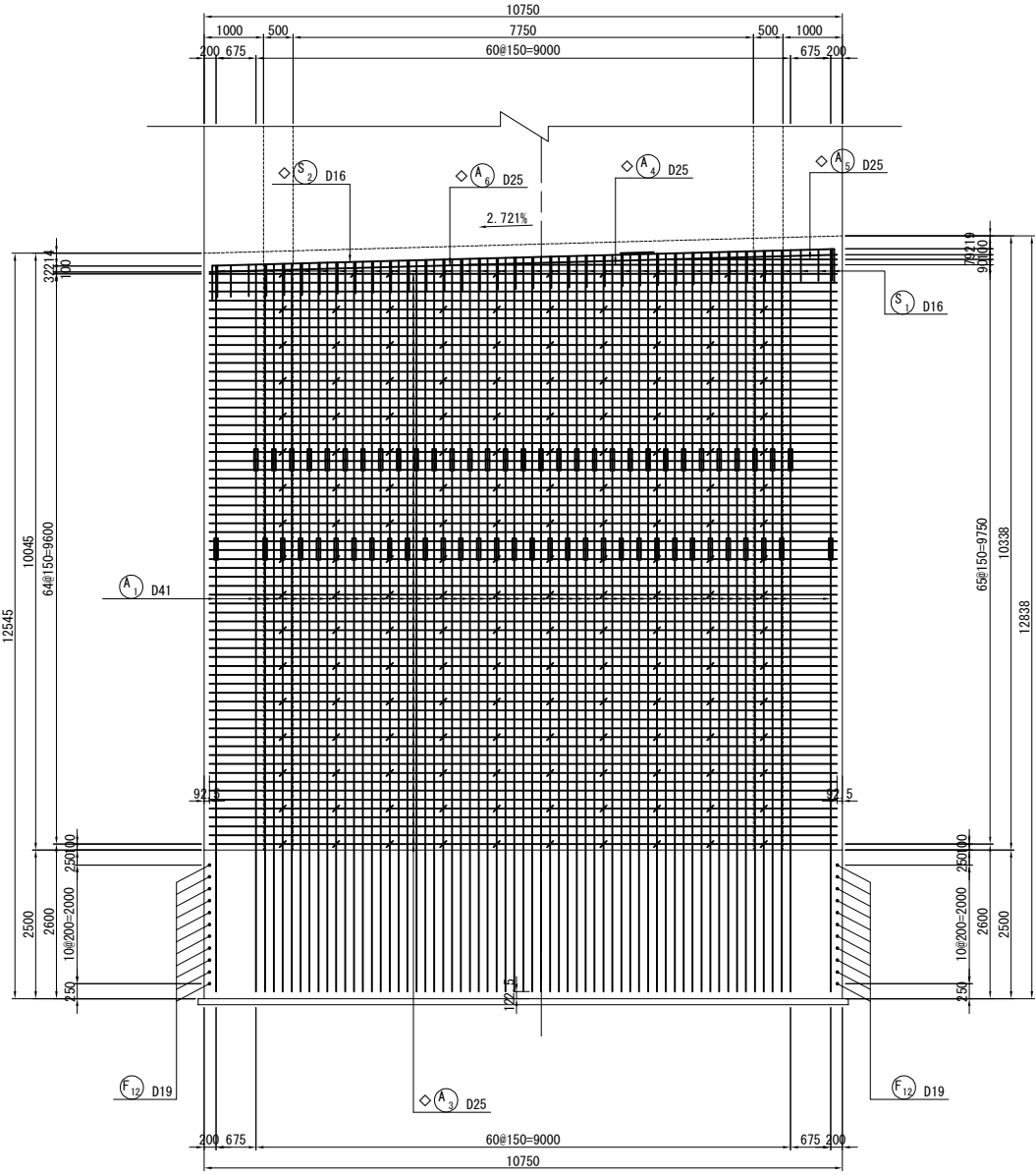
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

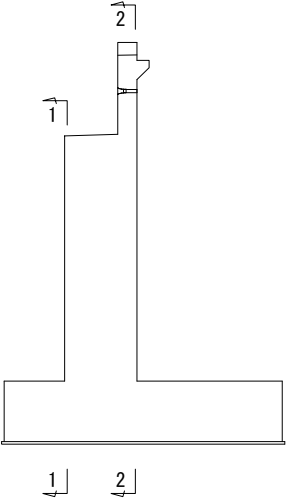
縦壁正面図  
1 - 1



縦壁背面図  
2 - 2



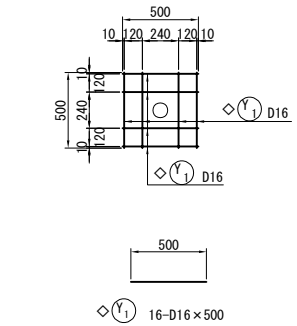
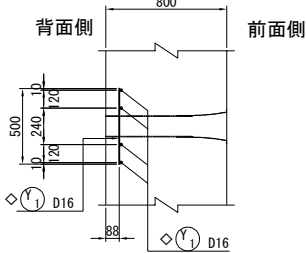
位置図



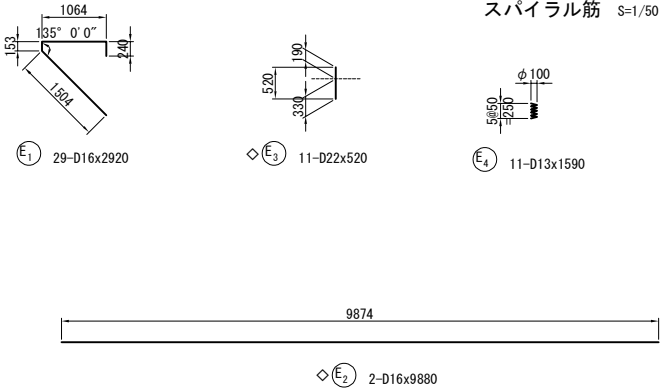
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

落橋防止構造用心鉄筋 S=1 : 50  
(n=2箇所)



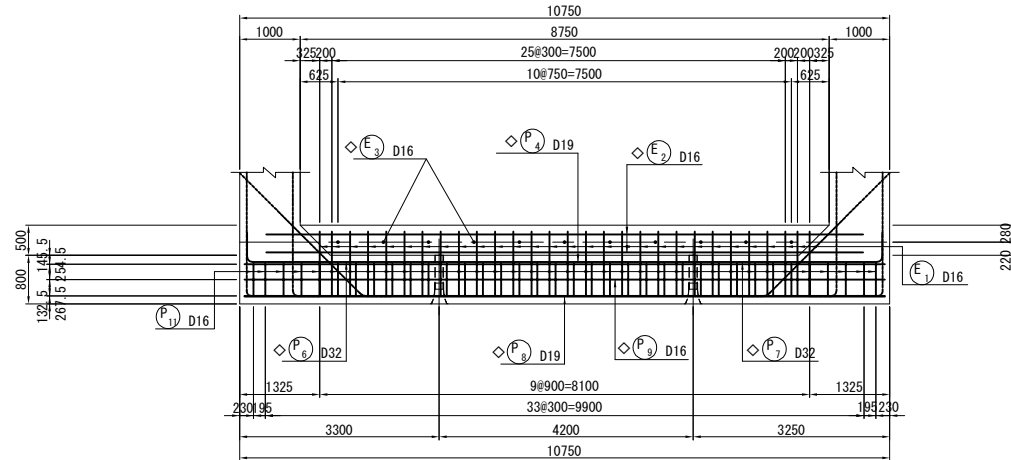
注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。



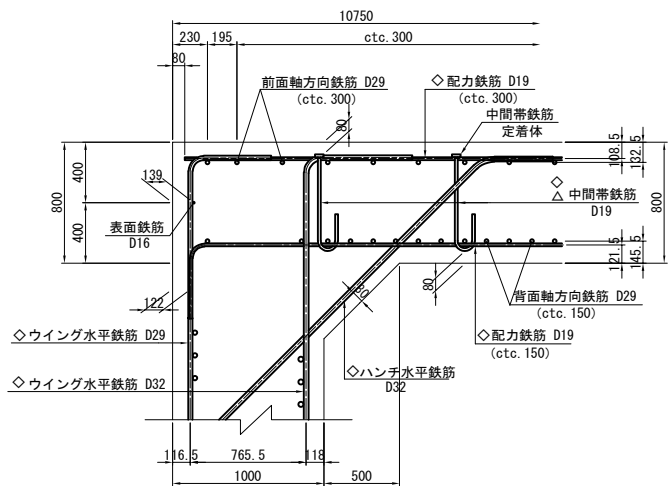
スパイラル筋 S=1/50

踏掛版受台平面図

1 - 1

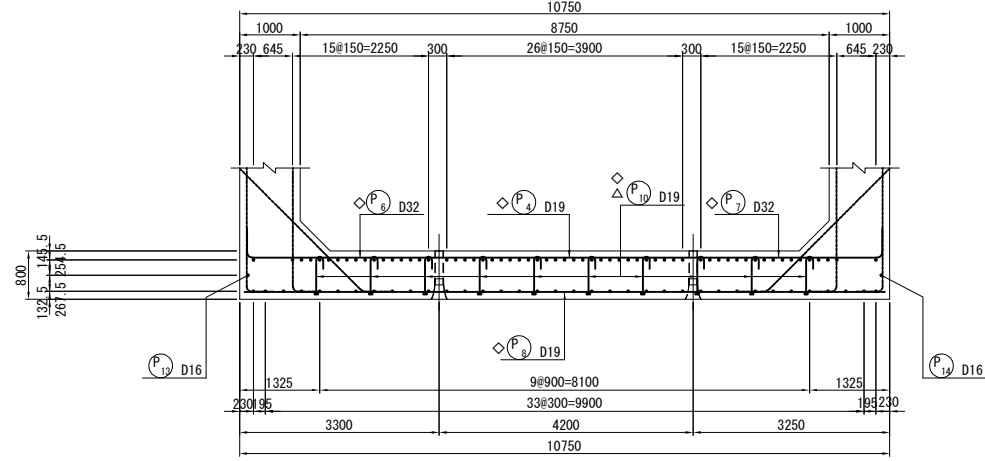


パラペット端部かぶり詳細図 S=1 : 50

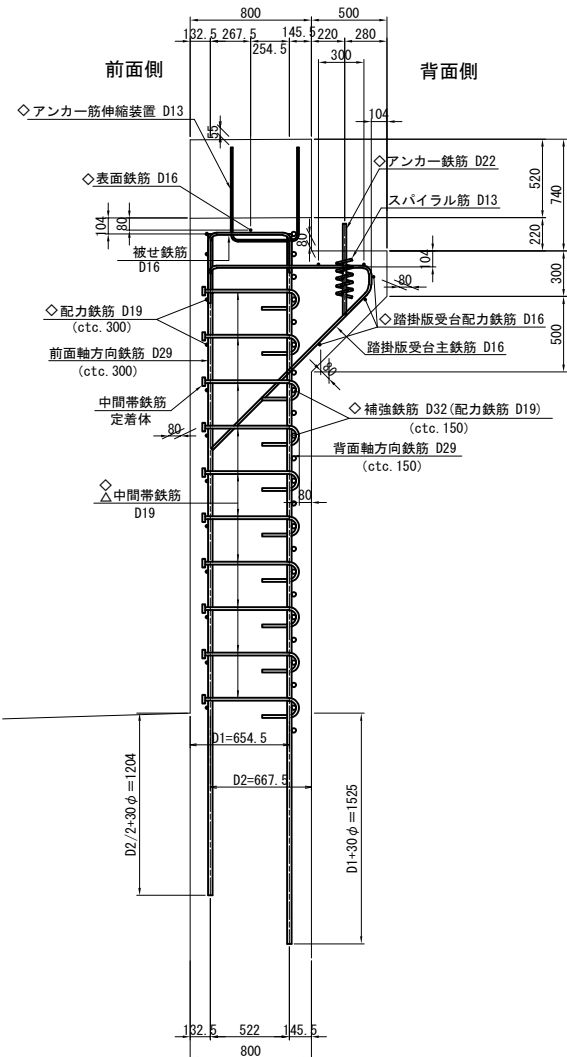


パラペット平面図

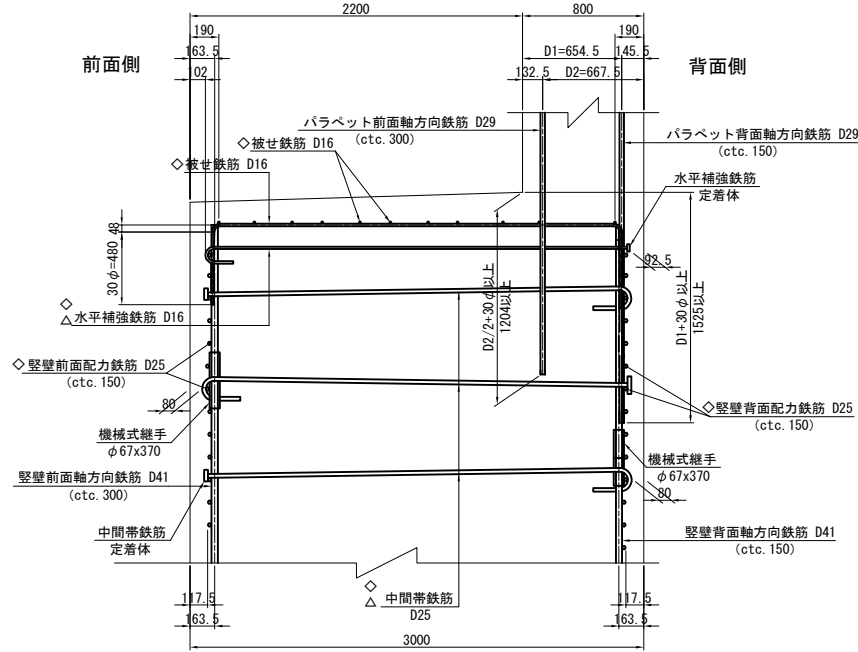
2 - 2



パラペットかぶり詳細図 S=1 : 50

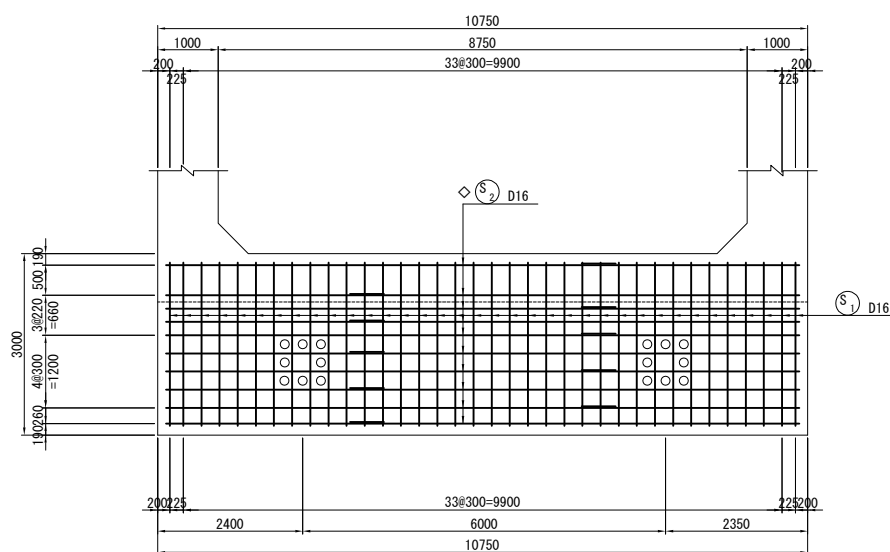


橋座かぶり詳細図 S=1 : 50

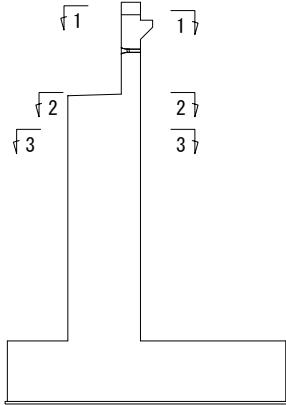


橋座平面図

3 - 3



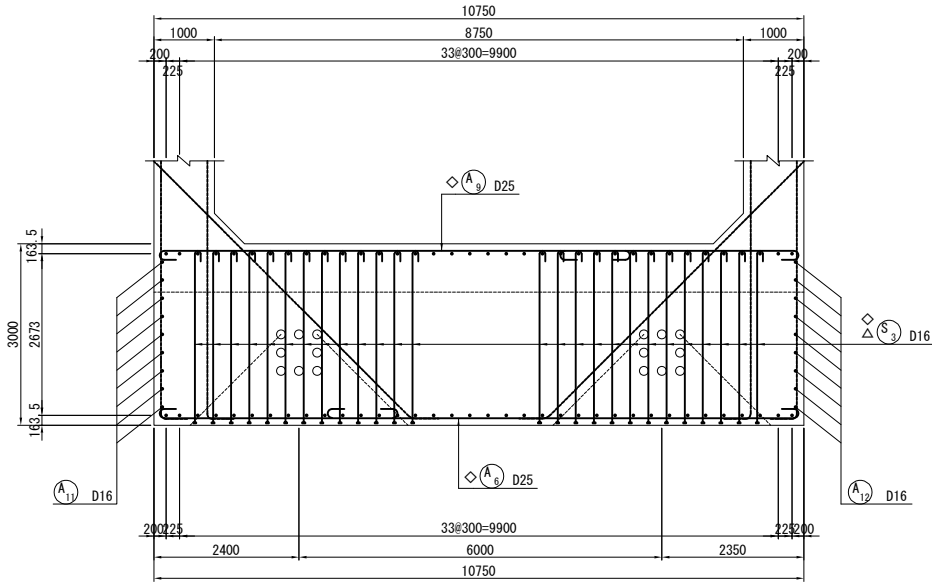
位置図



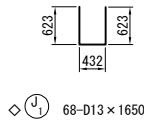
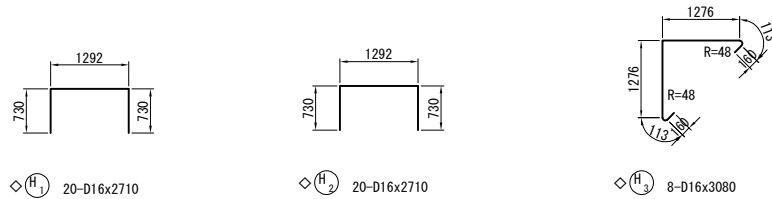
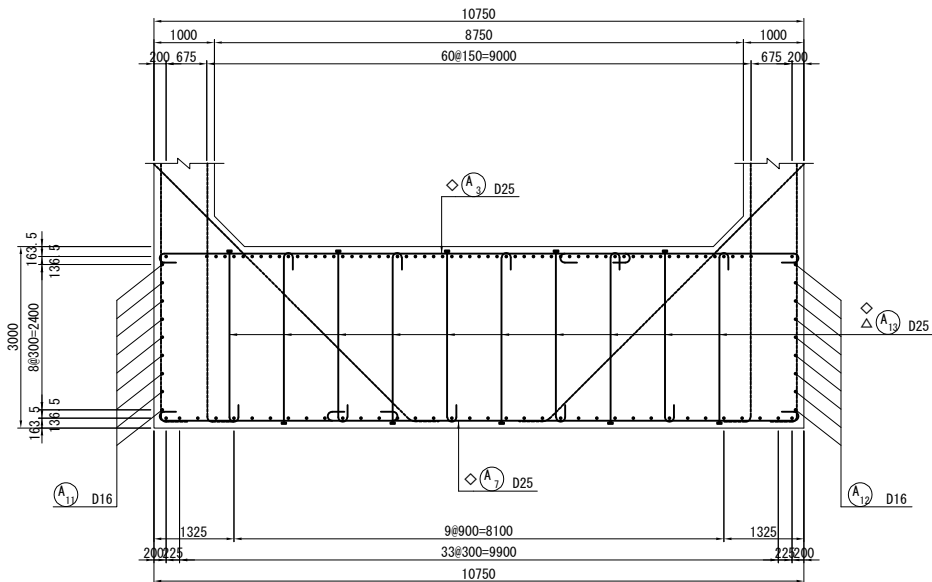
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

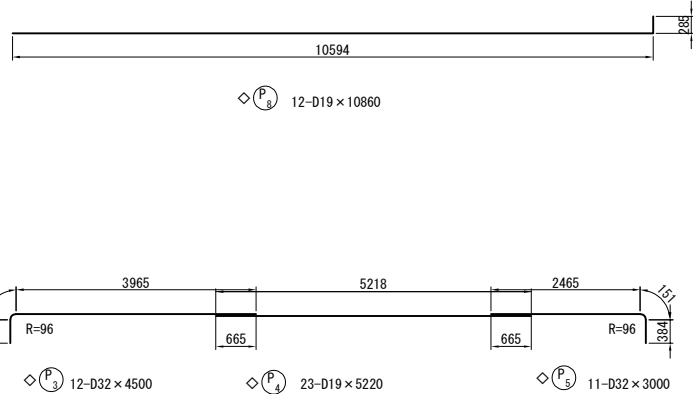
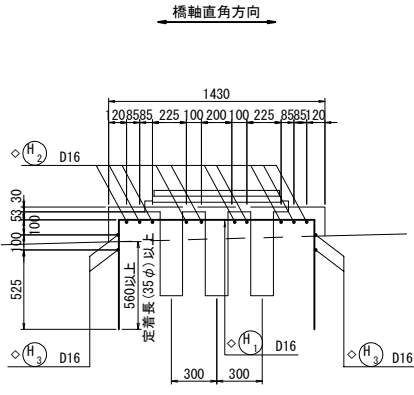
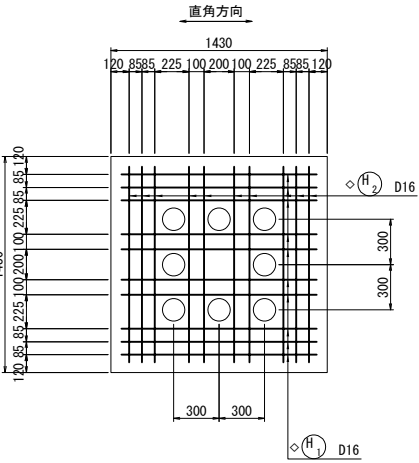
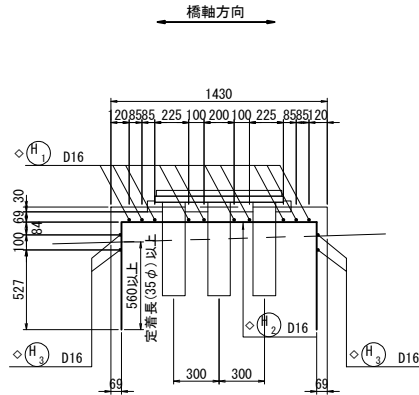
水平補強筋平面図  
4 - 4



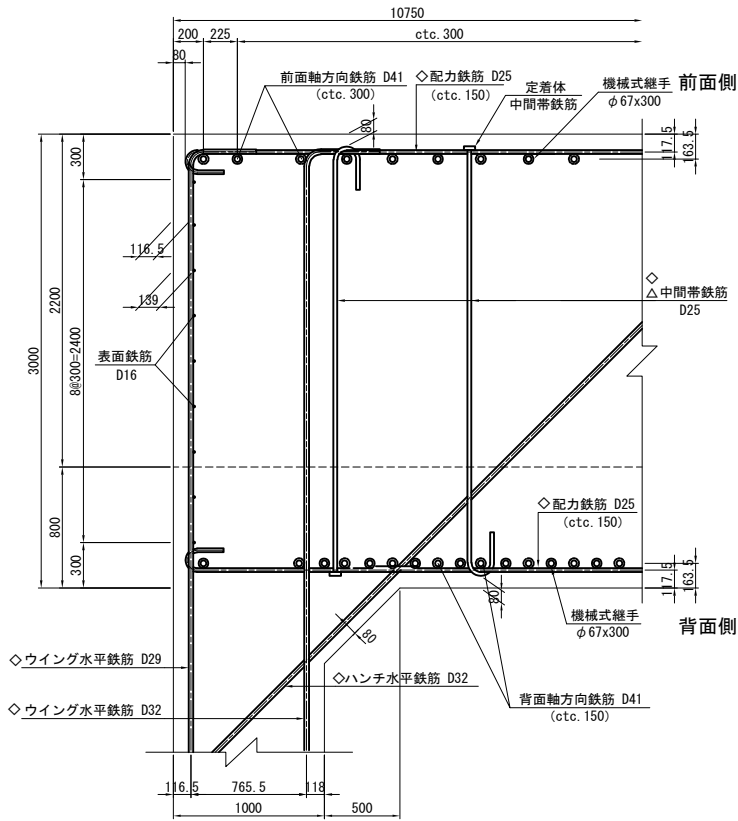
縦壁平面図（標準部）  
5 - 5



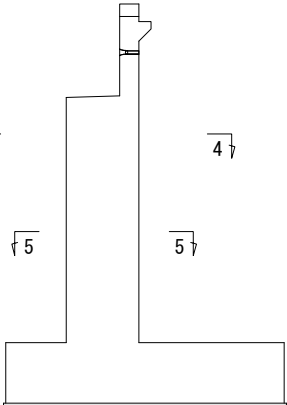
支承箱抜き補強配筋図 S=1:50  
(n=2箇所)



縦壁端部かぶり詳細図 S=1：50



位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

橋座面

1525

(P<sub>1</sub>) 61-D29×4700 (平均長)

記 号	径	本数	a	L
1	D29	1	4691	4690
2	D29	1	4693	4690
3	D29	1	4693	4690
4	D29	1	4693	4690
5	D29	1	4693	4690
6	D29	1	4694	4690
7	D29	1	4694	4690
8	D29	1	4694	4690
9	D29	1	4694	4690
10	D29	1	4695	4690
11	D29	1	4695	4690
12	D29	1	4695	4700
13	D29	1	4695	4700
14	D29	1	4696	4700
15	D29	1	4696	4700
16	D29	1	4696	4700
17	D29	1	4696	4700
18	D29	1	4697	4700
19	D29	1	4697	4700
20	D29	1	4697	4700
21	D29	1	4698	4700
22	D29	1	4698	4700
23	D29	1	4698	4700
24	D29	1	4698	4700
25	D29	1	4699	4700
26	D29	1	4699	4700
27	D29	1	4699	4700
28	D29	1	4700	4700
29	D29	1	4700	4700
30	D29	1	4700	4700
31	D29	1	4700	4700
32	D29	1	4701	4700
33	D29	1	4701	4700
34	D29	1	4701	4700
35	D29	1	4701	4700
36	D29	1	4702	4700
37	D29	1	4702	4700
38	D29	1	4702	4700
39	D29	1	4702	4700
40	D29	1	4703	4700
41	D29	1	4703	4700
42	D29	1	4703	4700
43	D29	1	4703	4700
44	D29	1	4704	4700
45	D29	1	4704	4700
46	D29	1	4704	4700
47	D29	1	4705	4700
48	D29	1	4705	4700
49	D29	1	4705	4710
50	D29	1	4705	4710
51	D29	1	4706	4710
52	D29	1	4706	4710
53	D29	1	4706	4710
54	D29	1	4706	4710
55	D29	1	4707	4710
56	D29	1	4707	4710
57	D29	1	4707	4710
58	D29	1	4708	4710
59	D29	1	4708	4710
60	D29	1	4708	4710
61	D29	1	4680	4680
平均長		61		平均長

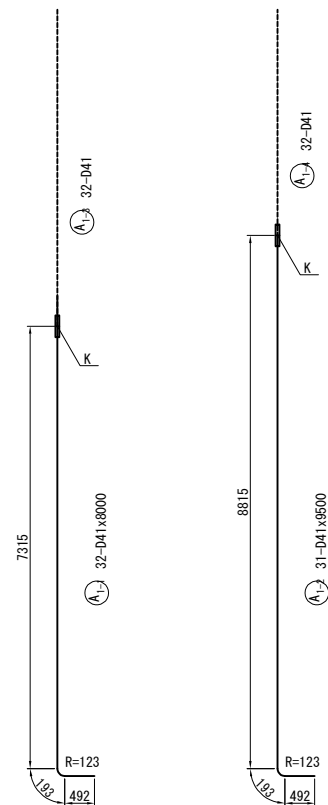
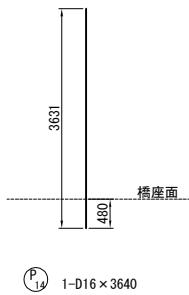
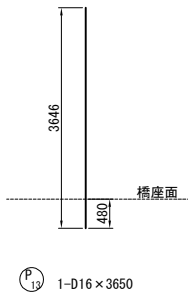
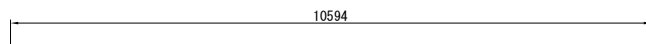
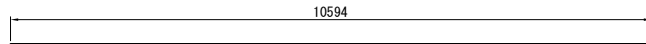
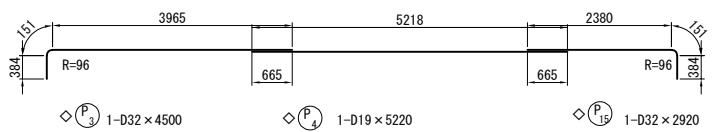
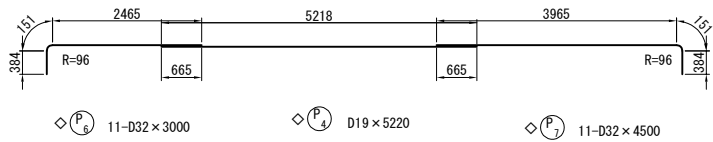
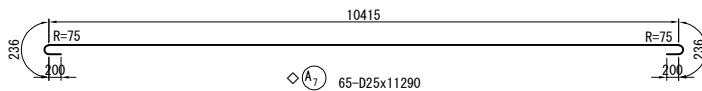
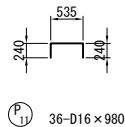
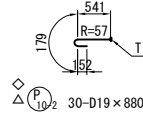
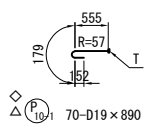


橋座面

1204

P  
2
36-D29×4380 (平均長)

記 号	径	本数	a	L
1	D29	1	4370	4370
2	D29	1	4371	4370
3	D29	1	4371	4370
4	D29	1	4372	4370
5	D29	1	4372	4370
6	D29	1	4373	4370
7	D29	1	4373	4370
8	D29	1	4374	4370
9	D29	1	4374	4370
10	D29	1	4375	4370
11	D29	1	4375	4380
12	D29	1	4376	4380
13	D29	1	4376	4380
14	D29	1	4377	4380
15	D29	1	4377	4380
16	D29	1	4378	4380
17	D29	1	4378	4380
18	D29	1	4379	4380
19	D29	1	4380	4380
20	D29	1	4380	4380
21	D29	1	4381	4380
22	D29	1	4381	4380
23	D29	1	4382	4380
24	D29	1	4382	4380
25	D29	1	4383	4380
26	D29	1	4383	4380
27	D29	1	4384	4380
28	D29	1	4384	4380
29	D29	1	4385	4380
30	D29	1	4385	4390
31	D29	1	4386	4390
32	D29	1	4386	4390
33	D29	1	4387	4390
34	D29	1	4383	4380
35	D29	1	4369	4370
36	D29	1	4360	4360
平均長		36		4378



32-D41 × 4360 (平均長)				
記 号	径	本数	a	L
1	D41	1	4212	4210
2	D41	1	4235	4240
3	D41	1	4243	4240
4	D41	1	4251	4250
5	D41	1	4259	4260
6	D41	1	4267	4270
7	D41	1	4276	4280
8	D41	1	4284	4280
9	D41	1	4292	4290
10	D41	1	4300	4300
11	D41	1	4308	4310
12	D41	1	4316	4320
13	D41	1	4325	4330
14	D41	1	4333	4330
15	D41	1	4341	4340
16	D41	1	4349	4350
17	D41	1	4357	4360
18	D41	1	4365	4370
19	D41	1	4373	4370
20	D41	1	4382	4380
21	D41	1	4390	4390
22	D41	1	4398	4400
23	D41	1	4406	4410
24	D41	1	4414	4410
25	D41	1	4422	4420
26	D41	1	4431	4430
27	D41	1	4439	4440
28	D41	1	4447	4450
29	D41	1	4455	4460
30	D41	1	4463	4460
31	D41	1	4471	4470
32	D41	1	4494	4490
平均長		32		4353

記 号	径	本数	a	L
1	D41	1	2731	2730
2	D41	1	2739	2740
3	D41	1	2747	2750
4	D41	1	2755	2760
5	D41	1	2763	2760
6	D41	1	2771	2770
7	D41	1	2780	2780
8	D41	1	2788	2790
9	D41	1	2796	2800
10	D41	1	2804	2800
11	D41	1	2812	2810
12	D41	1	2820	2820
13	D41	1	2829	2830
14	D41	1	2837	2840
15	D41	1	2845	2850
16	D41	1	2853	2850
17	D41	1	2861	2860
18	D41	1	2869	2870
19	D41	1	2878	2880
20	D41	1	2886	2890
21	D41	1	2894	2890
22	D41	1	2902	2900
23	D41	1	2910	2910
24	D41	1	2918	2920
25	D41	1	2927	2930
26	D41	1	2935	2940
27	D41	1	2943	2940
28	D41	1	2951	2950
29	D41	1	2959	2960
30	D41	1	2967	2970
31	D41	1	2976	2980
平均長		31		2854

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。

1. 道路標示方向一斉解説(H29.11 日本道路協会)

2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) 機械式定着鉄筋は、被吊束鉄筋に接触するように配置すること。

機械式定着鉄筋は、主筋筋に可能な限り近づけること。

注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。

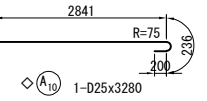
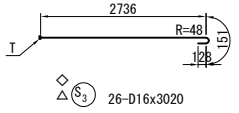
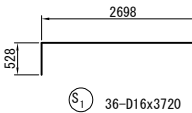
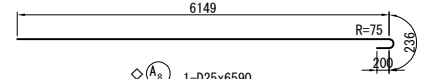
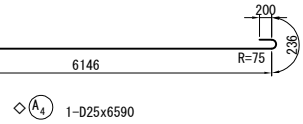
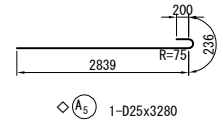
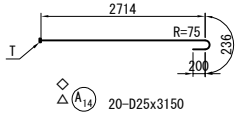
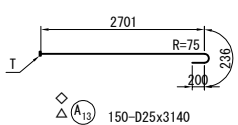
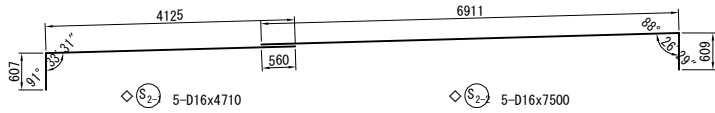
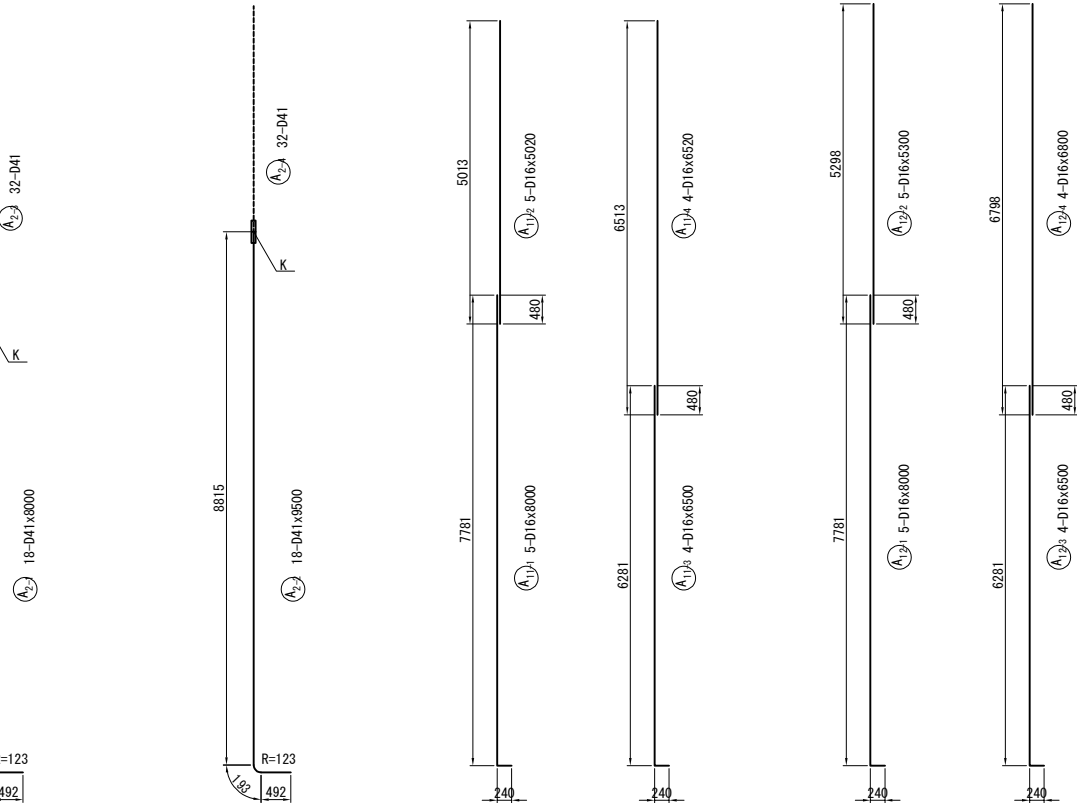
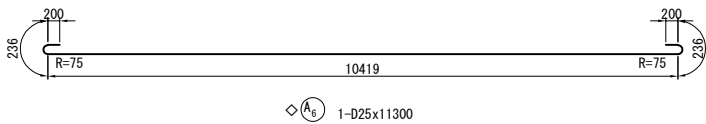
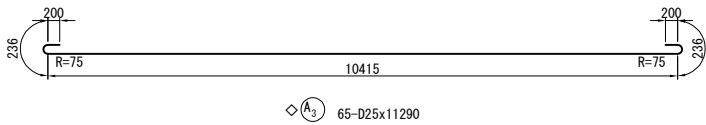
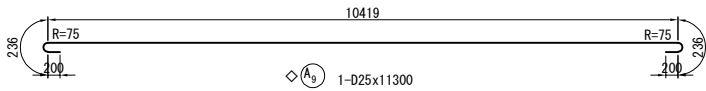
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

注6) Kは機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下り工事			
図面の種類	本流川川第二橋（下り線） A2橋台配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

① 18-D41×4350（平均長）				
記 号	径	本数	a	L
1	D41	1	4205	4210
2	D41	1	4220	4220
3	D41	1	4236	4240
4	D41	1	4252	4250
5	D41	1	4269	4270
6	D41	1	4285	4290
7	D41	1	4301	4300
8	D41	1	4318	4320
9	D41	1	4334	4330
10	D41	1	4350	4350
11	D41	1	4367	4370
12	D41	1	4383	4380
13	D41	1	4399	4400
14	D41	1	4415	4420
15	D41	1	4432	4430
16	D41	1	4448	4450
17	D41	1	4464	4460
18	D41	1	4481	4480
平均長		18		4343

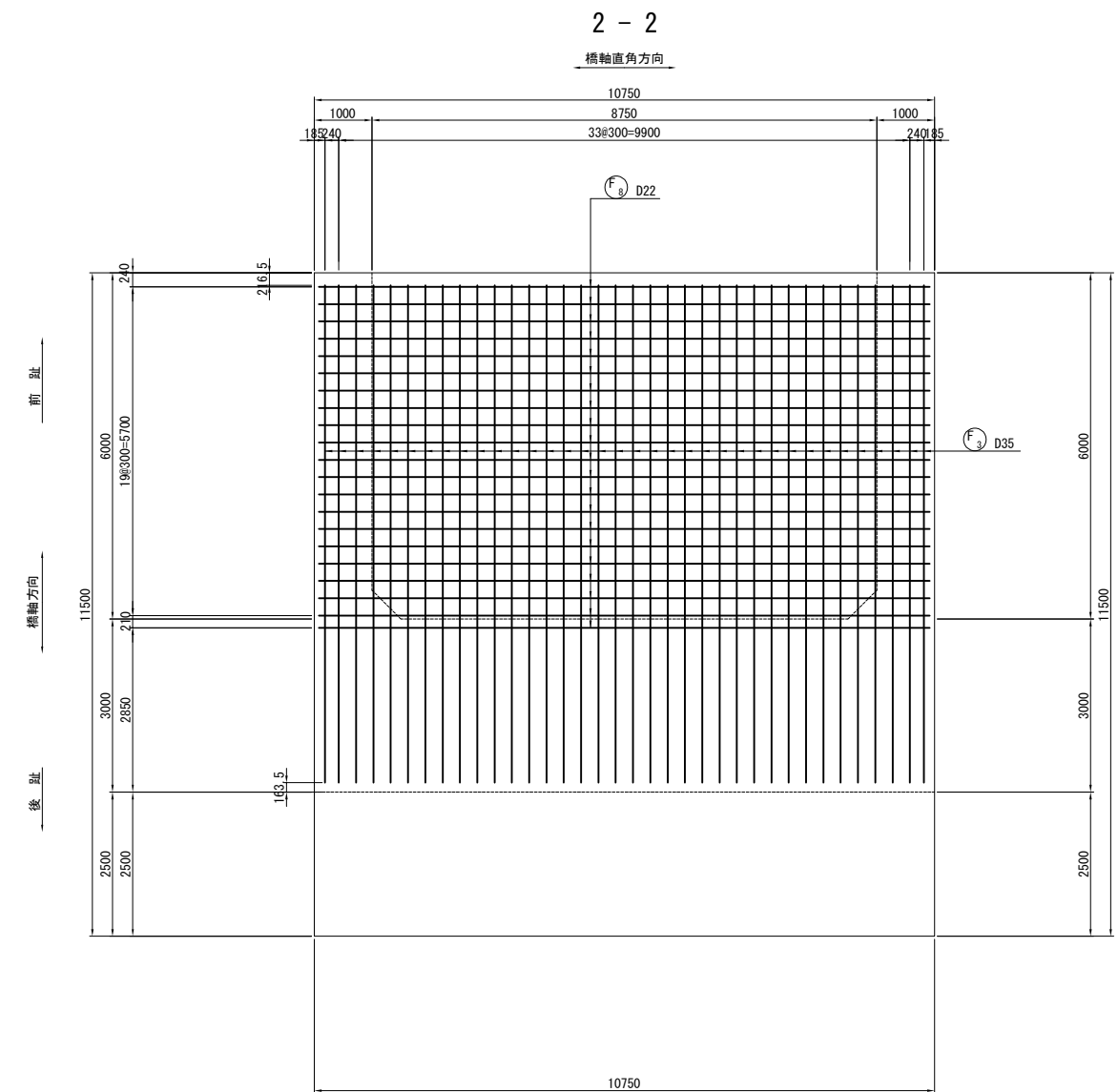
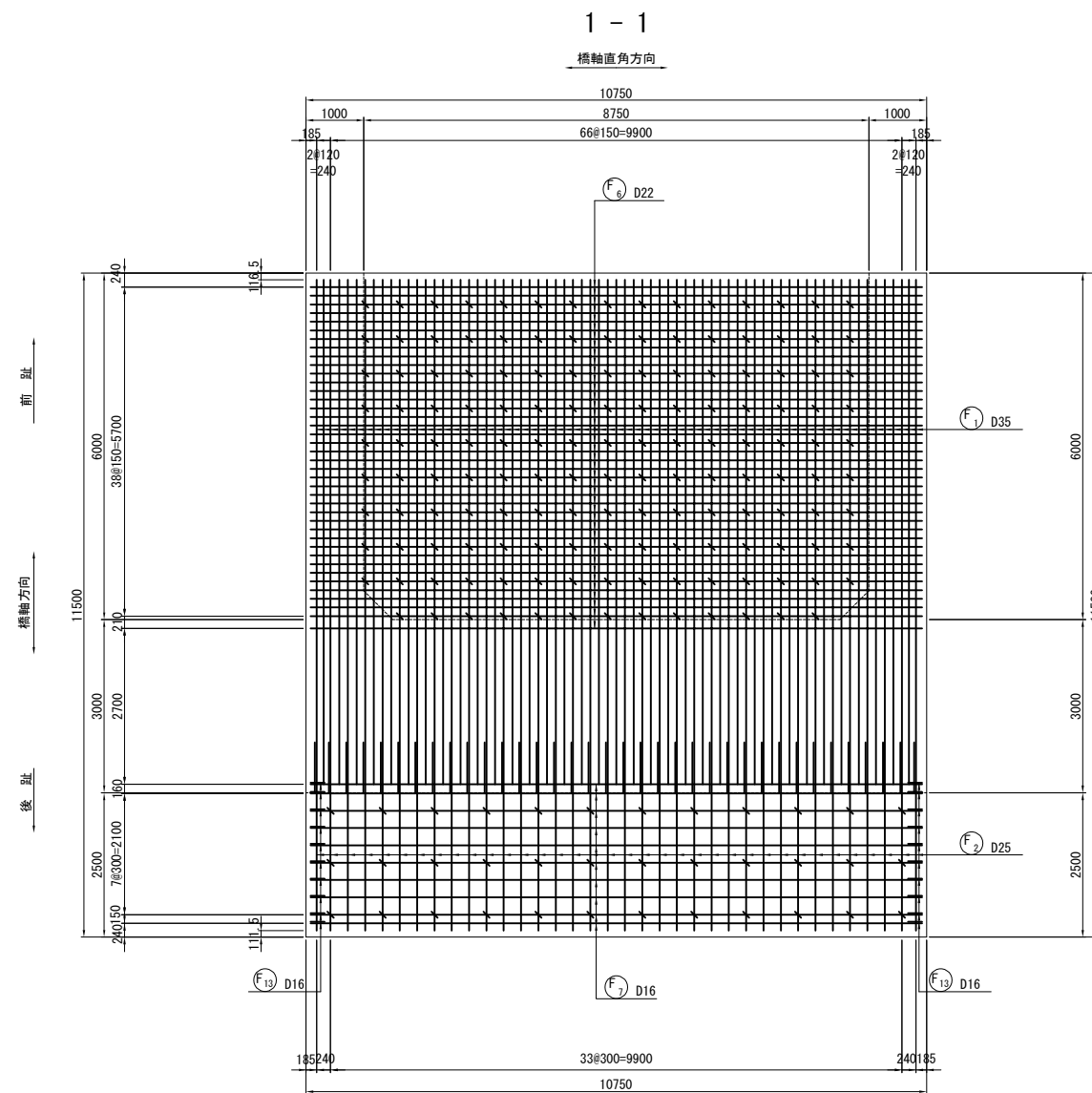
② 18-D41×2860（平均長）				
記 号	径	本数	a	L
1	D41	1	2711	2710
2	D41	1	2728	2730
3	D41	1	2744	2740
4	D41	1	2760	2760
5	D41	1	2777	2780
6	D41	1	2793	2790
7	D41	1	2809	2810
8	D41	1	2826	2830
9	D41	1	2842	2840
10	D41	1	2858	2860
11	D41	1	2875	2880
12	D41	1	2891	2890
13	D41	1	2907	2910
14	D41	1	2924	2920
15	D41	1	2940	2940
16	D41	1	2956	2960
17	D41	1	2973	2970
18	D41	1	2987	2990
平均長		18		2851



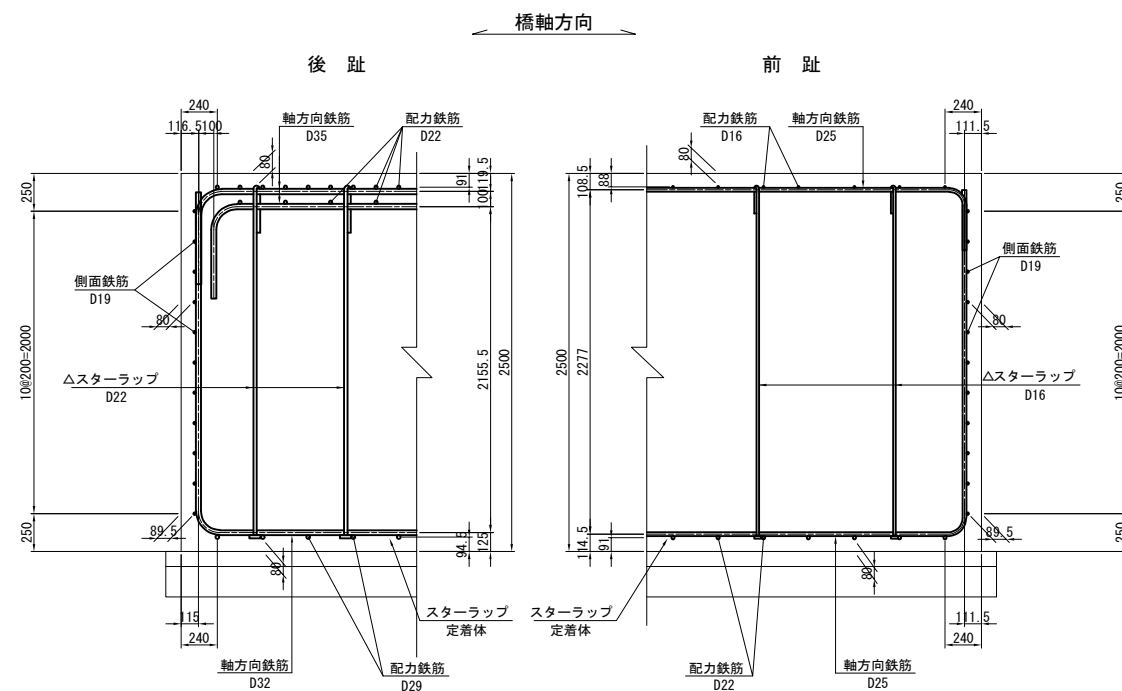
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注6) —Kは機械継手を表わす。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

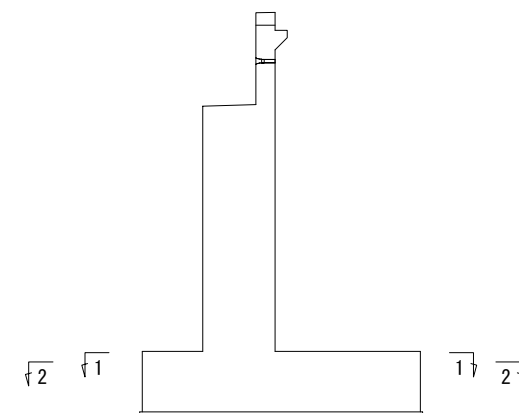




フーチングかぶり詳細図 S=1:50

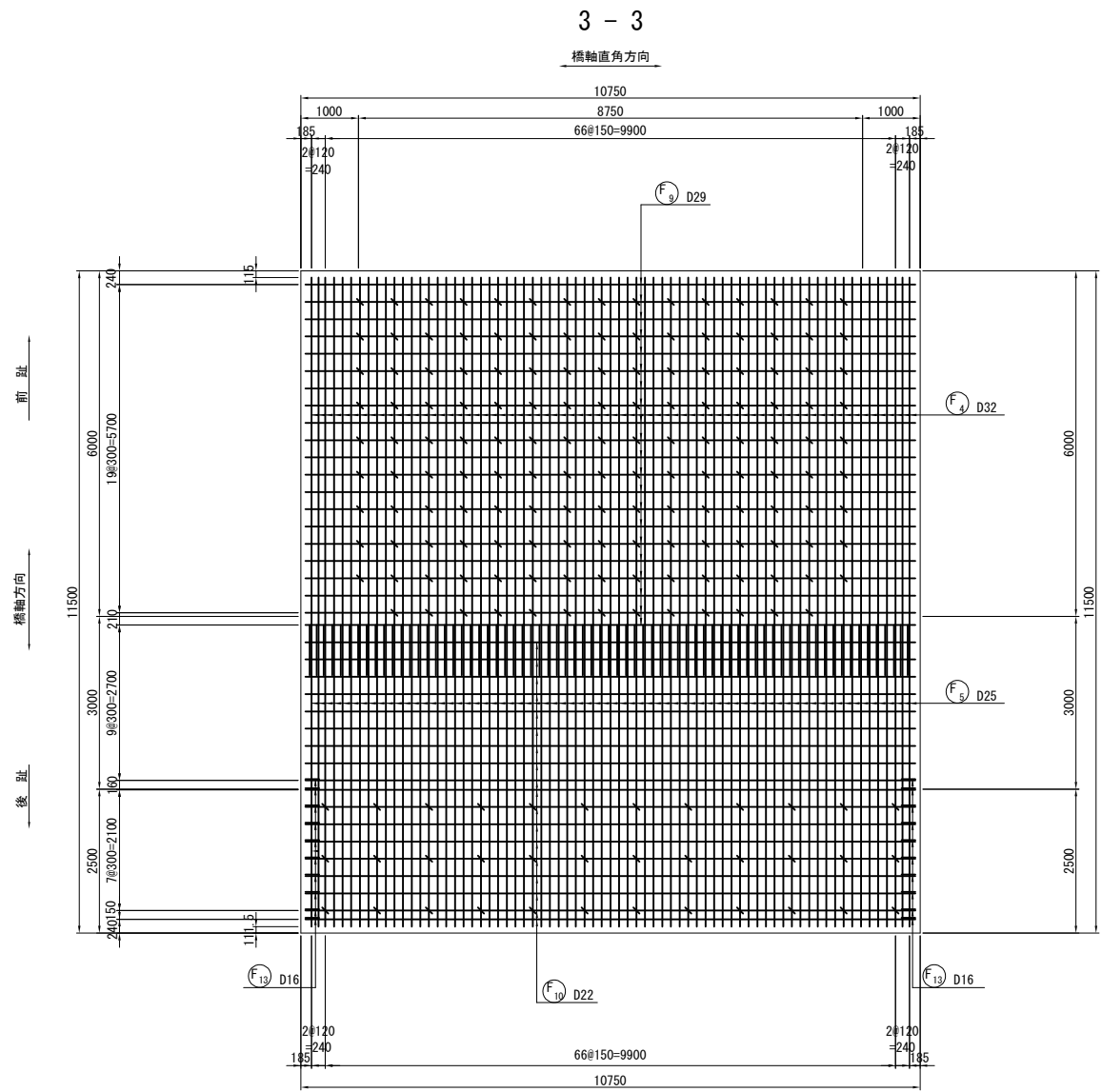


位置図

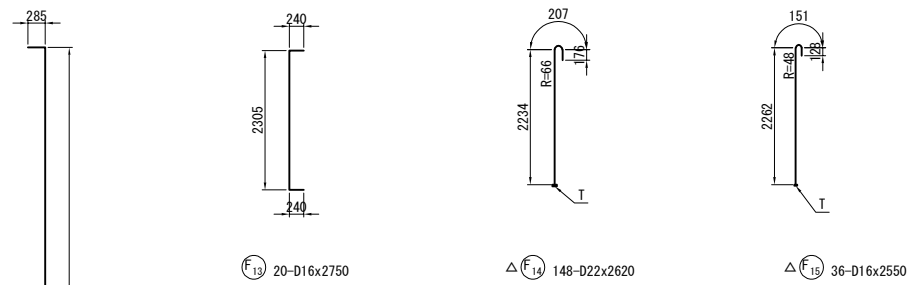
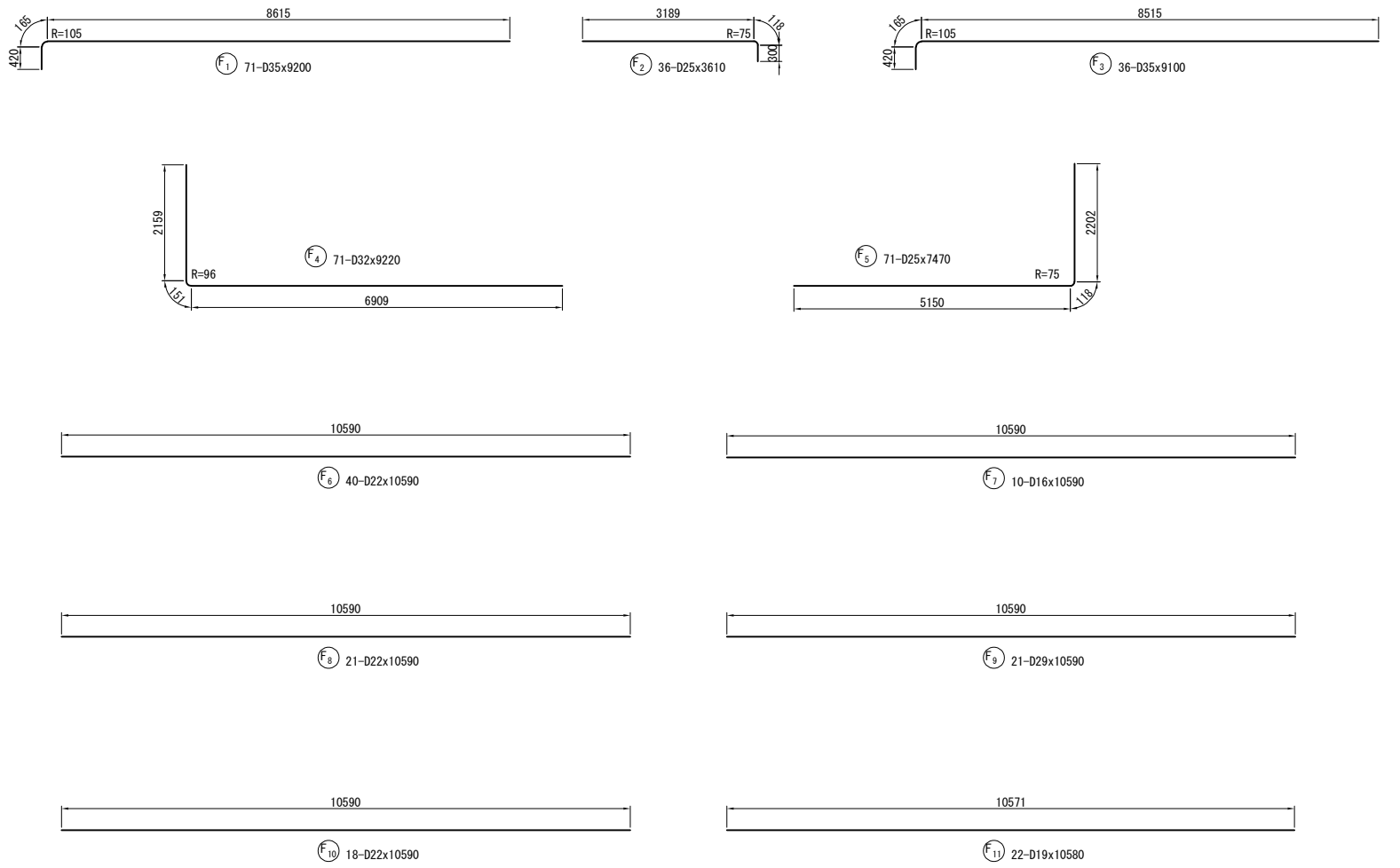
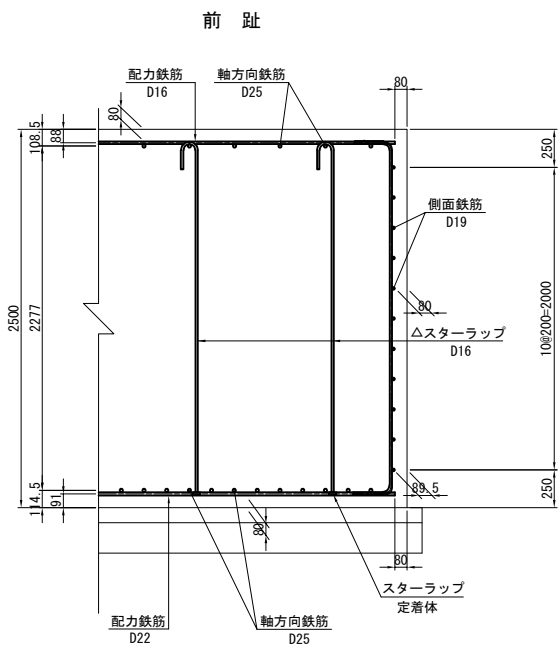
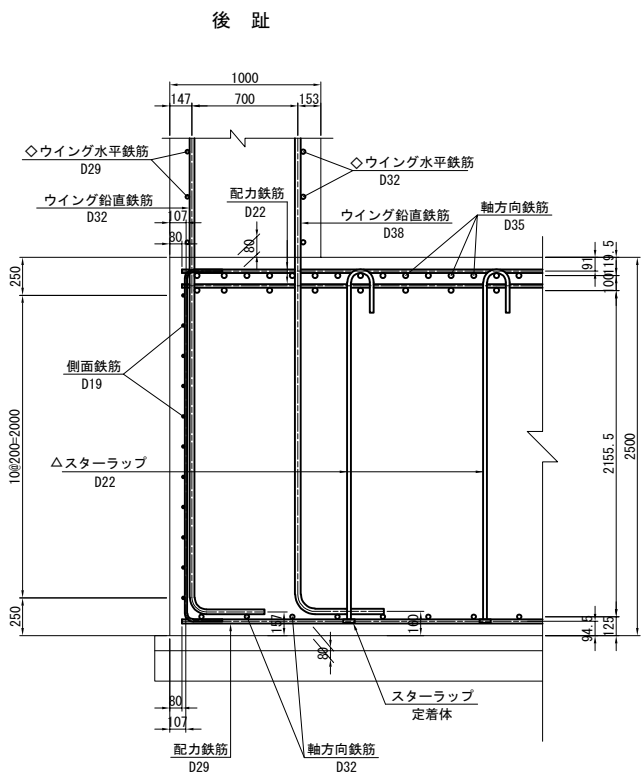


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説(H29, 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主筋部に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

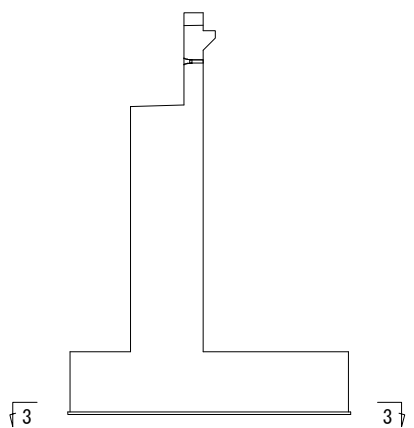
道東自動車道 占冠地区下部工工事				
図面の種類	本流森川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 7）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			



フーチングかぶり詳細図 S=1:50



位置 図



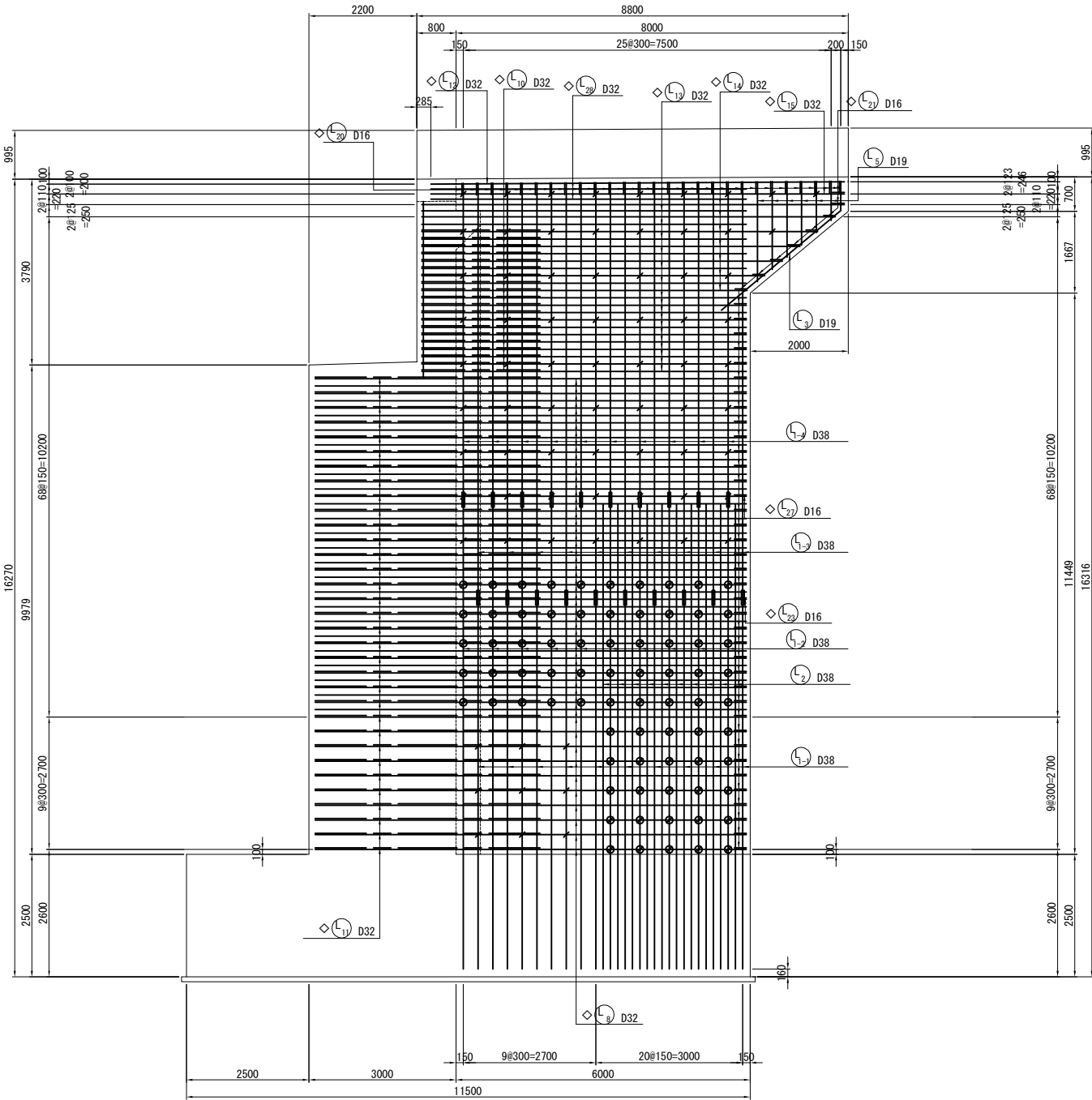
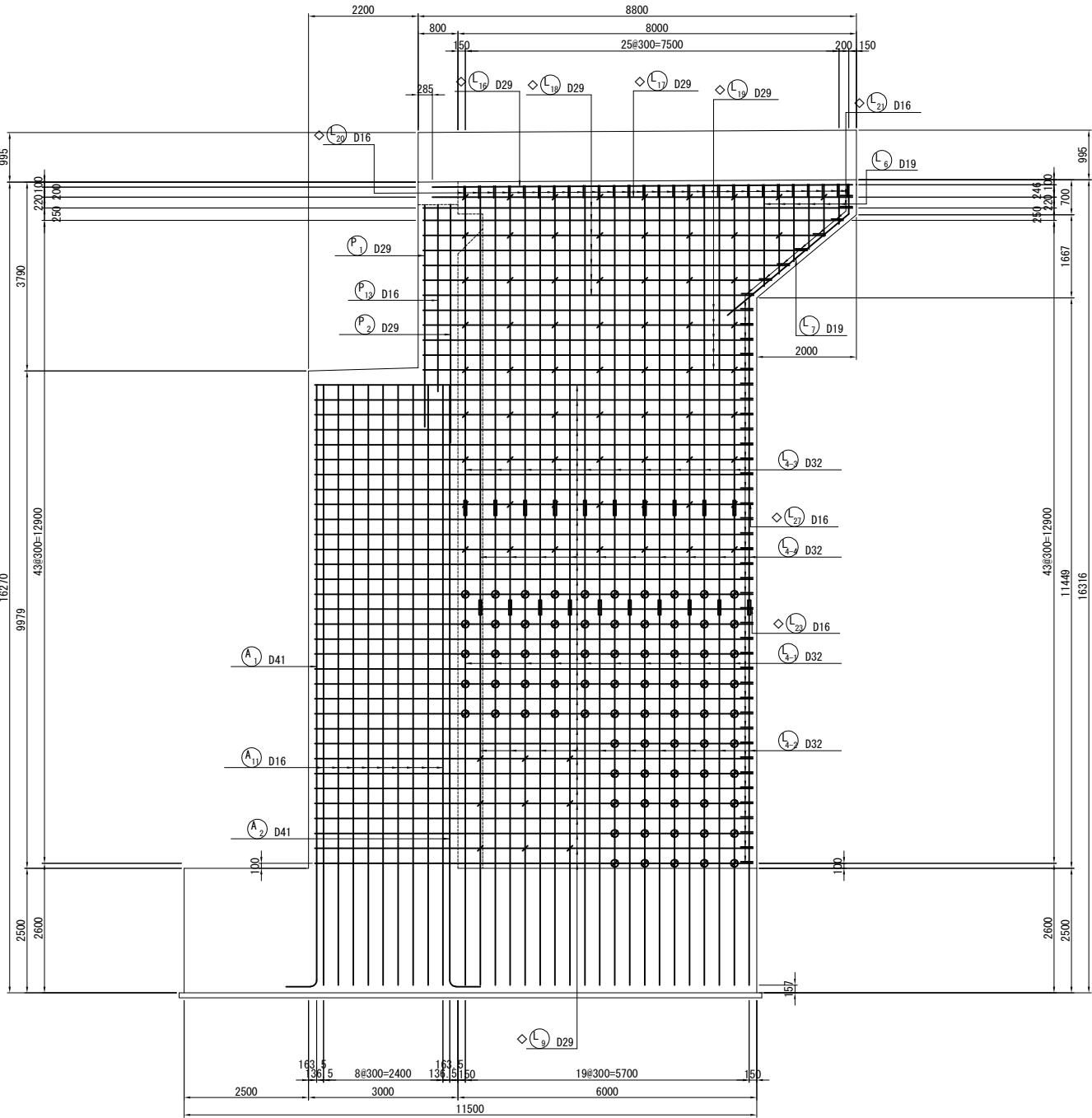
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づくこと。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

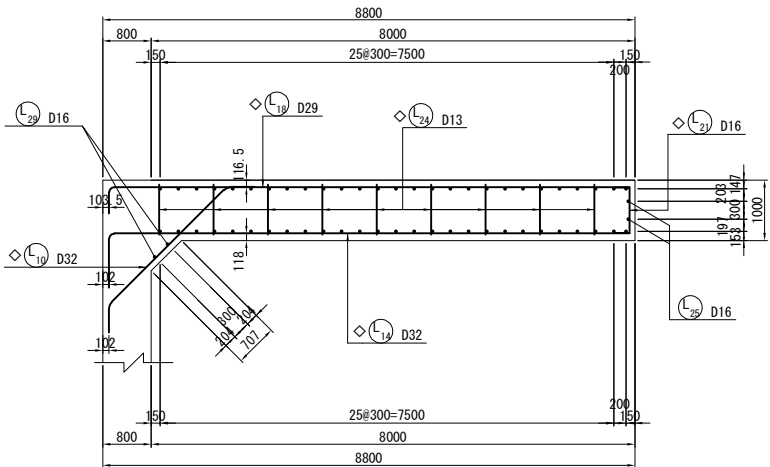
左側ウイング

1 - 1（外側）

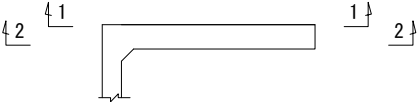
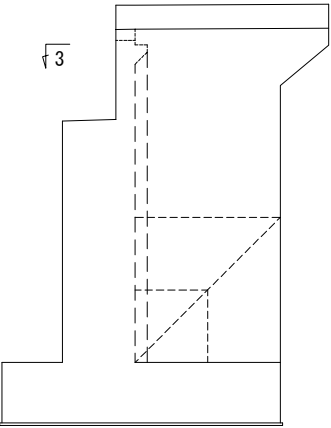
2 - 2（内側）



3 - 3

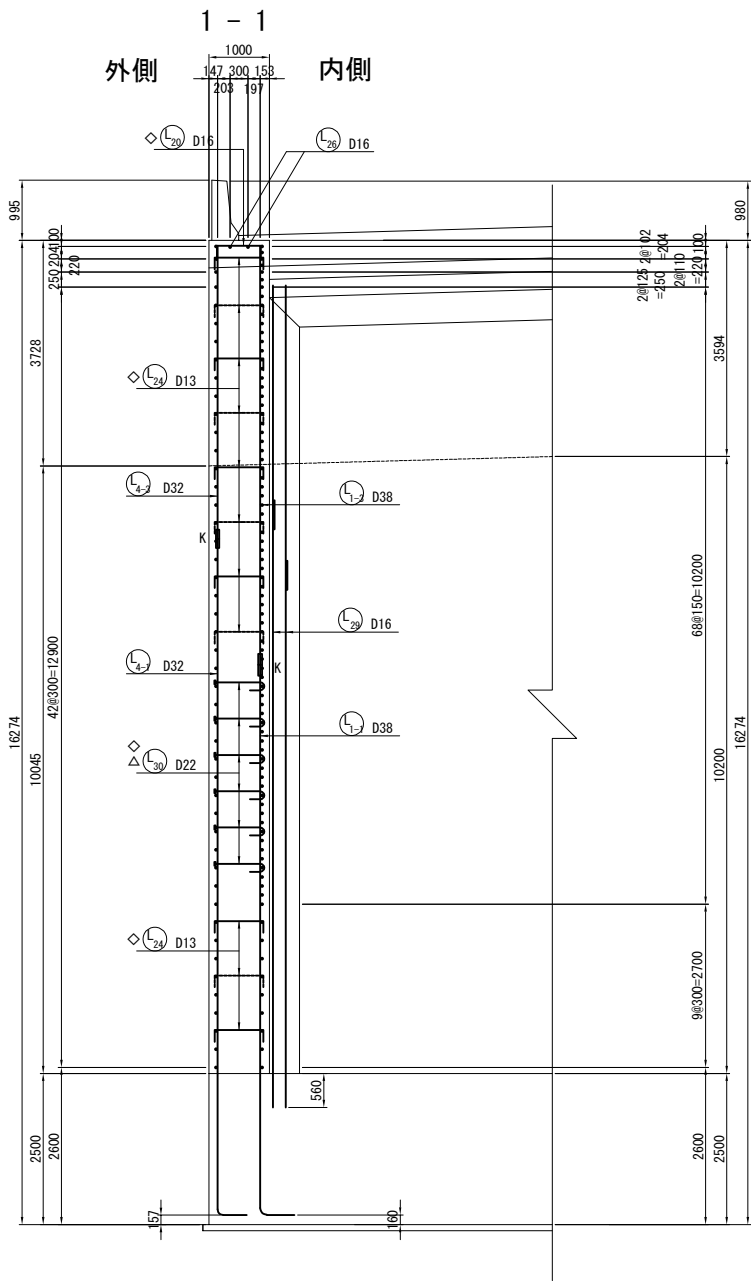


位置図

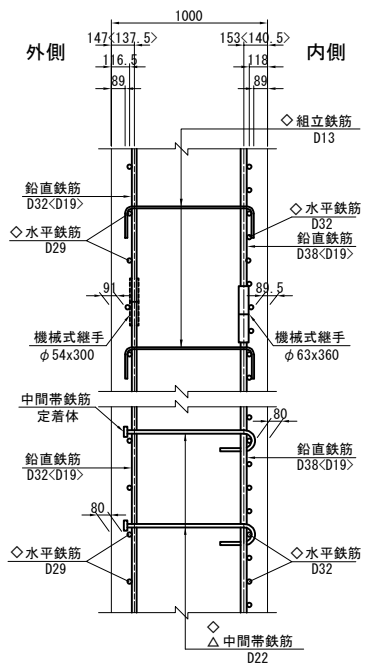


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注6) 注) の印はせん断補強鉄筋 ◇△ (L19) を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

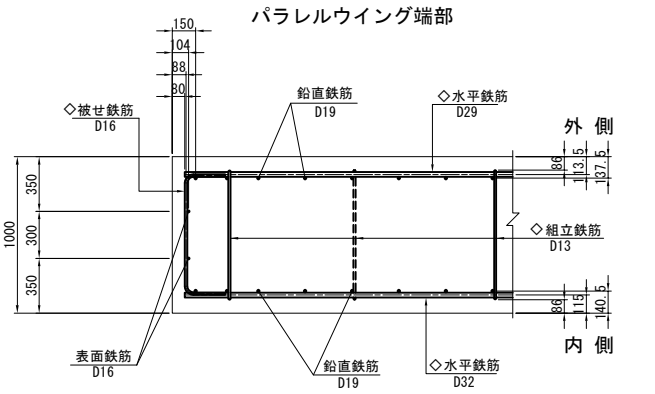
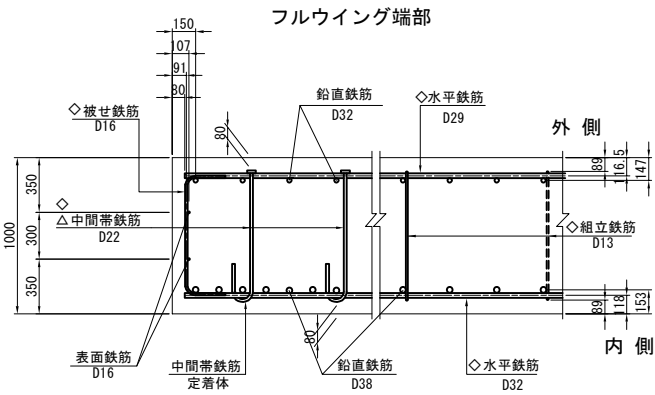


左側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50

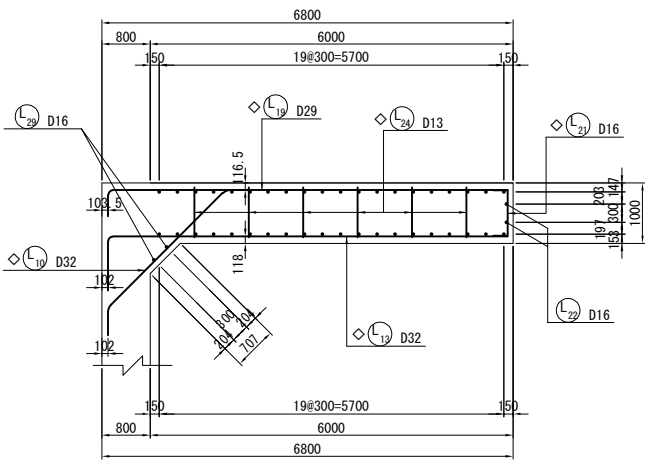


※>内は、パレルウイング部を示す

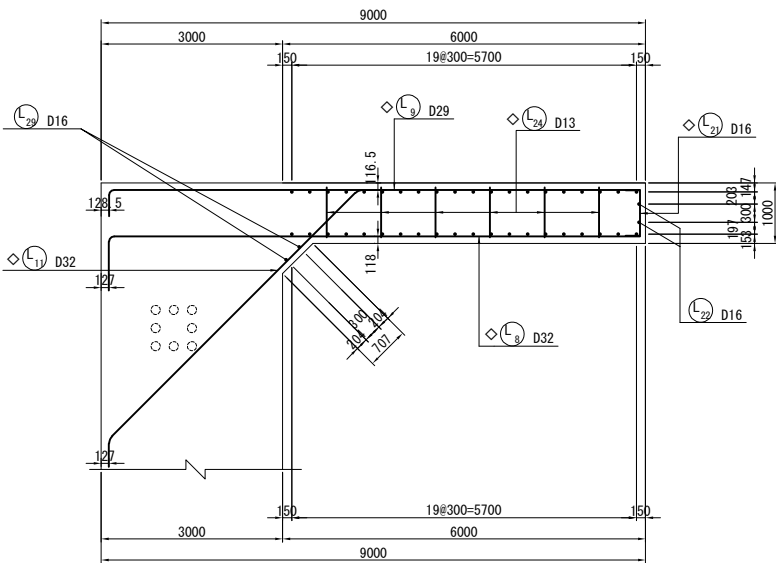
左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



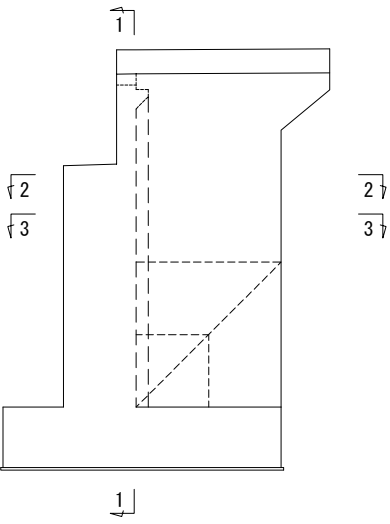
2 - 2



3 - 3



位置図



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
  2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

記 号	径	本数	a	L
1	D38	1	6527	6530
2	D38	1	6530	6530
3	D38	1	6533	6530
4	D38	1	6536	6540
5	D38	1	6539	6540
6	D38	1	6542	6540
7	D38	1	6545	6550
8	D38	1	6549	6550
9	D38	1	6552	6550
10	D38	1	6555	6560
平均長		10		6542

10-D38x4550 (平均長)

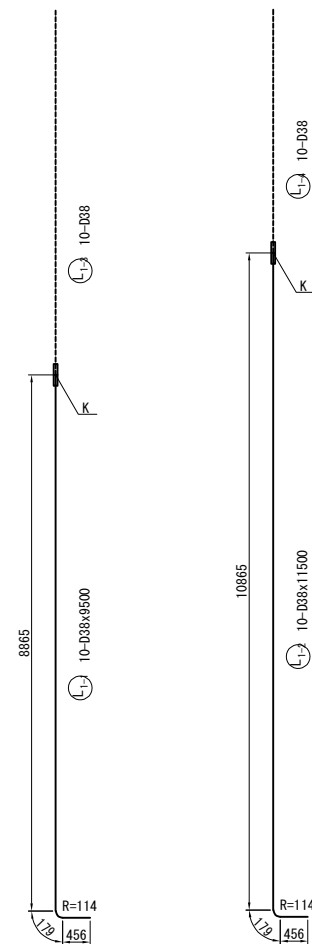
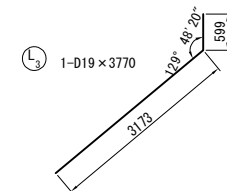
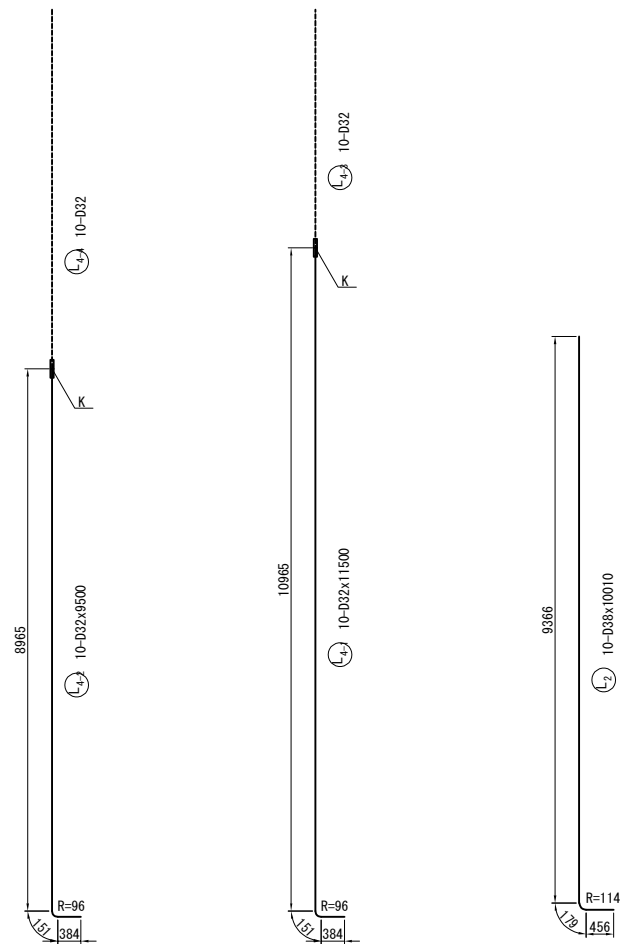


Diagram illustrating the dimensions and forces for the vertical rod assembly. The rod has a length  $a$  and a weight of  $10\text{-D32}\times 6550$  (average length). A horizontal force  $L$  is applied at the bottom, and a weight  $K$  is attached to the rod.

10-D32x4550 (平均長)

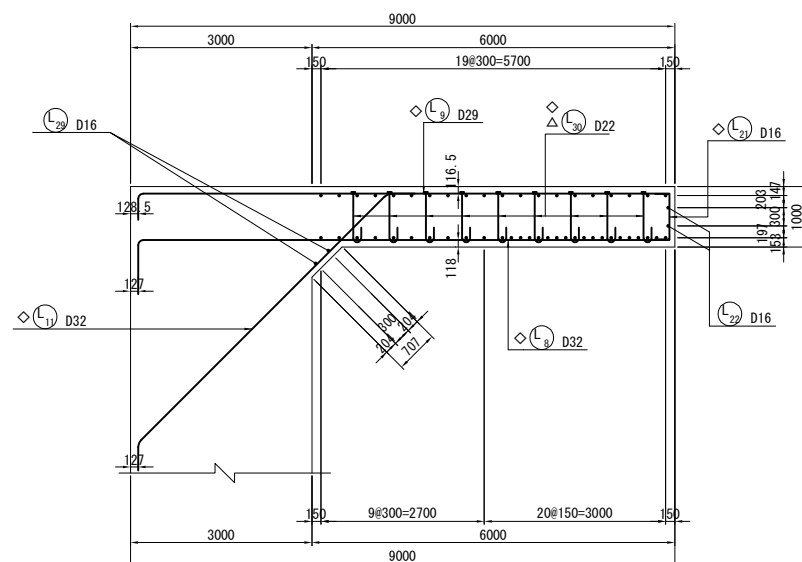


記号	径	本数	a	L
1	D19	1	810	810
2	D19	1	1058	1060
3	D19	1	1307	1310
4	D19	1	1555	1560
5	D19	1	1804	1800
6	D19	1	2052	2050
平均長		6		1432

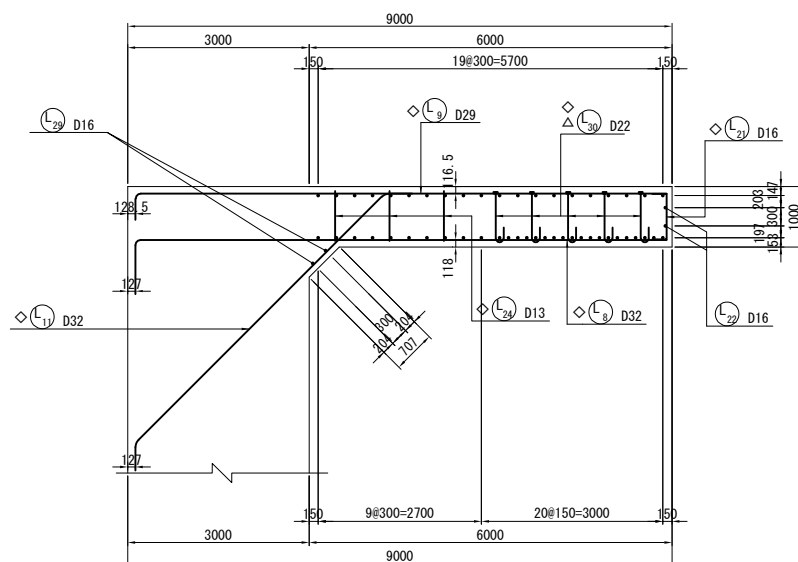
6-D19 × 1440 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D19	1	810	810
2	D19	1	1058	1060
3	D19	1	1307	1310
4	D19	1	1555	1560
5	D19	1	1804	1800
6	D19	1	2052	2050
平均長		6		1432

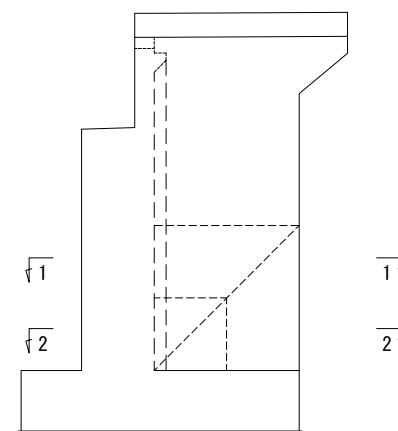
1 - 1



2 - 2



位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。

1. 道路標示方書・同解説(H29.11日本道路協会)

2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。

機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づくこと。

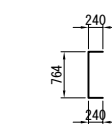
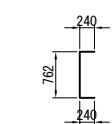
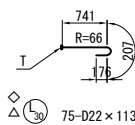
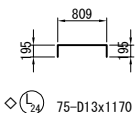
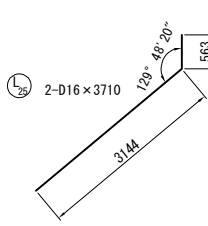
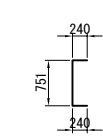
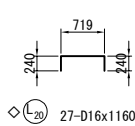
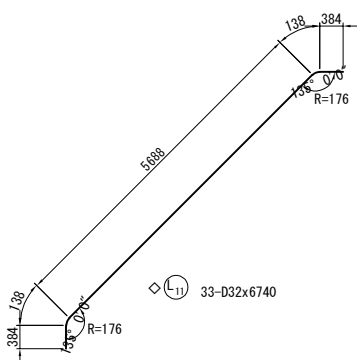
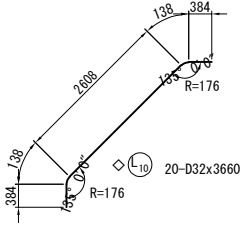
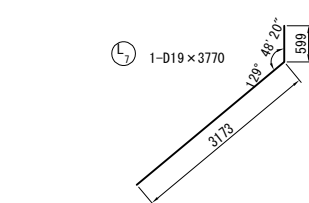
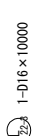
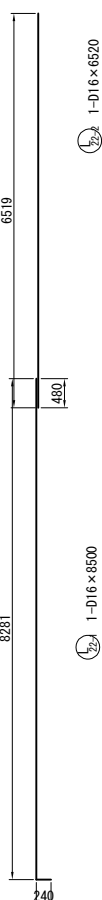
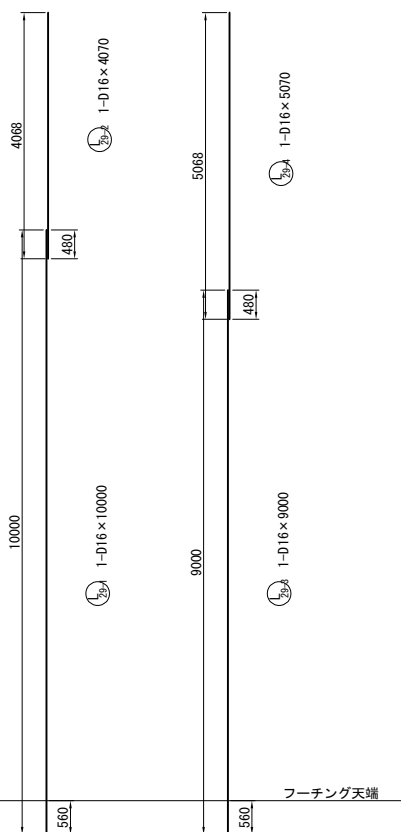
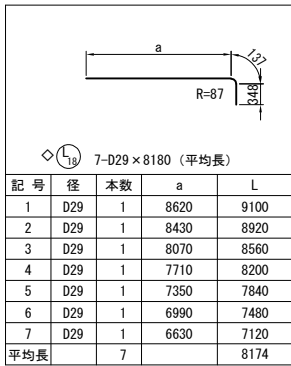
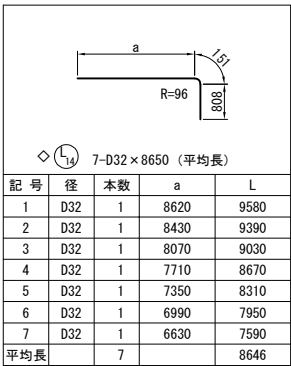
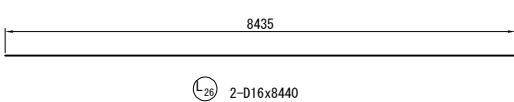
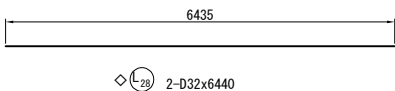
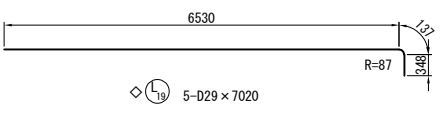
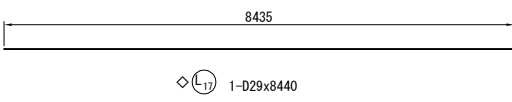
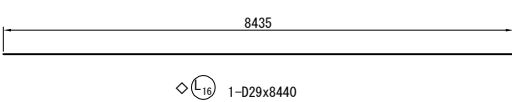
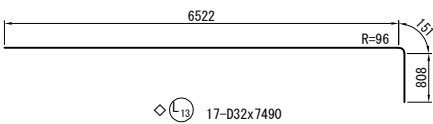
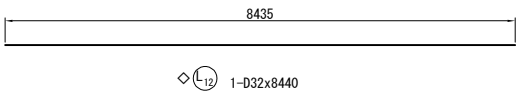
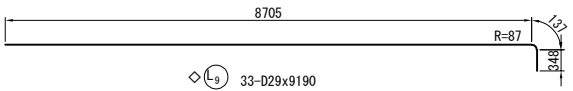
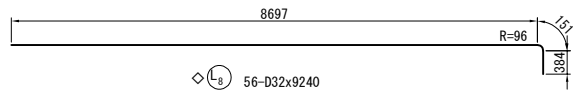
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。

注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

注6) — Kは機械継手を表す。

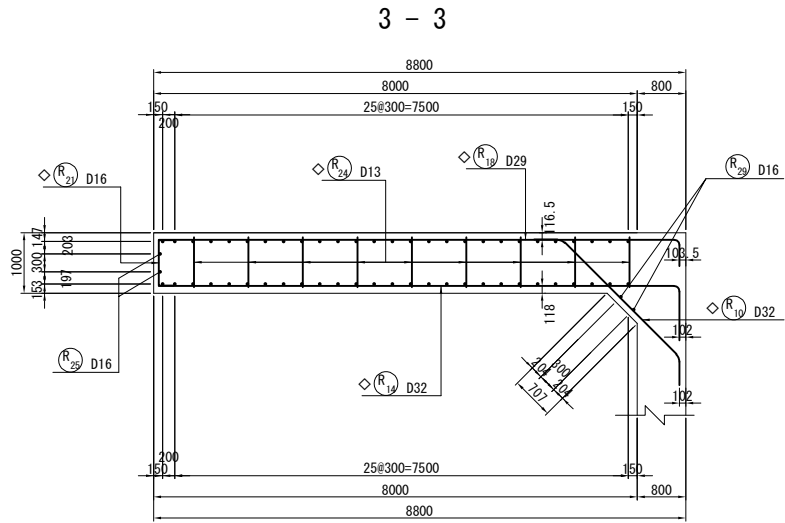
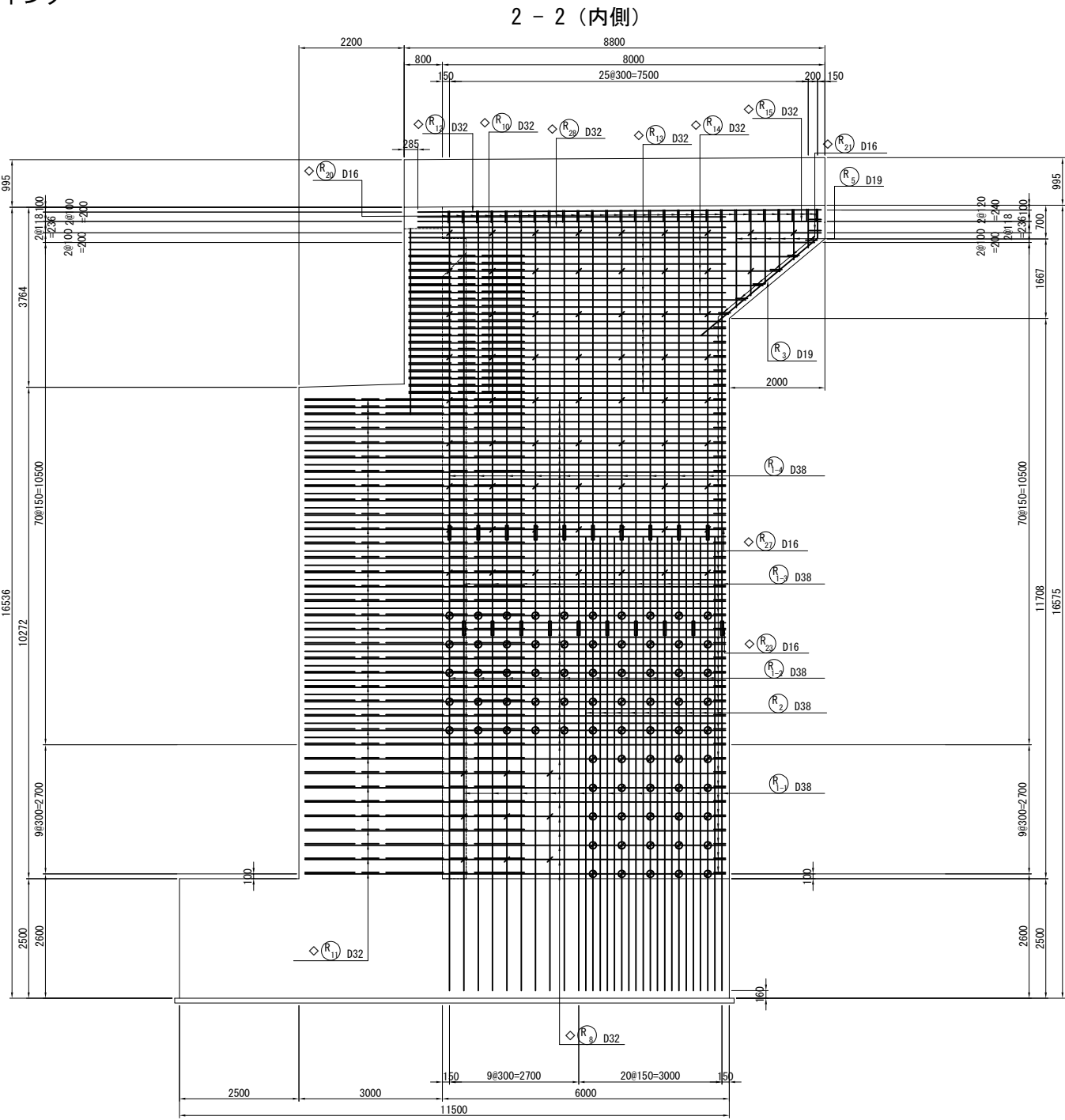
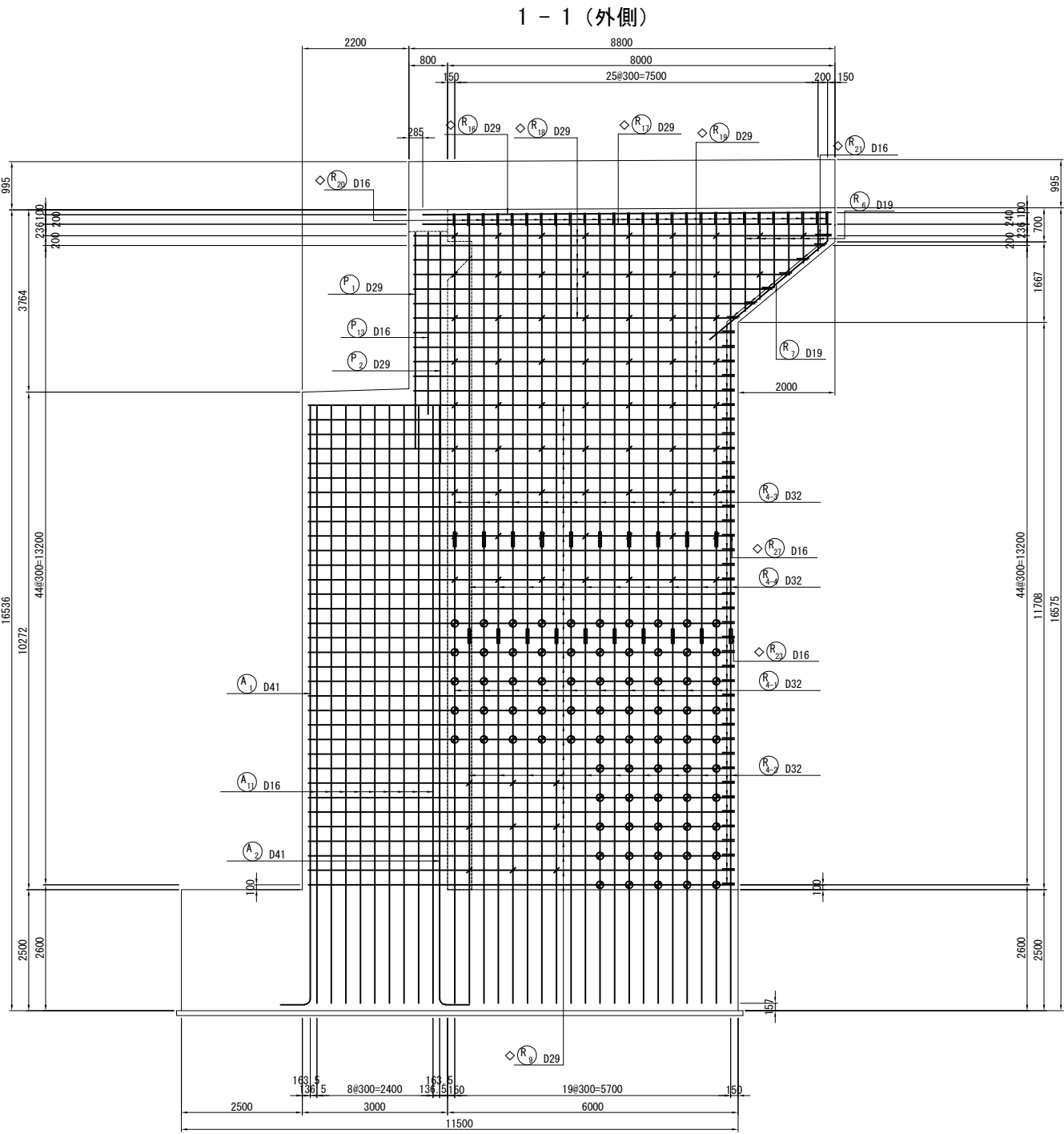
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流森川第二橋（下り線） A 2橋台配筋図（その１１）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



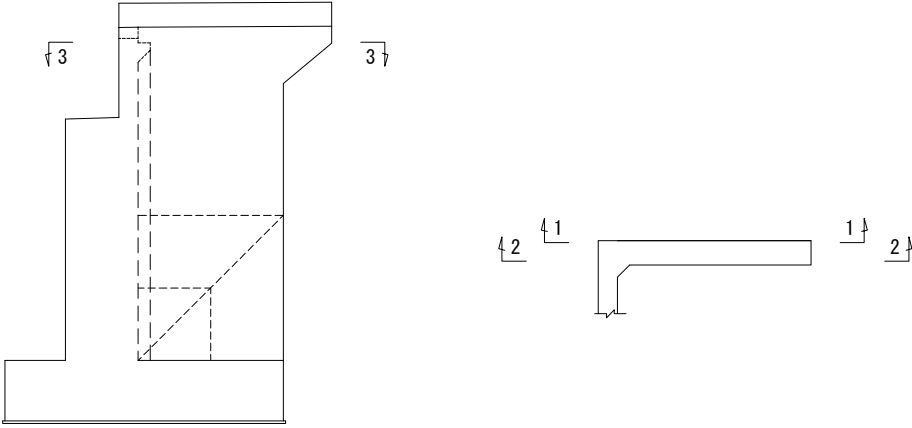
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) △印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

右側ウイング

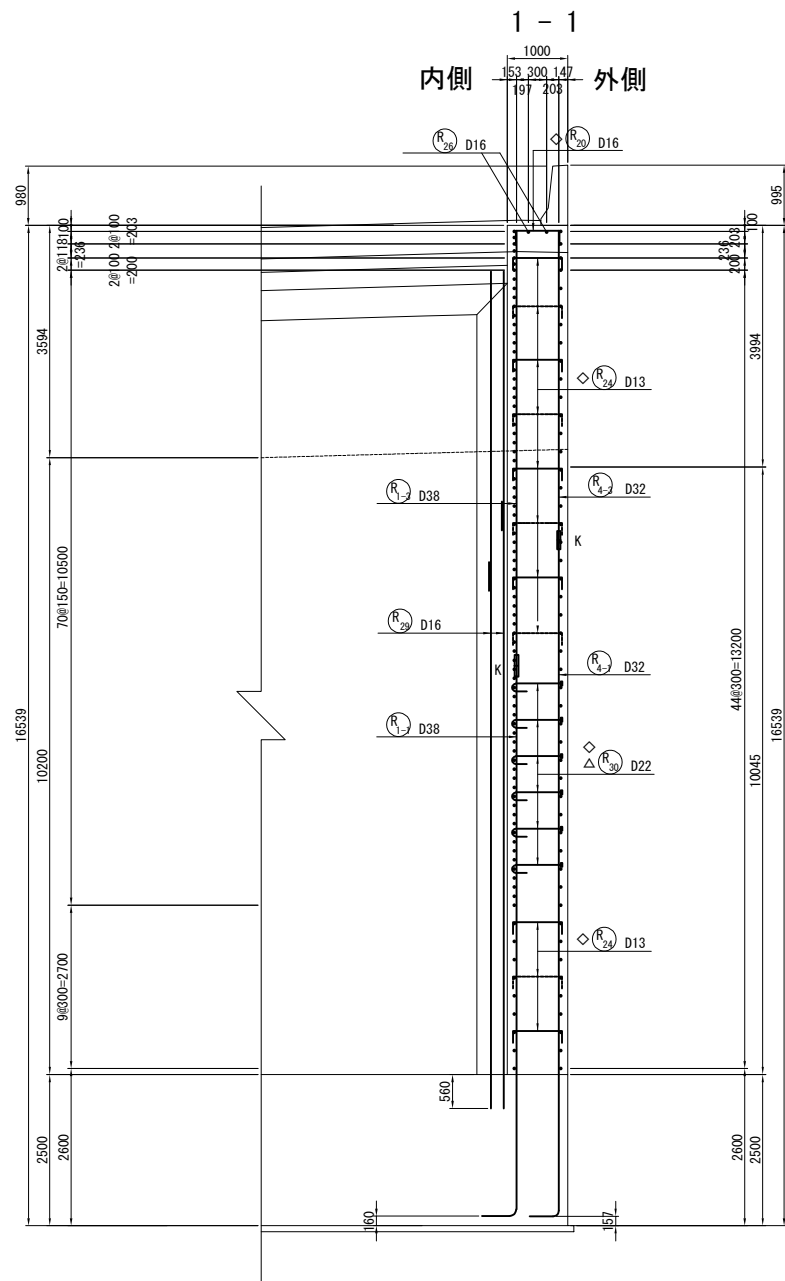


位置図

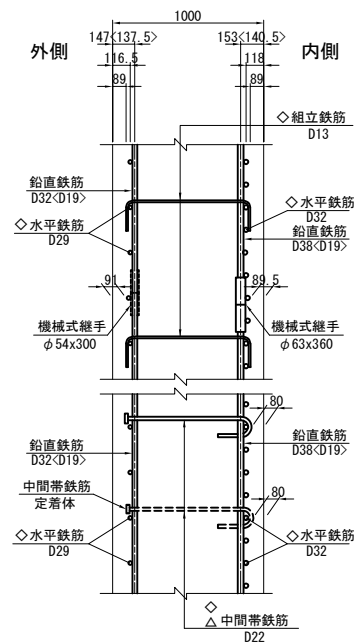


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注6) 注) の印はせん断補強鉄筋 ◇△ (R<sub>30</sub>) を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵡川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

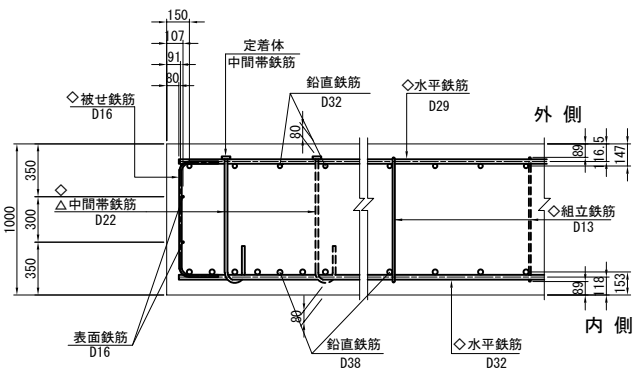


右側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50

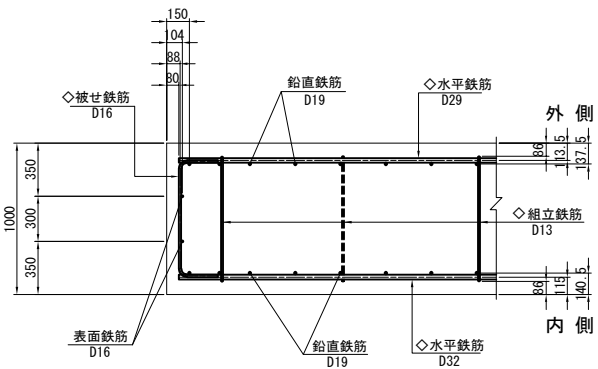


右側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50

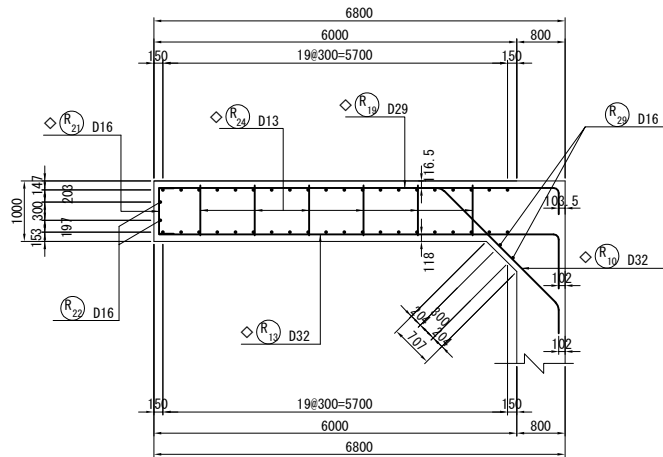
フルウイング端部



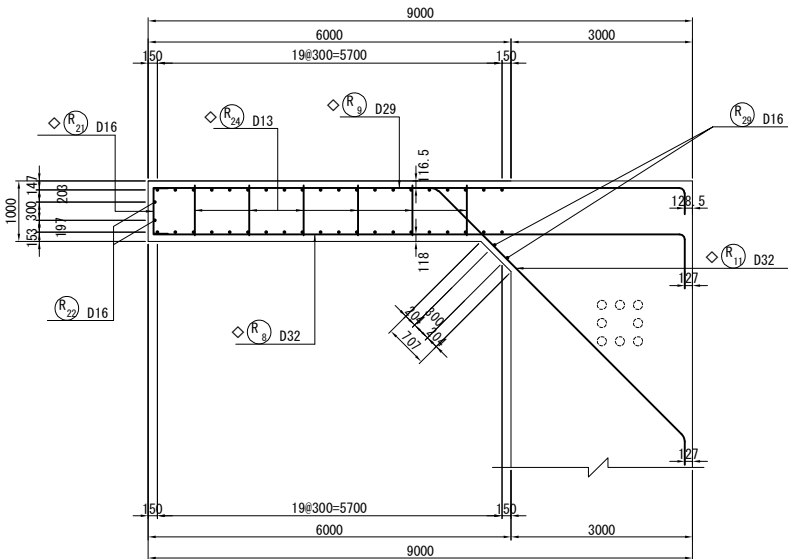
平行ウイング端部



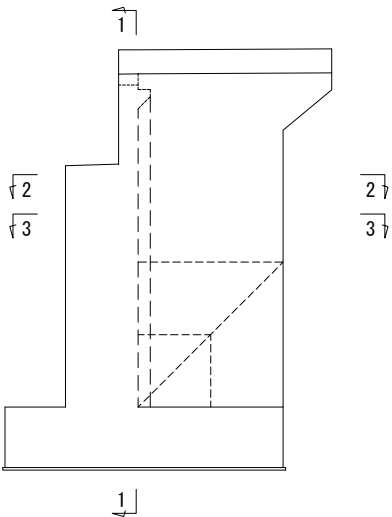
2 - 2



3 - 3



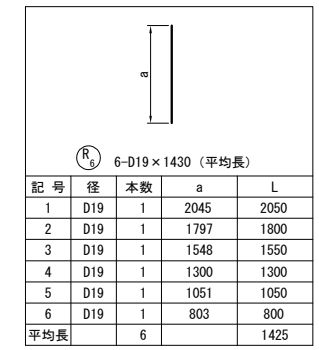
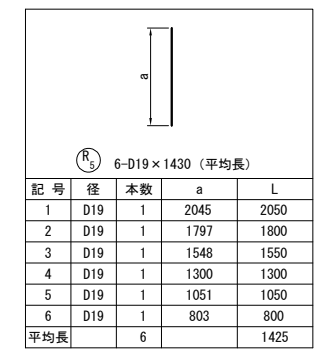
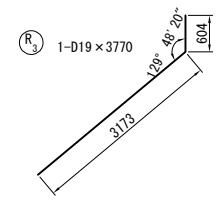
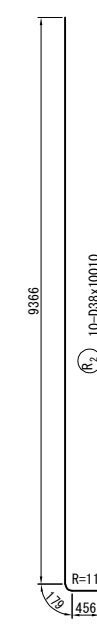
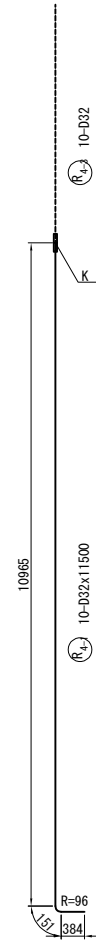
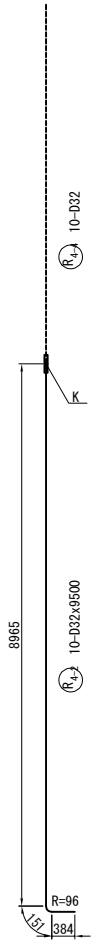
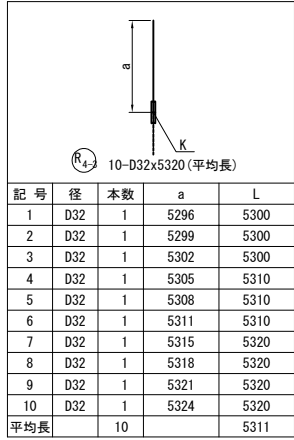
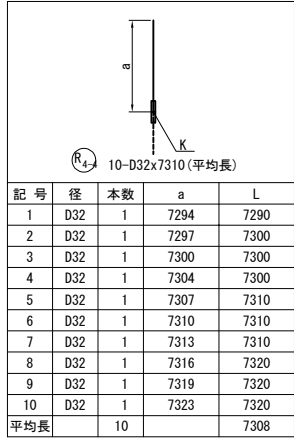
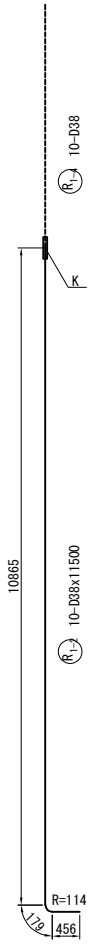
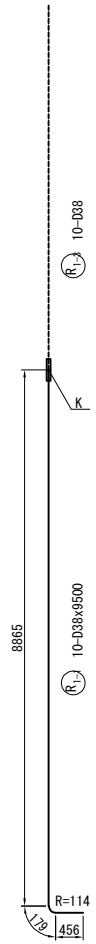
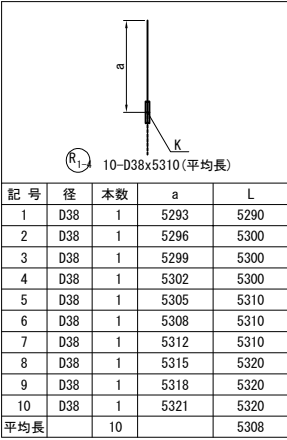
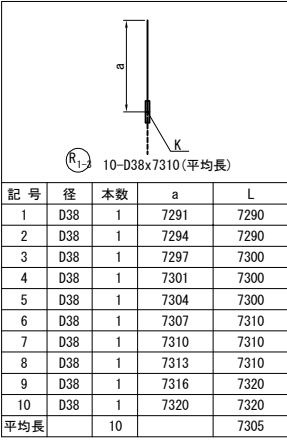
位置図



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
  2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

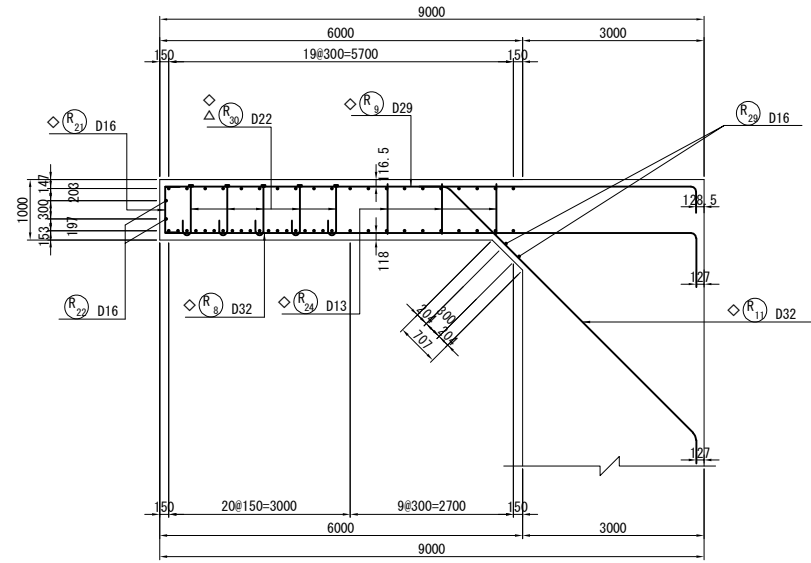
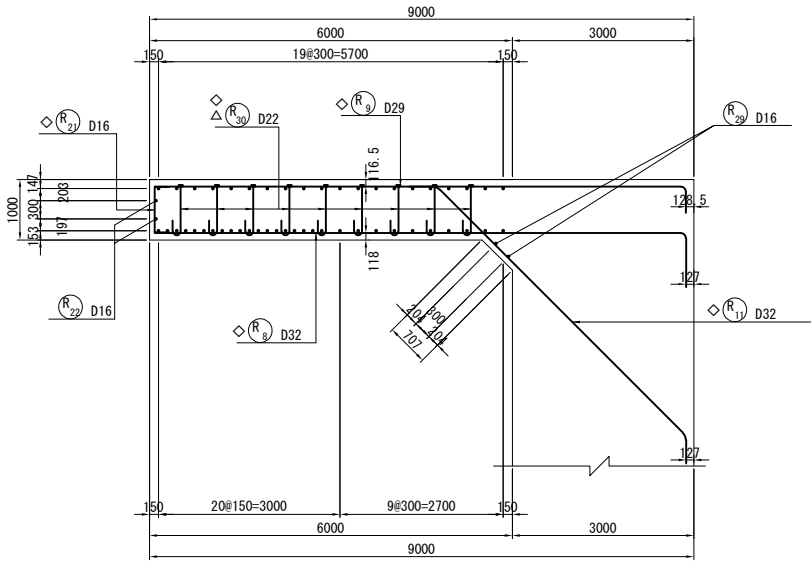
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



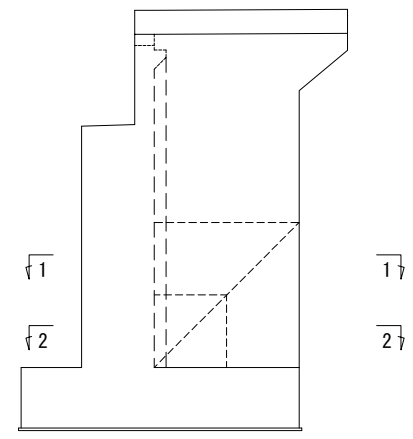


1 - 1

2 - 2

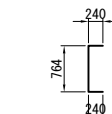
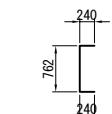
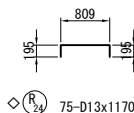
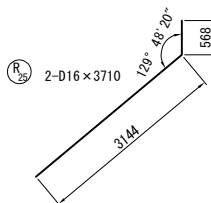
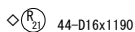
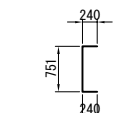
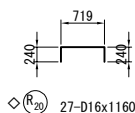
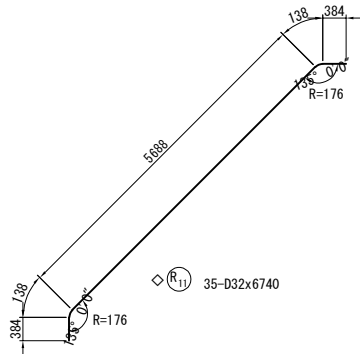
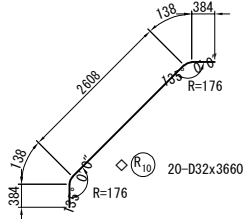
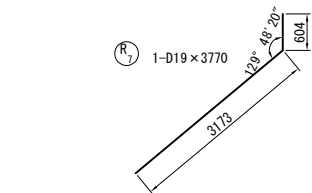
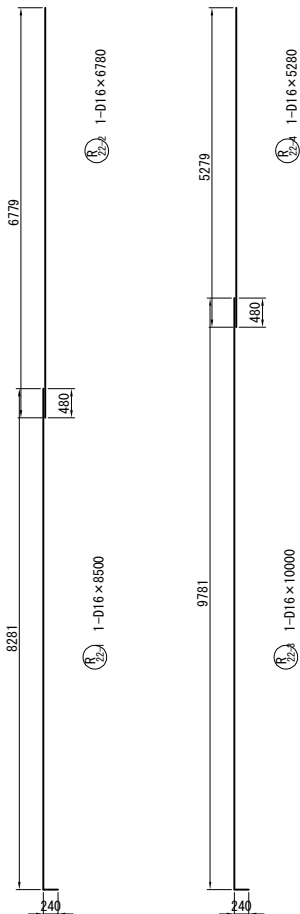
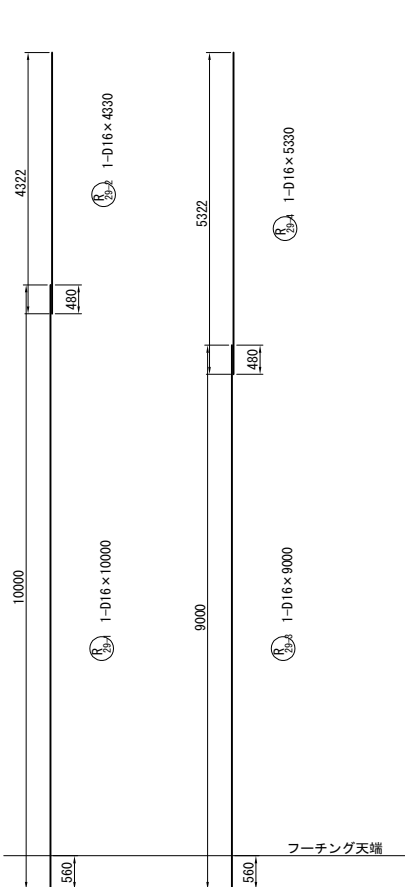
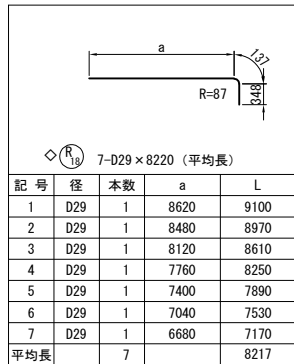
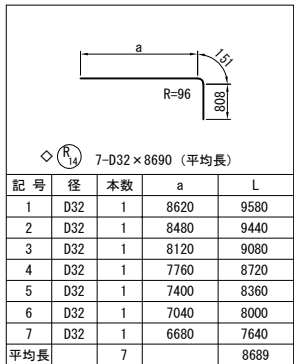
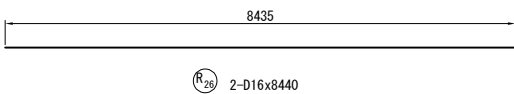
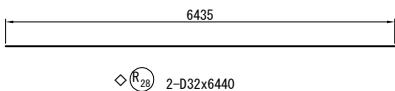
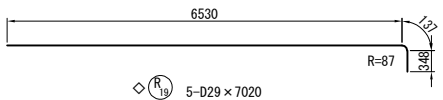
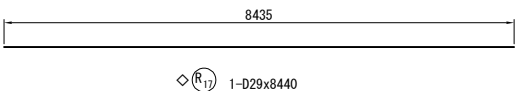
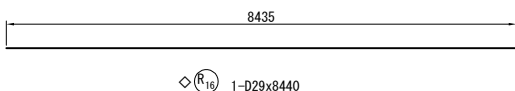
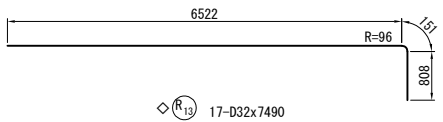
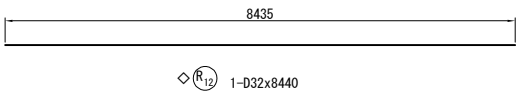
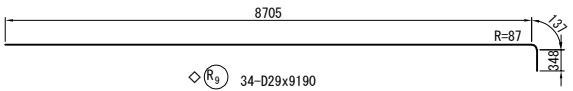
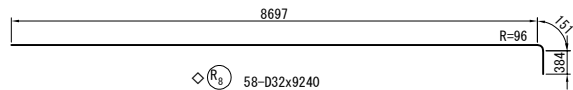


位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。  
注6) —Kは機械継手を表わす。

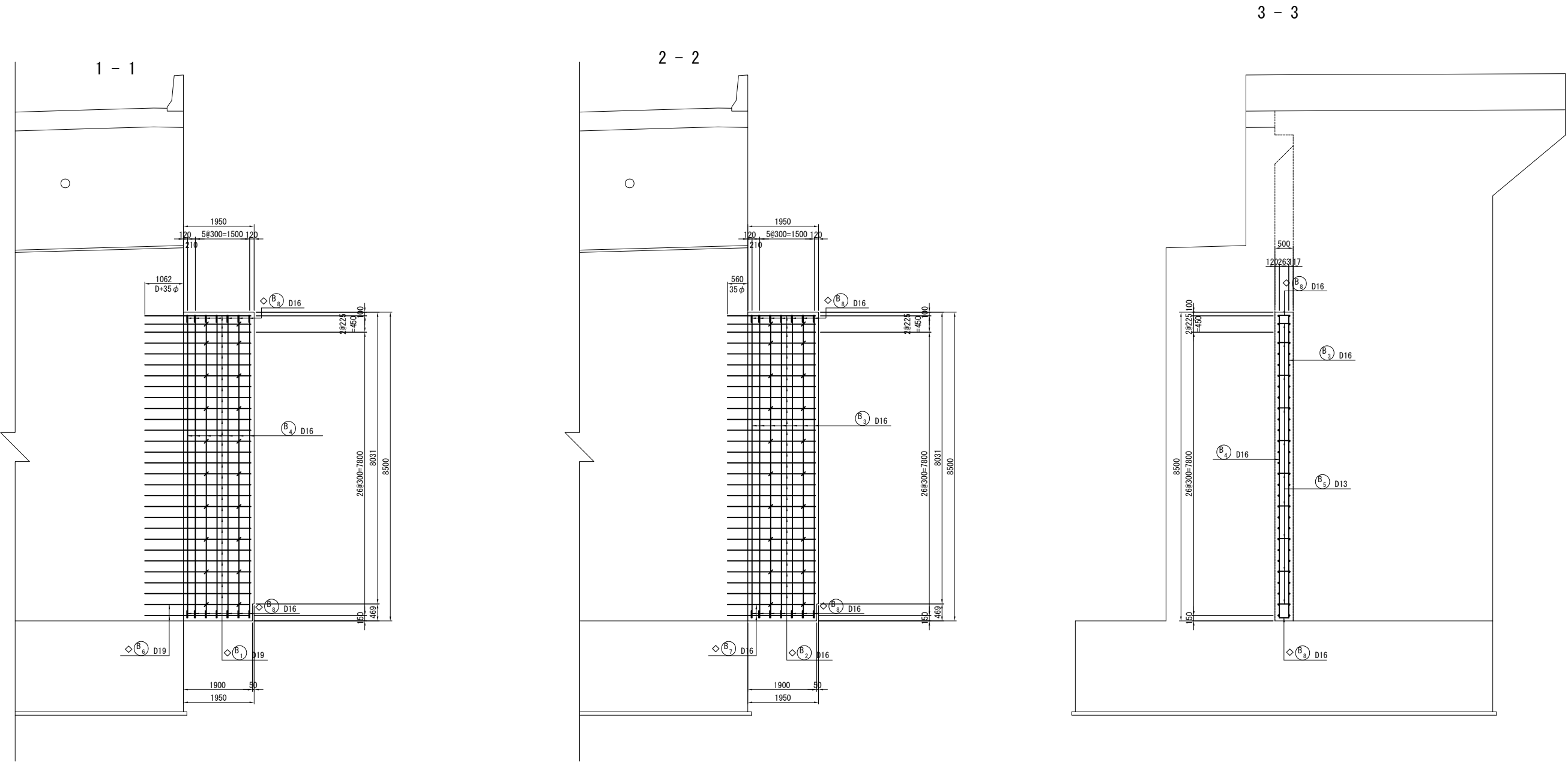
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



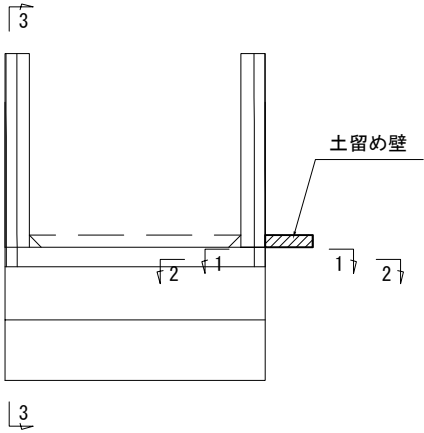
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
  - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

土留め壁

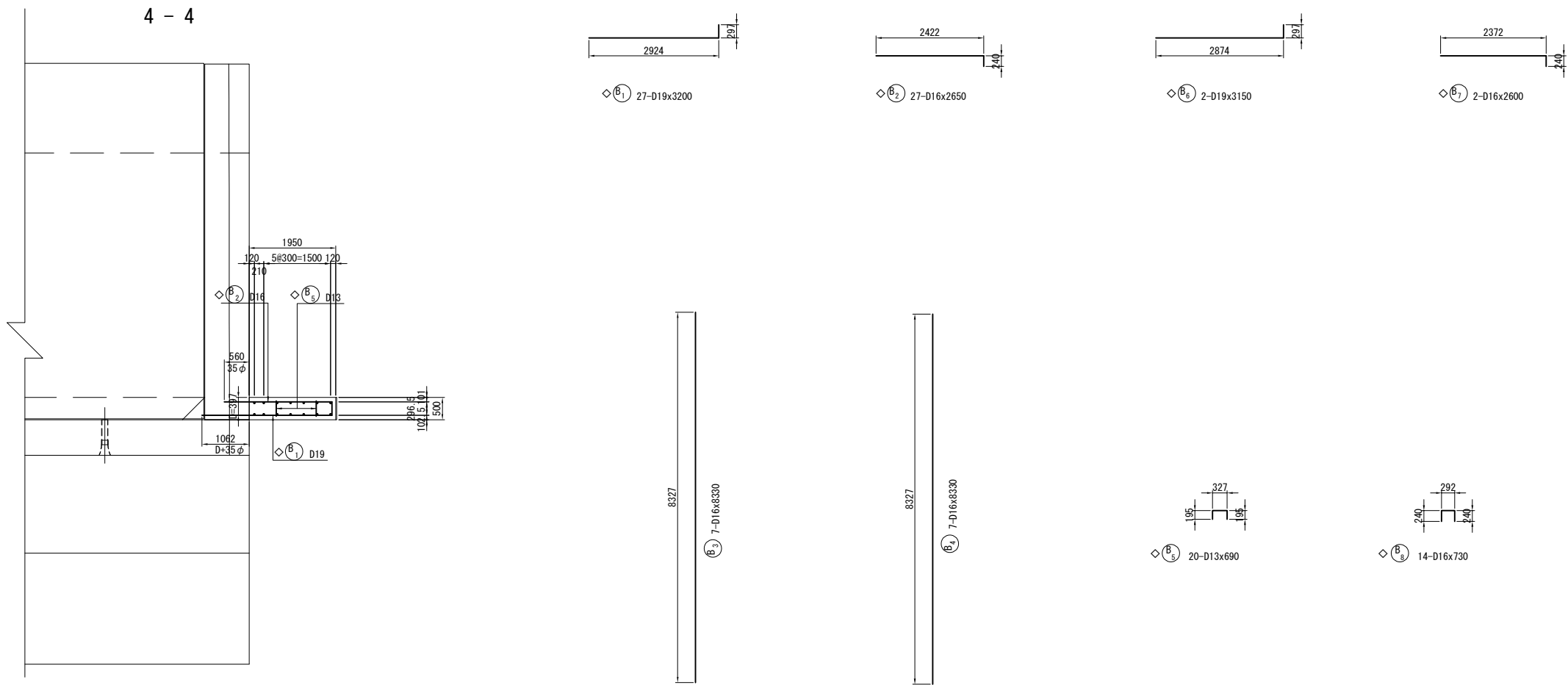


位置図



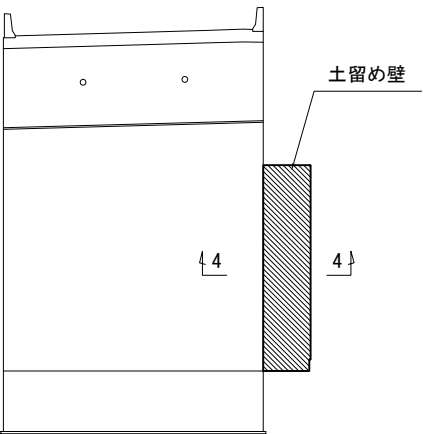
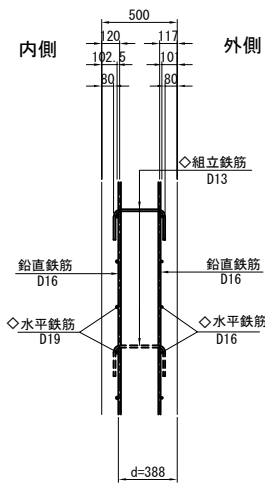
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



位置図

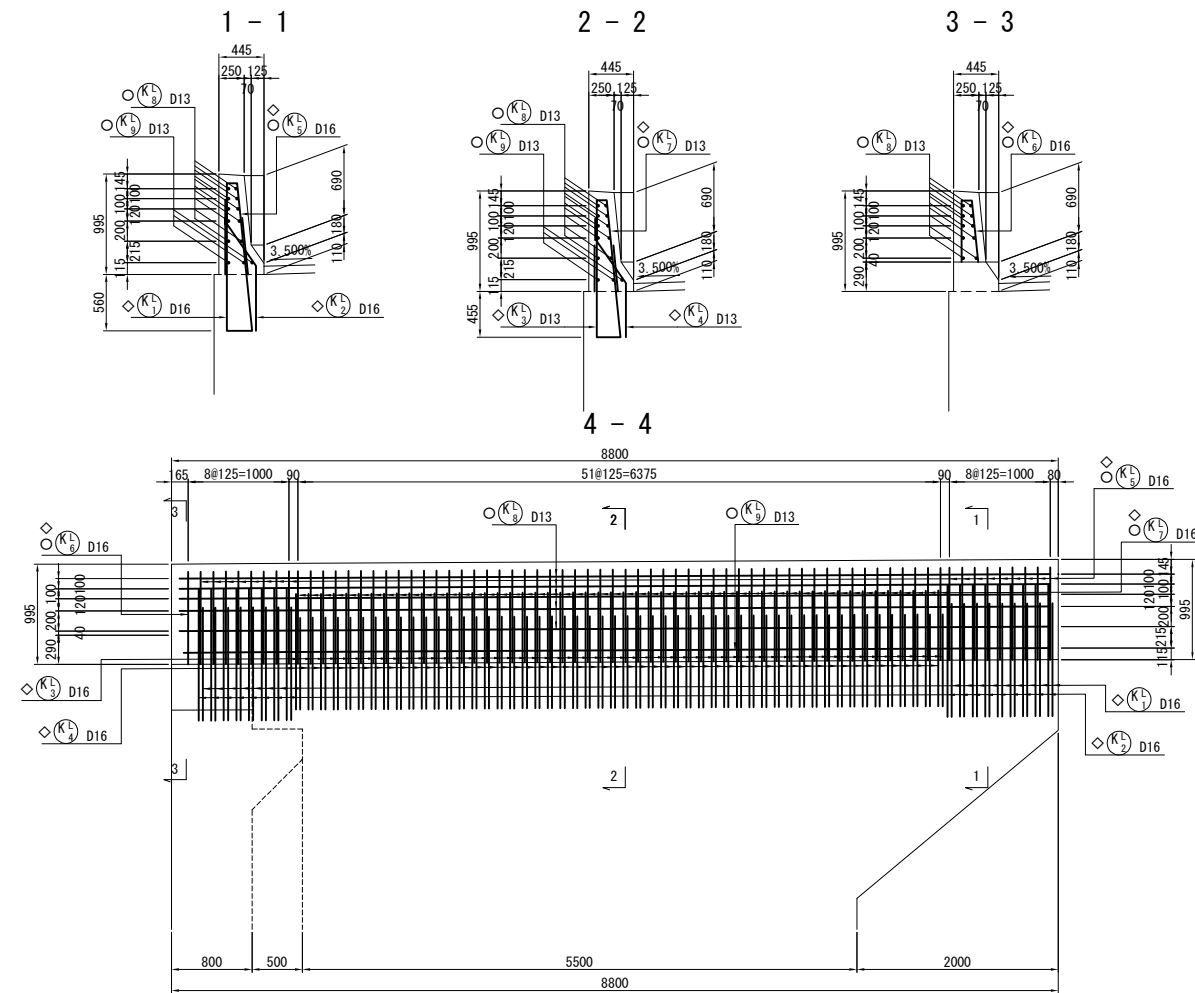
土留め壁かぶり詳細図 S=1 : 50



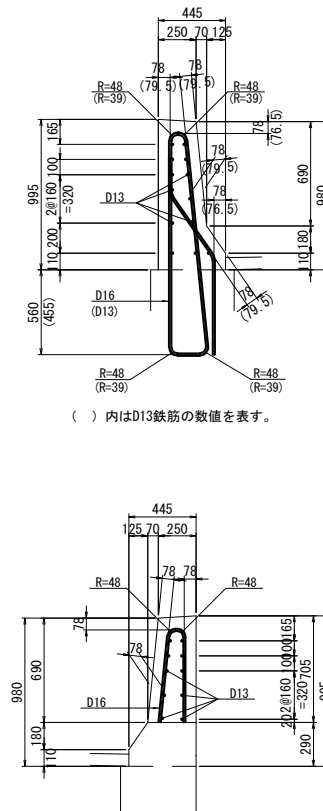
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。  
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。  
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。  
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注5) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵡川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

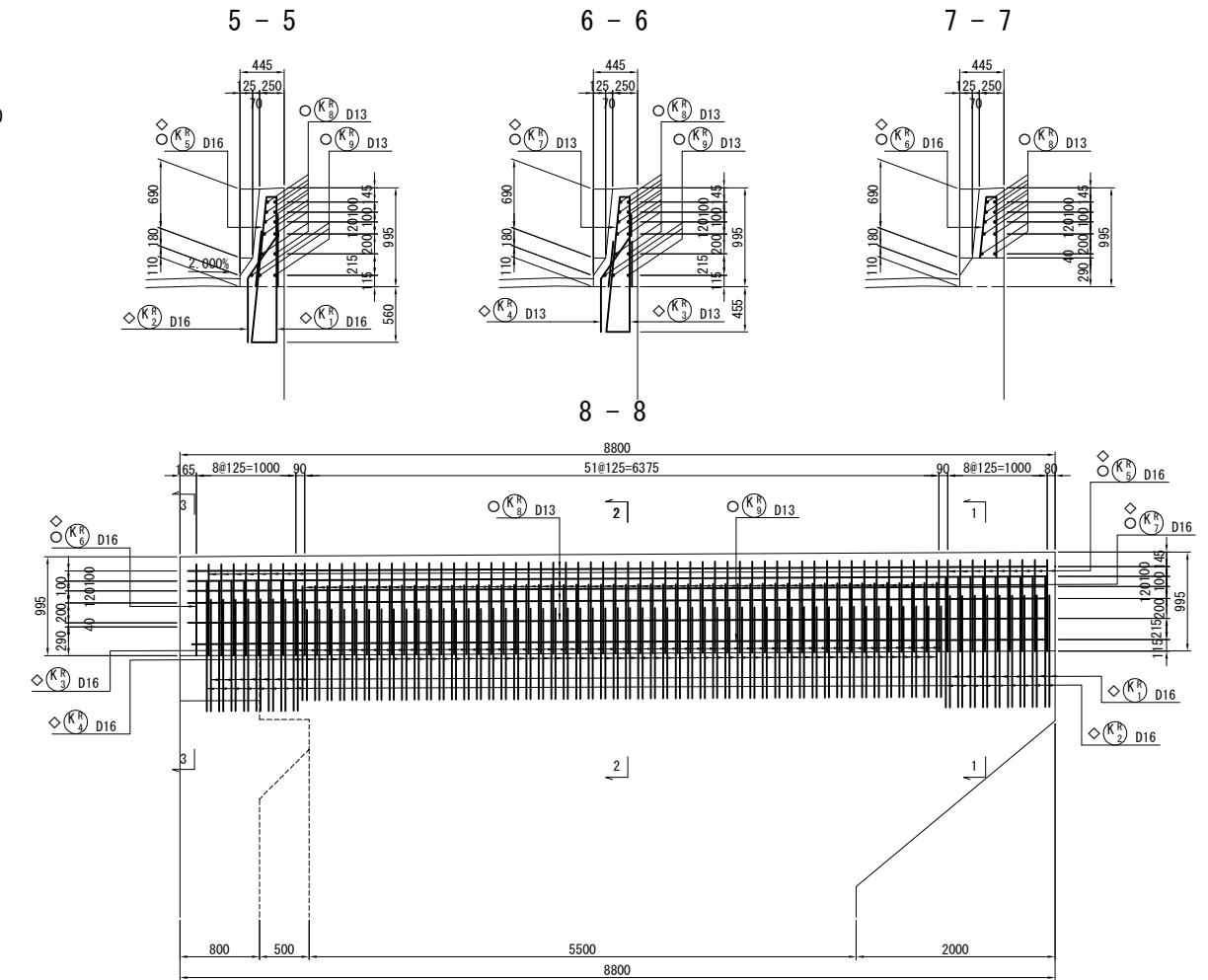
左側壁高欄断面図



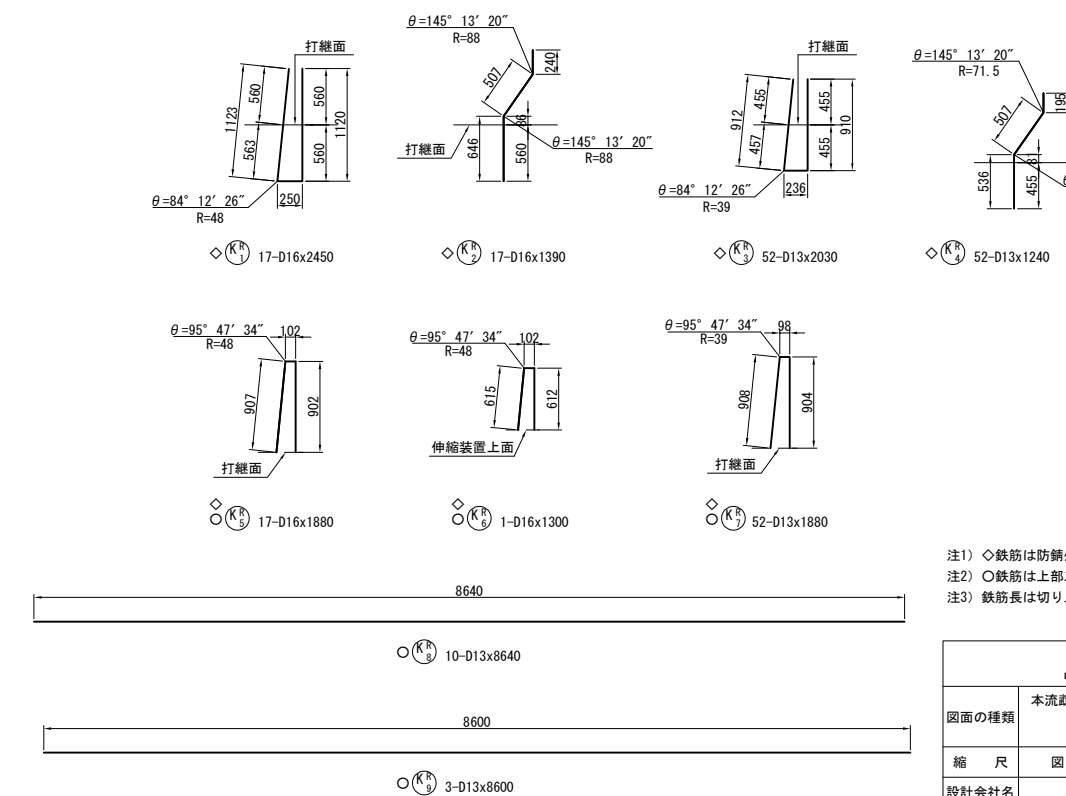
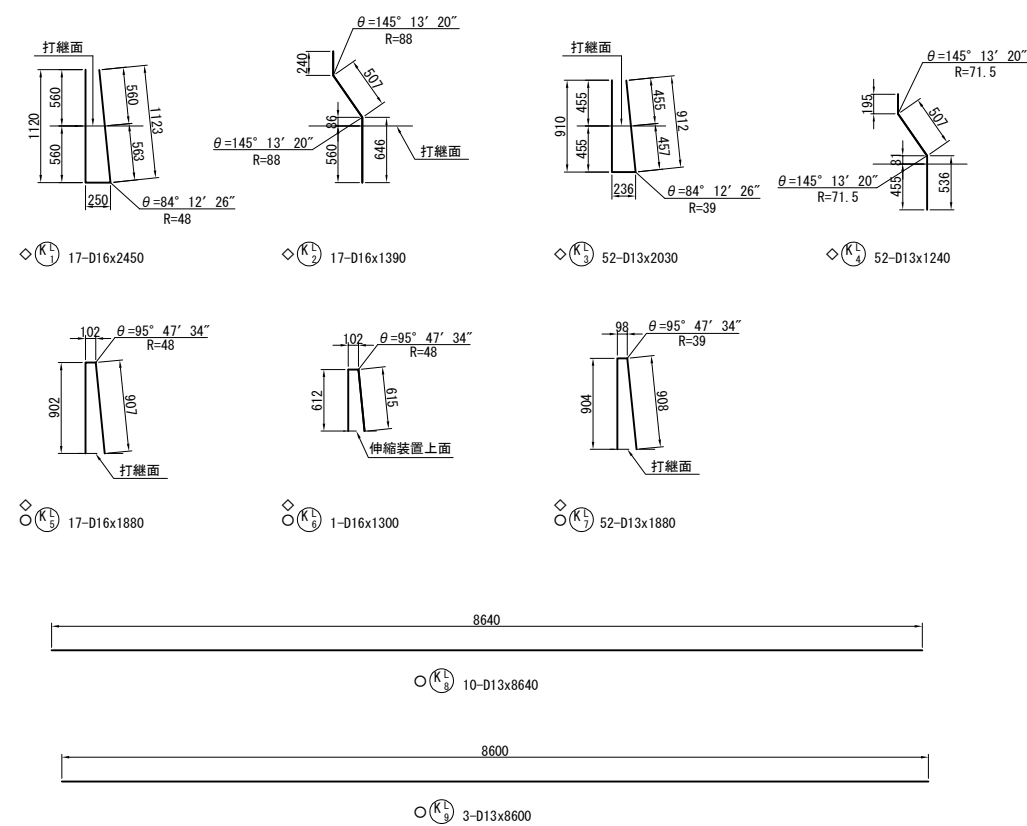
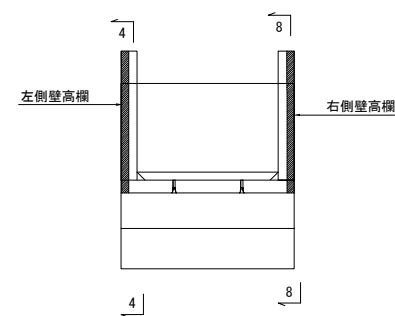
かぶり詳細図 S=1:50



右側壁高欄断面図



位置図



注1) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。  
注2) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。  
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流藤川第二橋（下り線） A 2橋台配筋図（その１９）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表（下部工施工）

	種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要		
◇	P	1	D29	4700	61	5.04	23.7	1446	└─ 平均長	
		2	D29	4380	36	5.04	22.1	796	└─ 平均長	
		3	D32	4500	12	6.23	28.0	336	└─	
		4	D19	5220	23	2.25	11.7	269	└─	
		5	D32	3000	11	6.23	18.7	206	└─	
		6	D32	3000	11	6.23	18.7	206	└─	
		7	D32	4500	11	6.23	28.0	308	└─	
		8	D19	10860	12	2.25	24.4	293	└─	
		9	D16	10600	1	1.56	16.5	17	└─	
	◇△	10-1	D19	890	70	2.25	2.00	140	C└─ [70]	
	◇△	10-2	D19	880	30	2.25	1.98	59	C└─ [30]	
	◇		11	D16	980	36	1.56	1.53	55	└─
			12	D16	10600	1	1.56	16.5	17	└─
			13	D16	3650	1	1.56	5.69	6	└─
	◇		14	D16	3640	1	1.56	5.68	6	└─
		15	D32	2920	1	6.23	18.2	18	└─	
							4178	kg		
◇	A	1-1	D41	8000	32	10.5	84.0	2688	K└─ (32)	
		1-2	D41	9500	31	10.5	99.8	3094	K└─ (31)	
		1-3	D41	4360	32	10.5	45.8	1466	K└─ 平均長	
		1-4	D41	2860	31	10.5	30.0	930	K└─ 平均長	
		2-1	D41	8000	18	10.5	84.0	1512	K└─ (18)	
		2-2	D41	9500	18	10.5	99.8	1796	K└─ (18)	
		2-3	D41	4350	18	10.5	45.7	823	K└─ 平均長	
		2-4	D41	2860	18	10.5	30.0	540	K└─ 平均長	
		3	D25	11290	65	3.98	44.9	2919	└─	
		4	D25	6590	1	3.98	26.2	26	└─	
		5	D25	3280	1	3.98	13.1	13	└─	
		6	D25	11300	1	3.98	45.0	45	└─	
		7	D25	11290	65	3.98	44.9	2919	└─	
		8	D25	6590	1	3.98	26.2	26	└─	
	◇		9	D25	11300	1	3.98	45.0	45	└─
		10	D25	3280	1	3.98	13.1	13	└─	
		11-1	D16	8000	5	1.56	12.5	63	└─	
◇△		11-2	D16	5020	5	1.56	7.83	39	└─	
		11-3	D16	6500	4	1.56	10.1	40	└─	
		11-4	D16	6520	4	1.56	10.2	41	└─	
		12-1	D16	8000	5	1.56	12.5	63	└─	
		12-2	D16	5300	5	1.56	8.27	41	└─	
		12-3	D16	6500	4	1.56	10.1	40	└─	
		12-4	D16	6800	4	1.56	10.6	42	└─	
	◇△	13	D25	3140	150	3.98	12.5	1875	C└─ [150]	
	◇△	14	D25	3150	20	3.98	12.5	250	C└─ [20]	
								21349	kg	
	◇	H	1	D16	2710	20	1.56	4.23	85	└─
			2	D16	2710	20	1.56	4.23	85	└─
			3	D16	3080	8	1.56	4.80	38	└─
									208	kg
		F	1	D35	9200	71	7.51	69.1	4906	└─
2			D25	3610	36	3.98	14.4	518	└─	
3			D35	9100	36	7.51	68.3	2459	└─	
4			D32	9220	71	6.23	57.4	4075	└─	
5			D25	7470	71	3.98	29.7	2109	└─	
6			D22	10590	40	3.04	32.2	1288	└─	
7			D16	10590	10	1.56	16.5	165	└─	
8			D22	10590	21	3.04	32.2	676	└─	
9			D29	10590	21	5.04	53.4	1121	└─	
10			D22	10590	18	3.04	32.2	580	└─	
11			D19	10580	22	2.25	23.8	524	└─	
12	D19		11850	22	2.25	26.7	587	└─		
△	13		D16	2750	20	1.56	4.29	86	└─	
△	14	D22	2620	148	3.04	7.96	1178	C└─ [148]		
	15	D16	2550	36	1.56	3.98	143	C└─ [36]		
								20415	kg	
◇	E	1	D16	2920	29	1.56	4.56	132	└─	
		2	D16	9880	2	1.56	15.4	31	└─	
		3	D22	520	11	3.04	1.58	17	└─	
		4	D13	1590	11	0.995	1.58	17	└─	
								197	kg	
	◇	S	1	D16	3720	36	1.56	5.80	209	└─
			2-1	D16	4710	5	1.56	7.35	37	└─
			2-2	D16	7500	5	1.56	11.7	59	└─
			2-3	D16	8500	5	1.56	13.3	67	└─
			2-4	D16	3710	5	1.56	5.79	29	└─
	◇△	3	D16	3020	26	1.56	4.71	122	C└─ [26]	
								523	kg	
	◇	Y	1	D16	500	16	1.56	0.780	12	└─
									12	kg

	種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要	
◇	J	1	D13	1650	68	0.995	1.64	112 └─	
							112 kg		
	L	1-1	D38	9500	10	8.95	85.0	850 K└─ (10)	
		1-2	D38	11500	10	8.95	103	1030 K└─ (10)	
		1-3	D38	6550	10	8.95	58.6	586 K└─ 平均長	
		1-4	D38	4550	10	8.95	40.7	407 K└─ 平均長	
		2	D38	10010	10	8.95	89.6	896 K└─	
		3	D19	3770	1	2.25	8.48	8 K└─	
		4-1	D32	11500	10	6.23	71.6	716 K└─ (10)	
		4-2	D32	9500	10	6.23	59.2	592 K└─ (10)	
		4-3	D32	4550	10	6.23	28.3	283 K└─ 平均長	
		4-4	D32	6550	10	6.23	40.8	408 K└─ 平均長	
		5	D19	1440	6	2.25	3.24	19└─ 平均長	
		6	D19	1440	6	2.25	3.24	19└─ 平均長	
		7	D19	3770	1	2.25	8.48	8└─	
	◇	8	D32	9240	56	6.23	57.6	3226└─	
◇	9	D29	9190	33	5.04	46.3	1528└─		
◇	10	D32	3660	20	6.23	22.8	456└─		
◇	11	D32	6740	33	6.23	42.0	1386└─		
◇	12	D32	8440	1	6.23	52.6	53└─		
◇	13	D32	7490	17	6.23	46.7	794└─		
◇	14	D32	8650	7	6.23	53.9	377└─ 平均長		
◇	15	D32	8440	1	6.23	52.6	53└─		
◇	16	D29	8440	1	5.04	42.5	43└─		
◇	17	D29	8440	1	5.04	42.5	43└─		
◇	18	D29	8180	7	5.04	41.2	288└─ 平均長		
◇	19	D29	7020	5	5.04	35.4	177└─		
◇	20	D16	1160	27	1.56	1.81	49└─		
◇	21	D16	1190	44	1.56	1.86	82└─		
◇	22-1	D16	8500	1	1.56	13.3	13└─		
	22-2	D16	6520	1	1.56	10.2	10└─		
	22-3	D16	10000	1	1.56	15.6	16└─		
	22-4	D16	5020	1	1.56	7.83	8└─		
	◇	23	D16	1200	1	1.56	1.87	2└─	
	◇	24	D13	1170	75	0.995	1.16	87└─	
	◇	25	D16	3710	2	1.56	5.79	12└─	
	◇	26	D16	8440	2	1.56	13.2	26└─	
	◇	27	D16	1210	1	1.56	1.89	2└─	
	◇	28	D32	6440	2	6.23	40.1	80└─	
	◇	29-1	D16	10000	1	1.56	15.6	16└─	
	◇	29-2	D16	4070	1	1.56	6.35	6└─	
	◇	29-3	D16	9000	1	1.56	14.0	14└─	
	◇	29-4	D16	5070	1	1.56	7.91	8└─	
	◇△	30	D22	1130	75	3.04	3.44	258 C└─ [75]	
							14935 kg		
◇	R	1-1	D38	9500	10	8.95	85.0	850 K└─ (10)	
		1-2	D38	11500	10	8.95	103	1030 K└─ (10)	
		1-3	D38	7310	10	8.95	65.4	654 K└─ 平均長	
		1-4	D38	5310	10	8.95	47.5	475 K└─ 平均長	
		2	D38	10010	10	8.95	89.6	896 K└─	
		3	D19	3770	1	2.25	8.48	8 K└─	
		4-1	D32	11500	10	6.23	71.6	716 K└─ (10)	
		4-2	D32	9500	10	6.23	59.2	592 K└─ (10)	
		4-3	D32	5320	10	6.23	33.1	331 K└─ 平均長	
		4-4	D32	7310	10	6.23	45.5	455 K└─ 平均長	
		5	D19	1430	6	2.25	3.22	19└─ 平均長	
		6	D19	1430	6	2.25	3.22	19└─ 平均長	
		7	D19	3770	1	2.25	8.48	8└─	
	◇	8	D32	9240	58	6.23	57.6	3341└─	
	◇	9	D29	9190	34	5.04	46.3	1574└─	
	◇	10	D32	3660	20	6.23	22.8	456└─	
◇	11	D32	6740	35	6.23	42.0	1470└─		
◇	12	D32	8440	1	6.23	52.6	53└─		
◇	13	D32	7490	17	6.23	46.7	794└─		
◇	14	D32	8690	7	6.23	54.1	379└─ 平均長		
◇	15	D32	8440	1	6.23	52.6	53└─		
◇	16	D29	8440	1	5.04	42.5	43└─		
◇	17	D29	8440	1	5.04	42.5	43└─		
◇	18	D29	8220	7	5.04	41.4	290└─ 平均長		
◇	19	D29	7020	5	5.04	35.4	177└─		
◇	20	D16	1160	27	1.56	1.81	49└─		
◇	21	D16	1190	44	1.56	1.86	82└─		
◇	22-1	D16	8500	1	1.56	13.3	13└─		
	22-2	D16	6780	1	1.56	10.6	11└─		
	22-3	D16	10000	1	1.56	15.6	16└─		
	22-4	D16	5280	1	1.56	8.24	8└─		
	◇	23	D16	1200	1	1.56	1.87	2└─	
	◇	24	D13	1170	75	0.995	1.16	87└─	
	◇	25	D16	3710	2	1.56	5.79	12└─	
	◇	26	D16	8440	2	1.56	13.2	26└─	
	◇	27	D16	1210	1	1.56	1.89	2└─	
	◇								

鉄筋表（下部工施工）

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
下部工施工鉄筋質量							
エポキシ樹脂塗装鉄筋							
SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	(機械継手)〔機械式定着〕		
D41					kg		
D38					kg		
D35					kg		
D32	14125			14125	kg		
D29	4206			4206	kg		
D25	6006		2125	8131	kg		[170]
D22	17		516	533	kg		[150]
D19	770		199	969	kg		[100]
D16	1087		122	1209	kg		[26]
D13	638			638	kg		
合 計	26849		2962	29811	kg		[446]
下部工施工鉄筋総質量							
総合計							
SD345	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計	(機械継手)〔機械式定着〕		
D41		12849		12849	kg	(99)	
D38	1792	5882		7674	kg	(40)	
D35	7365			7365	kg		
D32	18200	4093		22293	kg	(40)	
D29	7569			7569	kg		
D25	8633		2125	10758	kg		[187]
D22	2561		1694	4255	kg		[298]
D19	1989		199	2188	kg		[100]
D16	2557		265	2822	kg		[72]
D13	655			655	kg		
合 計	51321	22824	4283	78428	kg	(179)	[657]

機械式鉄筋定着工法数量表(箇所数)-下部工施工(普通鉄筋)

鉄筋径	0<L≦1m	1m<L≦2m	2m<L≦3m	3m<L≦4m	4m<L≦5m	5m<L≦6m	6m<L≦7m	7m<L≦8m	8m<L≦9m	9m<L≦10m
D13										
D16			36							
D19										
D22			148							
D25										
小計			184							
合計										184

機械式鉄筋定着工法数量表(箇所数)-下部工施工(エポキシ樹脂塗装鉄筋)

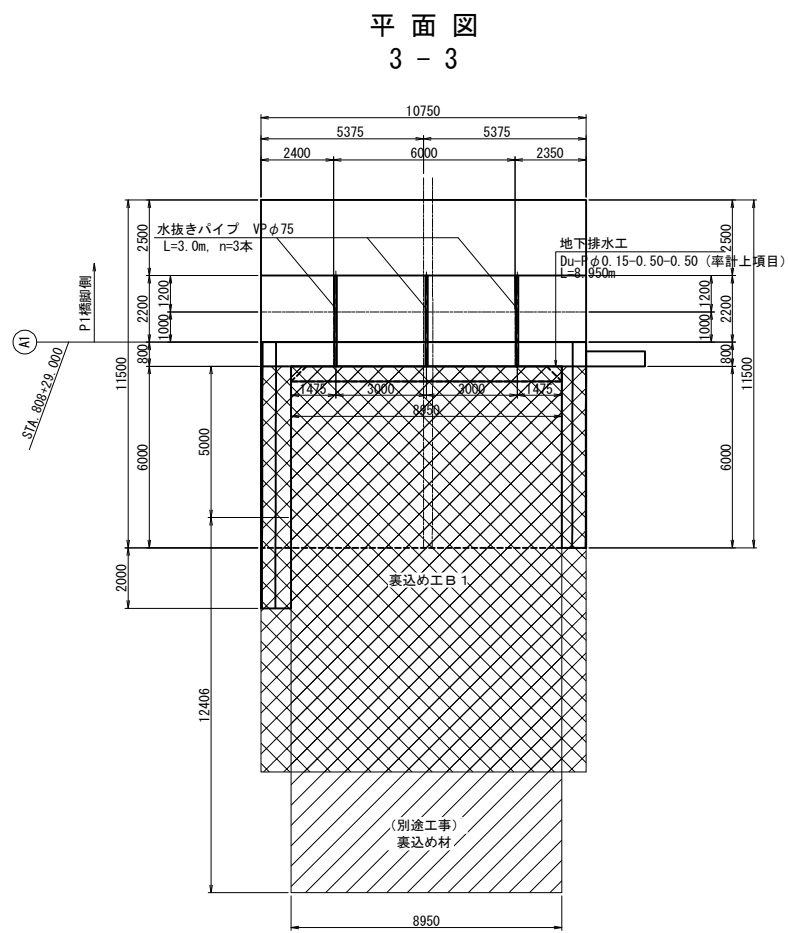
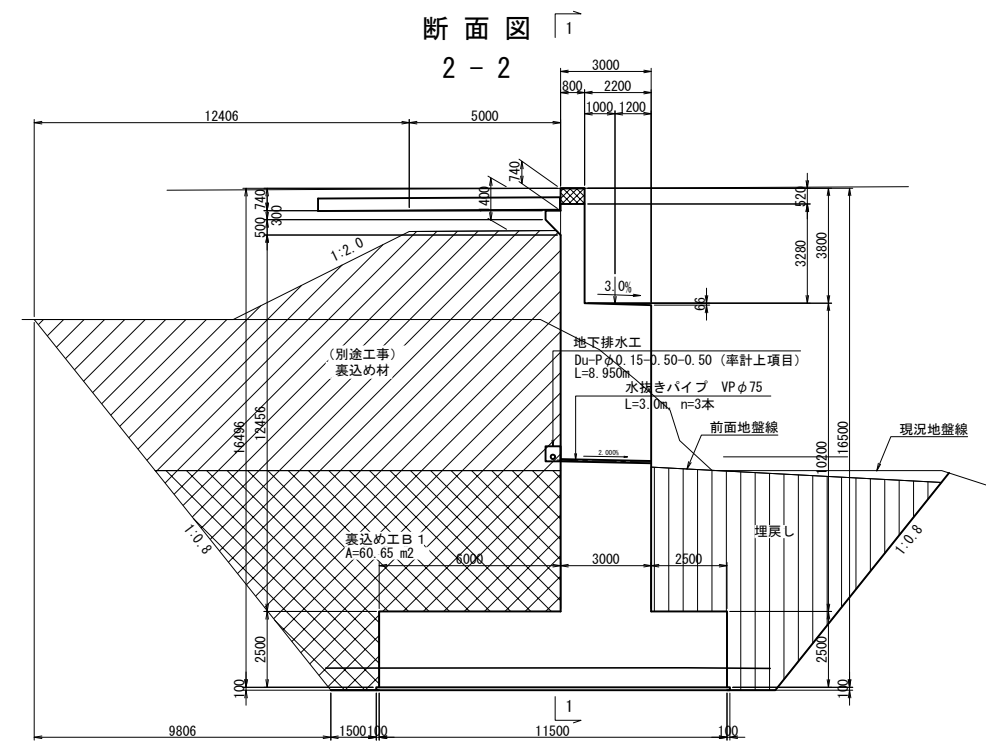
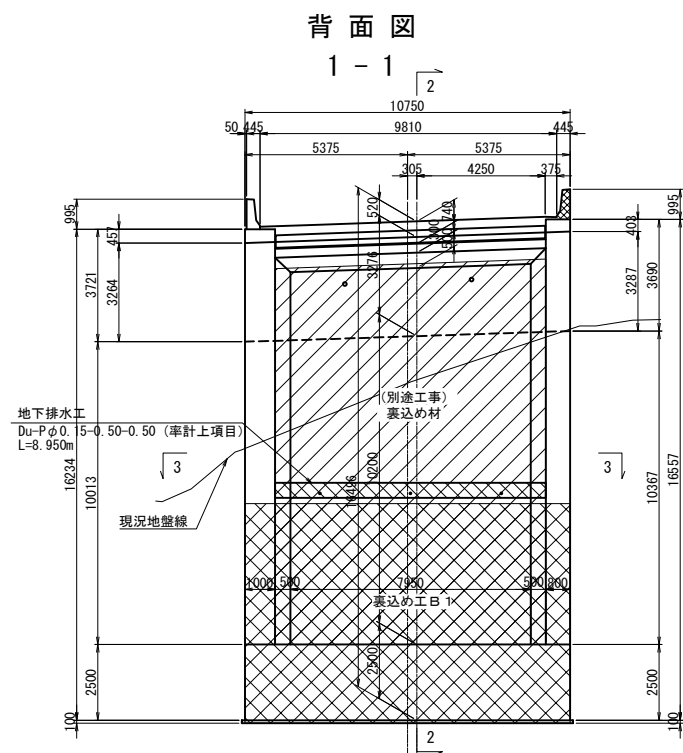
鉄筋径	0<L≦1m	1m<L≦2m	2m<L≦3m	3m<L≦4m	4m<L≦5m	5m<L≦6m	6m<L≦7m	7m<L≦8m	8m<L≦9m	9m<L≦10m
D13										
D16				26						
D19	100									
D22		150								
D25				170						
小計	100	150		196						
合計										446

鉄筋加工寸法表 (SD345)

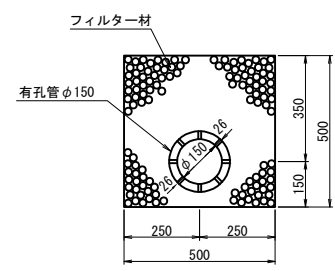
<div><div><div>主筋 せん断補強筋</div><div></div></div><div><div>鋭角フック</div><div></div></div><div><div>半円形フック</div><div></div></div><div><div>直角フック</div><div></div></div></div>											
主筋	径	θ≦90° R=3.0φ	θ>90° R=5.5φ	θ=45°		θ=60°		θ=90°		θ=135°	
				a	△L	a	△L	a	△L	a	△L
	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
	D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12
せん断補強筋及び帯鉄筋	径	R=2.5φ		θ=45°		θ=60°		θ=90°			
				a	△L	a	△L	a	△L		
	D13		32.5	77	80	68	45	51	14		
	D16		40	94	99	84	55	63	17		
	D19		47.5	112	117	99	66	75	20		
	D22		55	130	136	115	76	86	24		
	D25		62.5	147	155	131	86	98	27		
フック	D29		72.5	171	179	152	99	114	31		
	径	R=3.0φ		鋭角フック		半円形フック		直角フック			
				a		a		a		△L	
	D13		39			123		61		17	
	D16		48			151		75		21	
	D19		57			179		89		25	
	D22		66			207		104		28	
ク	D25		75			236		118		32	
	D29		87			273		137		37	

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
- 注7) ( )内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。
- 注8) [ ]内は機械継手箇所数を示す。
- 注9) —Kは機械継手を表わす。
- 注10) Cは機械式鉄筋定着工法を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第二橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 2 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



地下排水工詳細図 S=1/25



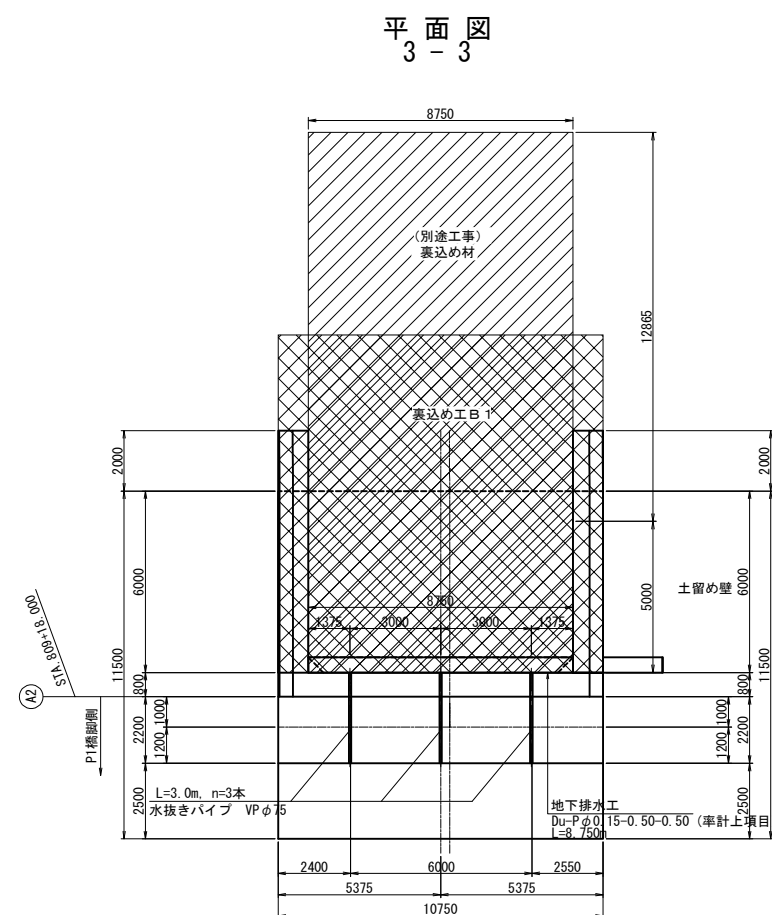
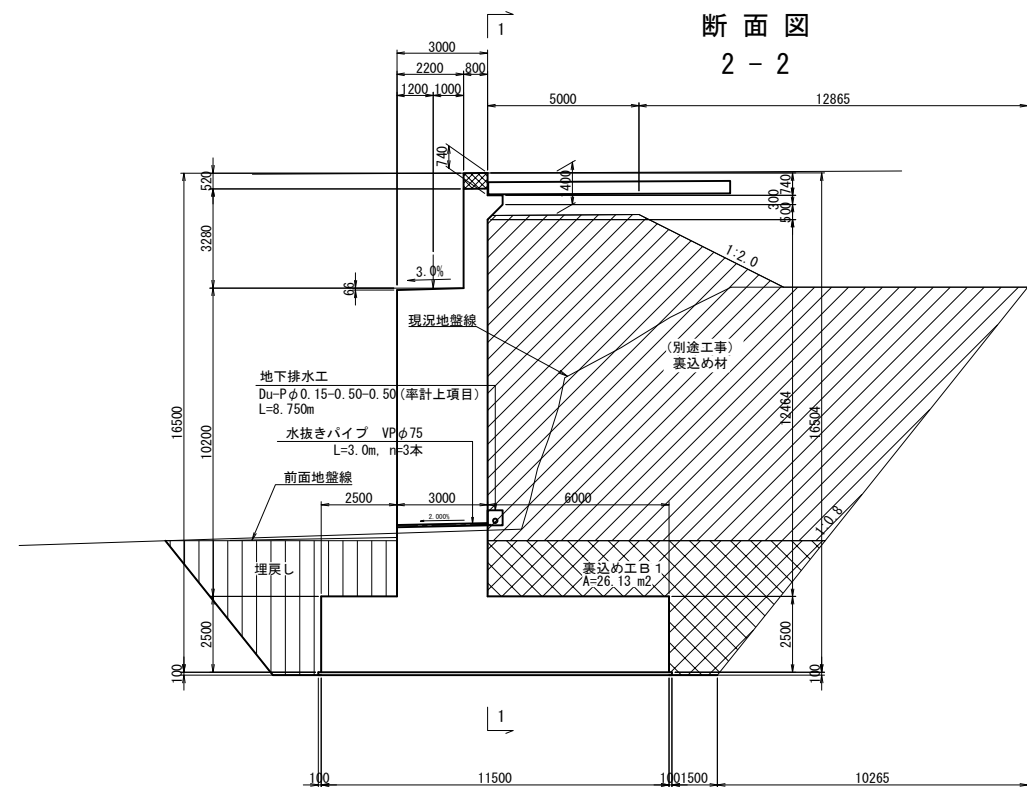
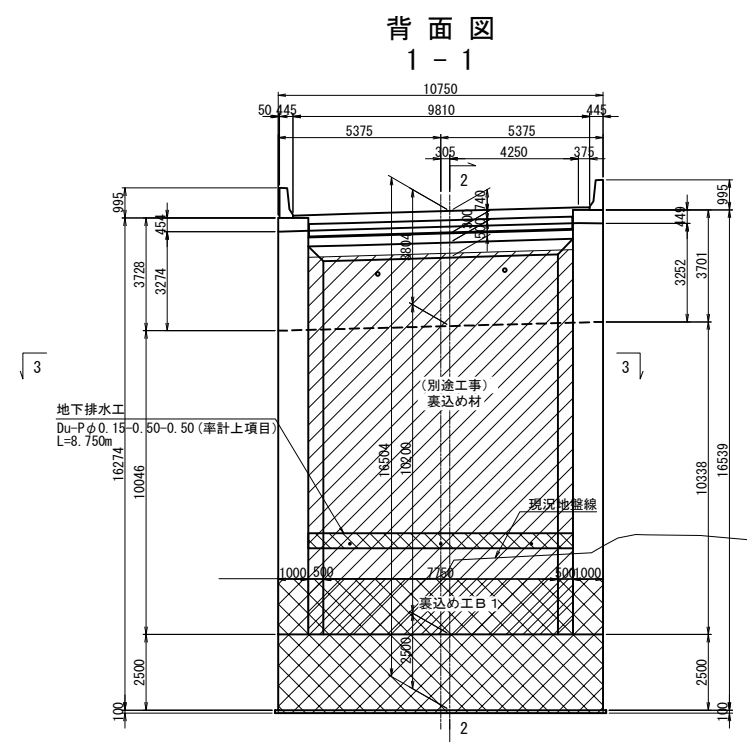
裏込め工及び地下排水工

項目	規格	単位	数量	備考
構造物裏込め工	裏込め工B 1	m <sup>3</sup>	600.5	下部工施工
地下排水工	Du-P φ0.15-0.50-0.50	m	9.0	率計上項目
水抜きパイプ	VP φ75	m	9.0	

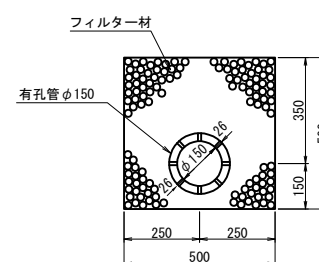
数量計算書より

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） A 1 橋台裏込め工図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		





地下排水工詳細図 S=1/25



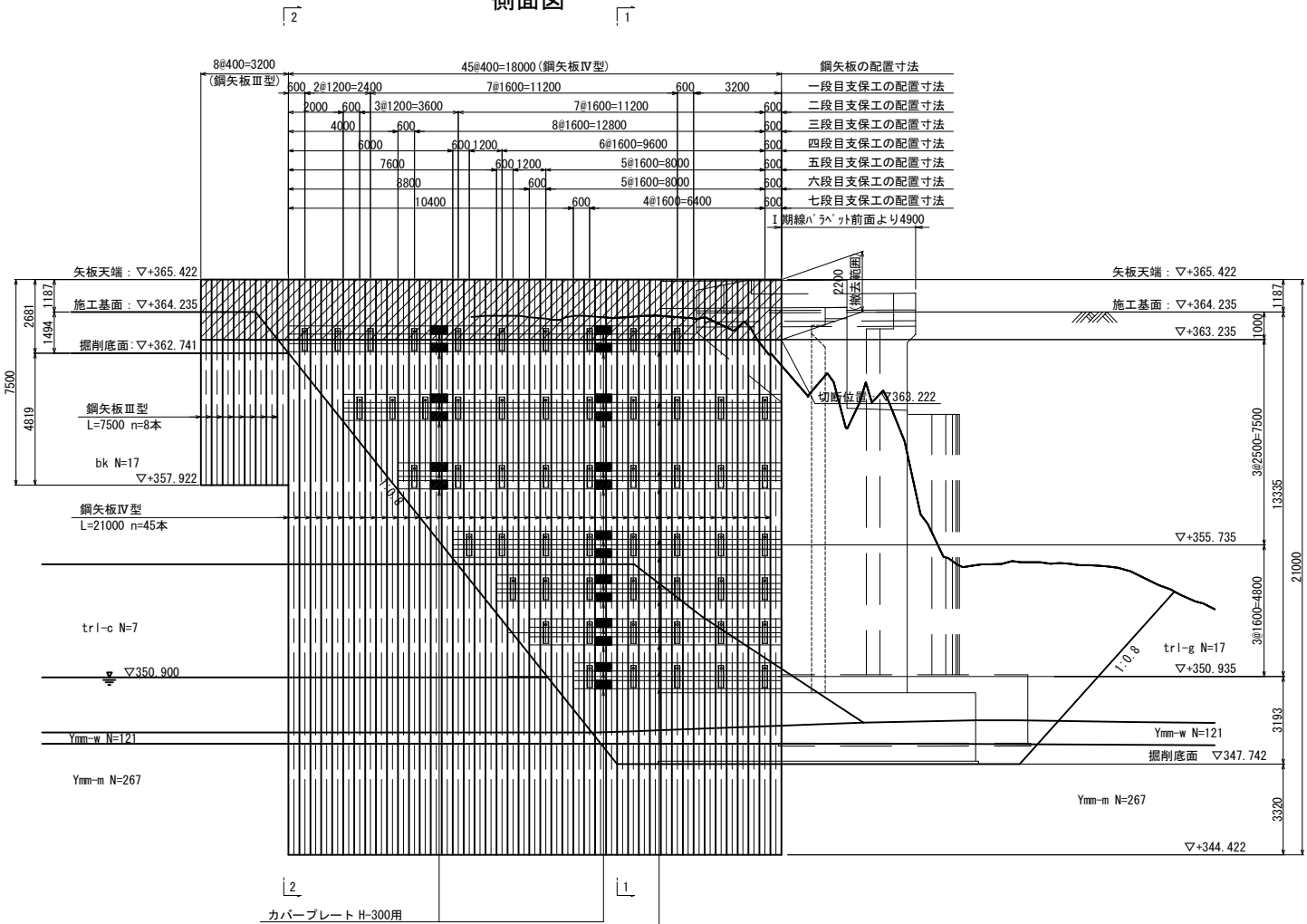
裏込め工及び地下排水工

項目	規格	単位	数量	備考
構造物裏込め工	裏込め工B 1	m <sup>3</sup>	258.2	下部工施工
地下排水工	Du-Pφ0.15-0.50-0.50	m	8.8	率計上項目
水抜きパイプ	VPφ75	m	9.0	

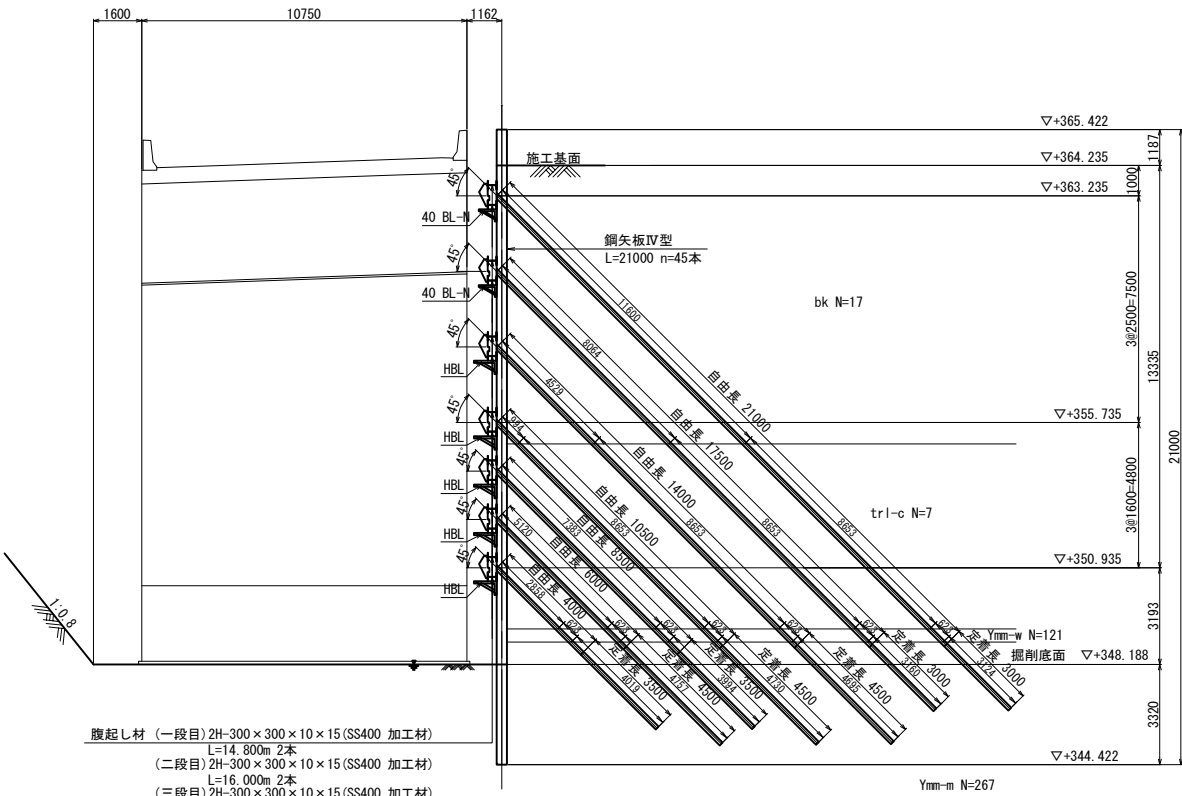
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 2 橋台裏込め工図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

構造物掘削 特殊部 C 1

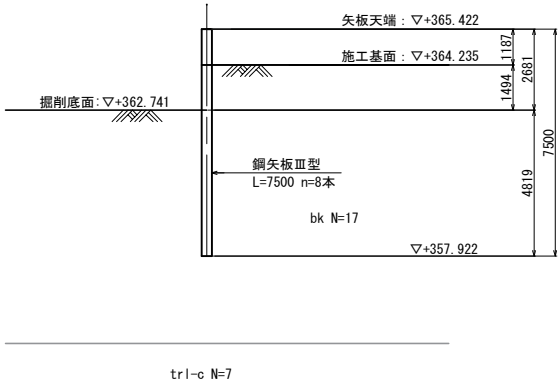
側面図



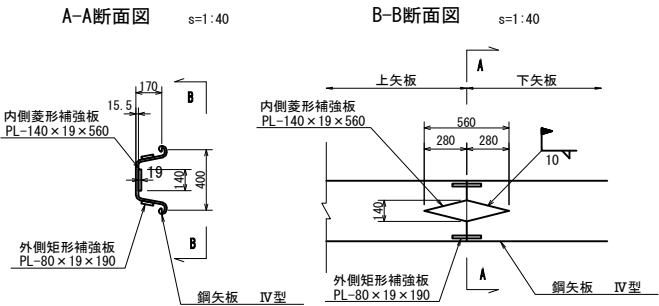
断面図  
(1 - 1)



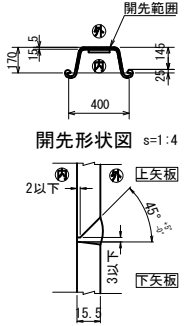
断面図  
(2 - 2)



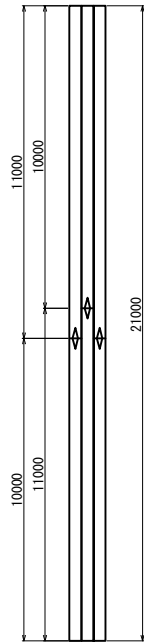
鋼矢板取付け詳細図



開先加工範囲図 S=1:40

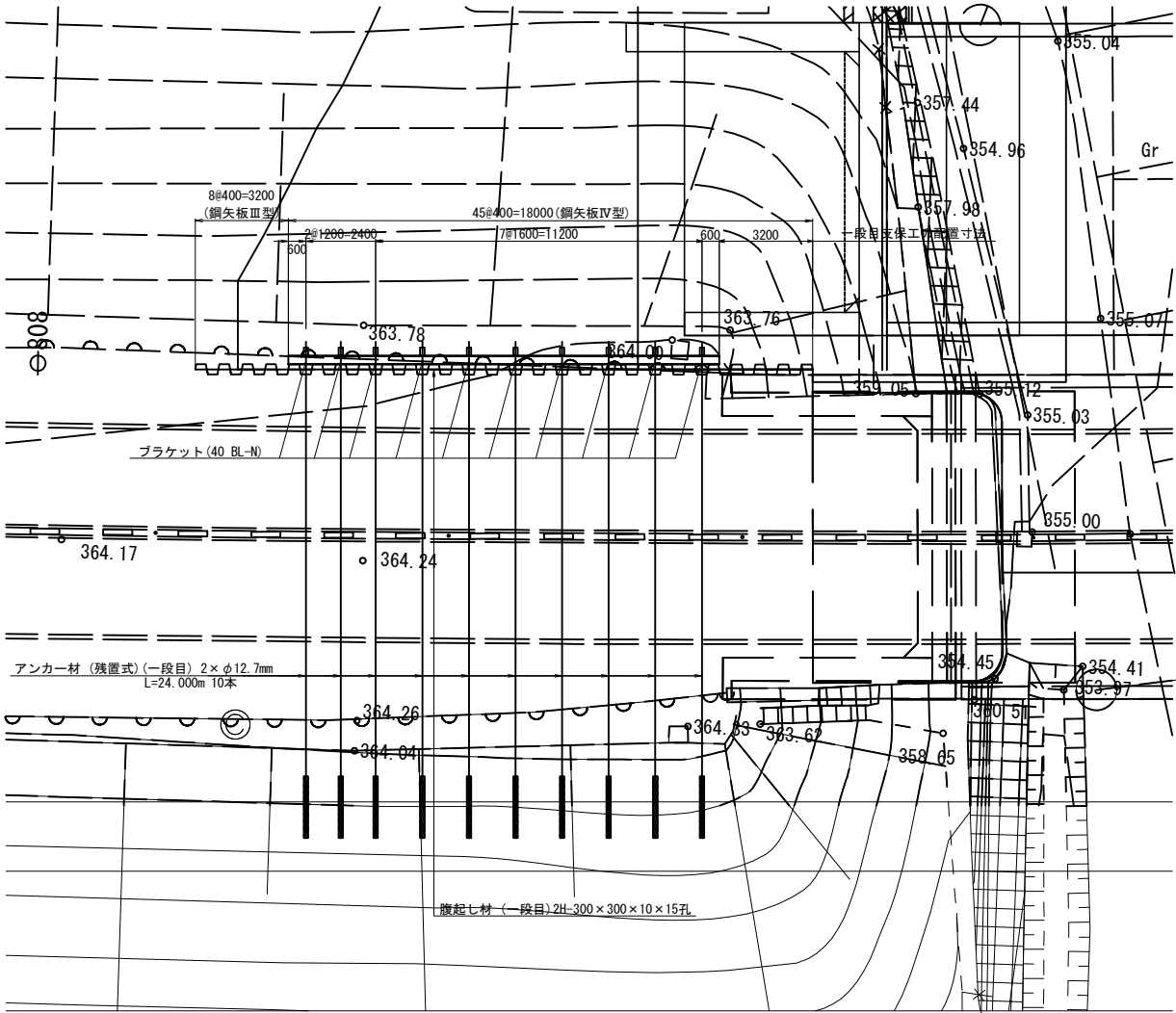


継手配置図 S=1:200

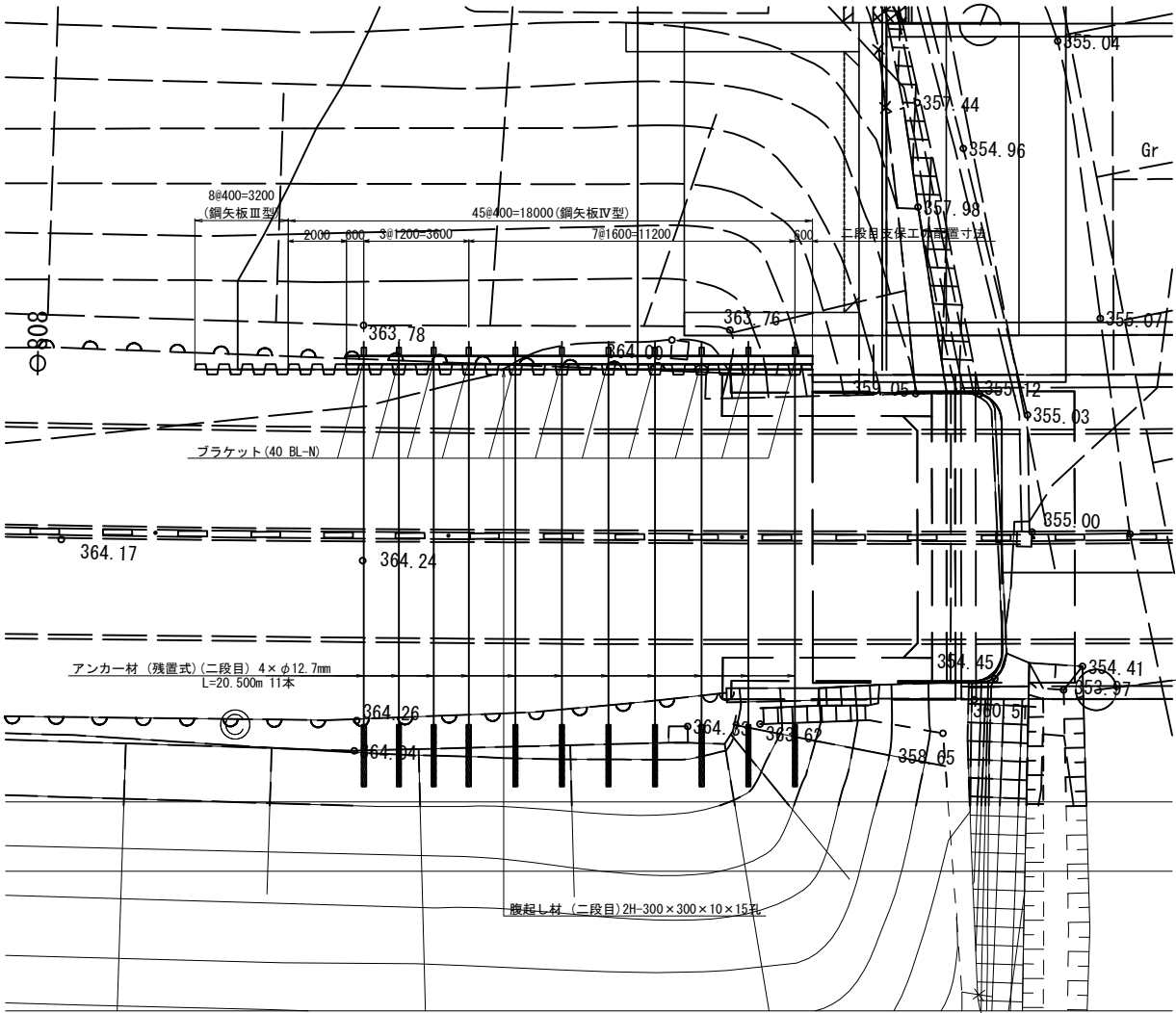


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

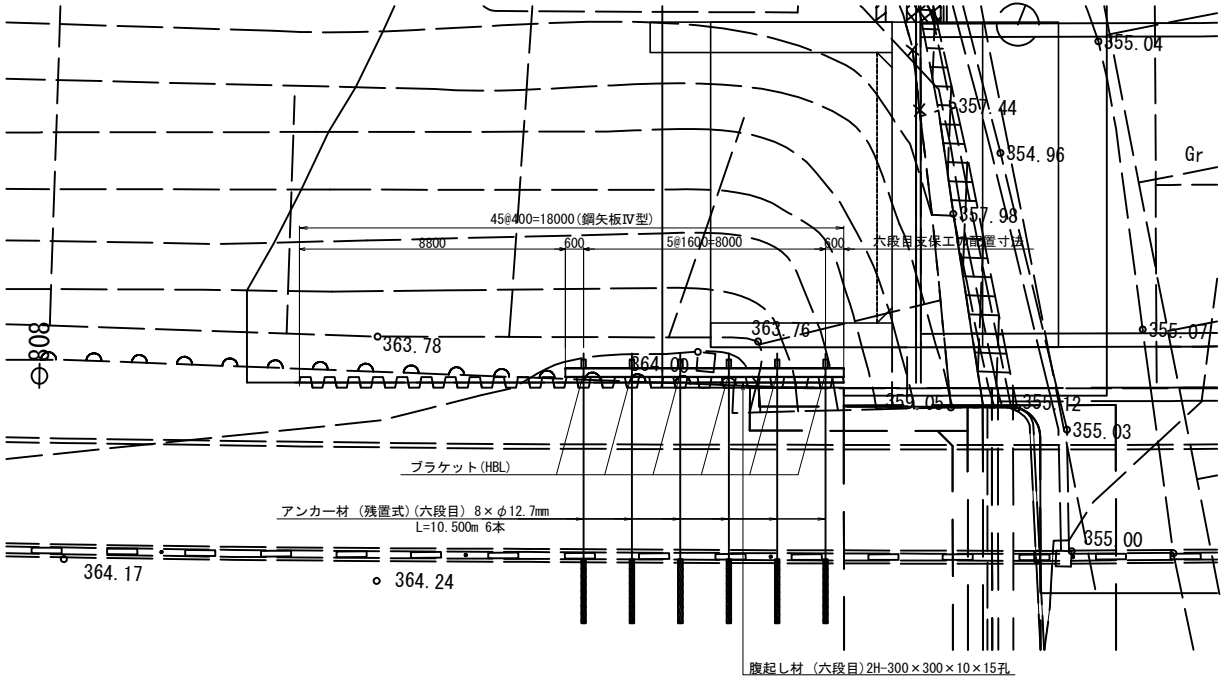
平面図（一段目）



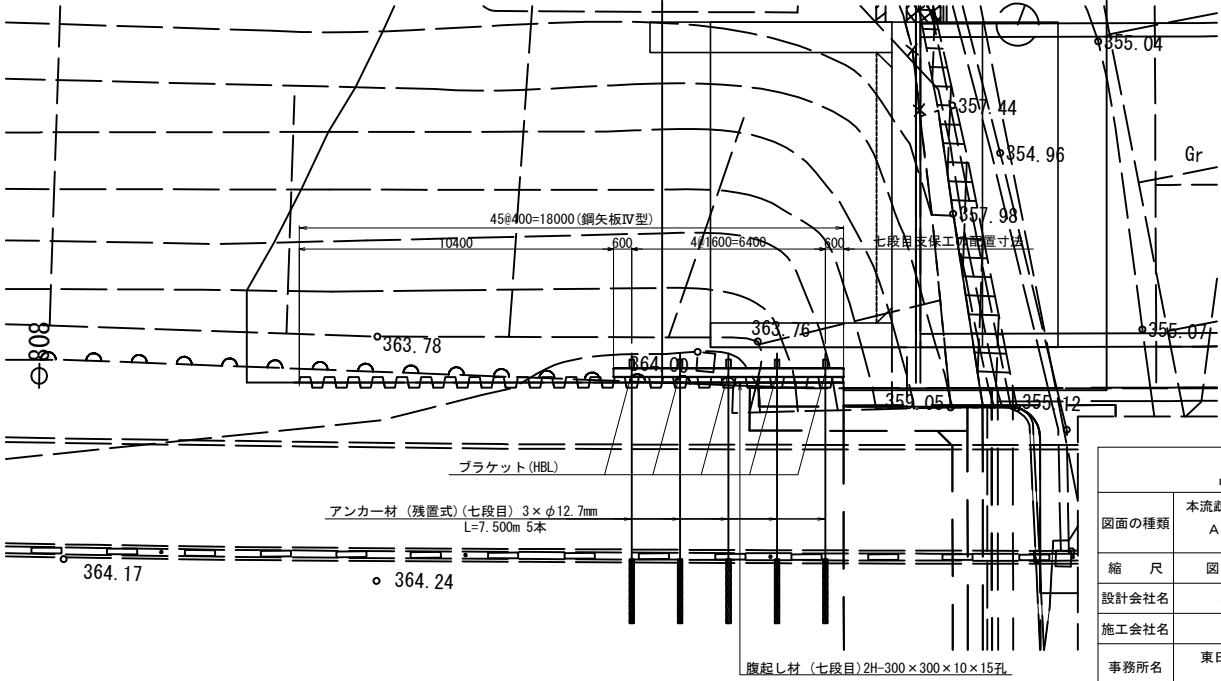
平面図（二段目）



平面図（六段目）

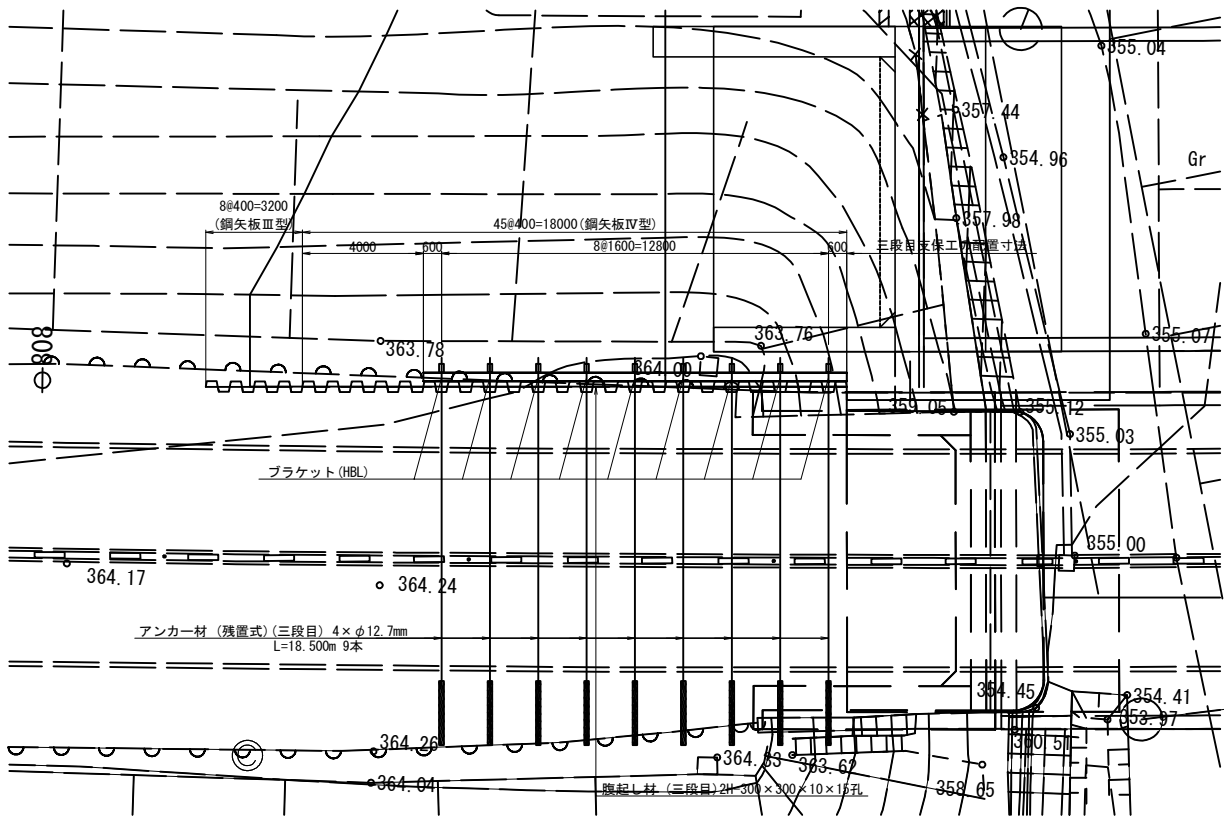


平面図（七段目）

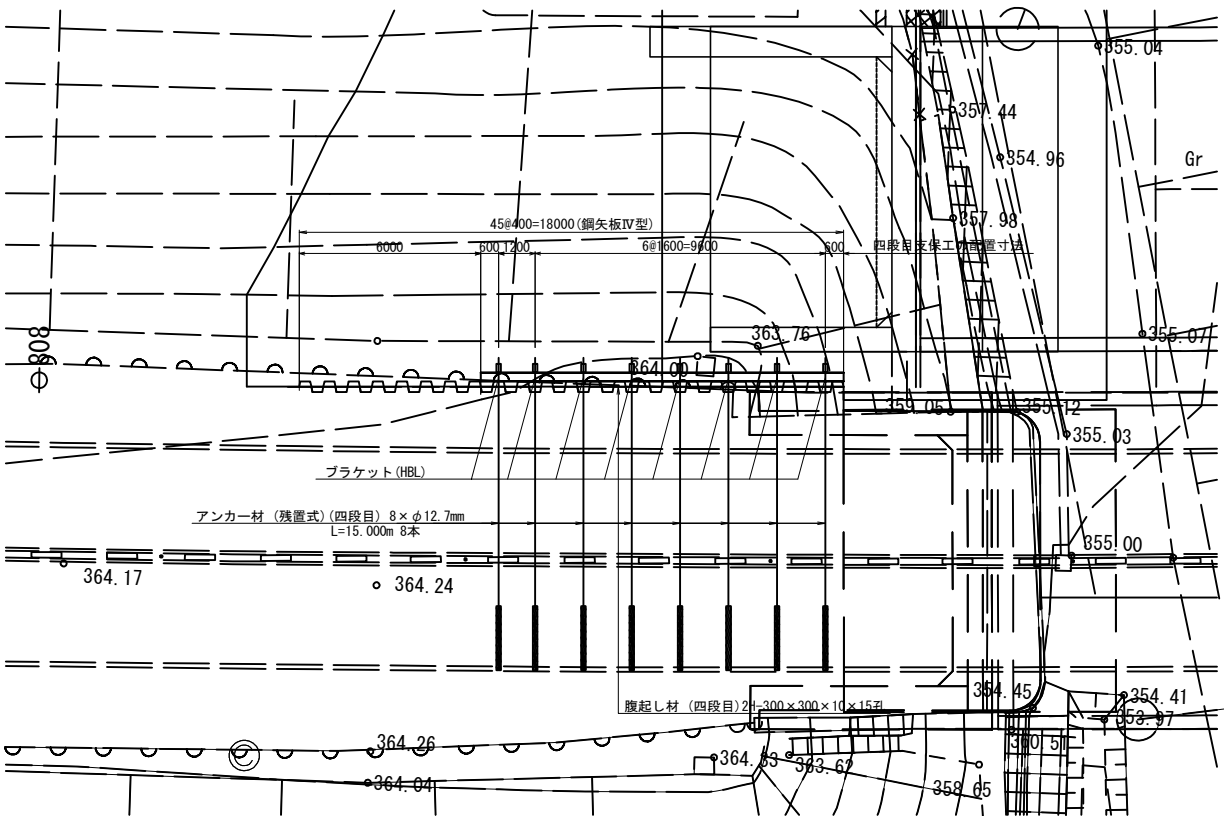


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
本流鵲川第二橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その2）			
図面の種類	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	株式会社	日本橋造橋梁研究所	-
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

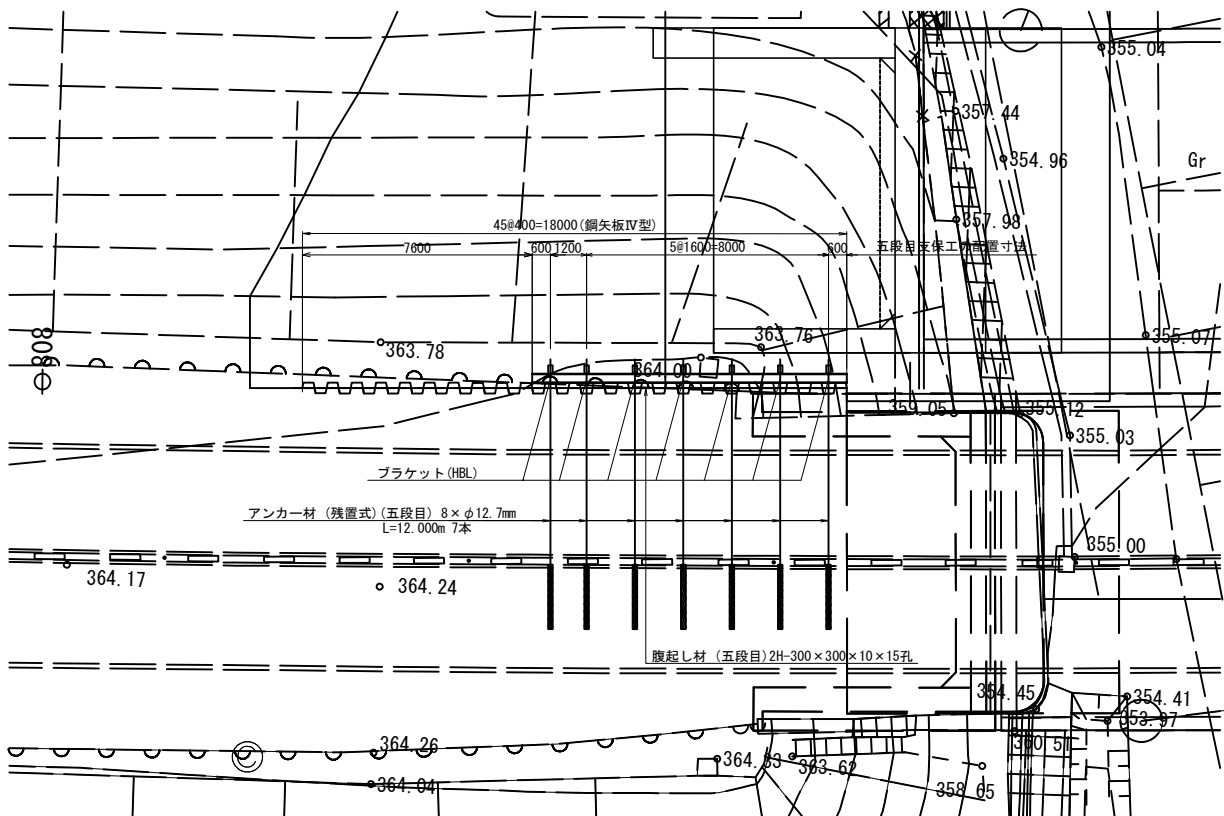
平面図(三段目)



平面図(四段目)



平面図(五段目)



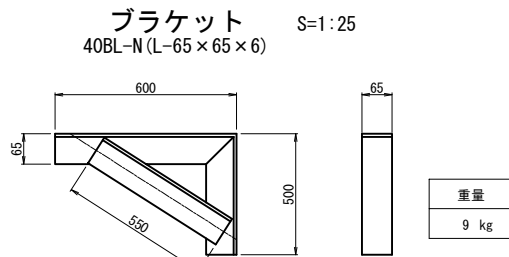
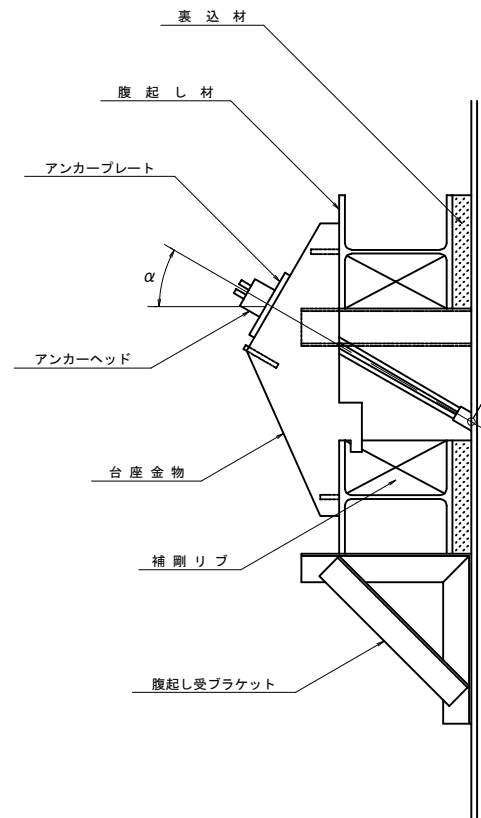
材 料 表		1基当り	
項 目	細 目	単 位	数 量
腹起し	H-300×300×10×15孔	L=14800	本 2
		L=16000	本 2
		L=14000	本 2
		L=12000	本 2
		L=10400	本 2
		L=9200	本 2
		L=7600	本 2
ブラケット	L=65×65×6 L=75×75×9	L=1650	本 21
		L=2000	本 35
台 座	鋼製	組	56
カバープレート	H-300用	組	40

工 種		項目		単位	合 計	摘 要
鋼矢板Ⅳ型 鋼矢板Ⅲ型	最大地盤N値	267	11.0m	枚	45	鋼矢板Ⅳ型
		17	10.0m	枚	45	鋼矢板Ⅳ型
			7.5m	枚	8	鋼矢板Ⅲ型
			21.0m	枚	45	継施工:1
	打込み	7.5m	枚	8		
ガス切断	鋼矢板Ⅲ型	L=2.2m	箇所	8		
	鋼矢板Ⅳ型	L=2.2m	箇所	45		
スクラップ	鋼矢板Ⅲ型	L=2.2m	t	1.056		
	鋼矢板Ⅳ型	L=2.2m	t	7.534		
継施工	PL-140×19×560	t	0.263			
	PL-80×19×190	t	0.204			
腹起し	H-300×300×10×15孔	t	16.800			
ブラケット	L-65×65×6	t	0.189			
	L-75×75×9	t	0.700			
仮設アンカー (残置式)	2×φ12.7mm	24.0m	本	10		
	4×φ12.7mm	20.5m	本	11		
	4×φ12.7mm	18.5m	本	9		
	8×φ12.7mm	15.0m	本	8		
	8×φ12.7mm	12.0m	本	7		
	8×φ12.7mm	10.5m	本	6		
	3×φ12.7mm	7.5m	本	5		
台 座	鋼製	t	2.738			
カバープレート	H-300用	t	0.680			

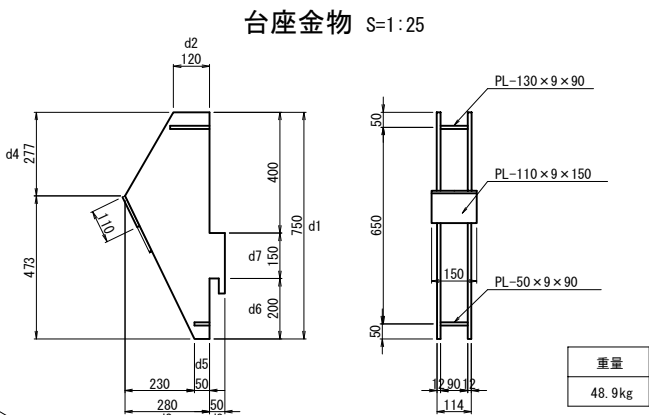
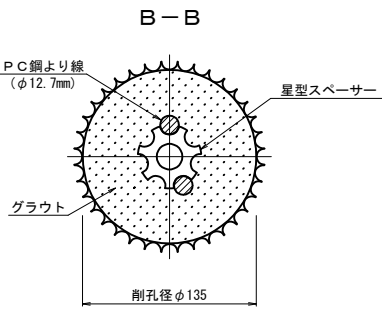
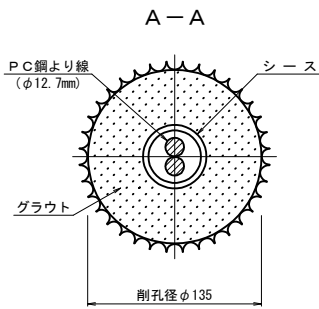
数 量 表					
工 種	項目	單位	合 計	摘 要	
削孔長 (φ135)	礫質土	20.3m	本	10	
		16.7m	本	11	
		13.2m	本	9	
		9.6m	本	8	
		7.4m	本	7	
		5.1m	本	6	
		2.9m	本	5	
	軟 岩	3.7m	本	10	
		3.8m	本	11	
		5.3m	本	9	
		5.4m	本	8	
		4.6m	本	7	
		5.4m	本	6	
		4.6m	本	5	
注 入	φ 135	24.0m	本	10	
		20.5m	本	11	
		18.5m	本	9	
		15.0m	本	8	
		12.0m	本	7	
		10.5m	本	6	
		7.5m	本	5	

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

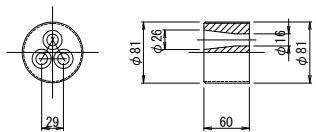
残置式アンカー詳細図  
（一段目：2×φ12.7mm）



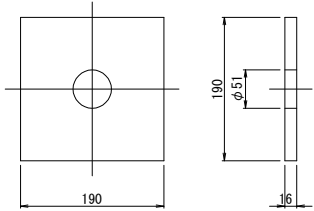
断面図 S=1:5



アンカーヘッド S=1:10



アンカープレート S=1:10



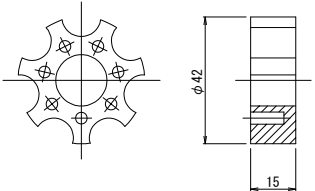
寸法表

	Lf	La	LA	α
一段目	21000	3000	24000	45°

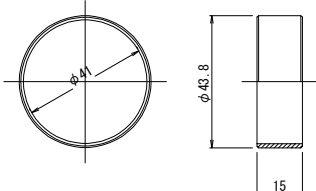
設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余掘 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー（一段目）	21.000	3.000	0.200	135	24.200	2×φ12.7mm	10	242.000	104.67

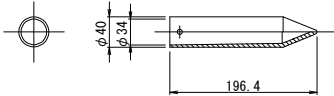
星型スペーサー S=1:2.5



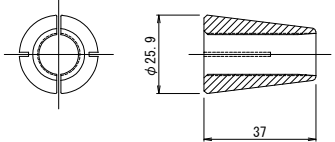
結束リング S=1:2.5



パイロットキャップ S=1:10



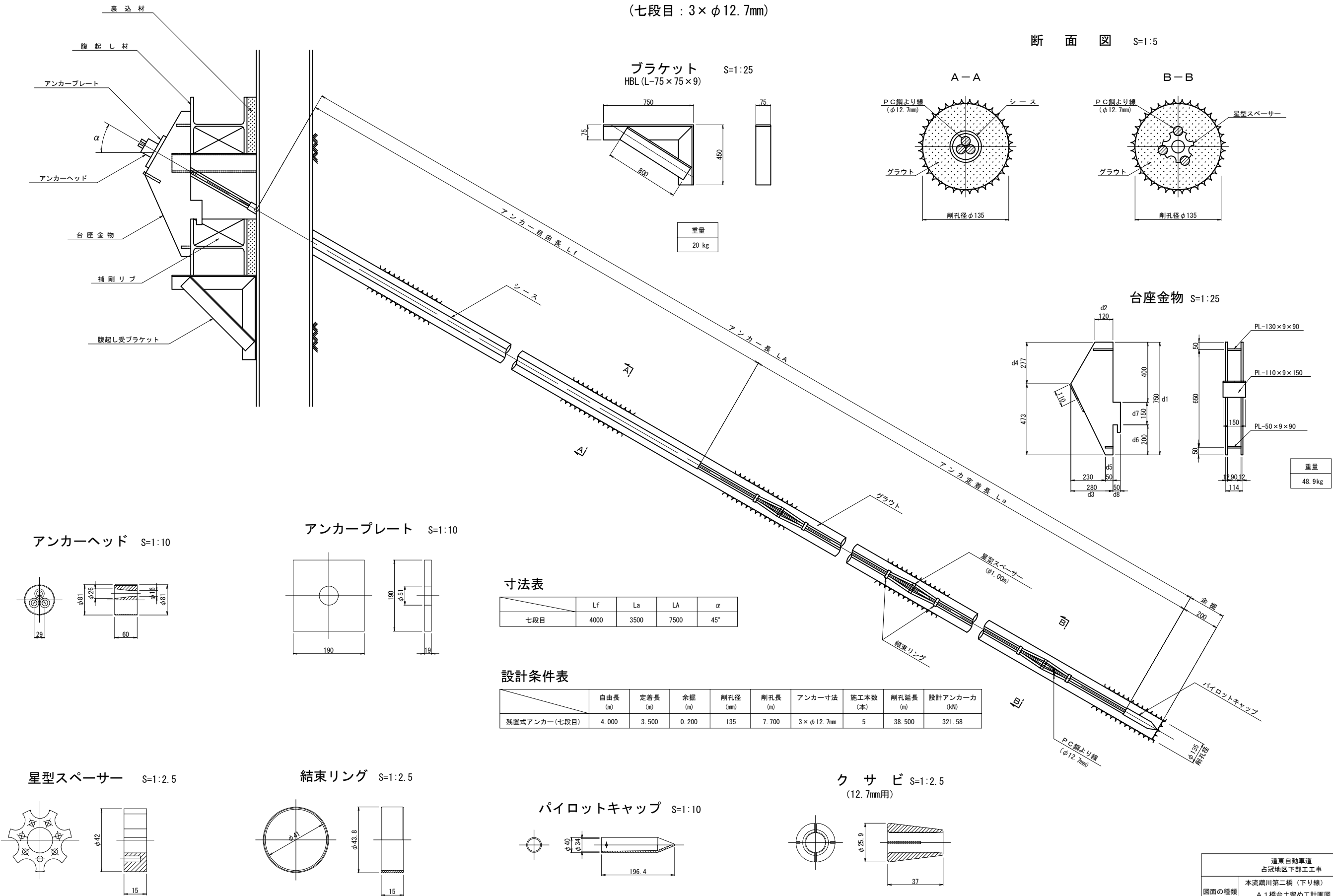
クサビ S=1:2.5  
(12.7mm用)



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その4）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

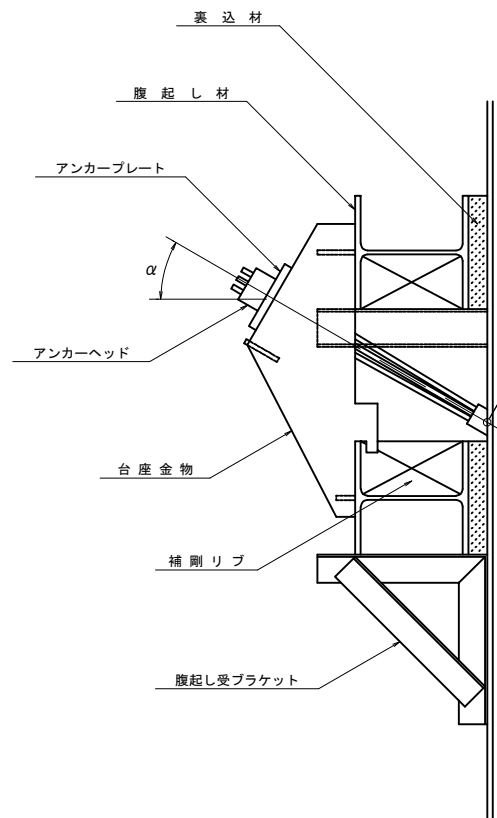
残置式アンカー詳細図  
(七段目：3×φ12.7mm)

断面図 S=1:5

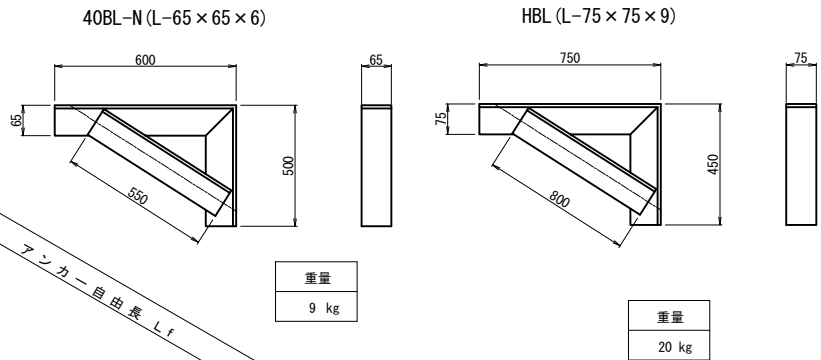


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

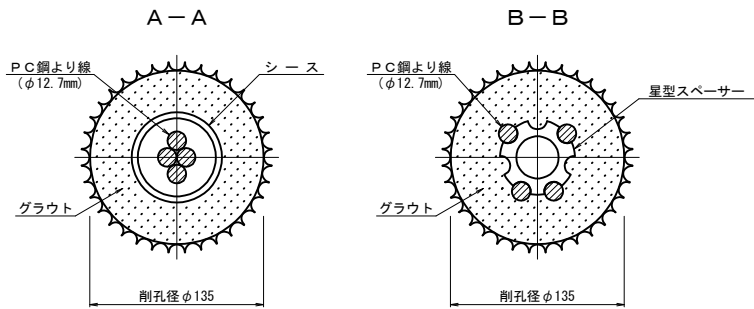
残置式アンカー詳細図  
(二段目：4×φ12.7mm)  
(三段目：4×φ12.7mm)



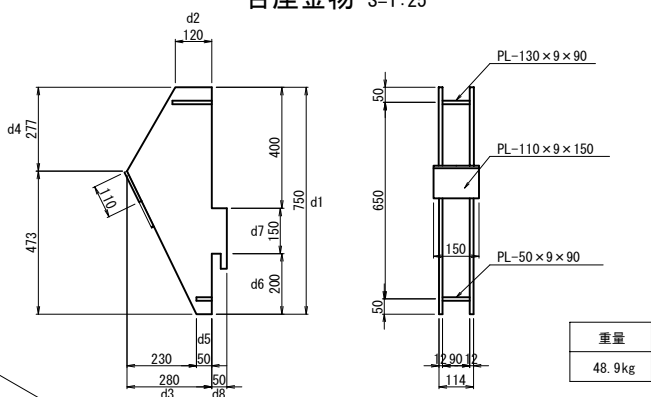
ブラケット S=1:25



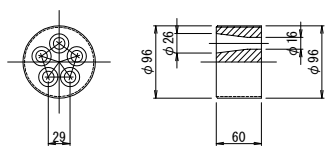
断面図 S=1:5



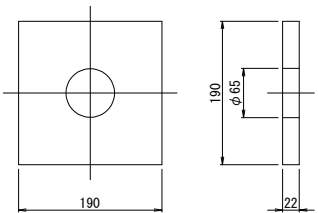
台座金物 S=1:25



アンカーヘッド S=1:10



アンカープレート S=1:10



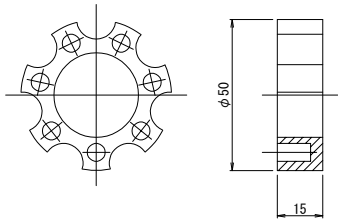
寸法表

	Lf	La	LA	α
二段目	17500	3000	20500	45°
三段目	14000	4500	18500	45°

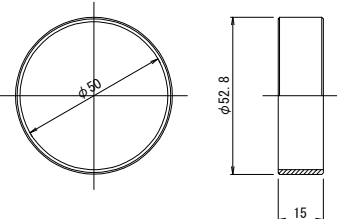
設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余量 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(二段目)	17.500	3.000	0.200	135	20.700	4×φ12.7mm	11	227.700	257.73
残置式アンカー(三段目)	14.000	4.500	0.200	135	18.700	4×φ12.7mm	9	168.300	425.53

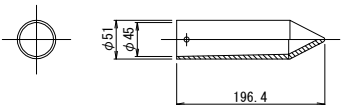
星型スペーサー S=1:2.5



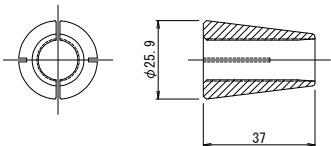
結束リング S=1:2.5



パイロットキャップ S=1:10



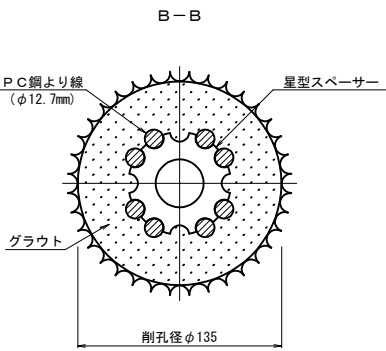
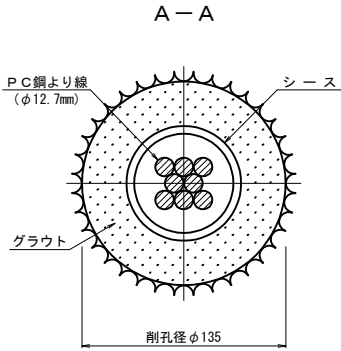
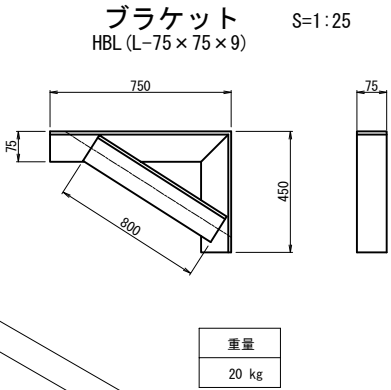
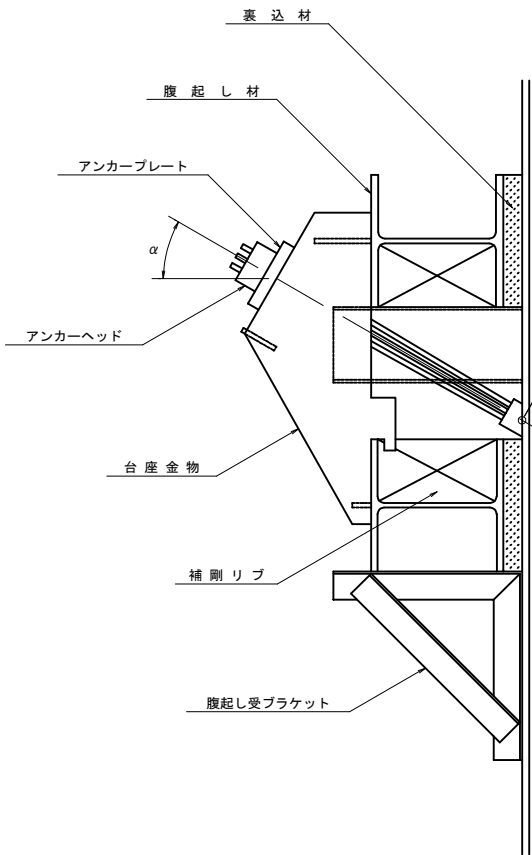
クサビ S=1:2.5  
(12.7mm用)



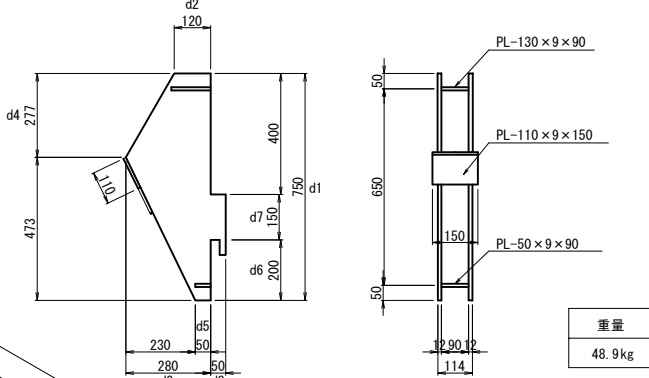
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その6）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

残置式アンカー詳細図  
(四段目：8×φ12.7mm)  
(五段目：8×φ12.7mm)  
(六段目：8×φ12.7mm)

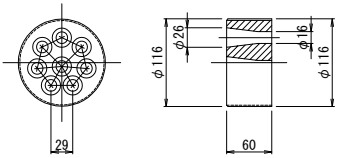
断面図 S=1:5



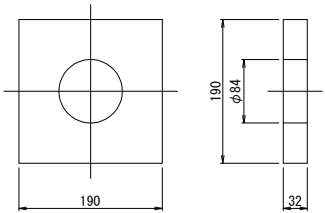
台座金物 S=1:25



アンカーヘッド S=1:10



アンカープレート S=1:10



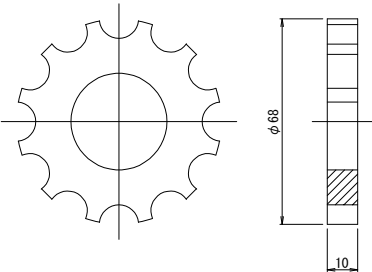
寸法表

	Lf	La	LA	α
四段目	10500	4500	15000	45°
五段目	8500	3500	12000	45°
六段目	6000	4500	10500	45°

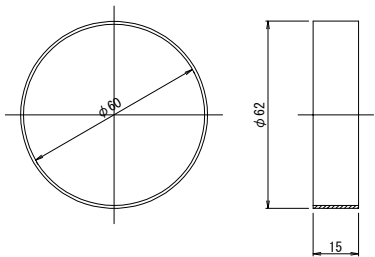
設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余掘 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(四段目)	10.500	4.500	0.200	135	15.200	8×φ12.7mm	8	121.600	429.99
残置式アンカー(五段目)	8.500	3.500	0.200	135	12.200	8×φ12.7mm	7	85.400	333.60
残置式アンカー(六段目)	6.000	4.500	0.200	135	10.700	8×φ12.7mm	6	64.200	407.07

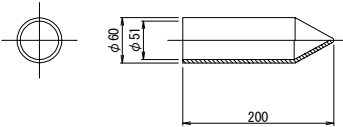
星型スペーサー S=1:2.5



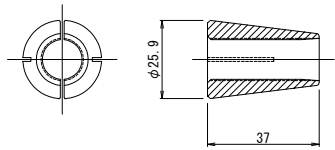
結束リング S=1:2.5



パイロットキャップ S=1:10



クサビ S=1:2.5  
(12.7mm用)

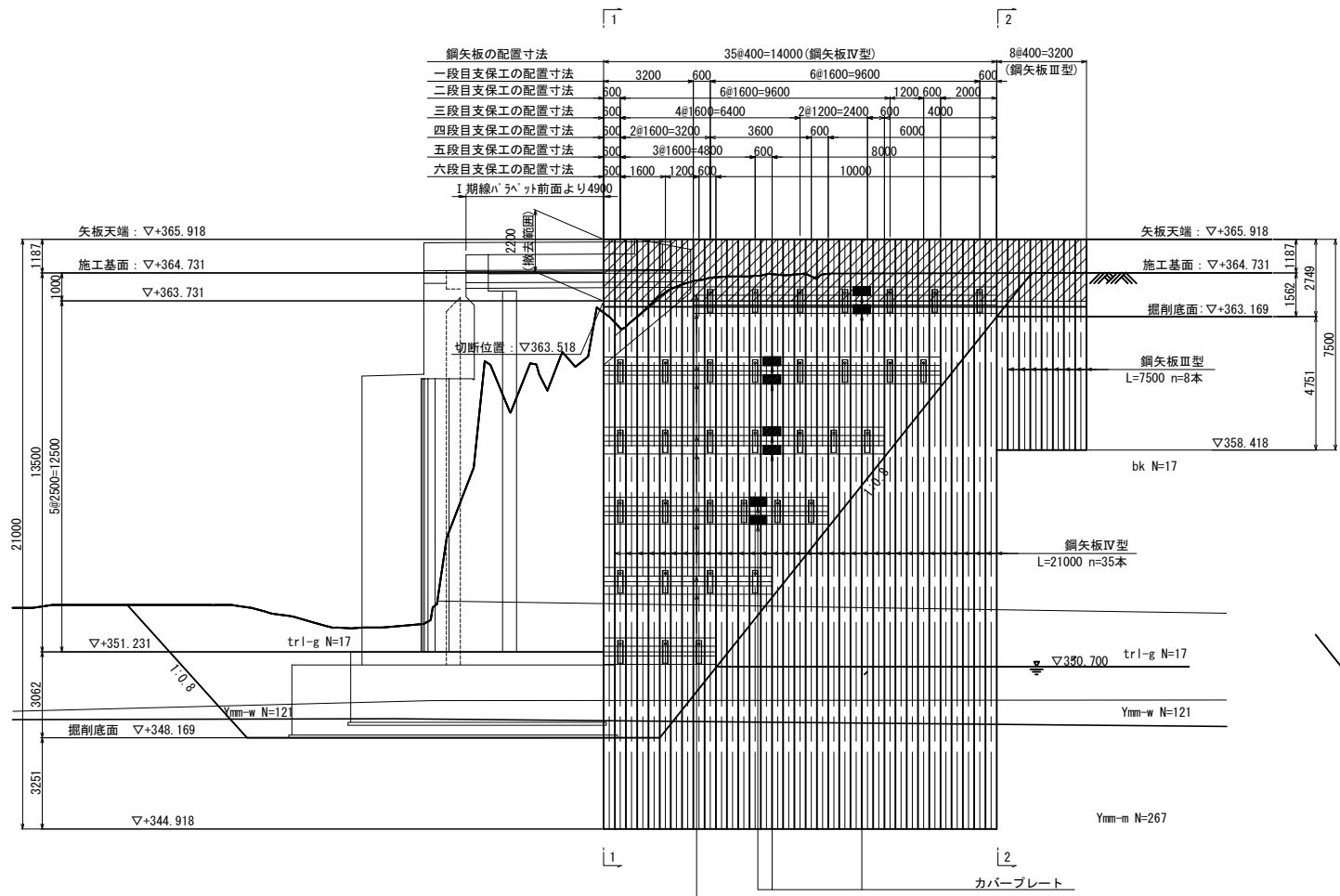


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

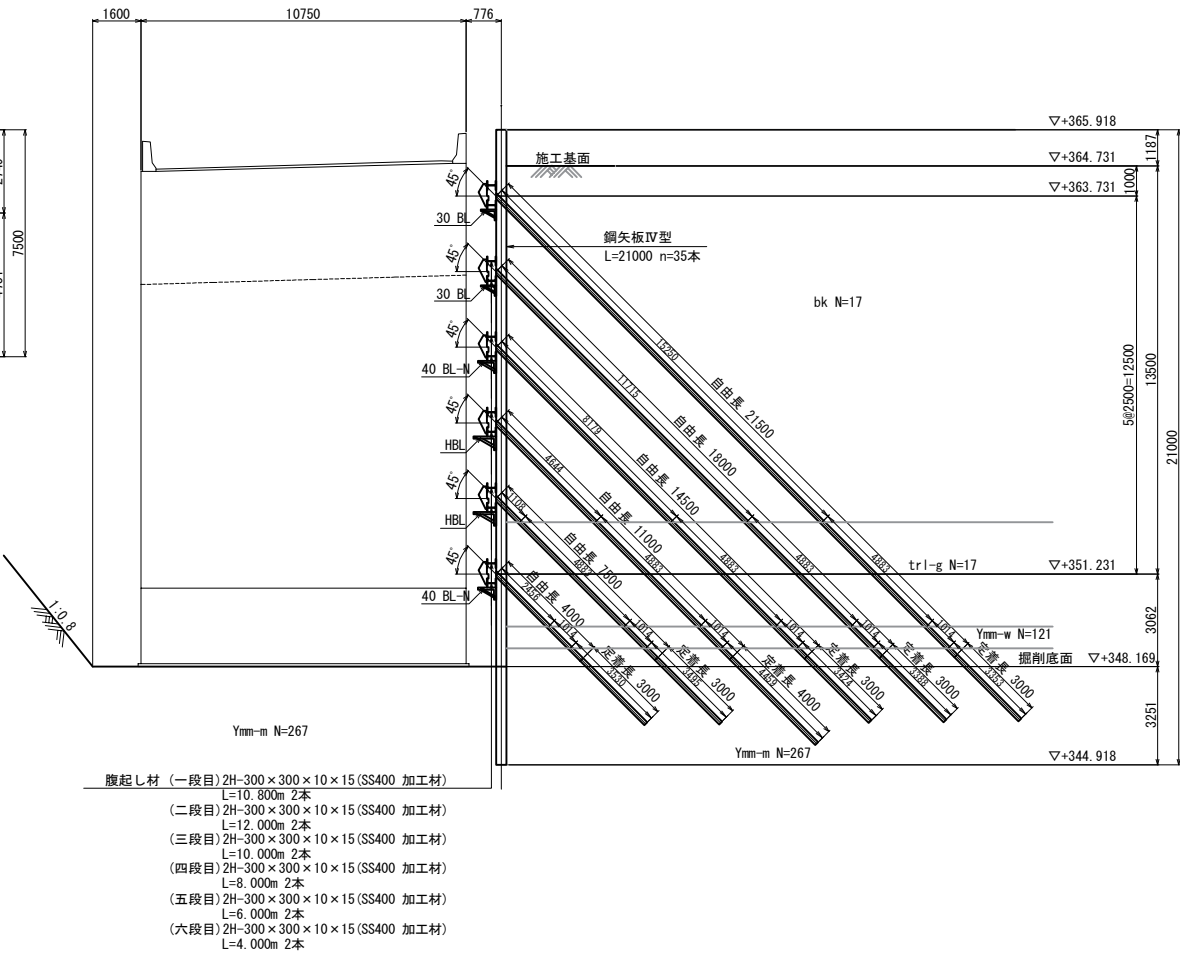


構造物掘削 特殊部 C 2

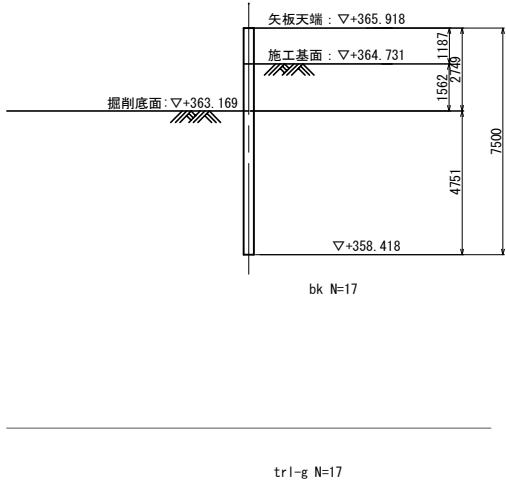
側面図



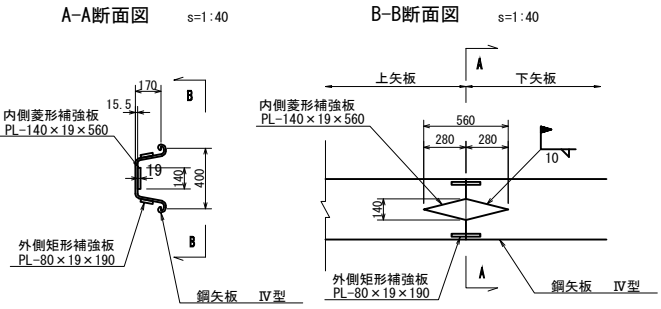
断面図  
(1 - 1)



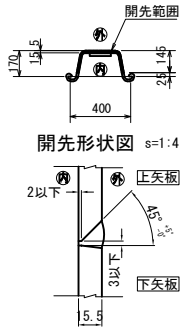
断面図  
(2 - 2)



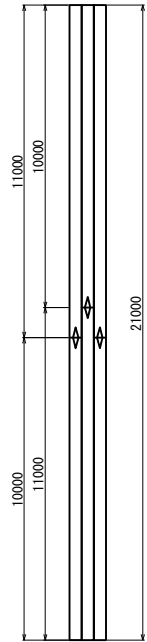
鋼矢板取付け詳細図



開先加工範囲図 S=1:40



継手配置図 S=1:200

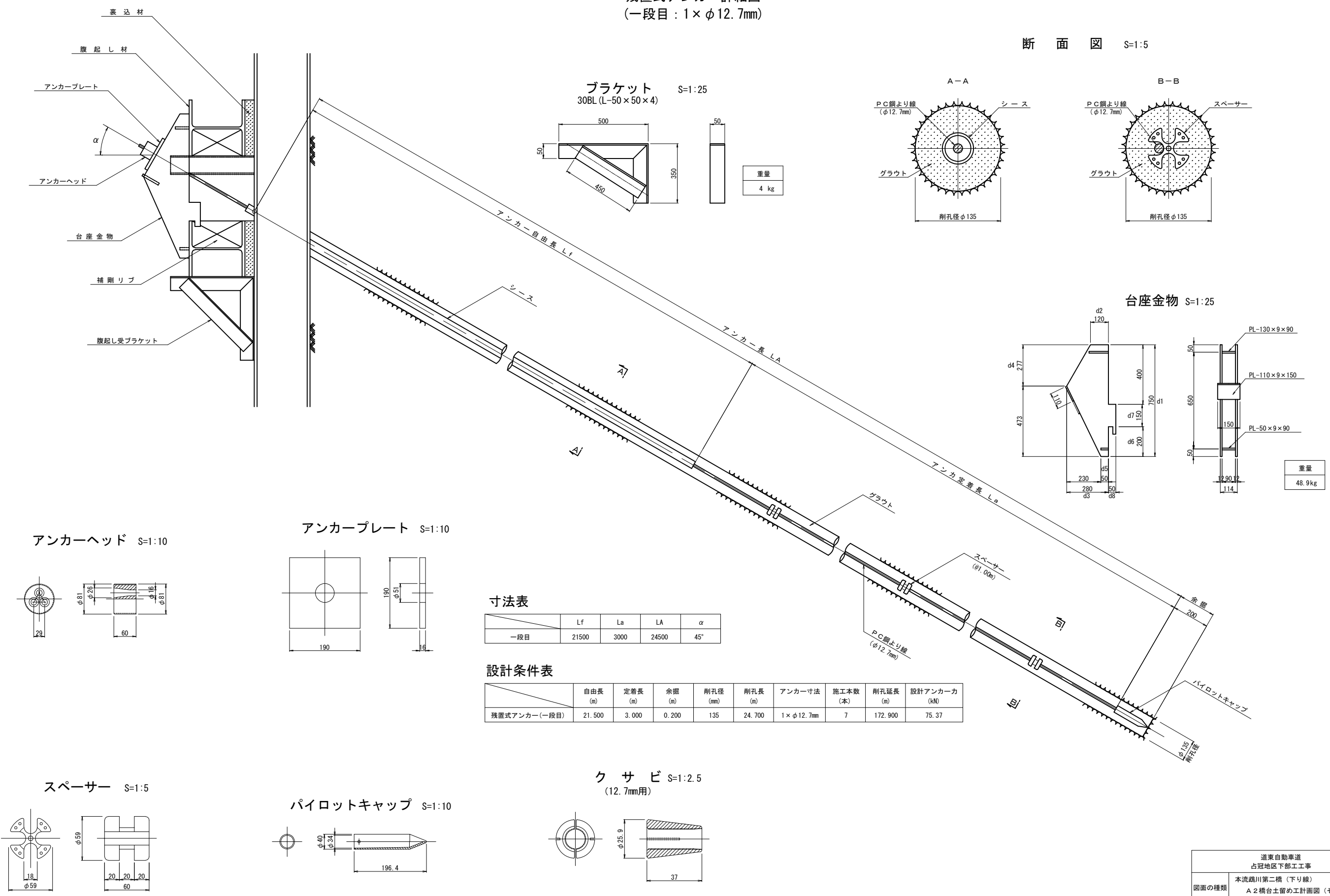


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		





残置式アンカー詳細図  
(一段目：1×φ12.7mm)



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

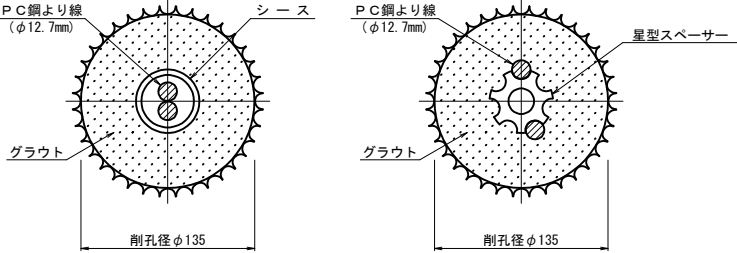
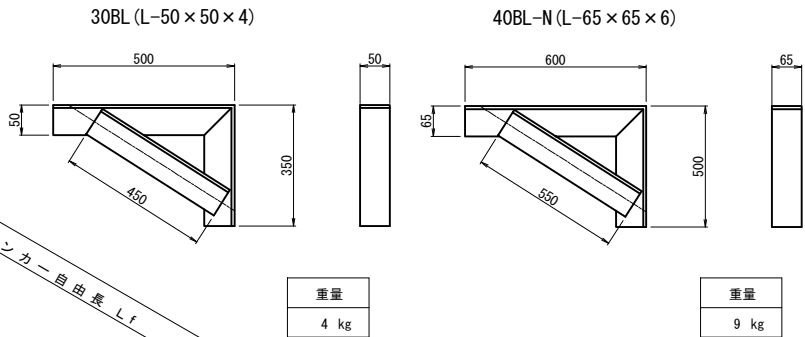
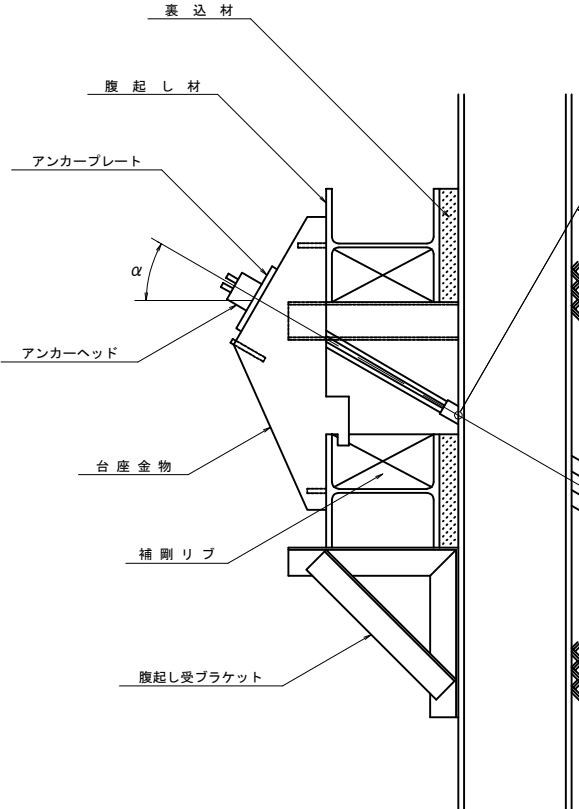
残置式アンカー詳細図  
(二段目：2×φ12.7mm)  
(三段目：2×φ12.7mm)  
(六段目：2×φ12.7mm)

断面図 S=1:5

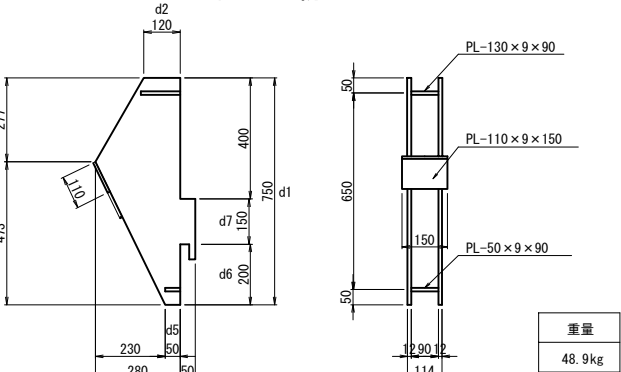
ブラケット S=1:25

A-A

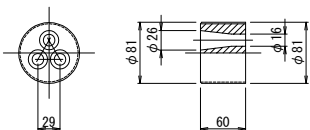
B-B



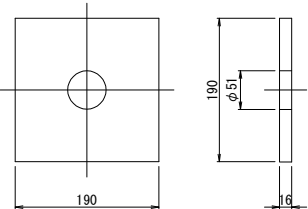
台座金物 S=1:25



アンカーヘッド S=1:10



アンカープレート S=1:10



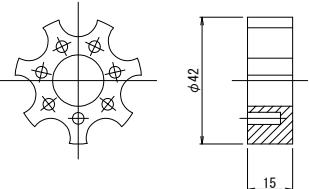
寸法表

	Lf	La	LA	α
二段目	18000	3000	21000	45°
三段目	14500	3000	17500	45°
六段目	4000	3000	7000	45°

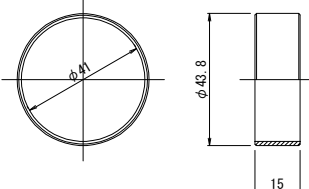
設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余掘 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(二段目)	18.000	3.000	0.200	135	21.200	2×φ12.7mm	8	169.600	153.82
残置式アンカー(三段目)	14.500	3.000	0.200	135	17.700	2×φ12.7mm	7	123.900	187.17
残置式アンカー(六段目)	4.000	3.000	0.200	135	7.200	2×φ12.7mm	3	21.600	185.86

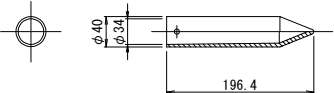
星型スペーサー S=1:2.5



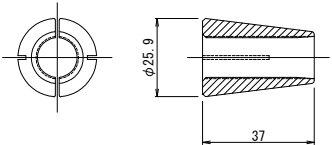
結束リング S=1:2.5



パイロットキャップ S=1:10



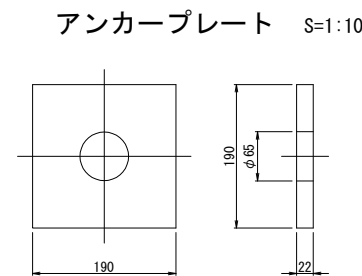
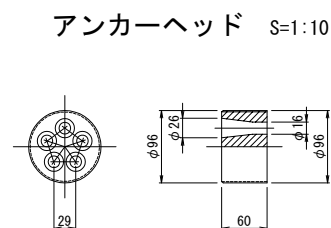
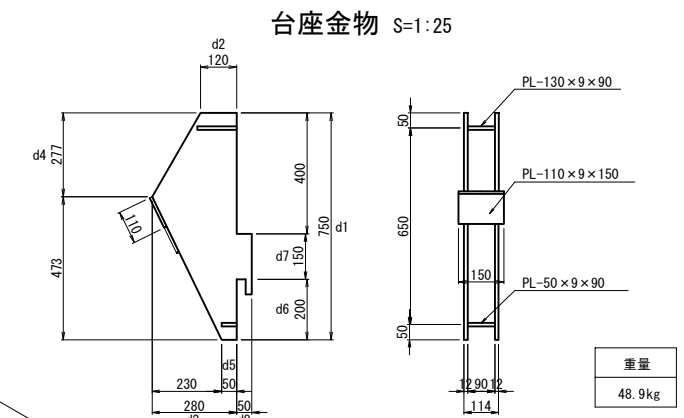
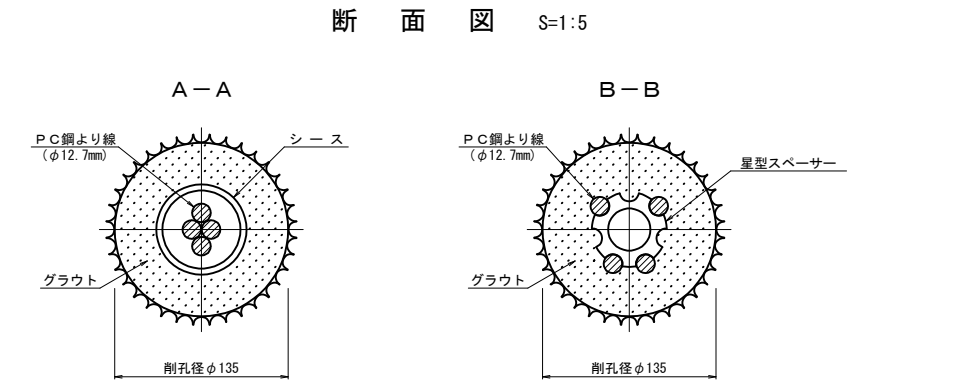
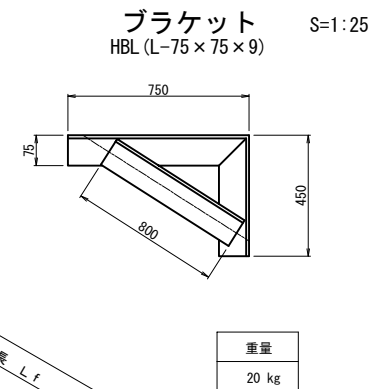
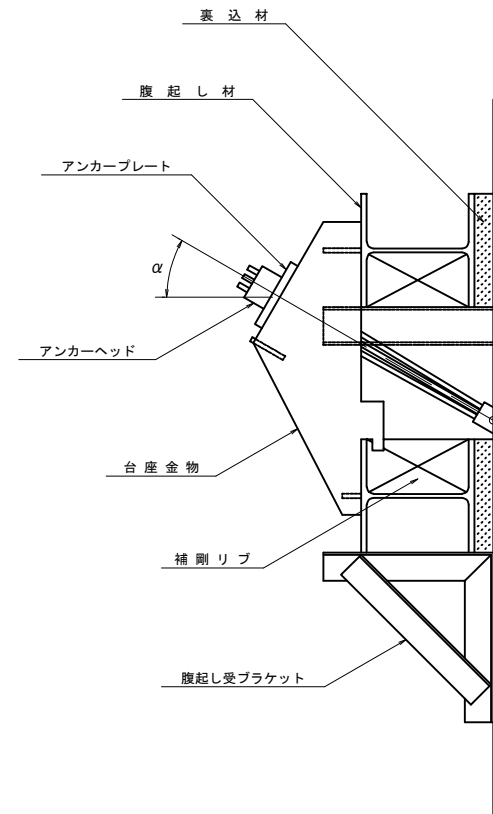
クサビ S=1:2.5  
(12.7mm用)



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第二橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その5）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

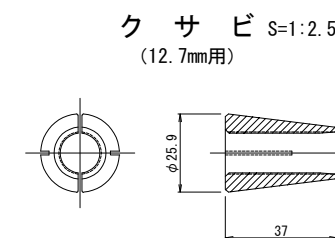
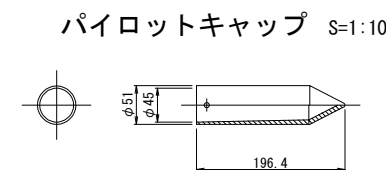
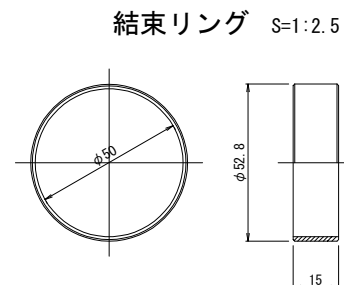
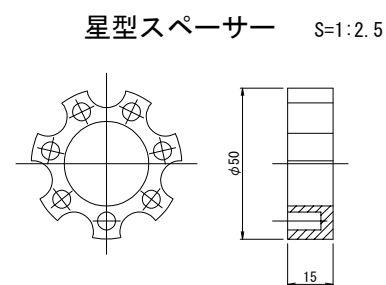


残置式アンカー詳細図  
(四段目：4×φ12.7mm)



	Lf	La	LA	$\alpha$
四段目	11000	4000	15000	45°

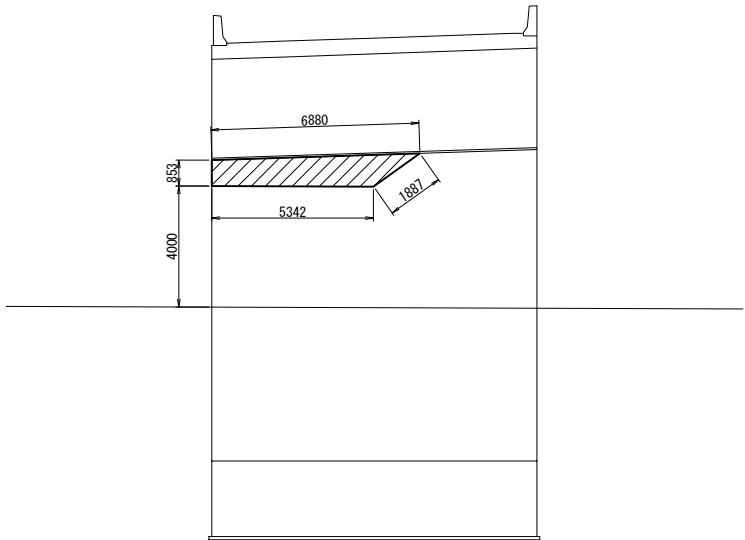
	自由長 (m)	定着長 (m)	余掘 (mm)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー（四段目）	11.000	4.000	0.200	135	15.200	4 × φ 12.7mm	6	91.200	367.22



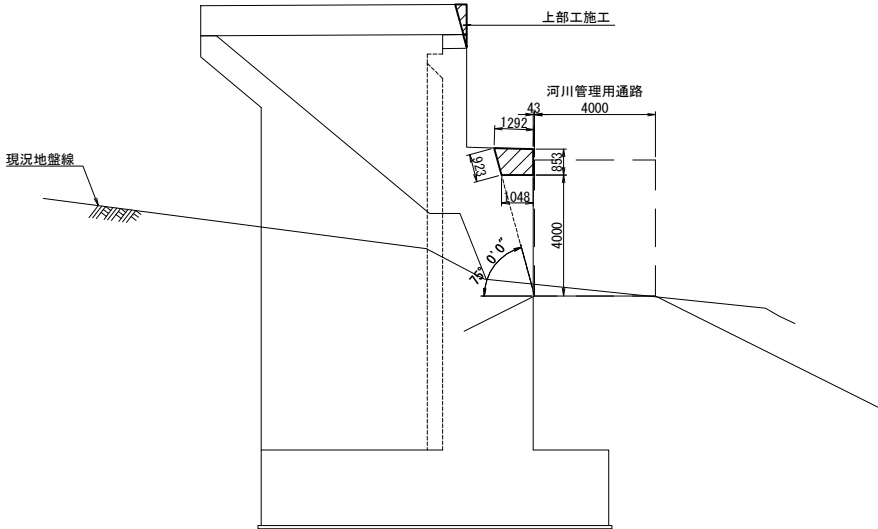
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類		本流越川第二橋(下り線) A 2橋台土留め工計画図 (その7)	
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

【A 1 橋台】

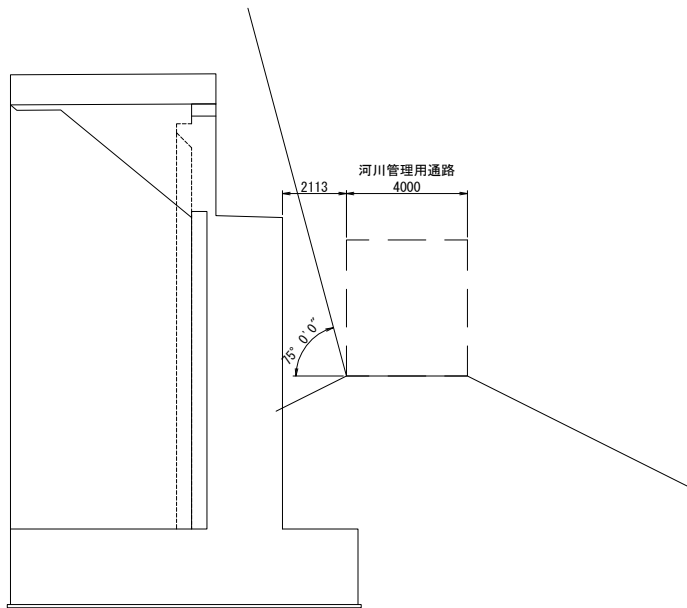
正面図（1-1）



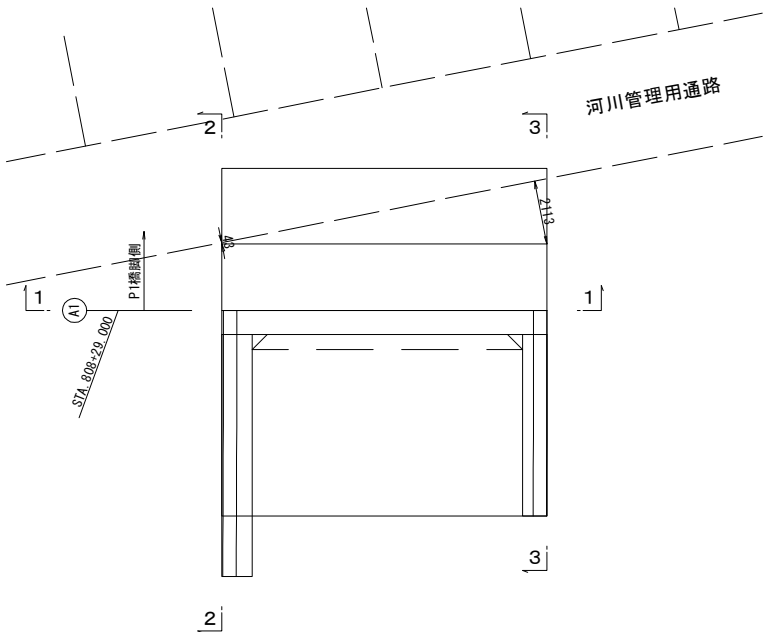
断面図（2-2）



断面図（3-3）



平面図



数量表			
種 別	単位	数量	
はく落防止対策工	A m2	6.9	

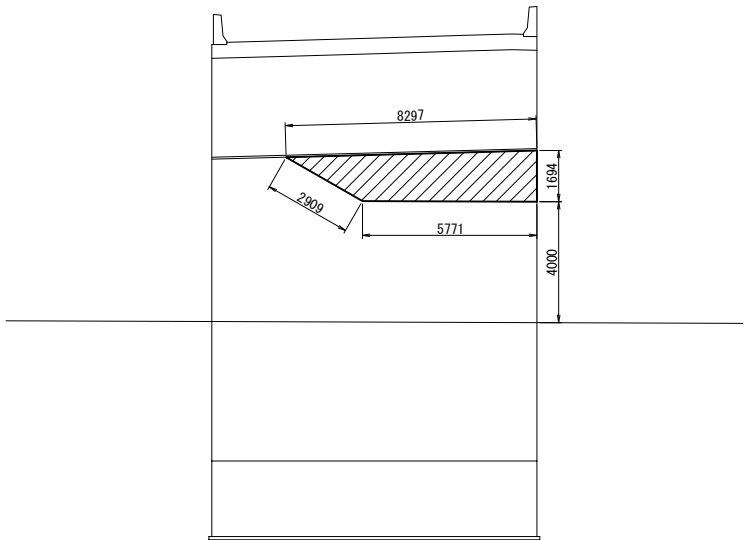
注)：[斜線] は、はく落防止範囲を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） はく落防止対策工（その１）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

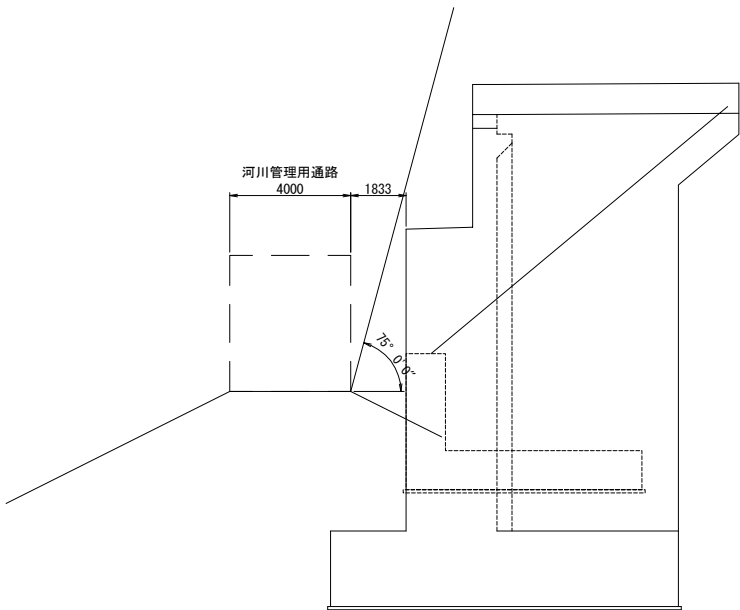


【A 2 橋台】

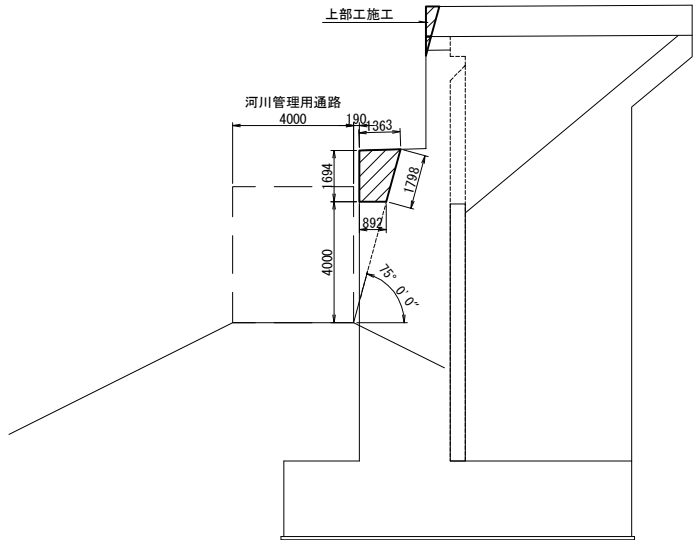
正面図（1-1）



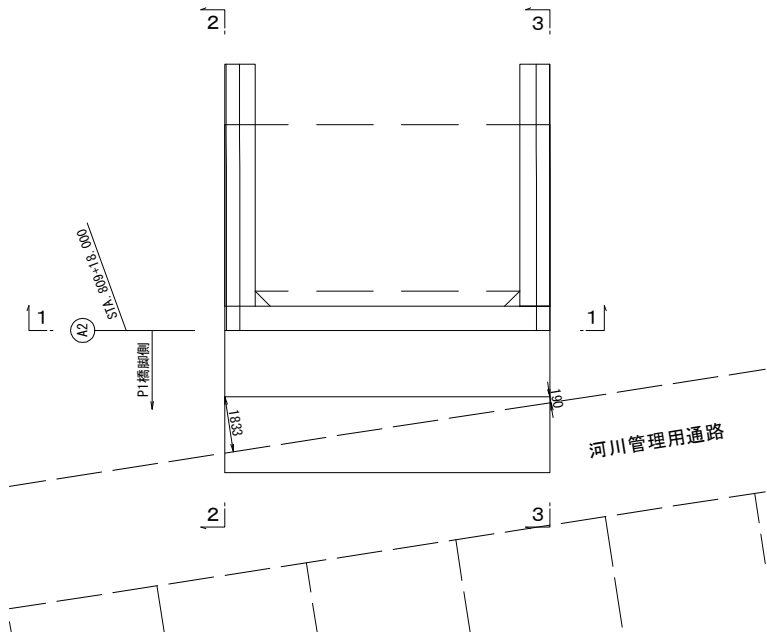
断面図（2-2）



断面図（3-3）



平面図



数量表			
種 別	単位	数量	
はく落防止対策工 A	m2	13.1	

注)：[斜線] は、はく落防止範囲を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第二橋（下り線） はく落防止対策工（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		